令和4年度
技術協力活用型・新興国市場開拓事業
（国際化促進インターンシップ事業）
成果報告書

2023年3月

Fourth Valley

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Confidential

成果報告書　目次

1.　事業概要　3

I.　事業目的・内容　4

II.　募集・実施期間等の概要　5

III.　実施事項　6

IV.　実施期間・全体スケジュール　7

V.　実施体制　8

2.　実施内容　9

I.　全体像　10

II.　企業集客　11

III.　インターン集客　22

IV.　選考・マッチング　27

V.　事前研修の実施　30

VI.　インターンシップ実施支援　31

VII.　成果発表会　36

VIII.　インターンシップ終了後の採用や定着に向けた支援　37

IX.　成果評議会　40

X.　成果報告会　41

XI.　成果事例集　42

XII.　アンケート調査　43

3.　事業成果　44

I.　分析方法　45

II.　事業結果の分析　46

4.　施策等の提言　62

I.　課題　63

II.　次年度以降の事業実施に向けた提言　66

5.　別添資料　77

I.　海外大学等のコンタクトリスト　78

II.　事業チラシ　78

III.　各種研修・報告会説明資料　78

IV.　成果事例集　78

V.　アンケート調査結果（詳細）　79

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

１．事業概要

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Confidential

1.事業概要 / Ⅰ. 事業目的・内容

本事業では、中堅・中小企業における高度外国人材活用のための環境づくりを後押しするとともに、日本企業での就業意欲を持つ外国人学生等に日本での就業イメージを把握できる機会を提供することを目的に、中堅・中小企業のインターンシップ実施支援を行った。

背景	• 日本企業の海外展開や新たな視点によるイノベーションの創出等を促進させる観点から、高度な技術を有する外国人材の活用は、日本企業の競争力強化に資すると考えられる。 • 高度外国人材の採用を計画する日本企業は近年増加しているが、特に中堅・中小企業では、高度外国人材との協働経験やネットワークの不足等により、高度外国人材の活用が進んでいない現状である。
目的	• 本事業では、日本企業（中堅・中小企業）における外国人学生等のインターンシップ受入れを通じ、**日本企業が高度外国人材を活用できる環境づくりを後押しし、海外展開等に取り組む体制の強化を促進する**。コロナ禍において人の移動が制限されている中でも、オンラインを活用した事業を実施することにより、対面実施の際には把握できなかった外国人材活躍の好事例の掘り起こしを行い、継続的に高度外国人材の活躍機会を提供する。 • **日本企業への就業意欲を持つ外国人学生等に対しては、インターンシップへの参加を通じ、日本企業の意思決定プロセスや日本に就業した際の業務のイメージを把握する機会を提供する**。
内容	1. 日本の中堅・中小企業による開発途上国の外国人学生等を対象にしたオンライン形式又は対面形式のインターンシップの実施を支援する。受入れ先となる日本企業・外国人学生双方のサポート（日本語教育の機会を含む）を実施する。 2. インターンシップを通じて得られた知見や情報を収集し、整理する。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

1.事業概要 / Ⅱ. 募集・実施期間等の概要

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の流行状況等に十分な注意を払ったうえで、実施時期を夏季と冬季に分け、それぞれ対面とオンラインによりインターンシップを実施した。本事業の実施概要は以下の通りである。

募集対象（受入企業）	日本国内に主な事業所を有する中堅・中小企業（業界団体、非営利法人、自治体を除く）
募集対象（インターン）	開発途上国（OECD/DACリスト掲載国）の国籍（中華人民共和国を除く）を有する者で 高度な技術を有する外国人材
実施企業数	101社（内訳：夏季　21社、冬季　86社、延べ　107社）
応募企業数	239社（内訳：オンライン55社、対面175社、希望なし9社）
募集インターン数	参加インターン数：141名　（内訳：　夏季　27名、冬季　114名） オンライン：　38名　（内訳：　夏季　12名、冬季　26名） 対面：　　103名　（内訳：　夏季　15名、冬季　88名）
受入人数制限	原則　1企業2名まで（ただし今回2名受け入れた企業は36社、3名は2社）
インターンシップ 実施期間	夏季：　①2022年8月1日～9月9日、②2022年8月22日～9月30日 （募集期間：2022年5月20日～6月30日） 冬季：　①2022年10月31日～12月9日、②2022年11月7日～12月16日 （募集期間：2022年5月20日～9月30日） ※夏季インターン・冬季インターンともに記されている実施期間は一例である。 受入企業、インターンの個別都合に配慮して双方に都合の良い実施期間にインターンを実施した。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

本事業では、インターンシップ受け入れ先企業の募集・選定及び広報活動から事業成果の普及までの合計12項目の活動を行った。

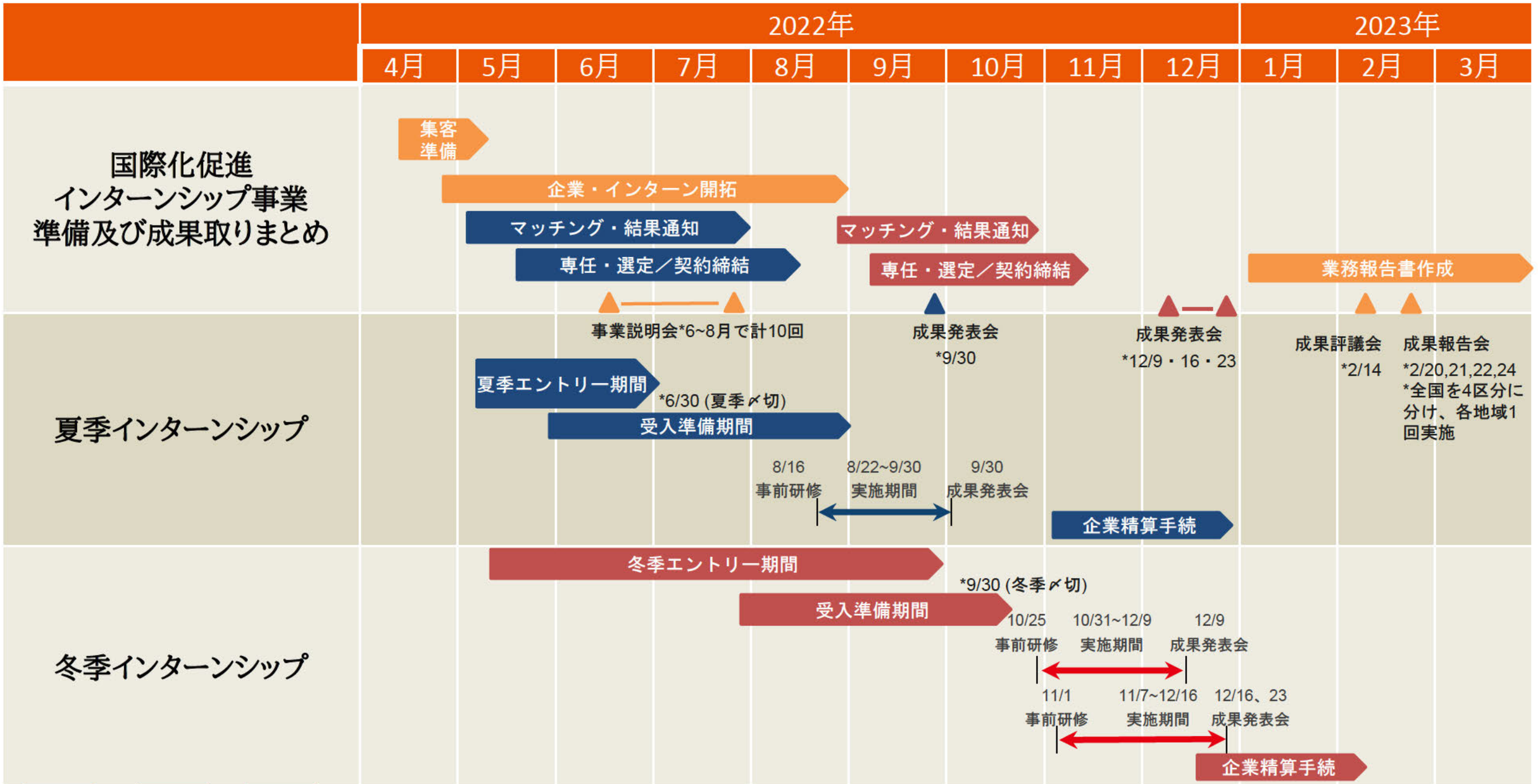
実施事項

企業集客	1. インターンシップ受入先企業の募集・選定及び広報活動
外国人材集客	2. 外国人材（インターン）確保に協力可能な海外の大学や現地関係先とのネットワークの構築 3. 外国人材（インターン）の募集・選定
選考 マッチング	4. インターンシップ受入先企業と外国人材（インターン）のマッチング
準備実施	5. 外国人材（インターン）及び受入先企業に対する事前研修の実施（事前日本語研修含む） 6. 受入先企業、インターン、経済産業省等との本事業の実施に係る調整及び付帯業務の実施、管理 7. 実施計画策定支援等のフォローアップの実施 8. インターンシップの実施支援及び付帯業務の実施、インターンの管理 9. インターンシップ実施期間中の管理、安全・危機管理体制の確保、緊急時の対応等
アンケート調査	10. インターンシップをオンライン形式で実施することに関する評価分析及び改善のための提言の実施
報告会 評議会	11. 成果のとりまとめ及び報告書、成果事例集の作成 12. 事業成果の普及

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

1.事業概要 / Ⅳ. 実施期間・全体スケジュール

本事業は、2022年4月～2023年3月に実施し、インターンシップを夏季と冬季に行った。



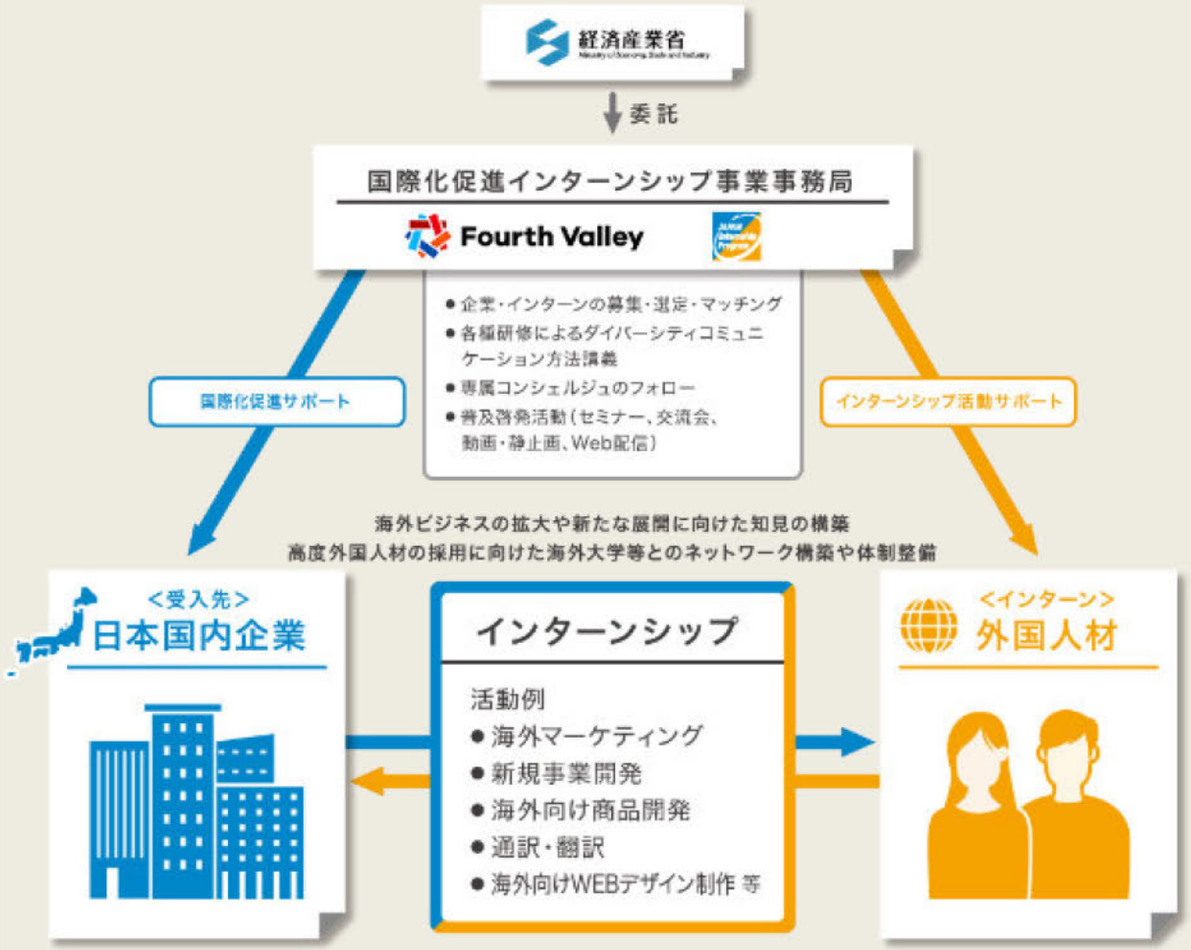
※夏季インターンシップ・冬季インターンシップともに記されている日付は一例であり、インターンシップは受入企業とインターン双方の都合に配慮して期間を設定し実施した。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

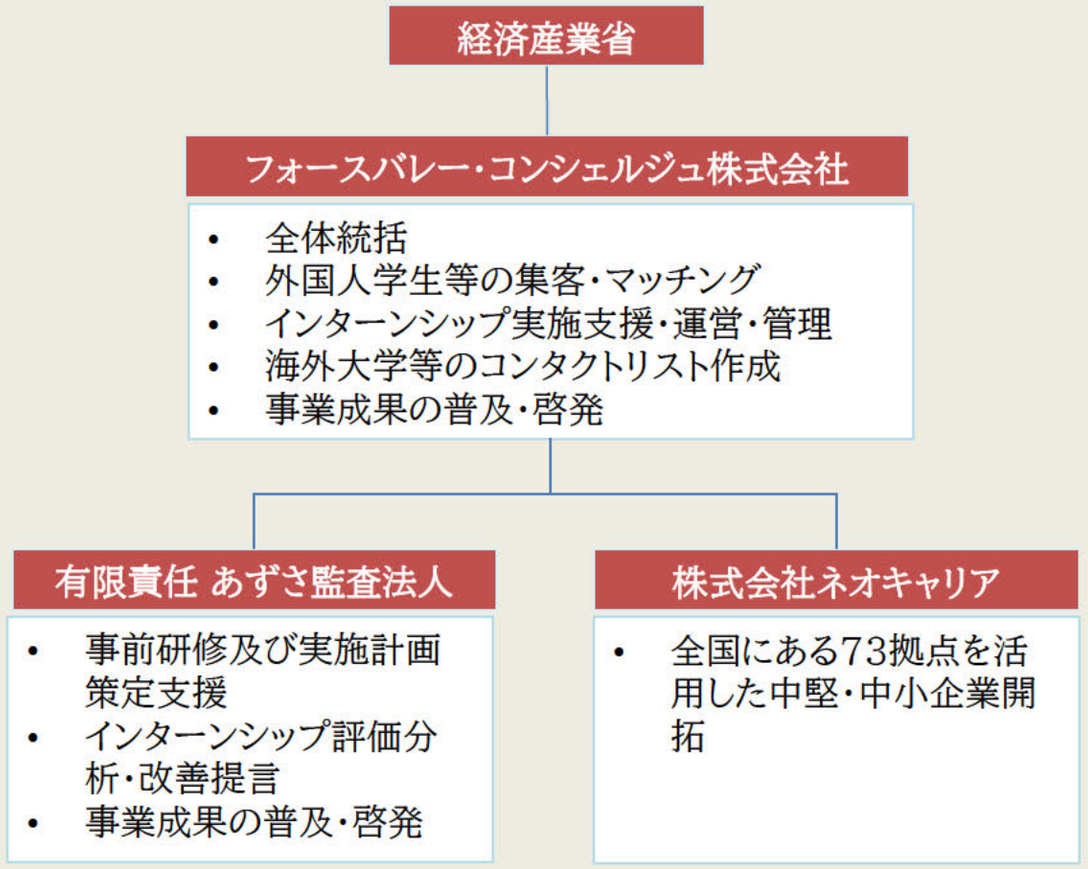
1.事業概要 / Ⅴ. 実施体制

フォースバレー・コンシェルジュ株式会社を全体統括とし、有限責任 あずさ監査法人、株式会社ネオキャリアを含む3社で構成される国際化促進インターンシップ事業事務局が経済産業省の指示のもと、本事業を運営した。国際化促進インターンシップ事業事務局は、受入企業と外国人材に対して、それぞれ国際化促進サポートとインターンシップ活動サポートを提供した。

国際化促進インターンシップの事業実施体制



国際化促進インターンシップ事業事務局の実施体制



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

２．実施内容

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Confidential

2.実施内容 / Ⅰ. 全体像

本事業に以下の6つのフェーズに分けられる。

01

企業集客

本事業で外国人材(インターン)を受け入れてインターンシップを実施する中堅・中小企業を募集した。

02

インターン(外国人材)集客

日本の中堅・中小企業でインターンシップを行う外国人材(インターン)を募集した。

03

選考・マッチング

応募があった外国人材(インターン)の選考を行い、受入企業とのマッチングを行った。

04

インターンシップ準備・実施

マッチングが成立した受入企業と外国人材(インターン)に対して事前研修等の事前準備を行ったほか、実施期間中の受入企業と外国人材(インターン)のサポートを実施した。

05

成果報告会・成果評議会

エリア別成果報告会を開催し、本年度の事業成果を関心のある中堅・中小企業に対して報告した。また、有識者を委員とする成果評議会を開催し、本事業の成果について審議をした。

06

アンケート調査

インターンシップに参加した全受入企業と全外国人材(インターン)を対象に、アンケート調査を実施し、その結果をまとめ、分析した。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅱ. 企業集客:概要

インターンシップ受入企業は、中堅・中小企業であり、120時間のインターンシップ実施が可能であること等を要件に募集を行った。**合計298社の申込があり、うち239社からマッチングに向け募集要件の提出**があった。

集客期間	2022年5月16日から2022年9月30日
集客方法	• 広報媒体の周知 • コールドコール、既存顧客へのアプローチなど事務局による集客 • 第三者のネットワークを活用した集客 • 事業説明セミナーによる集客

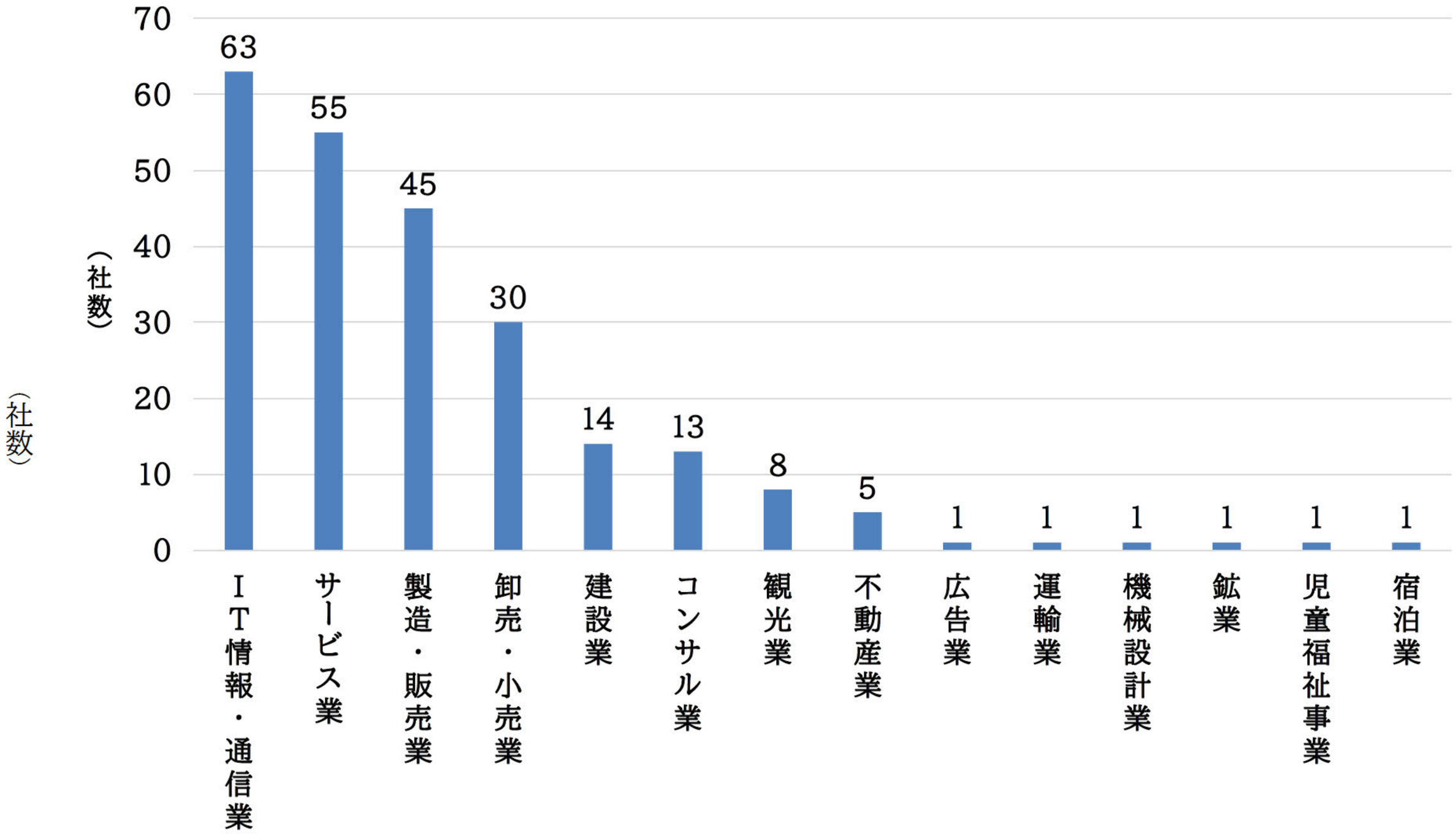
	アプローチ企業数	興味あり企業数	申込企業数	募集要件提出企業数
広報媒体の周知	3~5万社	1,845社	115社	74社
コールドコール	2,989社	82社	25社	24社
既存顧客へのアプローチ	19,181社	317社	123社	113社
第三者との連携	89社	42社	26社	21社
事業説明セミナー	104社	11社	9社	7社
総数	-	2,297社	298社	239社

【経路が重複したものは、最初の接触手法の実績に含めた】

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅱ. 企業集客:概要

募集要件提出企業239社の業種内訳をみると、多い業種は『IT情報・通信業』であり、2番目に多い『サービス業』と合わせて合計118社で全体の約50％を占めた。次いで、『製造・販売業』が45社（19％）、『卸売、小売業』が30社（13％）であった。

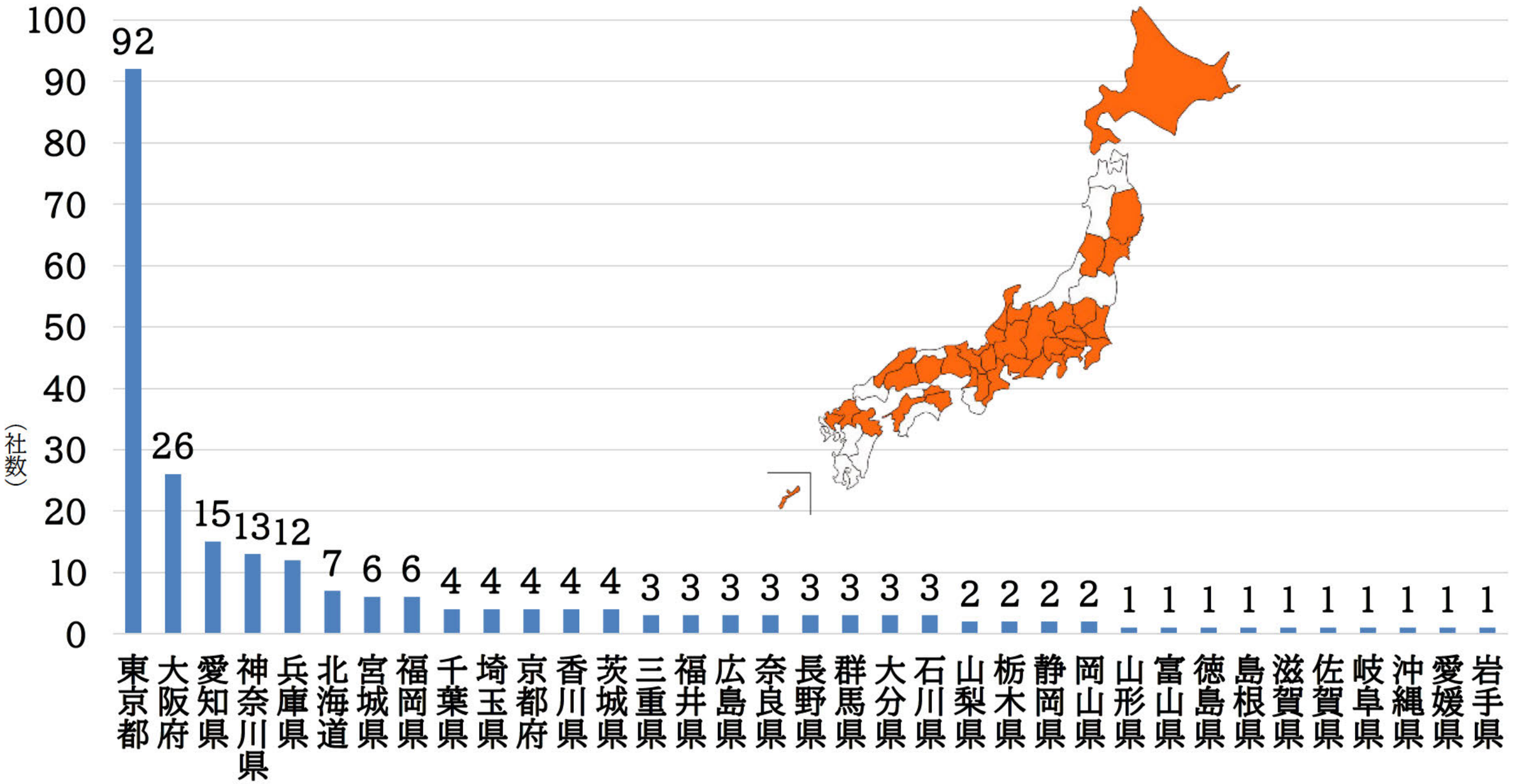


（社数）

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅱ. 企業集客:概要

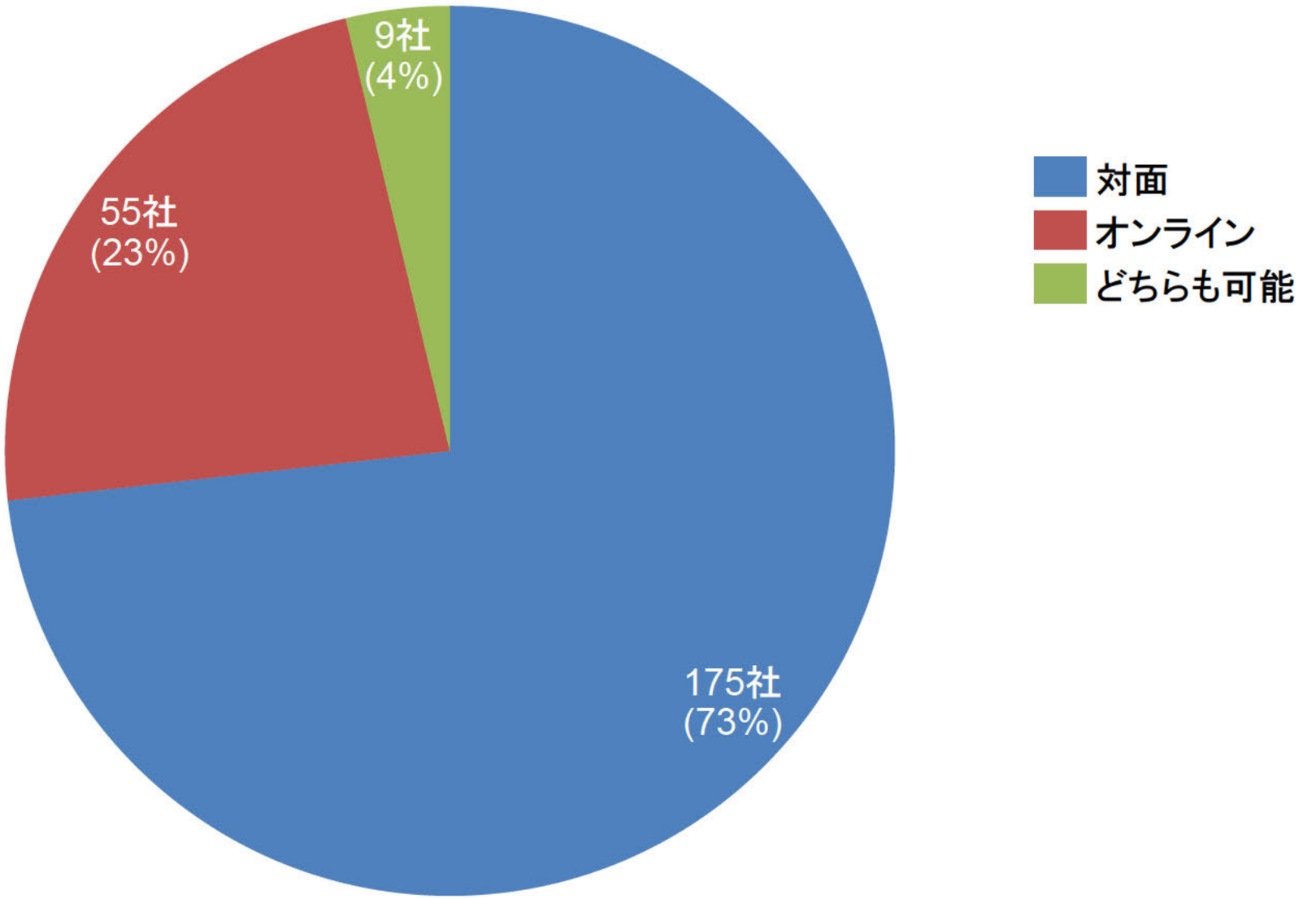
47都道府県のうち、35都道府県の企業から募集要件を回収した。東京都が92社で最も多く、次ぐ大阪26社と合わせて全体の50%を占めた。次いで、愛知県15社(6%)、神奈川県13社(5%)、兵庫県12社(5%)であった。その他の道府県からも広く応募が集まった。



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅱ. 企業集客:概要

実施形態は、対面を希望していた企業が175社で全体の73%を占めた。他方、オンラインでの実施を希望していた企業も55社(23%)あり、実施形態にこだわらないとした企業は9社であった。

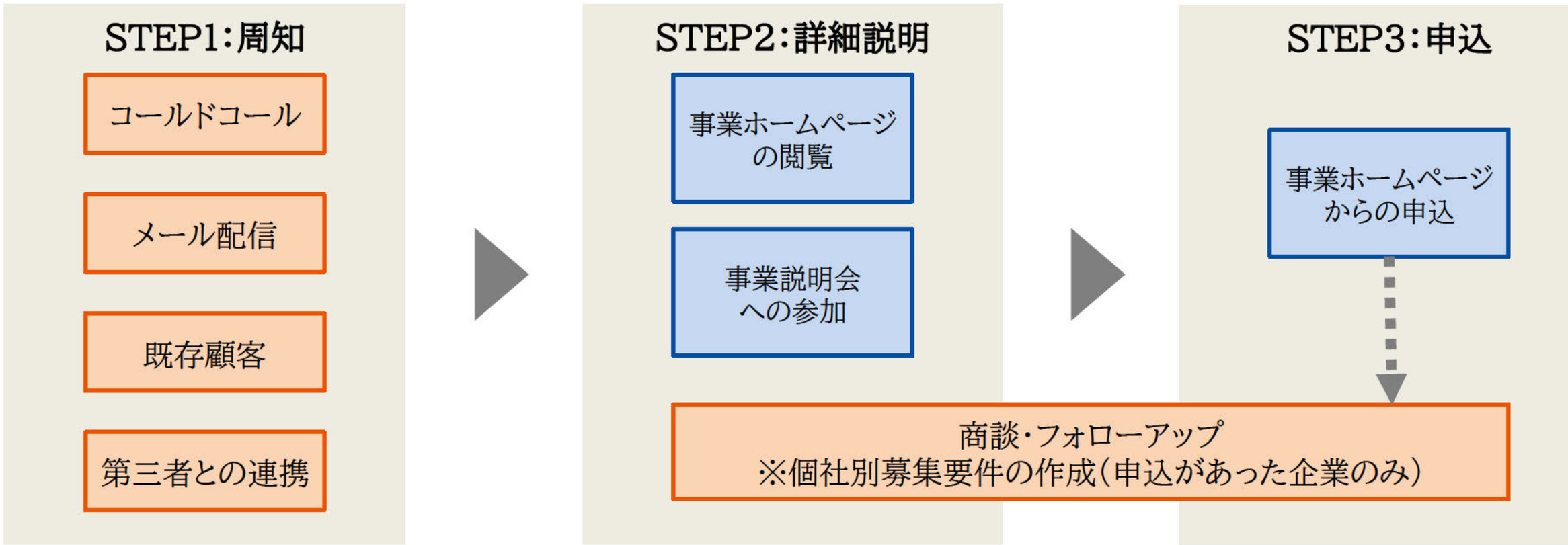


©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅱ. 企業集客：受入企業による参加申込の流れ

既存顧客へのコールドコールやメールの配信で本事業の周知を行い、事業説明会への参加を促し、必要に応じて個別の事業説明やニーズの聞き取り等のための商談を行った。また、JETROや金融機関等の第三者の協力も得て、事業説明会の開催が終了した後も継続的に企業集客を行った。最終的な申込は、事業ホームページに掲載した申込フォームから受け付け、これら企業との商談では、個社別の募集要件を作成した。

【企業の事業参加申込までの流れ】



【凡例】 事務局 企業

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅱ. 企業集客：広報媒体による周知（1/2）

本事業の概要や高度外国人材活用のポイントをまとめた事業チラシを作成し、紙媒体での配布のほか、事業の周知を図るためにメールマガジンへ添付する等、5万社以上の企業へ配布した。また、本事業再委託先ネオキャリアのウェブサイトや採用支援サイトを活用して、プレスリリースや本事業の紹介ページの掲載を行った。

【使用した広報媒体のイメージ】

図　企業向け事業チラシ



図　ネオキャリアプレスリリース



図　採用支援サイトへの掲載





©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅱ. 企業集客：広報媒体による周知(2/2)

本インターンシップ事業を周知するため、事業ホームページを作成し、2022年5月20日に公開した。

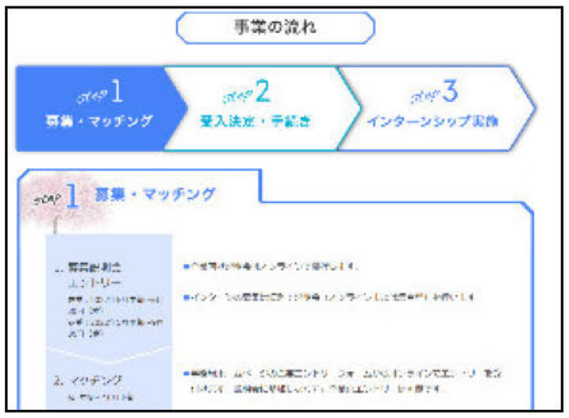
事業ホームページの概要

- URL：https://internshipprogram.go.jp/
- **構成：**
  - 募集概要
  - 企業向け説明ページ
  - 外国人材向け説明ページ
  - 事例紹介
  - 成果レポート
  - FAQ/お問合せ
- **工夫した点：**
  - 過年度の素材を活かして、本事業への参加を検討している企業や外国人材が事例を閲覧したり、募集要項や事業フローを確認したりできるようなウェブサイトの構成とした。
  - トップページに企業用と外国人材用それぞれの申込バナーを作成し、申込フローの明確化を図った。
  - 事業チラシに事業ホームページのリンクを掲載、QRコードを貼付し、事業ホームページへ誘導した。
  - 次年度以降も継続的かつ迅速に事業ホームページの引継ぎができるよう、事業ホームページの設計書、手順書、及びマニュアルを新たに作成した(別添資料参照)。

図　事業ホームページ　イメージ







©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅱ. 企業集客:コールドコールによるアプローチ

Fourth Valley

再委託先のネオキャリアを通じてコールドコールを行った。また過程ではオンラインでの打ち合わせも併せて行った。

コールドコールによる企業集客の概要

- **架電期間:**2022年6月～7月(2か月間)
- **架電対象:**過去にネオキャリアが取引した企業、直近3年以内に新卒採用を実施している企業
- **実績:**
  - 架電対象企業数　　約3,000社
    (うち、1,300社(30%相当)はIT企業)
  - オンライン打合せ企業数　82社
  - 事業申込企業数　　25社

(参考:通常コールドコール営業からアポ取得に繋がる割合は1～1.5%が平均値である)

架電の流れ

趣旨説明

架電の趣旨を説明

- 新型コロナウィルス感染症拡大前後での採用市況感を共有するとともに、今後避けて通れない外国人採用についての有益な情報提供が目的であることを説明
- 担当者に繋げていただく

▼

担当者説明

個社の状況に応じた情報提供と打合せの打診

- 新卒採用と中途採用のどちらに注力されているか質問した上で、それに応じた採用トレンド等の情報を提供
- 外国人材の採用活動の実施有無について質問した上で、本事業の説明機会の場を頂けないか打診

▼

打合せ

オンラインでの打合せ(事業説明)

- 本事業の説明を行い、関心を持っていただけた企業へは、事前説明セミナーへの参加や事業への申込を推奨

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅱ. 企業集客：既存顧客基盤へのアプローチ

Fourth Valley

企業集客の一環として、本事業委託先/再委託先のフォースバレー・コンシェルジュ及びネオキャリアが持つ全国の顧客基盤に対して本事業を周知し、参加促進のためのアプローチを実施した。既存顧客先のネットワークを活用することで、商談や事業申込に繋がる件数を増やすことができた。

フォースバレー・コンシェルジュの既存顧客へのアプローチ

- **既存顧客と顧客グループ会社及び子会社を対象としたメールマガジンの配信**
  （2022年5月に計19,181通を配信）
- **同対象への社内営業担当を介した事業紹介**

ネオキャリアの既存顧客へのアプローチ

- **ネオキャリア内での全社説明会開催**
  当事業の正しい周知を図るため、全事業部の営業人員に対し、本事業のプレゼンテーションを実施（全60部署、計16回）
- **全国各事業部に本事業推進担当者を設置**
  全営業組織に推進担当者を設置し、円滑なコミュニケーション体制を構築
- **ネオキャリア顧客用の特設サイトを制作・運用**
  ネオキャリア独自で特設サイトを制作し、既存顧客に対する情報発信を実施

結果

興味あり企業数
465社

商談（オンライン打合せ）企業数
317社

申込企業数
123社

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅱ. 企業集客:第三者との連携

本年度は、日本貿易振興機構(JETRO)、商工組合中央金庫(商工中金)、及びりそな銀行との連携を行った。連携先での周知や、連携先からの企業紹介、連携先顧客を対象としたセミナーを開催する等して事業を紹介した。
第三者のネットワークを活用した事業周知により、合計26社から事業への参加申込を得た。

連携先	連携内容	連携結果
日本貿易振興機構(JETRO)	• JETROの内部者向け説明会の実施、メールマガジンの配信、「高度外国人材活躍推進ポータルサイト」のイベントカレンダーに事業説明セミナーについての情報を掲載した。	• 事業申込企業数:4社
商工組合中央金庫(商工中金)	• 商工中金の営業担当者から全国の中堅・中小企業の経営層に対してアプローチを行い、「本事業への興味・関心がある」中小・中堅企業をネオキャリアとつないでいただいた。 • その後、各社とオンライン打合せを行い、本事業への申込を促した。	• 企業紹介数:43社 • 打合せ企業数:41社 • 事業申込企業数:20社
りそな銀行	• りそな銀行顧客を対象に、海外人材の採用戦略についてオンラインセミナー(1回)を開催し、本事業を紹介した。 • セミナー開催日:2022年8月30日(火) • プログラム:なぜ外国人材の採用が必要なのか、日本で増えている「高度外国人材」とは、高度外国人材の採用の仕方、中堅・中小企業向け経済産業省「国際化促進インターンシップ」制度の紹介、同制度での受入企業事例・成果、質疑応答	• セミナーへの応募企業数:42社 • セミナー参加企業数:22社 • 打合せ企業数:1社 • 事業申込企業数:2社

図　りそな銀行セミナーチラシ



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅱ. 企業集客:事業説明セミナー

全国の中堅・中小企業を対象に、計10回のオンライン事業説明セミナーを開催し、計130名がセミナーに参加した。

実施実績	● 実施回数:10回 ● 実施期間:2022年6月～8月、各回約1時間 （6月2日・16日・28日、7月7日・14日・21日・28日、8月4日・10日・18日） ● 総参加企業数:104社
セミナー内容	セミナーでは、本事業の概要説明に加え、高度人材活用実績のない企業に向けた在留資格制度のナレッジ共有や外国籍社員の定着に向けた課題解決法レクチャー等をコンテンツに含めた。また、本事業への参加促進を図るとともに、参加企業に対して高度外国人材採用に関する知識レベルの引き上げを行った。以下は典型的なセミナーのプログラムである。 1. 事業概要説明 2. 外国人材採用マーケット情報について 3. 外国人材受入時の注意点 4. 質疑応答
質疑応答内容	● 来日者の査証の種別に関して（在留可能期間や研修時間の制限等） ● インターンの日本就職意欲に関して ● インターンのスキル/属性について ● インターン後に採用を決定した場合の必要手続きや事務局のフォロー体制

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅲ. インターン集客：概要

Fourth Valley

外国人材については、出身国籍、学位、言語スキル等を要件として設定し募集を行い、これらの要件に該当する外国人材をSNS等を用いたマス向け周知、イベント開催、各国主要大学への個別アプローチ等の手法で集客した。
結果として**4,719名（うちODA対象国籍保持者4,533名）**から申込を得た。

外国人材の募集要件

出身国籍	• 日本国外在住及び開発途上国（OECD/DACリスト掲載国）の国籍を有する者で高度な技術を有する者（中華人民共和国を除く）
学位	• 学生は所属大学等からの在学証明書、所属大学・大学教員等からの推薦書が提出できる者 • 既卒者は所属していた大学の卒業証明書、大学教員・所属機関等からの推薦書が提出できる者
言語スキル	• 日本語力（JLPT日本語能力試験N3程度以上）、又は英語力を有する者
活動条件	• ワークスペースへの出社が可能な者、又は自宅から毎日活動が行える者（月～金の週5日） • 指定のワークスペース又は自宅等において、指定の時間でのインターンシップに専従できる者 • 事務局が指定した活動日に活動が可能な者 • 事務局主催のイベントに参加できる者 • 本事業の主旨に賛同し、インターンシップを通して日本企業の国際化促進、企業の海外ビジネスの拡大や海外大学とのネットワーク構築等に対して協力できる者 • インターンシップにおいて円滑なコミュニケーションに努めることができる者
その他	• 各種資格の証明書を提出できる者 • その他、各企業が定める個別の条件に合致する者 • 2016年度～2021年度に当事業へ参加していない者

インターン集客の手法

マス向け周知	• SNSツール（Facebook, LinkedIn, Instagram等）を用いた広報アプローチ • チラシを用いた広報アプローチ • フォースバレー・コンシェルジュ社所有のグローバル求人サービス「Connect Job」への掲載 • 同サービス「Connect Job」登録者に対するダイレクトメールの送付
イベント開催	• 外国人材向け事業説明セミナーの開催（全4回）
個別アプローチ	• 国内外大学キャリアセンター、国内大学の留学生会へのアプローチ • 海外現地大学での現地事業説明会の開催（全10回）

結果

申込外国人材数	対象国籍の申込者数
4,719名	4,533名

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅲ. インターン集客:チラシを用いた広報

国内・海外の対象国籍者に向けた事業紹介のチラシを作成、様々なチャネルから外国人材に配布してインターンシップ事業の周知を行った。

＜配布先及び周知方法＞

- 「Connect Job」への掲載
- SNSツール(LinkedIn, Facebook等)を通じてWeb上に掲載
- 国内大学、海外大学のキャリアセンターや留学生会に対するメール配信時に添付
- フォースバレー・コンシェルジュ社の海外法人(パートナー企業を含む)からの拡散
- 海外現地での事業概要セミナーにて配布

＜配布先及び周知方法＞

- 本事業は世界各国の様々な地域を対象としており、日本語力も必須要件ではないことから、チラシは日本語版のみならず、英語版を作成し幅広い外国人材へのアプローチを試みた。
- 作成したチラシは、フォースバレー・コンシェルジュ社が運営するオンラインプラットフォーム「Connect Job」やSNS(Facebook、LinkedIn等)に掲載するとともに、紙面のチラシは国内大学のキャリアセンターや留学生会経由や、海外現地で開催した説明会で配布した。

＜日本語版＞



＜英語版＞



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅲ. インターン集客：ConnectJobでの周知・募集

「Connect Job」を活用して、本事業の参加対象国籍者を対象に計10回のメール配信による周知を行った。また、インターン集客の目的で実施した事業説明セミナーの申込ページと、本事業への参加申込ページを連携させ、セミナー参加者の応募促進に繋げた。さらに、外国人材の応募は「Connect Job」上で受け入れ、応募者の基本情報や資格保有状況を当システムで集約、管理した。

「Connect Job」とは？
「Connect Job」は、フォースバレー・コンシェルジュ社が展開しているグローバル採用プラットフォームであり、約4万人の登録者がいる。

＜Connect Job上で回収した応募者情報及びデータ＞

- 基本情報
  （氏名、在籍学校・学部情報、連絡先、住所等）
- 資格保有状況
  （日本語能力試験の受験履歴等）
- 履歴書データ
- 資格試験の取得証明書データ

＜Connect Jobサイト上に設置した事業申込ページ＞



＜Connect Job Webサイト＞ *トップページイメージ



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅲ. インターン集客：外国人材向け事業説明セミナー

企業集客 | 外国人材集客 | 選考マッチング | 準備実施 | 報告会評議会 | アンケート調査

Fourth Valley

本事業が対象とするODA対象国（中華人民共和国を除く）の出身者を対象に、外国人材向け事業説明セミナーを開催し、外国人材の集客を行った。

実施実績	• 実施回数：4回 • 実施日程：（日本語）2022年6月16日、7月20日、（英語）2022年6月8日、7月5日 • 総視聴者数：480名
集客方法	1.Connect job登録者へのスカウトメール送付 2.Facebook有料広告 3.大学から学生へのメール等での告知 4.Connect jobのSNS投稿（Instagram、LinkedIn、Facebook）（※実施効果が高かった順）
セミナー内容	1. 事業概要説明 2. 日本での就職における注意点等 3. 質疑応答
質疑応答内容	• 来日時の在留資格の種類及びその手続フローについて • インターン参加企業の属性について • インターン時期について • 来日時のVISAの種類及びその手続きフローについて • インターンシップ参加後の就職可能性について
実施上の工夫	• 外国人材向け事業説明セミナーはターゲットとする外国人材が多く所在するであろう地域に合わせ、言語や時間帯を調整して合計4回（日本語2回/英語2回）開催 • セミナーでは事業概要や日本での就職の際に注意すべき事項を説明したほか、質疑応答を通して応募者が本事業によって得られるメリットや参加にあたっての懸念事項を案内

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅲ. インターン集客：国内外大学キャリアセンターへのアプローチ

国内留学生に対しては、日本国内190校の大学キャリアセンターや留学生会に向けて本事業を周知し、インターン集客を図った。海外大学に対しては、日本語学習者の多いインドネシア、タイ、ベトナム各地の大学にて計10回事業概要セミナーを実施し、インターン集客を図った。

＜海外大学 セミナー開催実績＞

セミナー実施日	国	エリア	大学名
2022/08/24	インドネシア	スラバヤ	Airlangga University
2022/08/25		マラン	Brawijaya University
2022/08/27		デンパサール	Udayana University
2022/09/25		ジャカルタ	University of Indonesia
2022/08/29	タイ	バンコク	Thammasat University
2022/08/30			Thai-Nichi Institute of Technology
2022/08/31			Kasetsart University
2022/09/01			Chulalongkorn University
2022/09/14			Asian Institute of Technology
2022/09/22	ベトナム	ハノイ（オンライン開催）	National University of Civil Engineering (NUCE), Promotion in Y-BOX





※各国の上位大学で、かつ日本語学習者数が多い大学を選定した。
※上記以外に、タジキスタン、ジンバブエ、ウズベキスタン等の大学にセミナーを依頼したが実施に至らなかった。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅳ. 選考・マッチング

Fourth Valley

事務局では、外国人材応募者と企業に対して、下記の図の流れでマッチングを実施した。

	募集（5月～9月）	マッチング＜初期＞（5月～7月）	マッチング＜後期＞（8月～9月）	企業への紹介	マッチング面談
事務局	募集要件回収	外国人材応募者と面談実施	デジタルスクリーニング実施	企業へ外国人材の履歴書共有	面談同席、結果ヒアリング
	• 企業から提出された募集要件内容が適切であるか審査を実施 • 外国人材が応募対象者であるかどうか審査を実施	• 1人につき30分程度実施 • 以下の内容をヒアリング ✓ 基本情報（在籍大学、専攻、言語レベルの確認） ✓ インターン先の希望条件 ✓ インターン応募理由や目標 ✓ 日本就職への意欲 ✓ そのほか企業へ紹介するうえで参考になりそうな情報（志向性、性格等）	• 外国人材応募者に対して、アンケート調査を実施。（希望業界/職種、参加形式、参加希望時期等） • 外国人材応募者と企業の募集要件をそれぞれ下記の5つの属性に分類し、事務局で企業を選定したうえで外国人材に紹介を行った ①日本語×文系 ②日本語×理系（IT） ③日本語×理系（IT以外） ④英語×文系 ⑤英語×IT	• 外国人材が関心を持った企業に対して、外国人材の履歴書を共有 • 企業の書類選考を通過した場合、マッチング面談を設定 【課題】マッチング面談日程の調整に苦慮した	• 企業に面談を踏まえた受入希望を確認 • マッチングが成立した場合、企業とインターンに連絡し、受入準備を開始
外国人材	応募	事務局と面談		応募企業確定	面談実施
	• 応募時必須項目の登録 • 履歴書提出	• 応募時必須項目の登録 • 履歴書提出		• 応募する企業を確定	• 基本情報、志望動機等のアピール
企業	募集要件提出			書類選考	面談実施
	• インターンに求める必須/歓迎スキル、希望条件（形式、時期、人数等）等を決定			• 外国人材の履歴書を確認し選考実施	• 参加意志の確認 • インターンシップ時の業務内容について認識合わせ

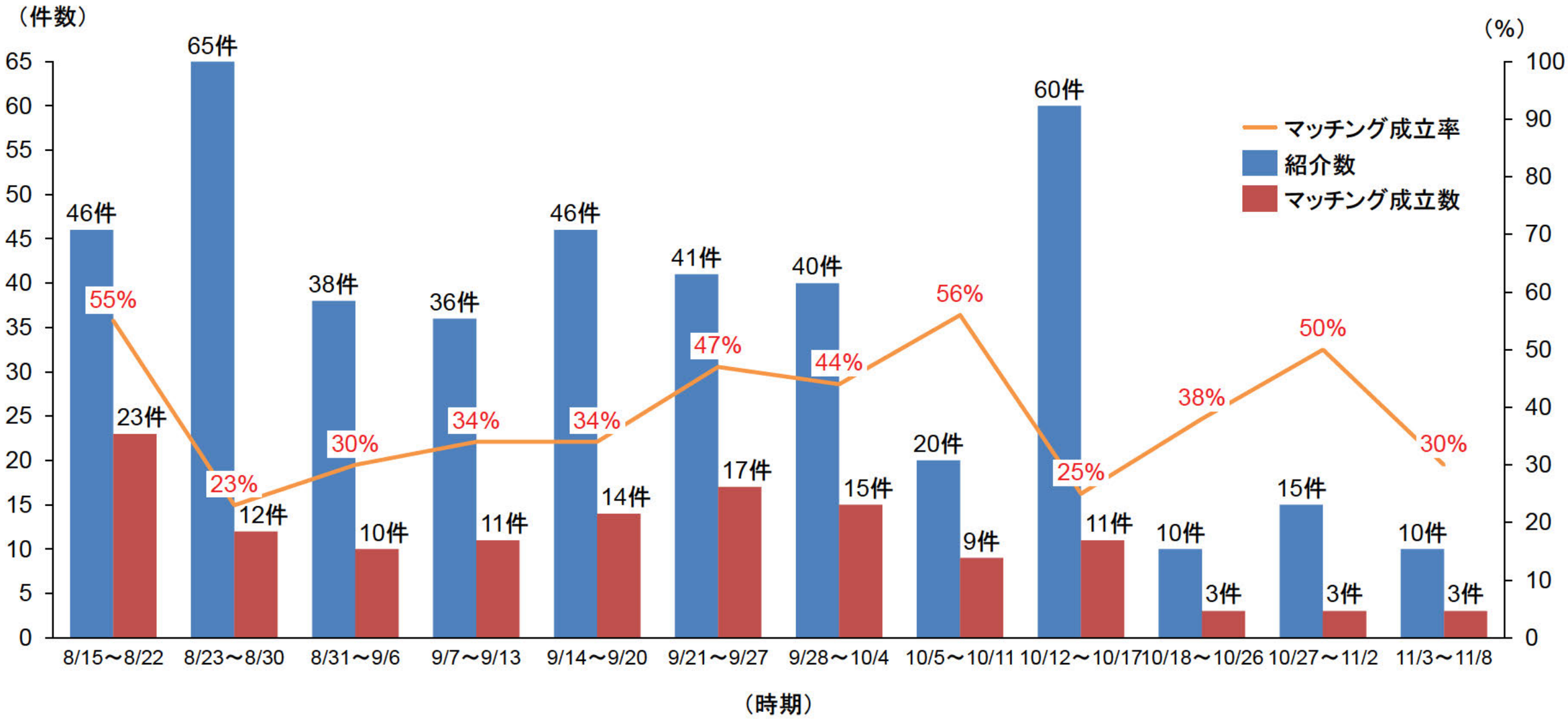
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅳ. 選考・マッチング

8月15日の週のマッチング成立率（企業に外国人材を紹介したうち受入が決定した比率）は55%であった。

当初外国人材1人1人と面談を行い企業紹介を行っていたところを、8月23日の週頃から企業・外国人材の申込数が急激に増え、企業の求人票と外国人材の履歴書情報を単純マッチングさせる手法に変更したことで、マッチング成立率が20%台前半まで低下した。

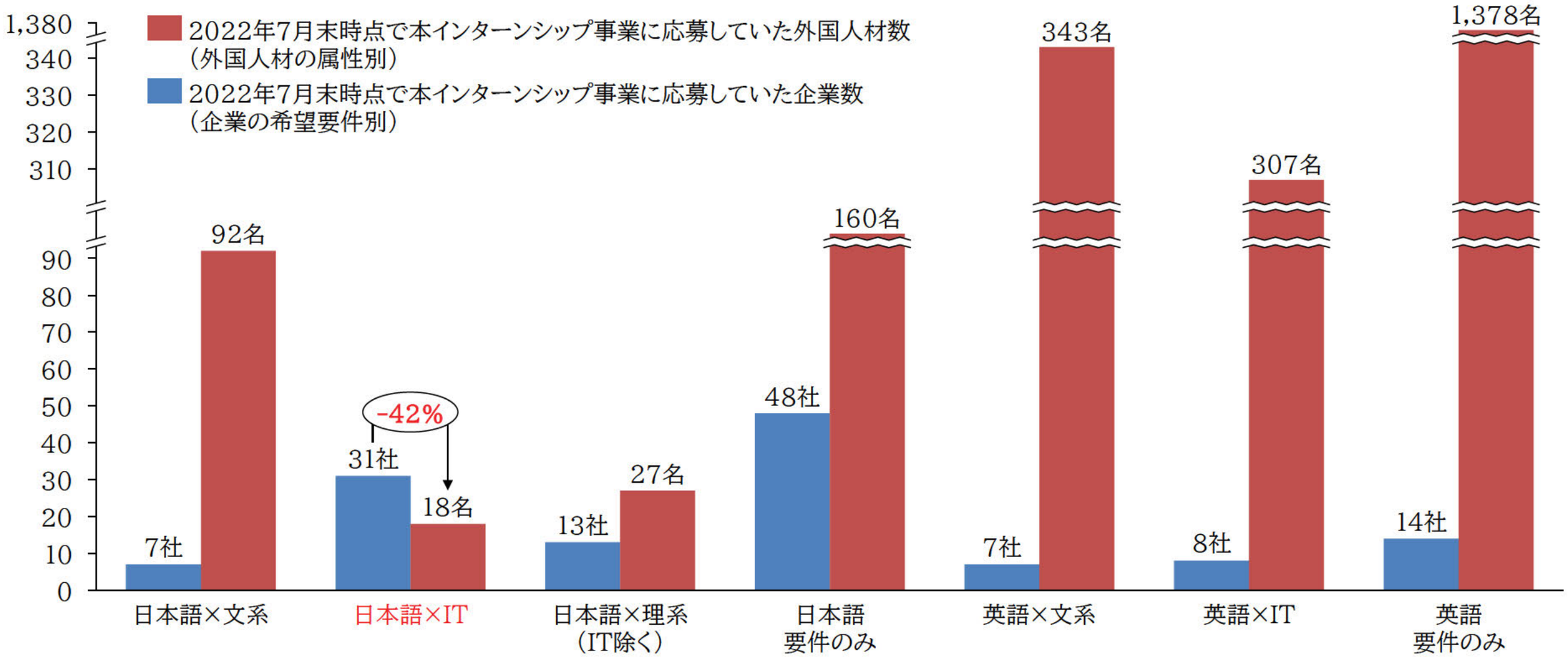
マッチング成立率の低下を受け、属性ごとのデジタルスクリーニング（詳細は前頁参照）と電話での口頭面談を実施し、マッチング成立率の改善に努めた。



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅳ. 選考・マッチング

2022年7月末時点では、ほぼすべての属性で希望する企業数よりも多い外国人材が集まったが、「日本語×IT」の属性のみは、希望した企業の数よりも同要件を満たす外国人材の方が少なく、マッチングが成立しづらい状況にあった。



※7月末時点で募集要件を提出していた132社、同時点の外国人材1,655名を対象に分析した。なお、一部企業は2つの属性（例：国籍指定、日本語×文系どちらも）を求めていたため延べ企業数は136社、一部外国人材も2つの属性に該当する場合があるため延べ外国人材数は2,325名となっている。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅴ. 事前研修の実施

マッチングが成立した企業とインターンを対象に、事前研修を実施した。いずれもオンラインで開催し、終了後の動画視聴も可能とした。

受入企業向け事前研修		インターン向け事前研修	
実施日時	【夏季】 2022年8月16日(火)9:00-12:00 【冬季】 2022年10月25日(火)10:00-12:00、 2022年11月1日(火)10:00-12:00	実施日時	【夏季】 2022年8月16日(火)15:00-17:00 【冬季】 2022年10月25日(火)13:00-14:30、 2022年11月1日(火)13:00-14:30
実施形式	オンライン(Microsoft Teams)	実施形式	オンライン(Microsoft Teams)
研修内容	事業概要説明、インターン受入の流れ、受入の注意事項、効果的なメンターの方法、緊急連絡体制・緊急時対応、質疑応答	研修内容	事業概要説明、インターンシップ参加の流れ、より良いインターンシップを行うための注意事項とポイント、緊急連絡体制・緊急時対応、日本の就労資格について、質疑応答
実施上の工夫	外国人材の採用の経営的メリット等について再度説明するとともに、文化的背景の異なる人材を受け入れる際の注意点や、インターン個人の活躍をサポートするためのメンターの方法等について説明をした	実施上の工夫	日本企業で就業する際に必須となるマナーや、インターンシップ成功のポイント、日本で就業するために必要な就労資格等について説明を行った。
参加企業数	計 77社	参加者数	計 121名

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / VI. インターンシップ実施支援(「インターンシップ受入計画書」策定)

インターンシップの実施に向け、受入企業による「インターンシップ受入計画書」の策定を支援した。インターンシップ計画の策定プロセスは以下の通り。

① 事務局は受入企業の産業別(IT、サービス業、製造業)にインターンシップ受入計画書のサンプル、過去の類似案件情報等を企業に共有する。
② 受入企業はインターンシップにおけるミッション・目標・計画等を含む「インターンシップ受入計画書」を策定し、事務局に提出する。「インターンシップ受入計画書」のサンプルは以下の通り。
③ 事務局は「インターンシップ受入計画書」が、事業趣旨及び達成すべき成果が十分に反映された内容となっていること等を確認し、問題がなければ承認・通知する。

図　インターンシップ受入計画書(サンプル)

インターンシップ受入計画書		
記入日	Wednesday, June 08, 2022	
企業名	株式会社●●ホテル	
受入目的（テーマ）	②新規事業開発・イノベーション	
受入目的（詳述）	外国人観光客受入に向けたサービス開発やプロモーションを行うとともに、多言語対応や異文化理解に関しての社内の意識改革を目指す。	
受入期間	①8月1日～9月9日	
受入責任者	部署名・役職	管理・営業部　部長
	氏名	XX
	連絡先	XX@●●hotel.com
メンター	部署名・役職	管理・営業部　プロモーション担当、宿泊部　ベルパーソン
	氏名	AA、BB
	連絡先	AA@●●hotel.com、BB@●●hotel.com
業務内容	主な業務	①ホテル業務全般の見学、理解 ②外国人観光客のニーズ調査 ③外国人向け観光地のリサーチ ④外国人向けプロモーション・サービス開発 ⑤各種観光案内等の翻訳 ⑥社内マニュアルの作成
	期待する成果	・インターンの視点から、外国人観光客にアピールできる地域の観光資源を新たに発掘する。 ・インターンとの交流により、今後のインバウンドの促進や外国人材採用に向け、社内の意識改革（他言語への抵抗払拭、宗教・慣習等への理解促進）を進める。 ・外国人観光客に配布する観光マップ等の資料や、社内での外国人ゲスト対応マニュアルなど、ゲスト・スタッフ用の多言語資料を作成し、活用する。
		・全般：業務の最後に日誌を記入し、メンター2名が目を通してコメントをする（シフト上対面でのコメントが難しい場合は、チャット等のツールを活用してコメントを送る）。8月18日に中間レビューの機会を設け、それまでに学んだ内容を報告してもらう。 ・ホテル業務全般の見学：まずはホテルにどのような部署があるか、ゲストにどのようなサービスを提供しているのかについて、メンターから説明をした後、日替わりで各部署の業務を見学する。各部

スケジュール	第1週	・オリエンテーション ・ホテル業務全般の見学、理解（フロント、ベルサービス等の宿泊部門）
	第2週	・ホテル業務全般の見学、理解（ハウスキーピング等の宿泊部門） ・外国人観光客のニーズ調査 ・外国人向け観光地のリサーチ
	第3週	・ホテル業務全般の見学、理解（管理・営業部等のコーポレート部門） ・外国人向けプロモーション・サービス開発 ・中間レビュー
	第4週	・ホテル業務全般の見学、理解（予約管理等の宿泊管理部門） ・外国人向けプロモーション・サービス開発
	第5週	・ホテル業務全般の見学、理解（レストラン等の飲料部門） ・各種観光案内等の翻訳 ・社内マニュアルの作成
	第6週	・各種観光案内等の翻訳 ・社内マニュアルの作成 ・成果発表会
1日の流れ（例）	09:00　始業・ハウスキーピング業務見学 12:00　昼食 13:00　ニーズ調査・リサーチ業務 13:45　日報作成・メンターからのフィードバック 14:00　終業	

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / VI. インターンシップ実施支援(インターン来日準備)

企業集客 | 外国人材集客 | 選考マッチング | **準備実施** | 報告会評議会 | アンケート調査

Fourth Valley

インターンシップの実施に向け、受入企業とインターンが円滑にインターンシップを開始できるよう、双方に対してサポートを行った。

企業向けサポート	インターン向けサポート
• レンタルPC手配(必要な企業向け) • 翻訳機手配(要望のあった2社に対して手配) • インターンシップの流れ、注意事項等記載のハンドブック配布(全企業向け)	• 宿泊施設手配(一部の国内留学生及び来日者向け) • 往復航空券の手配、VISA発給申請の手続き(来日者向け) • インターンシップの流れ、注意事項等記載のハンドブック配布(全インターン生向け)

企業向けハンドブック（イメージ）



経済産業省主催/国際化促進インターンシップ
METI / Internship Program in Japan

目次



1. 事前研修 / Pre-training

インターン向けハンドブック（イメージ）



経済産業省主催/国際化促進インターンシップ
METI / Internship Program in Japan

目次 / Table of contents



2. 日報 / Daily report

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / VI. インターンシップ実施支援(日報による進捗把握)

インターンシップ実施期間中、インターンシップの状況把握と従事時間の管理を目的に、インターンに日報を依頼した。インターン、受入企業、事務局が日報を確認することで、インターンシップ運営と実施支援に活かすことができた。

【日報を用いた進捗状況把握について】

- 日報作成者:インターン
- 日報共有方法:Googleスプレッドシートを用いたオンラインでの共有
- 実施支援内容:インターンが記入した日々の始業時刻、終業時刻、業務内容、所感(気づいたこと、困ったこと、達成できたこと、課題等)を受入企業と事務局が確認し、記載内容に応じてインターンとの面談を行う等の支援を行った。日報の記入内容に不備もしくは不明瞭な点が確認された場合には、事務局がインターンに日報の修正依頼を行った。また、企業の確認が必要だと判断した場合には、企業とインターンに対して認識のすり合わせをするように依頼した。

日報を用いた状況把握の効果

- リアルタイムな状況把握や問題の早期発見に有効な手段であった。
- 受入企業にも日報の閲覧権限を付与することで受入企業はインターンが抱える課題や日々学んだこと等を確認し、即時に企業側が良いインターンシップの実施へと活かすことができる。

図　日報

インターン日報

企業名:〇×株式会社

受入れ責任者	
部署・役職	

メンター氏名	
部署・役職	

インターン氏名	

日付		開始時刻	終了時刻	除外時間	従事時間	主な業務内容	所感(気づいたこと、困ったこと、達成できたこと、課題等)
8月8日	Mon	13:00	17:00	0:00	4:00	オリエンテーション ・書類確認 ・インターンシップの内容とスケジュール、就業時間、社内規定、コンプライアンス等の確認)	企業の業務内容とインターンの目的について説明してもらい、しっかり理解することができた。受け入れ企業の方がやさしくて安心した。
8月9日	Tue				0:00		
8月10日	Wed	9:00	14:00	1:00	4:00	工場見学 ・高効率な生産プロセスについて学んだ ・工場内の安全規定について学んだ	工場に入る際には、必ず全身をきれいにしなければならないということを学んだ。工場には機械がたくさんあり、自動で製品が作られていた。食品製造時の効率性を高めるための工夫も学んだ。
8月11日	Thu	9:00	13:30	0:30	4:00	ベトナムにおける麺類の市場規模について調査を行った	ほしい情報が見つからなくて困った。今日はメンターに相談する時間がなかったので、明日相談しようと思う。
8月12日	Fri	9:00	14:00	1:00	4:00	これまでの調査方法と調査内容についてメンターと打合せをした。 〇×研究所の調査データベースでベトナムにおける麺類の市場規模について再調査を行った。	昨日の調査で困ったことをメンターに相談した。メンターは私の話をしっかり聞いて、アドバイスをくれた。アドバイスに従って調査を再開したところ、適切な情報が得られるようになった。
8月13日	Sat				0:00		
8月14日	Sun				0:00		

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / VI. インターンシップ実施支援(中間フォロー)

企業集客 | 外国人材集客 | 選考マッチング | 準備実施 | 報告会評議会 | アンケート調査

Fourth Valley

インターンシップ実施期間中、日報による状況把握と併せて、インターン(必要に応じて受入企業)への中間フォロー面談を通じて、インターンシップの実施支援を行った。インターンと直接対話する中間フォロー面談は、日報では気づきにくい問題を早期に解決するうえで有効な手段であった。

対象者	原則、インターンのみ(必要に応じて受入企業)
実施支援方法	インターン実施期間の中盤に、対話形式(Teams等)でインターンと事務局との間で15分～30分程度の中間フォロー面談を実施した。対話形式での実施が難しい場合は、メール等で中間フォローを行った。
実施支援内容	インターンシップの状況、満足度、感想、成果、困りごと等を把握し、解決策について事務局・企業と検討した。

中間フォローを通じて問題解決を図ったGood Practice

- **IT系企業(夏季インターンシップ、2名のインターンを受入)**
- **中間フォロー面談を実施した際に以下の問題が発覚**

インターンが教育者・担当者から指示されたタスク内容と完成形のイメージが不明瞭であると感じ、確認したが十分に教えてもらうことができず、業務を進めることが困難であった。担当者は多忙で指示が不十分であったうえ、口調・言葉が強く、時に傷つけられることがあった。

- **1週間以内に事務局と企業間で面談を実施した。すでに企業側も同様の課題を認識しており、以下の対策を取ることで課題の解決を図っていた。事務局からインターンにそのことを伝えるとともに、追加の対策を検討。**

- 受入企業側で別の担当者も参加させ、インターンと担当者の間のコミュニケーションをスムーズにする。
- 1週間単位のスケジュールを作成し、やるべきことを明確にする
- 企業側が成果物のイメージをインターンに示す。【事務局から企業に対して行った追加提案】

- 2名ともインターンシップを予定通り最後まで実施。
- 事後アンケートによると、本インターンシップ事業に対する満足度は、1名が「おおよそ満足」、もう1名が「やや不満」であった。「概ね満足」と回答した一名は、「インターンシップ事務局が頻繁に打合せを実施してくれたため、ほぼ全ての課題が解決した」と回答している。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / VI. インターンシップ実施支援(安全・危機管理体制)

インターンシップ実施期間中には事務局に緊急連絡窓口を1回線設置し、何かトラブルが発生してもスムーズなインターンシップ活動が行えるようにバックアップした。なお、1回線のみでは夜間や休日の緊急時に繋がりにくいことがあり、夜間や休日にも確実に連絡が可能な連絡先を用意してほしいとの意見が企業やインターンから寄せられた。

トラブル分類	内容	対応策
渡航・交通移動	コロナワクチン接種が済んでおらず渡航が出来ない。(インターンより連絡)	航空券をキャンセルし、後日改めて手配。 インターンシップ日程を後ろ倒しした。
	日本国内での移動方法がわからず最短距離で移動が出来ない。 (インターンより連絡)	現地駅員等に聞いてもらいながら到着。移動費は最短距離で精算する旨を説明、理解頂き、最短距離の移動費を精算した。
	手荷物の手続きに時間を要し飛行機に乗り遅れた。(インターンより連絡)	改めて自身で飛行機のチケットを取得してもらい、後日チケット代を精算した。
宿泊先施設	宿泊施設が予約出来ていなかった。(インターンより連絡)	当日ホテルを予約してもらい、後日宿泊代を精算した。
	宿泊施設の宿泊者名が事務局スタッフの名前で登録されておりチェックインが できなかった。(インターンより連絡)	ホテルに確認し、チェックインに至った。
	インターンが宿泊した部屋の壁が破損した。(宿泊施設より連絡)	事務局からインターンに事実確認を行い、宿泊施設と対応について協議した。
インターンシップ中断	インターンシップを途中で辞退したい。(インターン・企業の双方より連絡)	インターンの辞退理由を確認し、企業へ共有。双方合意のうえ、インターンシップを中断した。
経費精算	インターンシップのための日本滞在中に費用の振込が間に合わなかった。 (インターンより連絡)	インターン本人の口座情報を確認し、海外口座へ直接振込を行った。
	滞在費精算にあたり、滞在日数の誤りがあった。(企業より連絡)	後日追加で企業へ振込、インターンへ手交してもらった。
体調不良	インターンが体調不良で新型コロナウィルス感染の疑いがある。(企業より連絡)	体調不良の間は欠勤とし、体調が戻り次第インターンシップを再開頂いた。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅶ. 成果発表会

夏季インターンシップでは計3回、冬季インターンシップでは計8回、オンライン形式で成果発表会を開催した。受入企業・インターンは、インターンシップの終了日に近い日程で成果発表会に参加した。

目的

- 受入企業・インターン双方に対して、インターンシップ期間中の振り返りの機会を設けること。
- 企業の受入れの成果や目的の達成状況について、参加企業・事務局間で共有すること。
- 他のインターンシップ事例からの教訓を参加企業・インターンで共有すること。

実施実績

夏季・冬季	日付	時間	参加企業者数
夏季	2022年9月30日	10時枠	10社
		13時枠	3社
		16時枠	5社
冬季	2022年12月9日	10時枠	7社
		16時枠	3社
	2022年12月16日	10時枠	8社
		13時枠	10社
		16時枠	10社
	2022年12月23日	10時枠（2部制）	17社（9社・8社）
		13時枠（2部制）	16社（9社・7社）
		16時枠（2部制）	16社（8社・8社）

成果報告会参加企業数：述べ105社、ユニーク数97社 ※受入企業で成果発表会に参加しなかった企業が全部で4社あった。

開催方法

オンライン（Microsoft Teams）

成果発表会の内容

以下の内容について、各社5～7分で発表。発表後は質疑応答を行った。

- 目的：なぜ今回インターンを受け入れたのか
- 内容：どのようなインターンシップ活動を行ったか
- 成果：インターンシップで何を達成したのか
- 教訓：インターンシップを通して得られた知見は何か

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅷ. インターンシップ終了後の採用や定着に向けた支援

インターンシップ終了後の正式雇用を促すため、企業及びインターン向けの説明や個別相談等の支援を実施した。
実施上の工夫は以下の通り。

- 企業集客時の事業説明セミナーやインターンシップ実施に向けた企業向け事前研修の中で、日本の就労ビザの種類や正式雇用時の対応事項、想定費用等について説明をした。
- インターンに対しても、集客時の事業説明セミナー及び事前研修の中で日本で働くうえで知っておくべき諸手続きのフローや日本の商習慣に関してレクチャーを行った。
- インターンシップ終了後の正式雇用について個別相談があった企業に対しては、事務局と企業間でオンライン会議を設定し採用までの手続きを解説した。

＜正式雇用に関する相談事例＞

受入企業	• 株式会社MEBUKU
インターン	• インドネシア国籍　1名 • カザフスタン国籍　1名
実施時期・形式	• 冬季 • 海外から参加のオンラインインターンシップ
相談事項	• インターンのスキルが高かったため正式雇用を視野に入れたいが、社内の受入体制上、すぐに来日してもらっての雇用は難しく、海外で業務委託として試験的に採用を開始したいが、どのようにすればよいか。特に以下3点を懸念している。 1.給与の設定基準（各国の給与水準や最低賃金を考慮して給与設定をすべきかどうか） 2.事務的に留意すべき事項（税金や福利厚生等） 3.契約期間の設定
対応	• 事務局と企業間でオンライン会議を実施し、企業の懸念事項であった3点について説明したのち、海外支店が無くとも現地で業務委託社員の採用を実現（仲介）するEORサービスを提供しているDeel社を紹介した。 • 結果、インターンシップ終了の翌々月より正式にインターンを業務委託社員として受け入れ、現在は将来的な正社員雇用に向けて受入体制等の整備を行っている。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

＜インターンシップ実施事例集＞

受入企業	• 株式会社サタケ
インターン実施時期・形式	• エジプト国籍　1名 • 冬季 • 日本国内から参加の対面インターンシップ
インターンシップ内容	• 会社紹介、企業海外進出の歴史学習 • 月報分析 • 精米プラント、選別加工センター等の見学
成果	• 異なる考え方や視点で仕事を見ることができ、日本人同士のやり取りにも変化があった。 • 海外視点でのサービス提供に継続して取り組みたいという意識が会社全体として芽生えた。 • 「外国人雇用率を2032年までに10%に引き上げる」という目標に向けて、受け入れ体制を整えるきっかけとなった。

受入企業	• 株式会社流通サービス
インターン実施時期・形式	• ミャンマー国籍　1名 • トルコ国籍　1名 • 冬季 • 海外からの対面インターンシップ
インターンシップ内容	• お茶の製造工程見学 • アメリカから来たバイヤーへの通訳と、英語ホームページのチェック • お茶文化のマーケティング企画考案
成果	• 海外クライアントへの通訳業務において、外国人目線での完成も踏まえた通訳が非常に良かったと評価してくれ、実際に売り上げに繋がった。 • 文化や宗教など様々な違いを知ることができた。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

＜インターンシップ実施事例集＞

受入企業	• 株式会社POGLI
インターン実施時期・形式	• インド国籍　2名 • 冬季 • 日本国内から参加の対面インターンシップ
インターンシップ内容	• 社内業務システムの改善 • Web上探索サイトの構築
成果	• 外国人材に課題を与え管理していく中でのモチベーション維持の方法をある程度習得できた • 日本とインドの思考の違いを認識した • 外国人材の採用の必要性の意識が高まった

受入企業	• 合同会社エンハーモニックグローバルコンサルティング
インターン実施時期・形式	• ナイジェリア国籍　1名 • 冬季 • 海外からの対面インターンシップ
インターンシップ内容	• 様々な水(温泉水等)の水質検査 • サンプリングデータに基づいた水に関する研究及び調査
成果	• インターンが実施した調査を通して、アトピー性皮膚炎の短期治療の可能性を見出すことができた。 • 本インターンシップ事業が公共事業ということもあり、ナイジェリア国家機関と上水道、下水、道路建設などエンジニア全般に関するプロジェクトに関して、直接商談をできる可能性が得られた。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / Ⅸ. 成果評議会

冬季インターンシップの終了後に、成果評議会を実施し、評議委員から本事業の全体成果や各事業フェーズについて審議を受けた。

実施日程・形式	2023年2月14日(火)10:00～12:00 (Teams)
評議委員構成	• 荒畦悟(文部科学省トビタテ！留学JAPANプロジェクト官民共同海外留学創出プロジェクトディレクター) • 大石奈々(メルボルン大学准教授) • KANDEL NARAYAN PRASAD(ユニバード株式会社代表取締役CEO) • 久保木誉延(株式会社メルカリTalent Acquisition Manager) • 藤田憲彦(ジャパンブリッジ行政書士法人代表)
評議委員以外の参加者	• 経済産業省、事務局3社(フォースバレー・コンシェルジュ社、ネオキャリア社、あずさ監査法人社)
審議内容及び有識者の見解	**◆ 企業及びインターン集客に関して** • インターンの募集期間が短い様に感じる。様々なリスクを鑑みて、マッチング成立からインターンシップ開始までの期間は最低3か月程度見積もっておくべきである。 **◆ マッチング・選考に関して** • 日本語力に関して、日本語能力検定の取得実績のみならず会話力にも重点をおくべきである。結果として資格は保有していないものの日本語が話せる人材をより多くインターンシップに呼び込めるのではないか。 **◆ 実施実績及び事業全体について** • インターンシップの実施時期や形式を柔軟に対応することで、よりマッチング率やインターンの充実度向上が図れると予測する。(具体的には、在学中インターンの学事スケジュールに合わせてオンラインと対面ハイブリット型でインターン実施をしたり、インターンシップの実施時期を固定せずに企業/インターンごとに個別で対応をする等) **◆ その他** • より効果的な事業周知を進めるべく、インバウンドとアウトバウンドの融合を視野に入れてみてはどうか。例えば奨学金制度を利用して日本から海外大学へ進学する学生に、本事業の周知活動を留学の1つのミッションとして課すなど。 • 日本語が話せなくとも優秀な高度外国人材を受け入れたいと希望する企業に特化した集客施策を打つために、スタートアップ、ベンチャー企業へ重点的にアプローチすることも1つの打ち手ではないか。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / X. 成果報告会

全インターンシップの終了後、今後の国際化促進インターンシップ事業の活用を促進するべく、全国を4つのエリアに分けてエリア別成果報告会を実施した。

集客対象	下記に対してそれぞれメール配信を行い、イベント周知を実施した。 • 令和4年度事業 参加申し込み企業及び参加企業 • フォースバレー・コンシェルジュ社、ネオキャリア社の既存顧客 • 国内の大学、キャリアセンターへの周知 その他、JETRO「高度外国人材活躍推進ポータルサイト」のイベントカレンダーに当該セミナーについての情報を掲載し幅広く参加を募った。
実施日程	1. 2月20日(月)14:00～16:00 / 関東エリア 2. 2月21日(火)14:00～16:00 / 北海道、東北、甲信越、北関東エリア 3. 2月22日(水)14:00～16:00 / 東海、関西エリア 4. 2月24日(金)14:00～16:00 / 九州、沖縄、中四国エリア
内容	• 事業概要・実績報告 • インターンシップ実施成果報告(インターン受入企業より) • 外国人労働者を取り巻くマーケットについてのご説明 • 日本で働くための就労VISAについて/外国人の受入に関わる手続き、課題に対する解決手法 • 質疑応答
実施上の工夫	• 各回にはエリアごとの代表企業各1社に登壇を依頼し、次年度以降当事業に参加を希望する企業に対してインターンシップ実施内容のイメージを掴んでもらうべく、受入企業よりインターンシップの実施概要や実績・成果の発表を依頼した • 高度外国人材の活用イメージが湧かない企業に対して、採用に対するハードルや課題を軽減すべく、日本の就労ビザ(在留資格制度)や入社までのフロー、必要諸手続き等について説明をした。
実施実績	申込人数 ※()内は実際に参加した人数 • 第1回 ： 23名 (18名) • 第2回 ： 7名 (6名) • 第3回 ： 13名 (8名) • 第4回 ： 10名 (8名) • 動画での配信を希望 ： 11名

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.
Confidential

2.実施内容 / XI. 成果事例集

今年度実施したインターンシップの中で好事例を成果事例として取り上げ、動画とホームページ掲載用の記事を作成した。

インターンの声

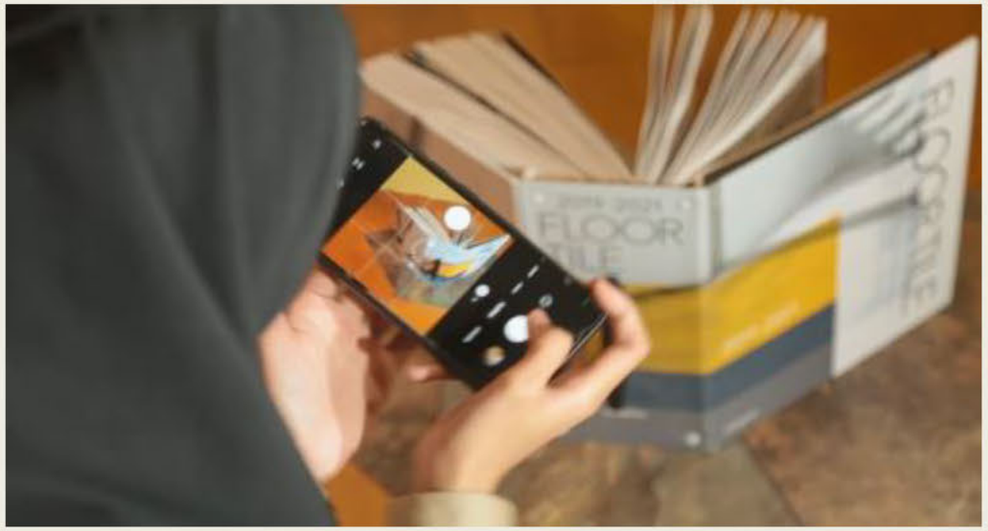
インターンにおいては、実際に日本の企業においてインターンシップを経験することにより、日本のビジネスマナーの習得のみならず、受入企業が行っている事業を通じて日本の製品技術に対する理解を深めることができたとの評価を得た。また、インターンシップを通じて日本での就労意欲が更に強くなるケースや、日本での就職の話が進んでいる事例も見られた。



『留学先の大学では、一人で研究する時間が多いのですが、インターンシップを通じてチームで共通の目的に向かって協働する素晴らしさを学びました。』

企業の声

好事例を収めた企業からは、今まで心理的な障壁から外国人材を積極的に受け入れてこなかったが、インターンシップを行うことで社内的にも海外展開へのハードルが下がったとの声が複数聞かれた。また、ソーシャルメディアを活用し日本以外の国や地域に対して対象企業の製品の海外向けPRによるマーケティング活動を行うことができ、世界への情報発信源となったケースもあった。



『インターンに当社の製品をSNSを利用して発信してもらったところ、今までの最多のアクセス数を獲得できた。分析の結果、今までは日本だけであったが世界各国・地域からアクセスされていることが分かった。』

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

2.実施内容 / XII. アンケート調査

本事業の満足度や次年度以降に向けた改善点を把握するため、参加した全企業と全インターンを対象にアンケート調査を実施した。夏季、冬季ともに、アンケート調査はオンラインアンケートの形式で実施し、1か月程度の回答期間を設けて回答を依頼した。

目 的	• インターンシップの成功要因と課題を明確化するための評価分析、及び事業改善のための提言に向けた情報収集を行う • 次年度以降の事業に活かせる教訓を得る • 次年度以降維持すべきこと及び改善すべきことを明らかにする • コロナ禍における対面・オンラインインターンシップの効果を測る
調査方針	アンケートでは本事業の実施状況について確認するとともに、本事業を通して達成すべき以下の3つの目標に対する達成状況を確認した ① 外国人学生等の対面・オンラインインターンシップを通じて日本の中堅・中小企業での外国人材の採用・活用が促進される ② インターンシップを通じて得られた知見や情報収集を活用し、DXの促進等によって日本の中堅・中小企業の海外展開が促進される ③ 外国人材を輩出する海外大学等と協力関係を構築する等、高度外国人材を採用・活用しやすいような社内体制・ネットワークが構築される
調査方法	• Google Formを用いてオンラインアンケート作成し、調査対象者にアンケート回答リンクをメールで共有した
調査期間	• 夏季:2022年10月1日～2022年11月8日 • 冬季:2022年12月26日～2023年1月31日
調査対象・回答者数	• 受入企業（全101社、うち91社　回答） • インターン（全141名、うち130名回答）
留意点	• 夏季・冬季どちらも受け入れた企業からの企業情報に関する設問への回答は、夏季の回答を集計・分析対象とした • 2名のインターンを受け入れた企業で、それぞれの担当者が各自アンケートに回答した企業が1社あった。この企業の企業情報に関する設問への回答は、先着の回答を集計・分析対象とした • 企業情報に関する設問以外の設問は、すべての回答を対象として集計・分析した • なお、企業情報に関する設問は、次の設問である 自社の海外展開状況、自社のインバウンドビジネス展開状況、これまでに外国人材を採用した実績があるか、外国人採用実績がある場合は採用した外国人材の雇用形態は何か、現在外国人従業員が何名就労しているか、本事業参加以前にインターンの受入実績はあるか、過去のインターン受入目的は何か、本事業が半額補助事業となった場合は、半額負担をしてでも当該事業を行いたいか

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

３．事業成果

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Confidential

3.事業成果 / Ⅰ. 分析方法

受入企業とインターンに対して実施したアンケート調査の集計結果を用いて、事業成果の分析を行った。なお、アンケート調査における全質問項目の集計結果は別添資料に示す。

本事業は、**日本の中堅・中小企業による高度外国人材が有する知識や技術を活用できる環境づくりと海外展開等の体制強化を促進することを目的**としている。加えて、**日本で就業したいと考える外国人学生等に対しては、日本企業における意思決定プロセスを学んだり、日本で働くというイメージを把握したりする機会の提供を行うことを目的**としている。事業成果の分析にあたっては、これらの目的が達成されたか否かをアンケート調査結果を通して確認するとともに、どのような要素が目的の達成に影響を及ぼし得るのか考察を行った。その他、オンラインインターンシップに関連する企業アンケートの結果も、オンラインインターンシップの改善に向けた提言に繋げる目的で考察を行った。

事業成果を図る指標

受入企業

1. **本事業の3つの目標を達成できたか？**
   - 目標1：外国人材の採用・活用の促進
   - 目標2：インターンシップを通じて得られた知見や情報を活用した海外展開
   - 目標3：高度外国人材を採用しやすいような体制の構築（社内体制、社外・海外大学等と連携等）
2. **インターンの雇用に至ったか？**

インターン

3. **日本での就職意欲が高まったか？**
4. **日本の商習慣を学ぶ等のインターン自身の目的を達成できたか？**

事業成果に影響し得る要素

- 希望人材とインターンの合致度
- インターンシップの実施形式（対面/オンライン）
- 外国人材採用実績の有無
- インターンシップに対する満足度

オンラインインターンシップ

- **オンラインでインターンを受け入れた企業にとって、オンラインインターンシップのメリットやデメリットは何だったか？**
- **オンラインでのインターンシップ実施に伴って発生した課題や、オンラインインターンシップに向いている又は向いていない活動は何か？**

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3.事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【企業：本事業の目的を達成できたか】

本事業で掲げた3つの目標は、各目標とも50％以上の企業が「達成できた」又は「やや達成できた」と回答した。

目標1の外国人材の採用・活用促進は67％の企業が、目標2の本事業で得られた知見・情報を活用した海外展開は58％の企業が、目標3の高度外国人材を採用しやすい体制構築は53％の企業が「達成できた」又は「やや達成できた」と回答した。また、3つの目標すべてに「達成できた」と回答した企業は11社、3つのうち2つの目標に「達成できた」と回答した企業は10社であった。他方、いずれの目標にも特に進展がなかったと回答した企業は8社であった。

【本事業で達成を目指した3つの目標の内容】

目標1	外国人材の採用・活用の促進
目標2	インターンシップを通じて得られた知見や情報を活用した海外展開 （オンラインインターンシップの場合はDXの導入による海外展開促進）
目標3	高度外国人材を採用しやすいような体制の構築 （社内体制、社外・海外大学等との連携等）

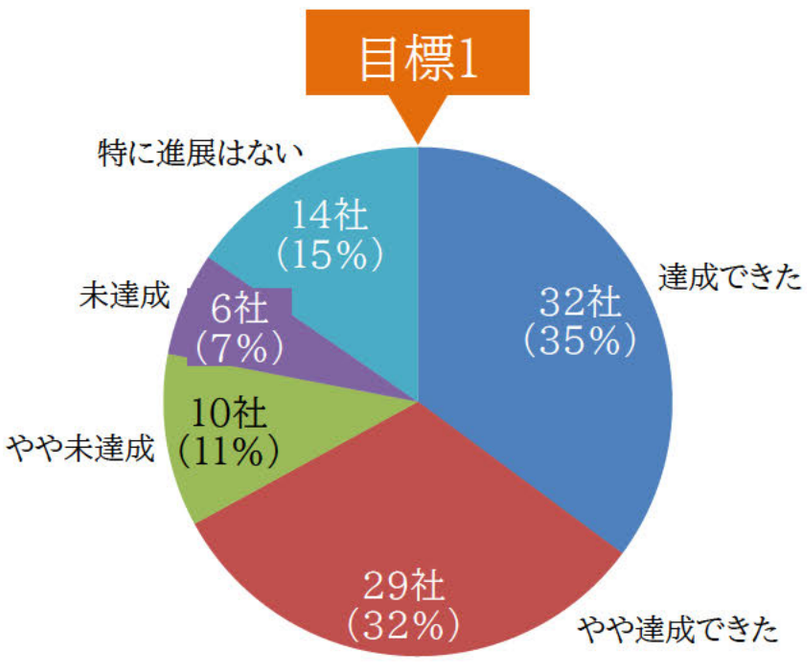
【達成できた目標の数】（n=91）

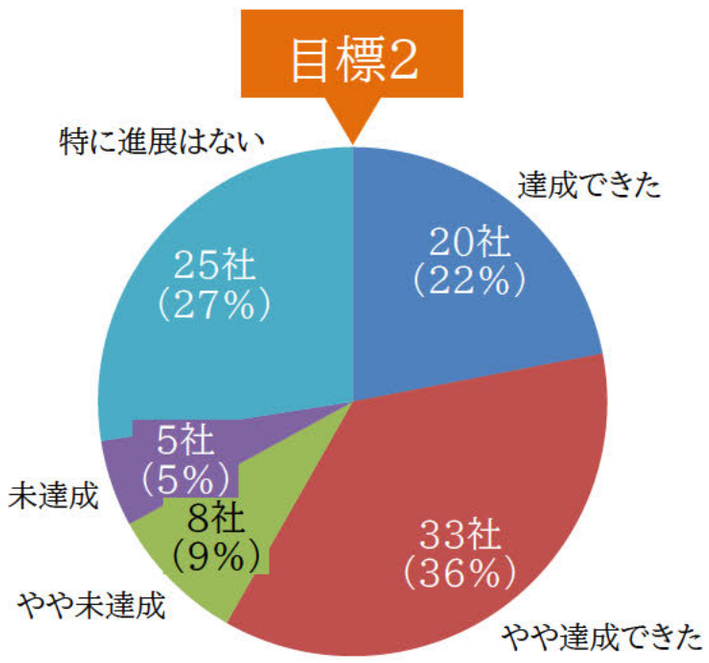
	3	2	1	0	総計
社数	11社	10社	14社	56社	91社

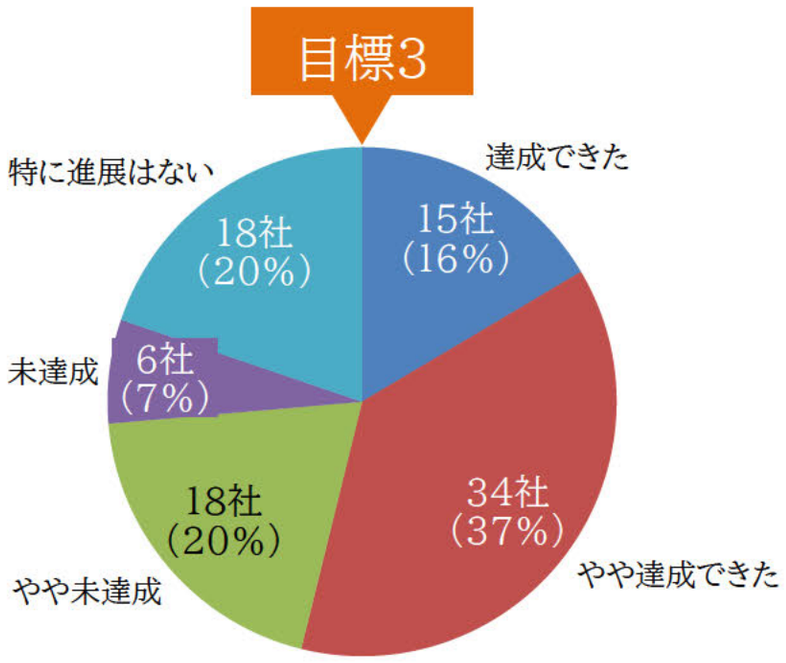
【特に進展がなかった目標の数】（n=91）

	3	2	1	0	総計
社数	8社	9社	15社	59社	91社

【本事業の3つの目標の達成状況】（n=91）







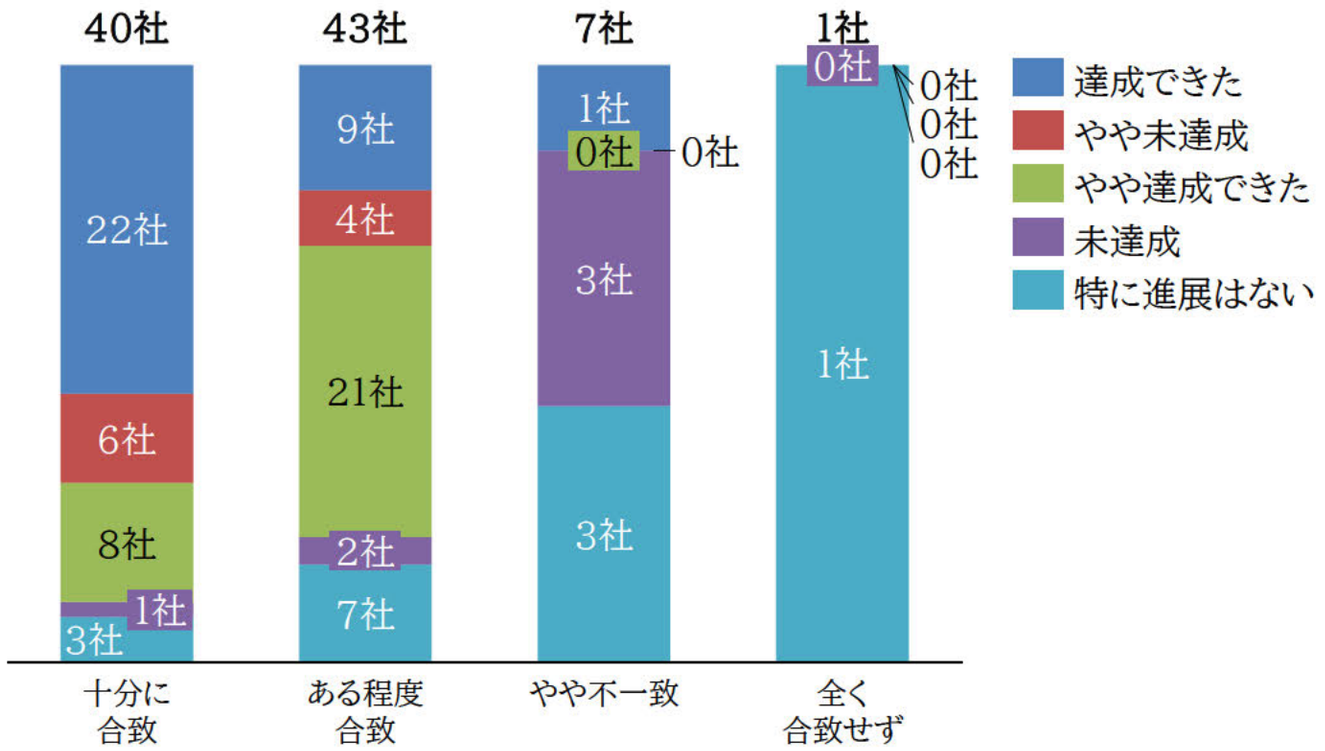
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3.事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【企業：本事業の目的を達成できたか】

インターンと希望人材の合致度が高い場合や、過去に外国人材を採用したことがある企業の方が、目標1を「達成できた」と回答する傾向が見られた。

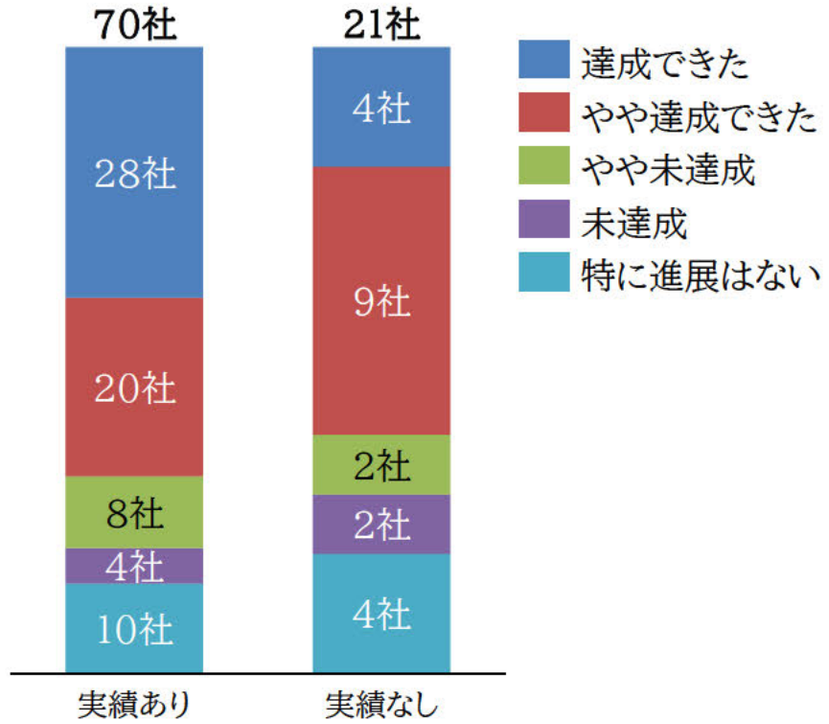
目標1 外国人材の採用・活用の促進

インターンと希望人材との合致度 × 目標1達成状況



- 既述の通り、企業が希望する人材とインターンの合致度が高くなるとその後の雇用判断がなされやすく、目標1の達成にも影響を及ぼし得る。
- ただし、希望には合致したが目標1の達成状況は芳しくないと回答した企業も少数あった。
- やや不一致が見られた企業の多くは、目標1は未達成、又は特に進展はないと回答した。

外国人材採用実績 × 目標1達成状況



- 外国人材の採用実績がある企業には、外国人材が活躍できる土台があるため、目標1を「達成できた」と回答した企業が多いものと推察される。

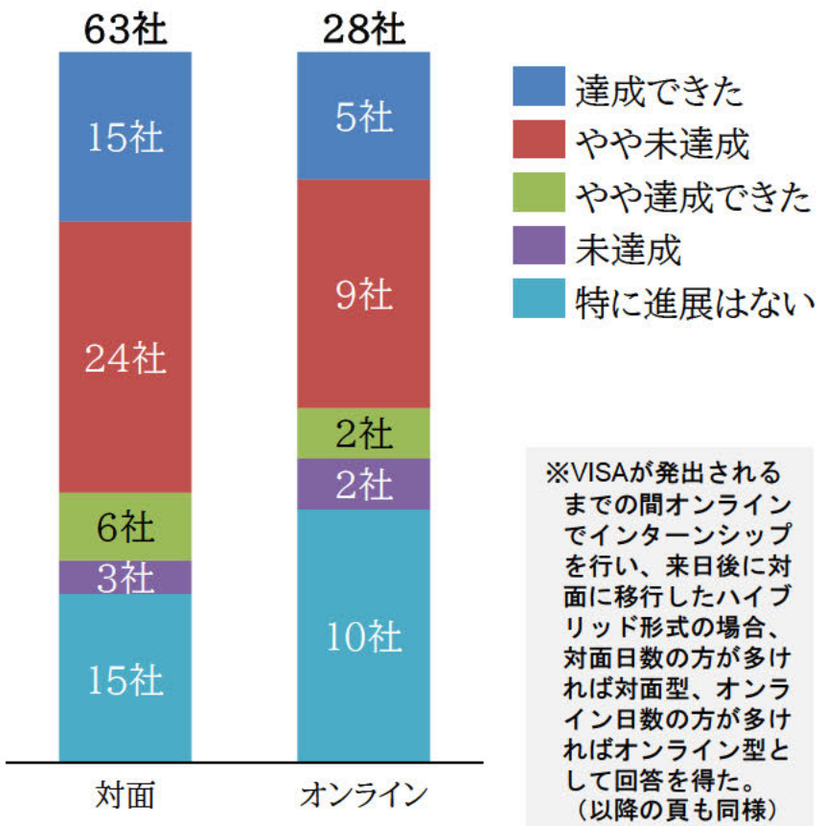
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3.事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【企業：本事業の目的を達成できたか】

対面形式の方が、インターンシップで得られた知見や情報を活用した海外展開が進みやすい可能性がある。また、特定の国や地域に関する市場調査を実施できると、海外展開の進展に繋がりやすいものと考えられる。

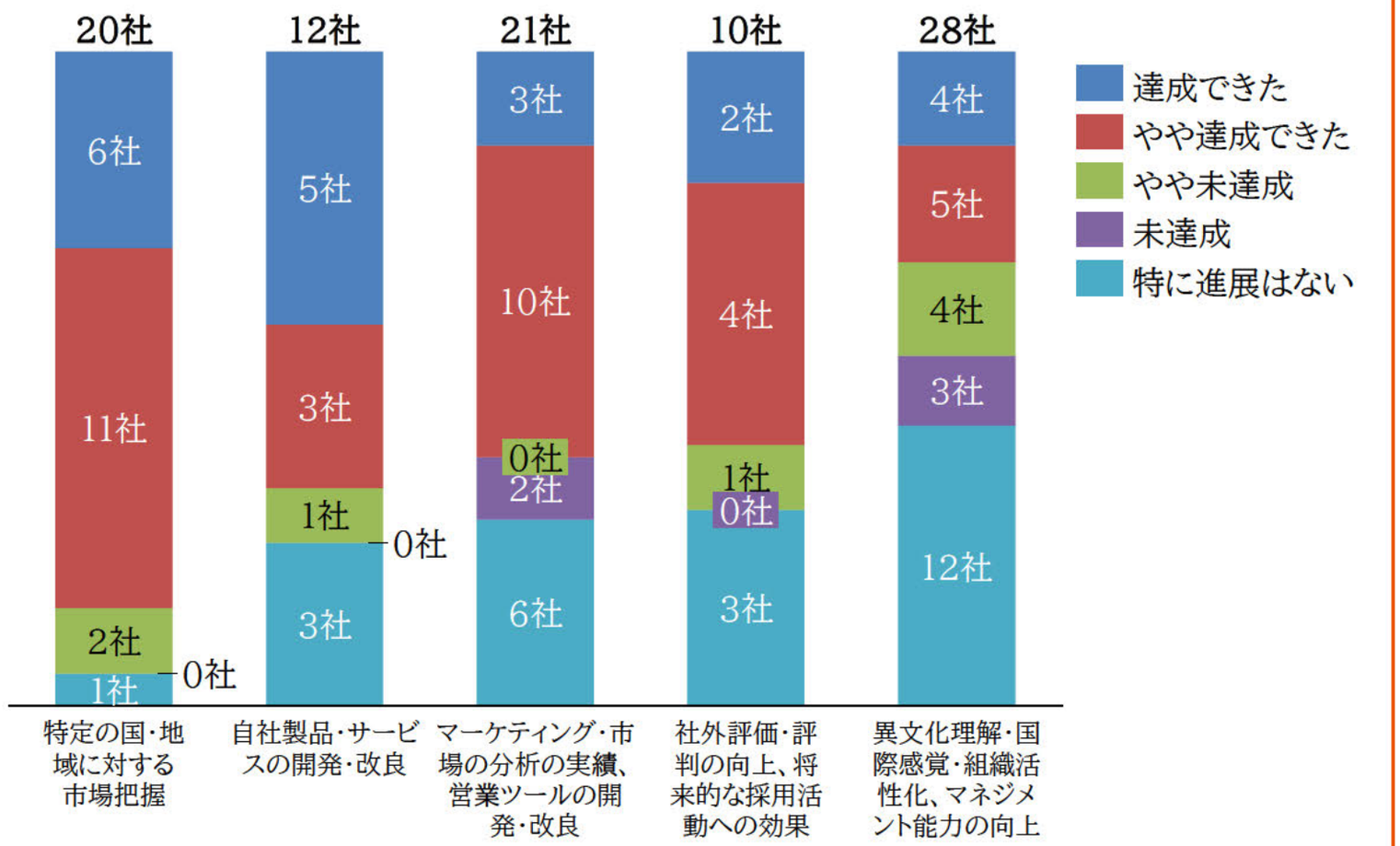
目標2 インターンシップを通じて得られた知見や情報を活用した海外展開（オンラインインターンシップの場合はDXの導入による海外展開促進）

実施形式（対面/オンライン）× 目標2達成状況



※VISAが発出されるまでの間オンラインでインターンシップを行い、来日後に対面に移行したハイブリッド形式の場合、対面日数の方が多ければ対面型、オンライン日数の方が多ければオンライン型として回答を得た。（以降の頁も同様）

主な成果 × 目標2達成状況



- 対面型インターンシップの方が、目標2「インターンシップを通じて得られた知見や情報を活用した海外展開」が達成できたとの実感が得られやすい傾向にあると考えられる。

- 主な成果として、特定の国・地域に対する市場把握ができたという企業は、他の項目を主な成果として挙げた企業と比較して、目標2を達成できた、またはやや達成できたと回答した企業が多い傾向にあった。本事業でターゲット国の情報収集を行うことを目的とすることで、海外展開に資する成果を得られるものと考えられる。

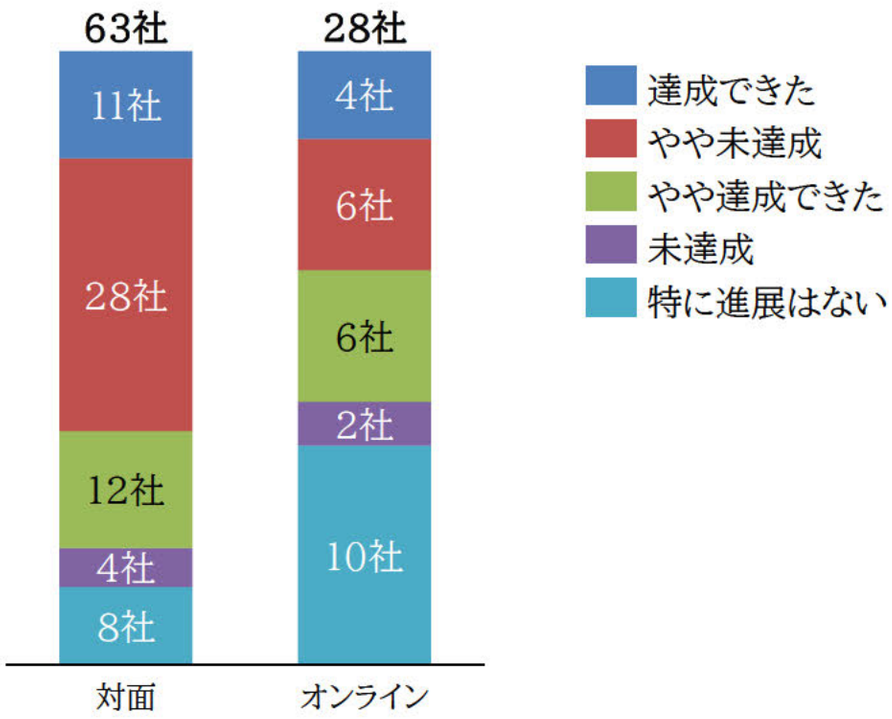
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3.事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【企業：本事業の目的を達成できたか】

対面形式で受け入れ、インターンがオフィスで活動を行うことで、受入担当者や部署以外の社員とのコミュニケーションの場を設けやすくなるなど、社内体制構築に向けたプラスの効果があるものと推測される。また、体制構築にあたっては、外国人材の受入・採用経験を重ねることが重要であると考えられる。

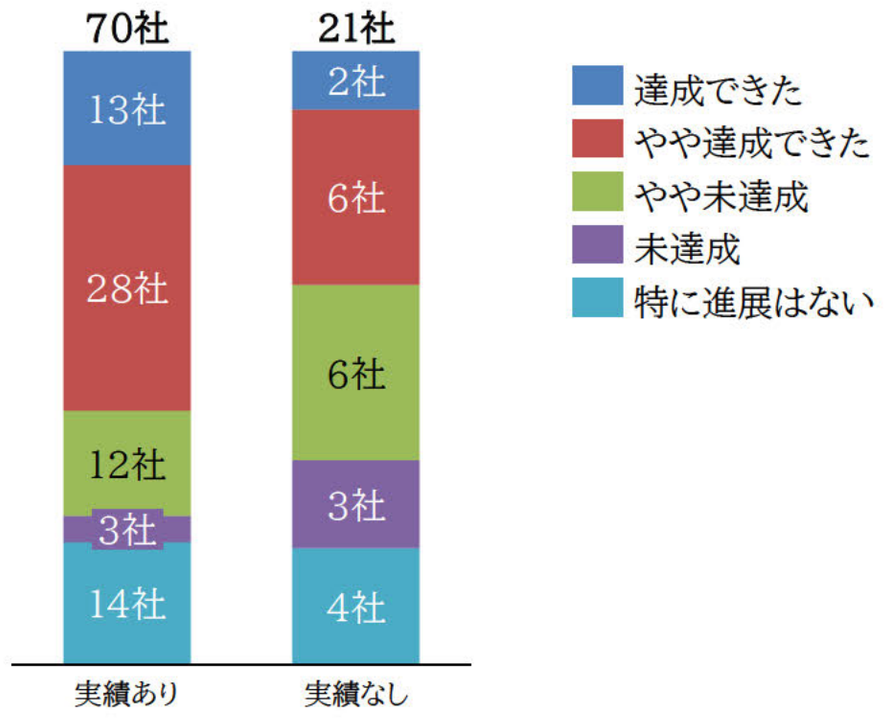
目標3 高度外国人材を採用しやすいような体制の構築（社内体制、社外・海外大学等との連携等）

実施形態（対面/オンライン）× 目標3達成状況



- 対面型インターンシップの方が、目標3「高度外国人材を採用しやすいような体制の構築」が達成できる傾向にあると考えられる。
- インターンがオフィスに来て就業体験を行うことで、会社全体や他部署での意識改革に繋がりやすいことが一因と推察される。その他、対面でのインターン受入により、人事制度や待遇の改善、在留資格や来日受入に係るノウハウの会得、外国人材とのコミュニケーション経験の蓄積など、高度外国人材の採用に向けてプラスの効果が生まれやすいものと考えられる。

外国人材採用実績 × 目標3達成状況



- 外国人材採用実績がある企業の方が、目標3が達成できる傾向にある。
- 本事業への参加以前に外国人材を採用した実績を持つ企業では、インターン受入前から外国人材採用の仕組みが構築されつつあるものと考えられる。

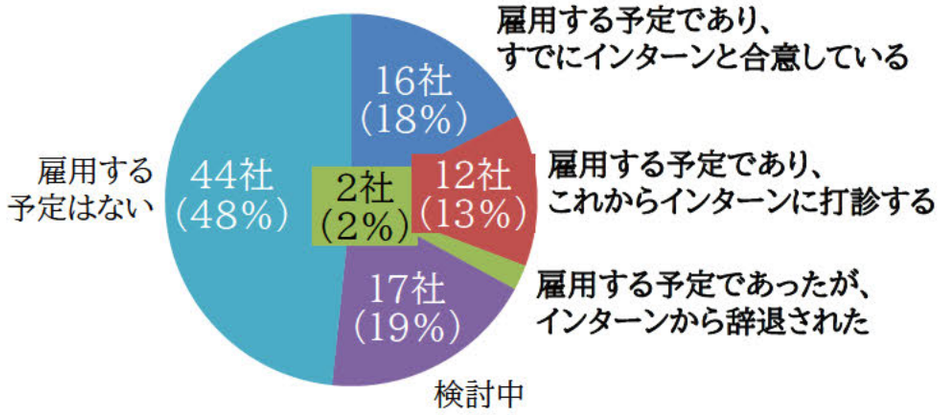
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3.事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【企業:インターンの雇用に至ったか】

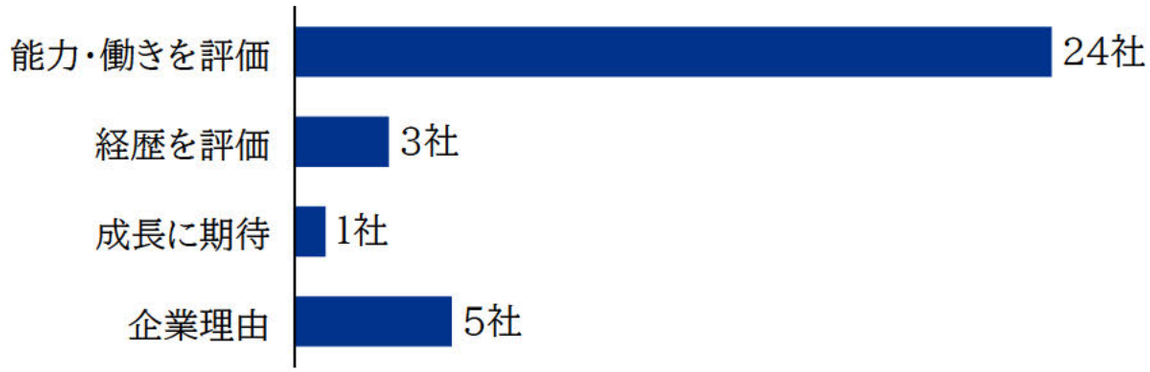
企業へのアンケート調査の結果、本事業で受け入れたインターンを今後も雇用したいと回答した企業は計30社で全体の33%を占める。

これら30社が雇用を希望した理由としては、インターン個人の能力や語学力、人柄、インターンシップ期間中の姿勢や働きを評価した回答が24社と最も多かった。そのほか、インターンの母国での経歴が企業の業務に合致する等と評価した企業が3社、ブリッジSEとしての役割を期待した企業が1社であった。また、「海外展開が必須である」ことや「自国と日本との給与差」等の企業理由を挙げた企業も5社あった。

【受け入れたインターンの雇用予定の有無】(n=91)



【雇用を希望した企業がその判断に至った理由】(n=30)
(自由記述回答を分類して分析)



【雇用を希望した企業がその判断に至った理由】(n=30) (自由記述回答)

雇用する予定であり、すでにインターンと合意している	雇用する予定であり、これからインターンに打診する
• スキルや思考力が素晴らしかった • 意欲と人柄 • 求める技術の高さ • 業務に対する前向きな興味 • 業務への向き合い方、的確で上質なアウトプット、日本文化を理解している • 人柄、理解力、コミュニケーション力等が非常に高いこと • 本人の人柄とコミュニケーション力、業務に対する意欲 • 優秀な人材だったから • 人柄がよい • 専門知識があるため • 日本語力がN1であり、判断力が良い、履歴と当社の業務との関連付けができる • 日本語教師で、生徒の来日用書類の準備等をしていた経験を当社で活かせる • 実際に売上利益が見込めており、現地バイヤーとの窓口になっていただきたい • 自国と日本との給与差とインターン能力との総合パフォーマンス • 海外展開が必須であるため • 雇用が条件であったため	• 我々の技術に対する理解が高かった • 業務に対する専門知識があり、インターン生の母国での経歴も実務につながる • 言語能力(日本語とベトナム語)とこれからの事業のため • 当方が期待したIT業務能力とコミュニケーション能力を保有している • 日本語能力とコミュニケーション能力と数学的思考 • 能力が高かった • 能力が高く、人間性も良い • 本人の意欲および、期間中の活躍 • 優秀だから • 日本語力だけでなく、能力、コミニュケーション力とともに、日本人人財より優秀であると評価 • 将来オフシェア拠点を確立していくうえでブリッジSEとして成長が期待できる • 現地で対応してもらいたい事業内容があるため
	雇用する予定だったが、インターンから辞退された
	• 能力が日本人より高かった • 弊社の業務に合致、人柄の良さ

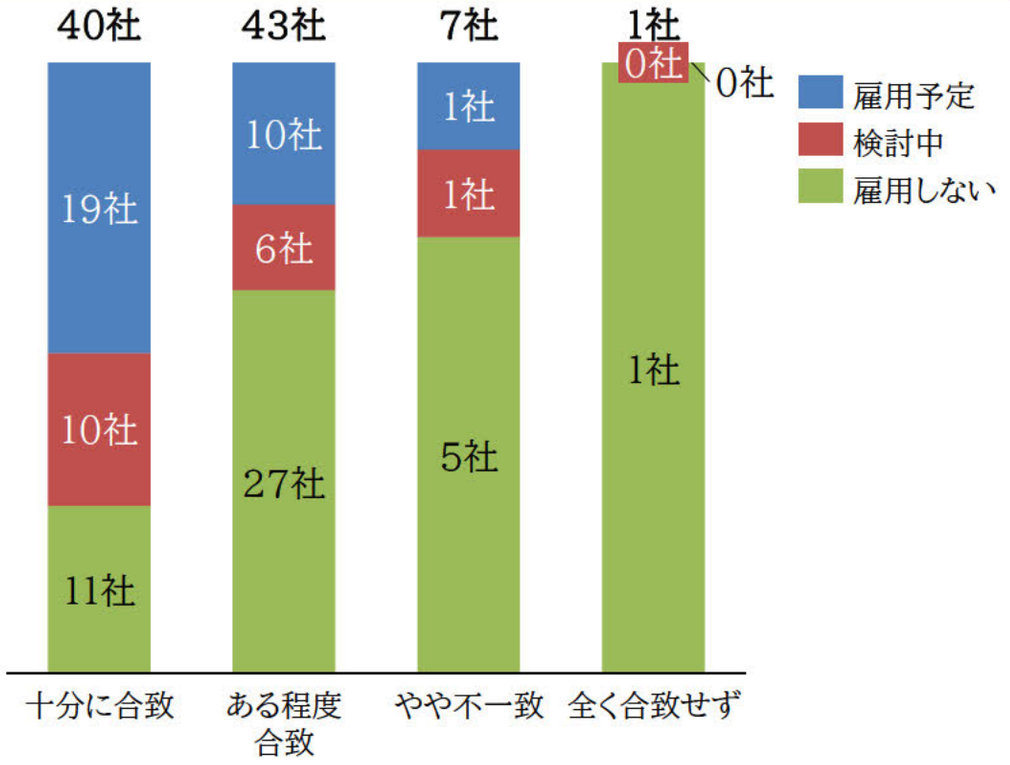
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3.事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【企業:インターンの雇用に至ったか】

インターンと希望人材の合致度、実施形式(対面かオンラインか)、及び外国人材採用実績の有無の各要素は、企業によるインターン雇用の決定に影響を及ぼし得るものと推察される。

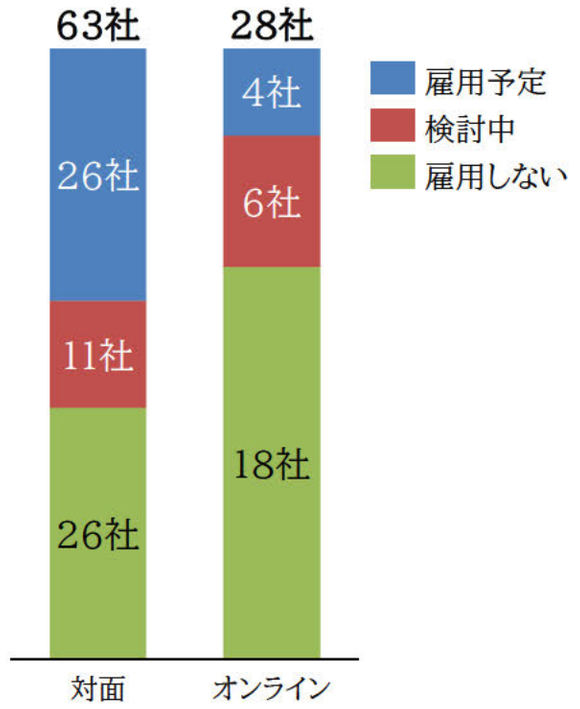
より精度の高いマッチングを行って、対面でインターンシップを実施することが、本事業後の継続雇用にとって重要な要素であると考えられる。また、外国人採用実績がある場合はどのようなスキルや人柄を外国人材に求めるのかをより現実的かつ具体的に設定できるとともに、実施形式を問わず人材の見極めにおいて経験があることから、継続雇用に至りやすい可能性がある。

インターンと希望人材との合致度 × 雇用



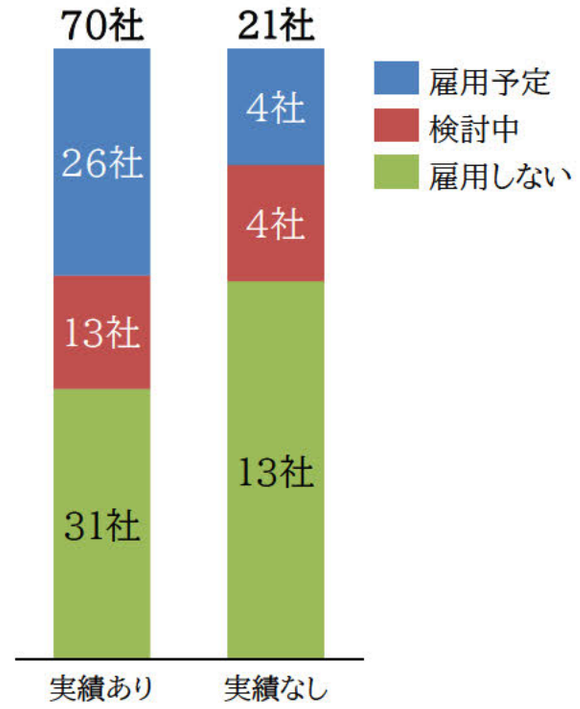
- 企業が希望した人材像とインターンが持つスキルや人柄の合致度は、その後の雇用継続を検討する際の重要な要素となり得る。
- なお、「やや不一致」又は「全く合致せず」と回答した8社が不一致があったと回答したのは専門性(5社)、実施形式(2社)、国籍(2社)、業界への興味(1社)、業務遂行能力(1社)であった(複数回答)。

実施形式(対面/オンライン) × 雇用



- 対面で受け入れた企業の方が、雇用予定と回答する傾向にあった。
- 対面で受け入れることで、成果物以外の人柄やコミュニケーション能力、自社組織とのカルチャーフィットまで見極めることができた企業が多いものと考えられる。

外国人材採用実績 × 雇用



- 本事業参加以前に外国人材の採用実績がある企業の方が、インターンを雇用予定と回答する傾向にあった。
- 実績がない企業の半数以上は継続しての雇用はしないとの結論に至っている。

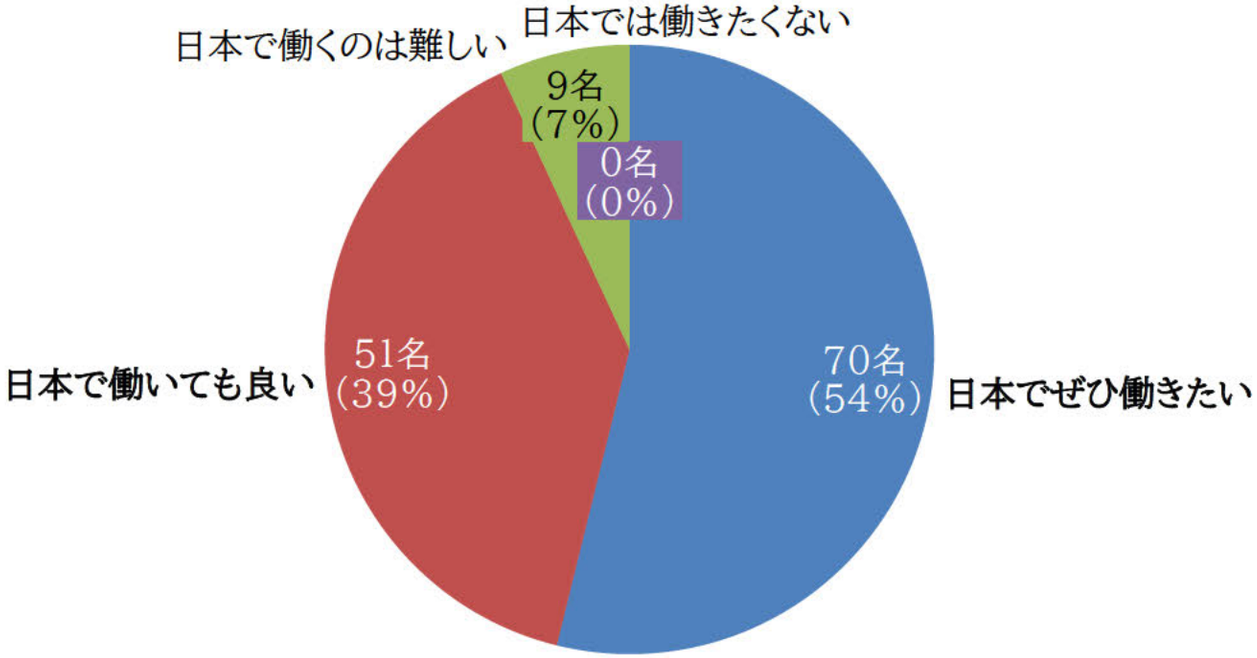
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3.事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【インターン：日本での就職意欲】

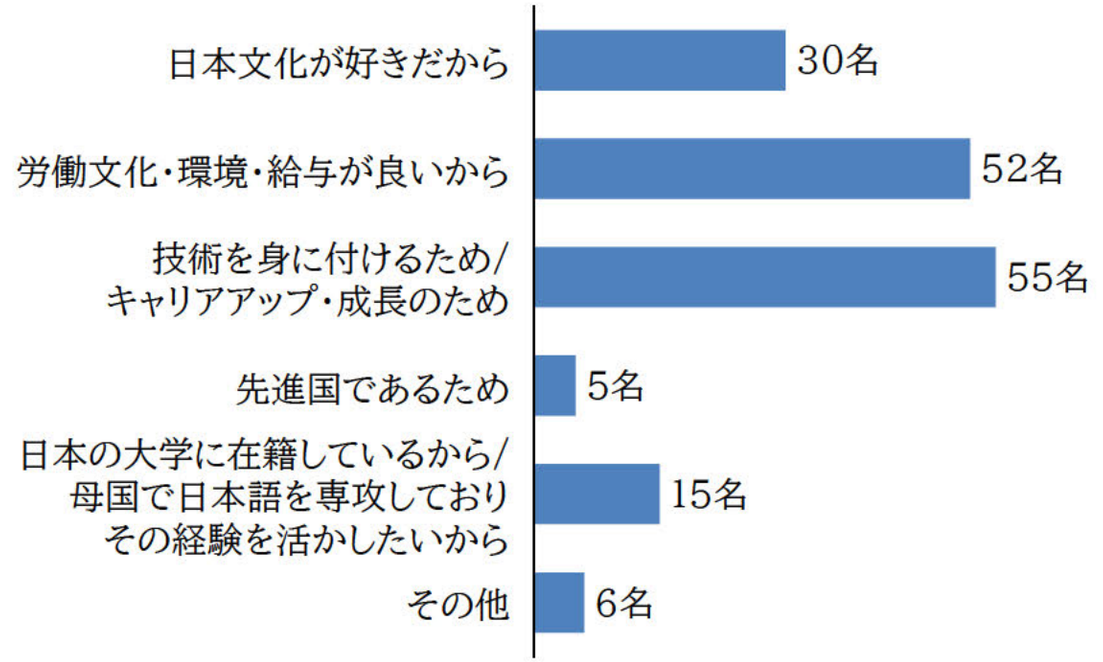
インターンシップを経てインターンが日本での就職をどのように考えているか調査した結果、130名中121名が日本で働くことに肯定的であったが、9名が日本で働くことに否定的であった。

日本で働くことに肯定的な121名にその理由を質問した。「技術を身に付けるため/キャリアアップ・成長のため」、「労働文化・環境・給与が良いから」と回答した方が多かった。また、「日本は先進国であり、優れた技術を身に付け、キャリアアップするチャンスが多い」と回答したインターンもいたことから、インターンが日本を有望な就労先として認識していると推察される。さらに、「本インターンシップに参加する前は、日本は働きづらい国というイメージがあったが、本インターンシップを通じて、日本の労働環境が過酷ではないことが分かった」という回答もあった。

【日本での就職意欲】(n=130)



【日本でぜひ働きたい/日本で働いても良いと回答したインターンが日本で就職したい理由】(自由記述回答を分類)



その他

- 自分の知識やスキルで日本企業をサポートしていきたいと思います。
- 日本のITセクターは成長段階にあり、今後様々な機会があるから。
- 未経験の新卒者にも辛抱強く丁寧に教えてくれるから。
- 日本語が正しく使えているかどうかわからず不安だったから。

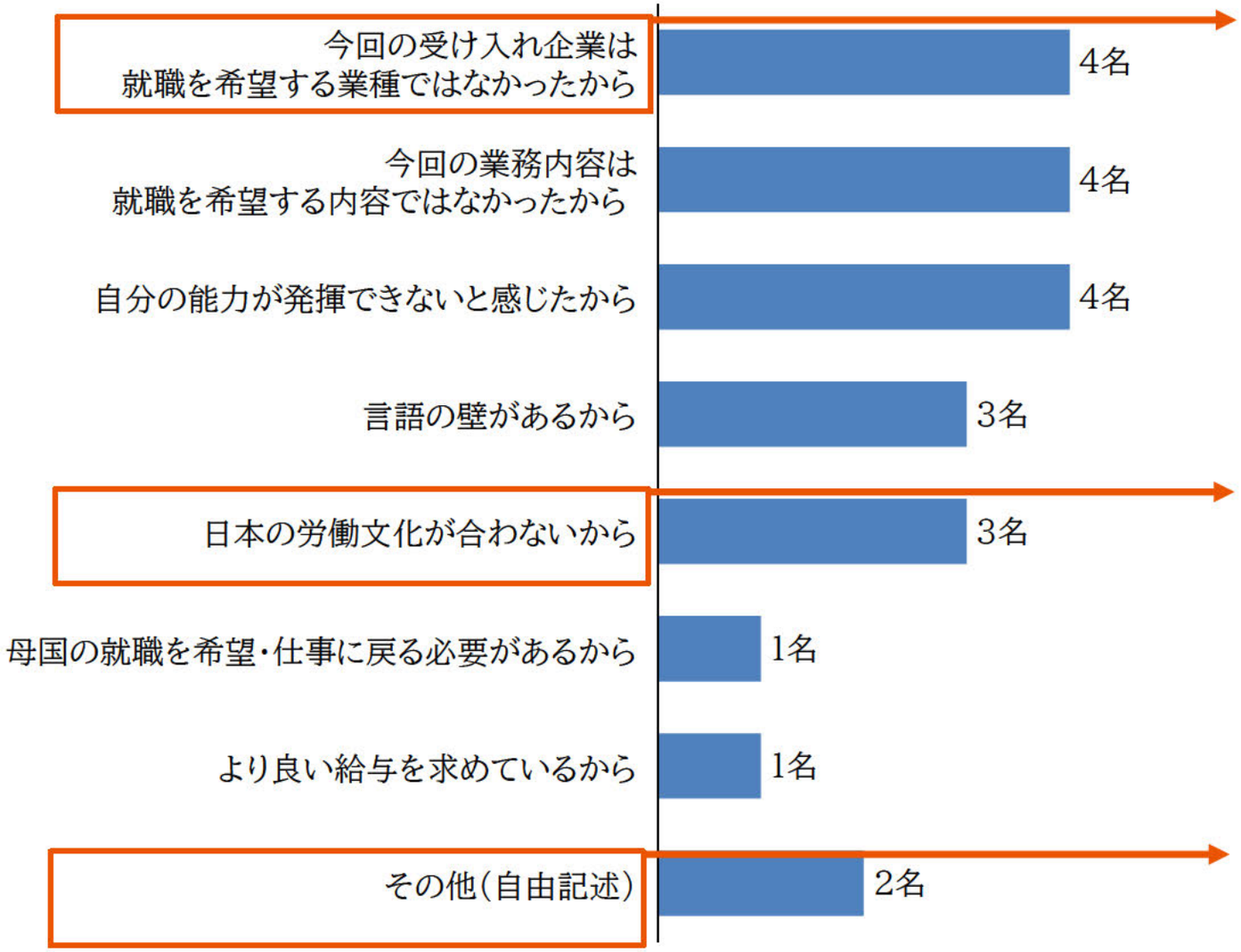
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3.事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【インターン：日本での就職意欲】

日本で働くことに否定的であった9名のインターンを対象にその理由を調査した結果、今回のインターンシップで自分の理想とするような就労ができなかったことや、労働文化を理由としたインターンが多数であった。

「日本で働くのは難しい」と回答した9名のうち約半数が今回の受入企業の業種や業務内容が希望と異なること、また、自分の能力が発揮できないことを理由として挙げていた。今回のインターンシップを就職に直結すると考え、このような回答をしたインターンが多かったものと考えられる。言語の壁と労働文化の違いを理由に挙げたインターンはそれぞれ3名であった。自由回答ではインターンシップ先での残業の多さと宗教に基づく習慣の違いが理由として挙げられており、日本で就職する上では日本の労働文化への適合性も重要な観点であることが明確である。

【日本で働くことが難しい理由】（複数回答）（n=9）



マッチングが不十分であったという意味ではなく、様々な理由を持ってインターンシップに参加する外国人材の中には、あくまで自身のキャリア経験を得ることを一つの理由として参加していた外国人材がおり、その参加者からの声として回答が集まった。

「残業」以外の理由として、「宗教面への配慮が足りないと感じた」、「仕事を進めるうえでのルールに締め付けを感じた」（業務中は、仕事の話以外は一切してはいけない等）、（労働文化とは直接的に関係ないが）「東京の通勤電車に耐えられない」という声があった。

【日本で働くことが難しい理由】（n=9）

自由回答

- 日本で働きたくないということではないが、インターンシップ先の企業には毎日残業をしている社員がおり、身体面・精神面で健康的ではないと感じた。とはいえ、日本での就職機会があれば是非受けたいと思う。
- 宗教上のお祈りの時間を確保するのが難しい。

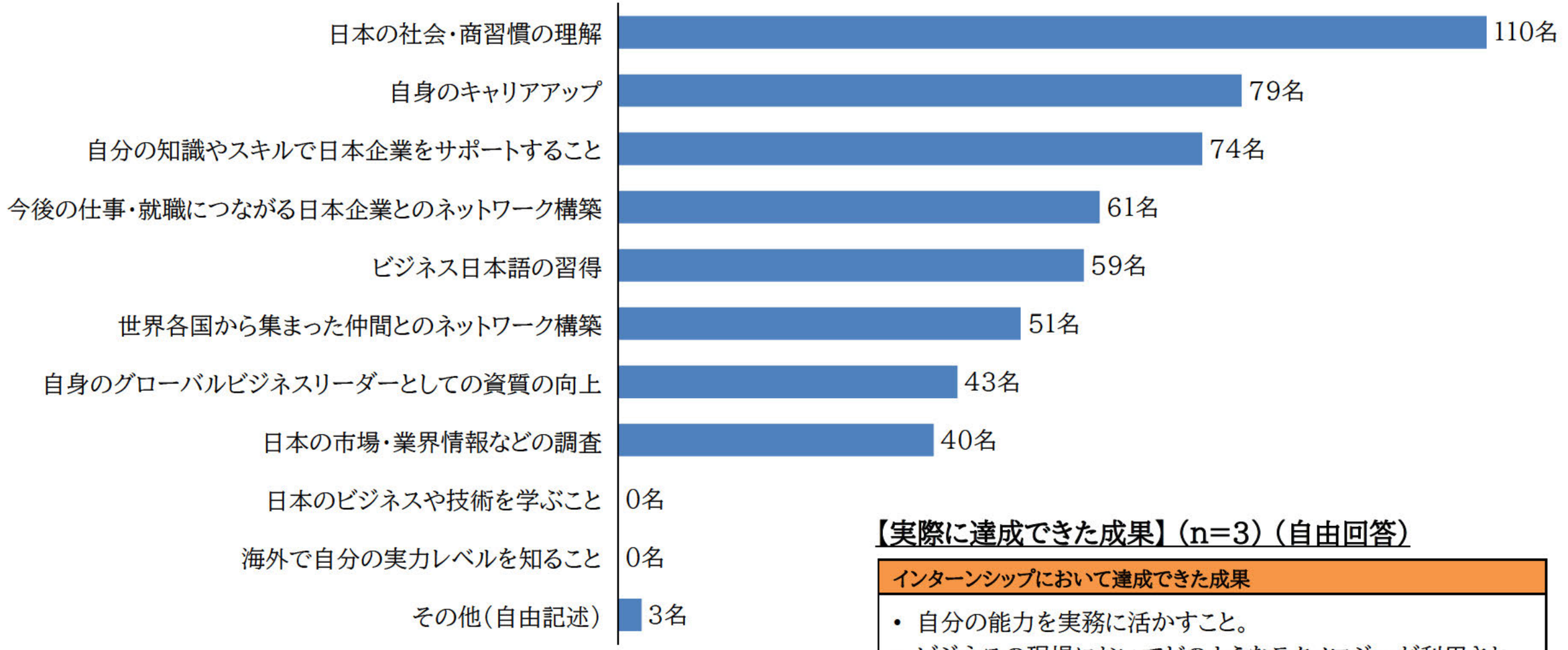
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3.事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【インターン：達成できた成果】

本インターンシップを通じて実際に達成した成果について調査したところ、130名中110名が「日本の社会・商習慣の理解」を達成できたと回答した。

インターンの半数以上が「日本の社会・商習慣の理解」、「自身のキャリアアップ」、「自分の知識やスキルで日本企業をサポートできたこと」を成果として得られたと回答したことから、自らのキャリアと能力の向上を成果と考えるインターンが多いことが明確になった。日本企業とのネットワーク構築やビジネス日本語の習得を成果として捉えている回答も多かったことから、将来的に仕事で日本企業と関わりたいと考えるインターンが多いことが推測される。

【インターンシップに参加した結果、実際に達成できた成果】（複数回答）（n=130）



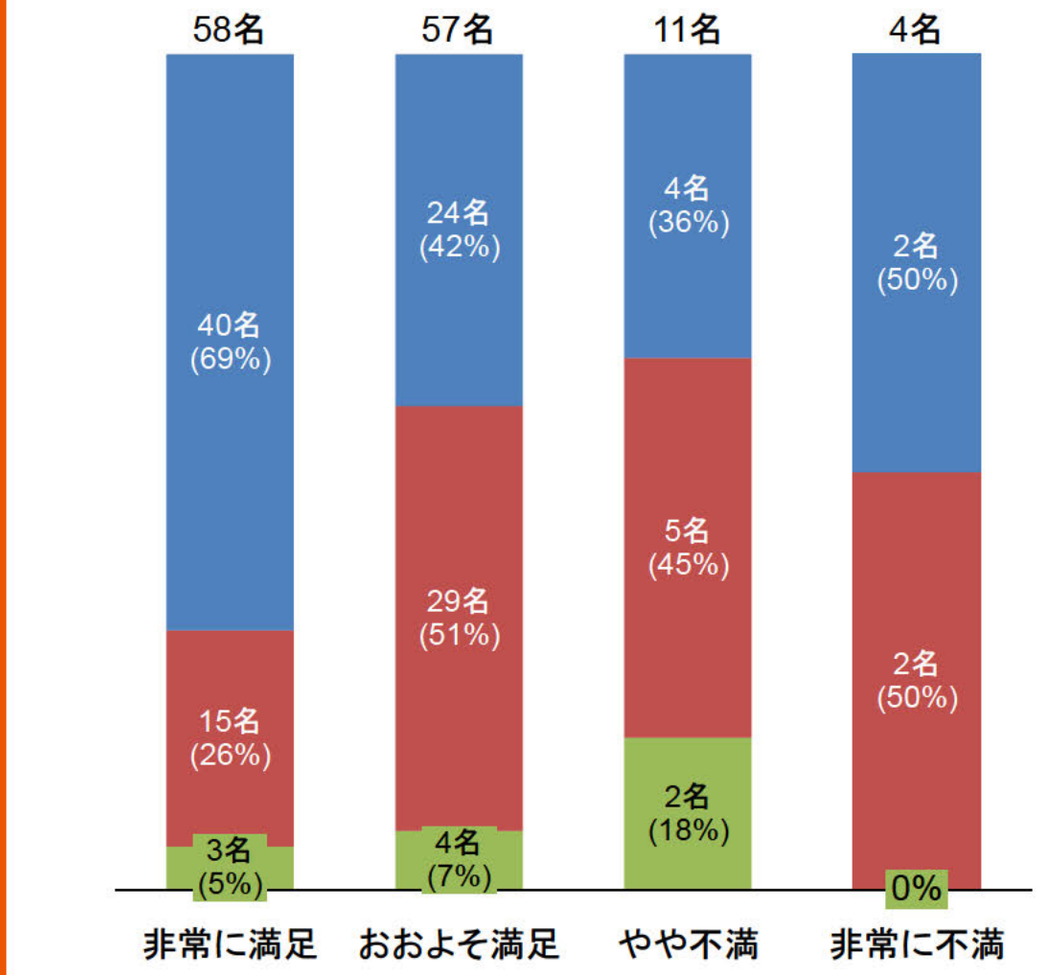
【実際に達成できた成果】（n=3）（自由回答）

インターンシップにおいて達成できた成果
• 自分の能力を実務に活かすこと。 • ビジネスの現場においてどのようなテクノロジーが利用されているのかを理解すること。 • 日本語能力の向上。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3.事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【インターン：日本での就職意欲】

本インターンシップの満足度が日本での就職意欲に影響を与えうると推察されることから、インターンシップの満足度と日本での就職意欲をクロス集計した。その結果、満足度の高いインターンほど就職意欲も高かった。

観点	インターンシップの満足度 × 日本での就職意欲	考察
満足度	 ※やや不満もしくは不満と回答した11名のうち3名はその理由を肯定的に回答していることから、満足度について誤回答したと考えられる。	• インターンシップには非常に満足/おおよそ満足したが、日本で働くのは難しいと回答したインターンは、日本の労働文化と言語の壁を理由として挙げている。**インターンシップでは短期間の実務体験で多くの学びを得ることができるが、実際に就職して長期間働く場合には労働文化と言語の壁が課題となると考えるインターンが一定数いるものとが推察される。** • インターンシップにはやや不満/非常に不満と回答したものの、日本で働きたい/働いても良いと回答したインターン13名のうち6名は、受入企業やインターンシップの内容ではなく事務手続き等において不満があったと回答しており、運営面での課題が満足度に影響したと考えられる。 • インターンシップにはやや不満/非常に不満と回答したものの、日本で働きたい/働いても良いと回答したインターン13名のうち10名は、日本で高度な技術や貴重な経験が得られること及び生活環境が良いことを理由に挙げており、インターンシップの満足度に限らず日本を魅力的な就職先として捉えていると推察される。 • 日本での就職意欲があるインターンの大多数は、本インターンシップを通して高い技術力や知識を身に付けられた経験から、日本企業でスキルアップをしたいと考えていた。インターンシップでの経験が日本で就職意欲を高める1つの機会になったと推察される。

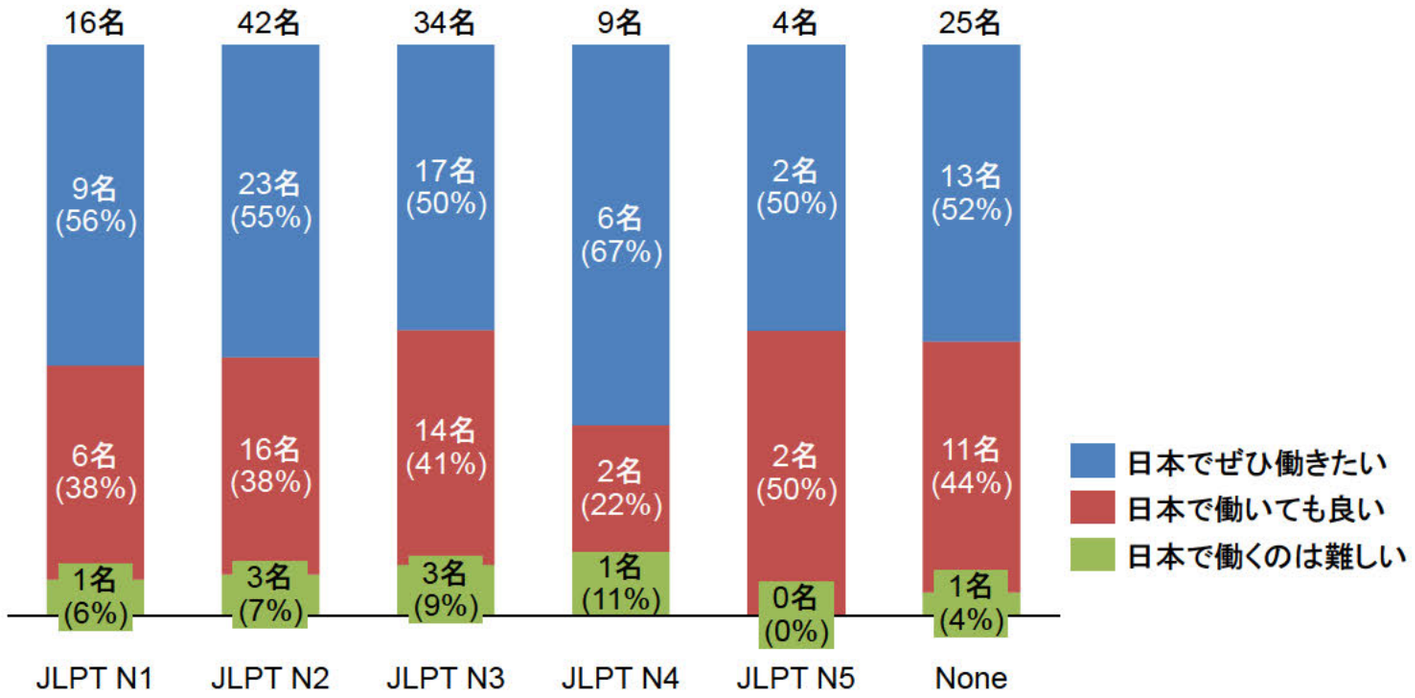
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3.事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【インターン：日本での就職意欲】

インターンのJLPT（日本語検定）レベルが日本での就職意欲に影響を与えたかどうかを分析するためにクロス集計を行った結果、JLPT（日本語検定）レベルと就職意欲に関係性は見られなかった。

観点

インターンの日本語力 × 日本での就職意欲



日本語検定レベル	日本語レベルの目安
JLPT N1	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる
JLPT N2	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる
JLPT N3	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる
JLPT N4	基本的な日本語を理解することができる
JLPT N5	基本的な日本語をある程度理解することができる

考察

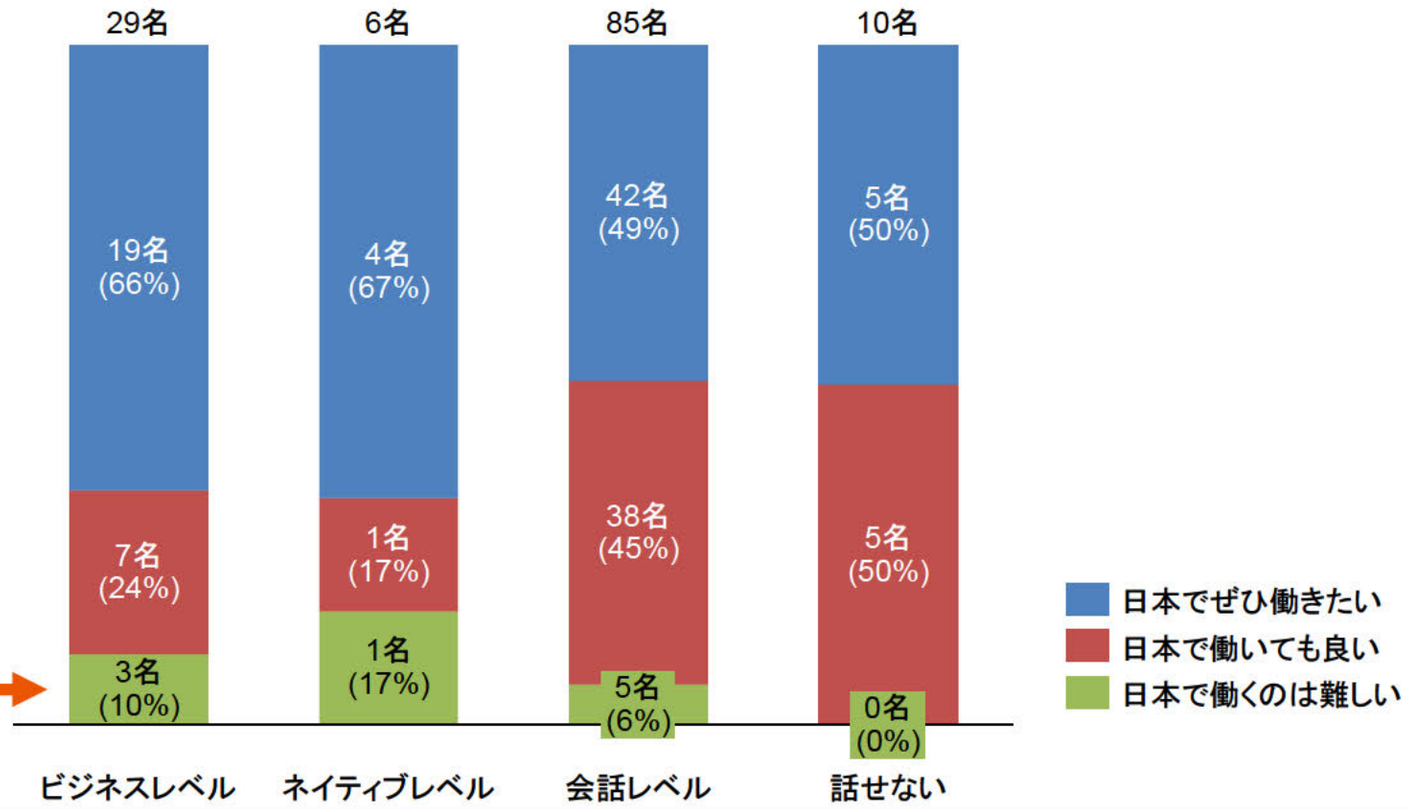
- JLPTを保有しているインターンは、日本での就職を検討しているか、もしくは日本に留学している/留学を検討していると考えられる。日常会話レベル以上の日本語力を有するインターンの割合が各選択肢でほとんど変わらなかったことから、日本語レベルは日本での就職意欲に影響を与えないと推察される。
- JLPTを保有していないインターンは、日本に留学することも日本企業に就職することも想定していない方もいるが、大多数が「日本でぜひ働きたい」「日本で働いても良い」を選択していた。本インターンシップを通じて日本での就職意欲が高まった可能性があると考えられる。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3.事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【インターン：日本での就職意欲】

インターンが自己申告した日本語力が日本での就職意欲に影響を与えたかどうかを分析するためにクロス集計を行った結果、インターンの日本語力と就職意欲に関係性は見られなかった。

観点	インターンの日本語力 × 日本での就職意欲
満足度	ビジネスレベルの日本語が可能な3名は、日本で働くことが難しい理由を「労働文化が合わないから」「印ーンシップ先で残業している人がおり、心身ともに不健康だと思ったから」と回答した。



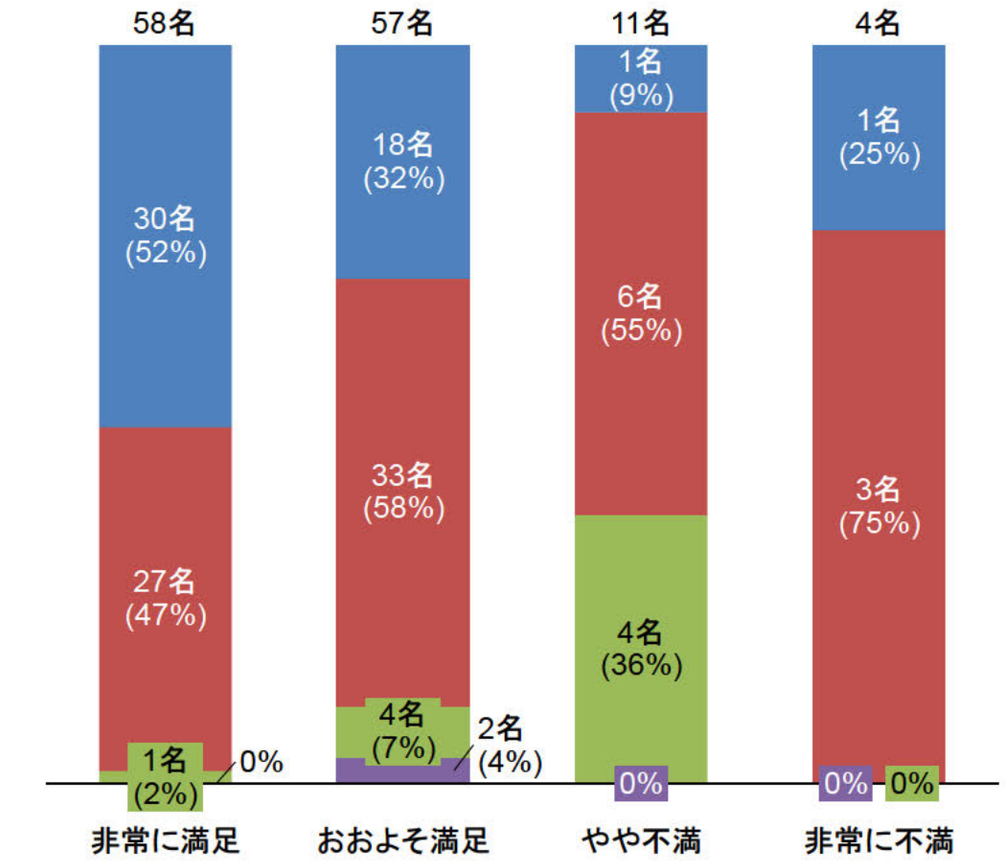
考察

- いずれの日本語レベルにおいても、「日本でぜひ働きたい」、「日本で働いても良い」との回答が大多数であったことから、日本語レベルは必ずしも就職意欲に直結しないと推測される。
- 日本語を話せないインターンは、「日本でぜひ働きたい」「日本で働いても良い」を選択し、「日本で働くのが難しい」を選択しなかった。日本語を話せないインターンに本インターンシップの感想を質問した際、インターンシップにおいて学びが得られたことや受入企業の対応が良かったことを挙げていた。よって、**インターンの日本での就職意欲は、主に業務内容と受入企業の対応に起因し、必ずしも日本語力には影響されないと推察される。**
- ネイティブレベルと回答した1名は日本で働くことが難しい理由を「母国の就職を希望・仕事に戻る必要があるから」「今回の業務内容は就職を希望する内容ではなかったから」と回答した。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3.事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【インターン：成果の達成状況】

本インターンシップにおける成果の達成状況はインターンシップの満足度に影響があるものと推察されることから、インターンシップの満足度と成果の達成状況をクロス集計した。その結果、インターンが今後のキャリアに繋がる成果をあげることができ、インターンシップで期待以上の経験ができた場合に、高い満足度を得られたと推察される。

観点	アンケート結果（n=130）	考察
満足度	 ※やや不満もしくは不満と回答した11名のうち3名はその理由を肯定的に回答していることから、満足度について誤回答したと考えられる。	• インターンシップには「非常に満足」「おおよそ満足」したと回答し、成果を「あまり達成できなかった」「達成できなかった」と回答したインターン7名のうち5名は「自身のキャリアアップ」を成果として得られたと回答した。また、4名は「今後の仕事・就職につながる日本企業とのネットワーク構築」を成果として得られたと回答した。インターンシップを通して今後のキャリアに繋がる成果を得られたことが満足度に影響したと考えられる。 • インターンシップの成果を「あまり達成できなかった」と回答したインターンの割合は、4段階の満足度の中で「やや不満」が最も多かった。「やや不満」且つ成果を「あまり達成できなかった」と回答したインターンは、インターンシップ期間が短さや業務内容を理由にしており、自身がインターンシップに抱いていた期待が実情と合わなかったことが不満につながったと推察される。 • インターンシップには「やや不満」「非常に不満だった」と回答したが、成果を「達成できた」「まあまあ達成できた」と回答したインターン11名のうち、9名は「日本の社会・商習慣の理解」ができたとしており、さらに7名が「自分の知識やスキルで日本企業をサポートすること」ができたと回答した。

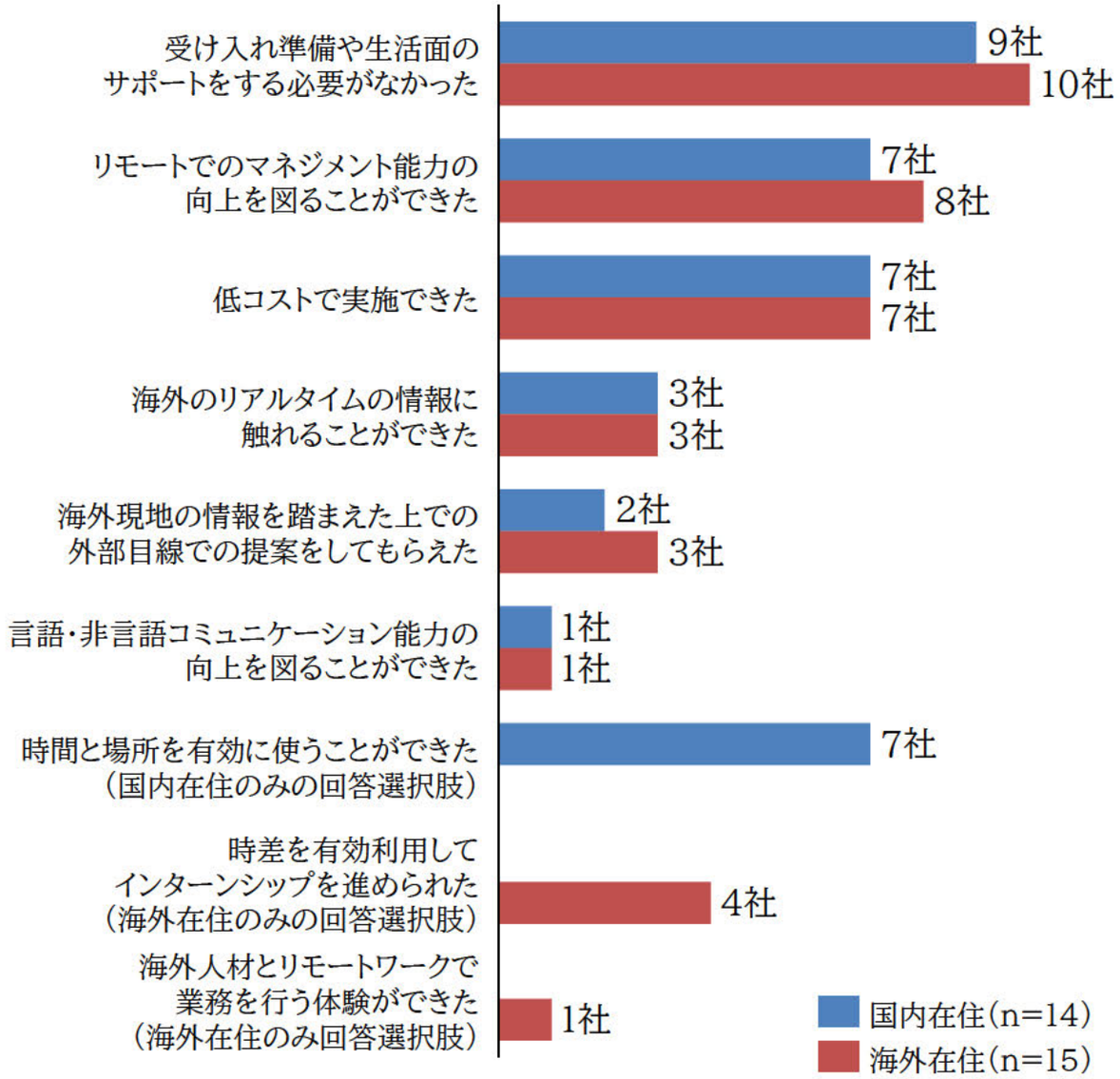
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3. 事業成果 / II. 事業結果の分析 【オンラインインターンシップに関する企業アンケート結果】

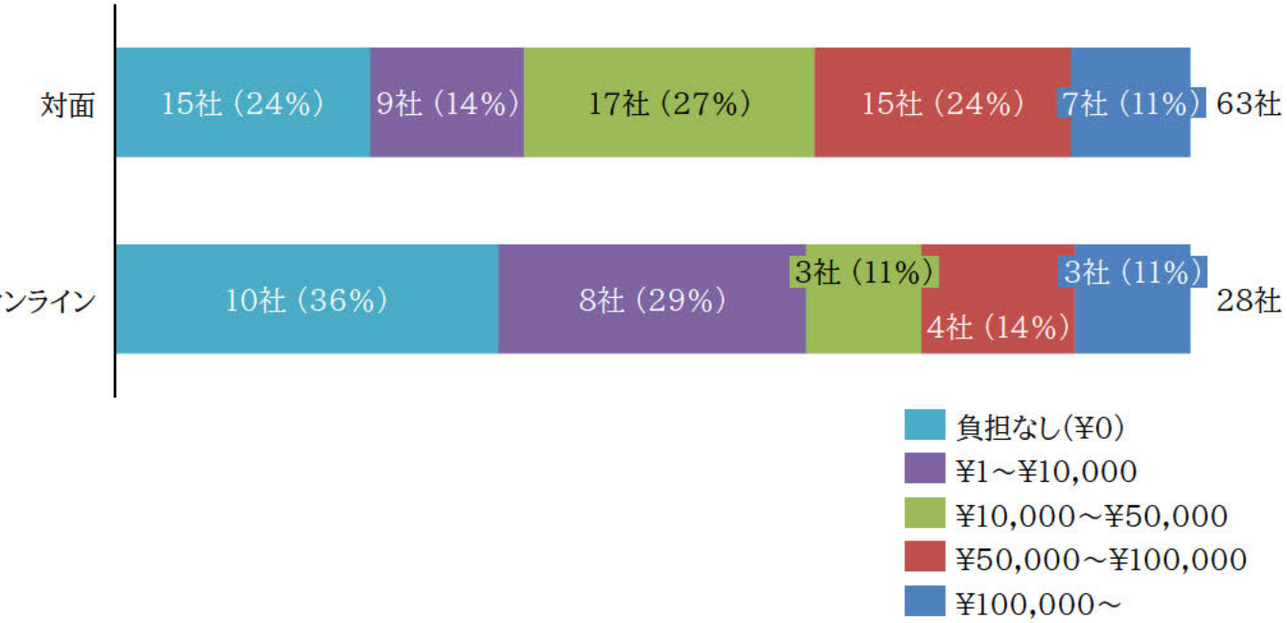
企業へのアンケートの結果、オンラインインターンシップの大きなメリットは、受入準備・サポートが不要である点、リモートでのマネジメント能力向上、低コストでの実施と感じられていることが分かった。

受入企業に対して実施した事後アンケートのうち、オンラインインターンシップに関する設問への回答からは、オンラインインターンシップを実施するメリットとして、国内留学中か海外在住であるかを問わず、受入の準備や生活面サポートが不要という点が挙げられた。また、低コストで実施できるとのメリットもあった。実施形式別に要した経費についての回答を見ると、オンラインで受入を行った企業の方が費用負担がなかった又は1万円以内であったと回答した比率が高かったことも分かる。

【オンラインインターンシップを実施するメリット（複数選択）】



【実施形式別のインターン受入に要した経費内訳】



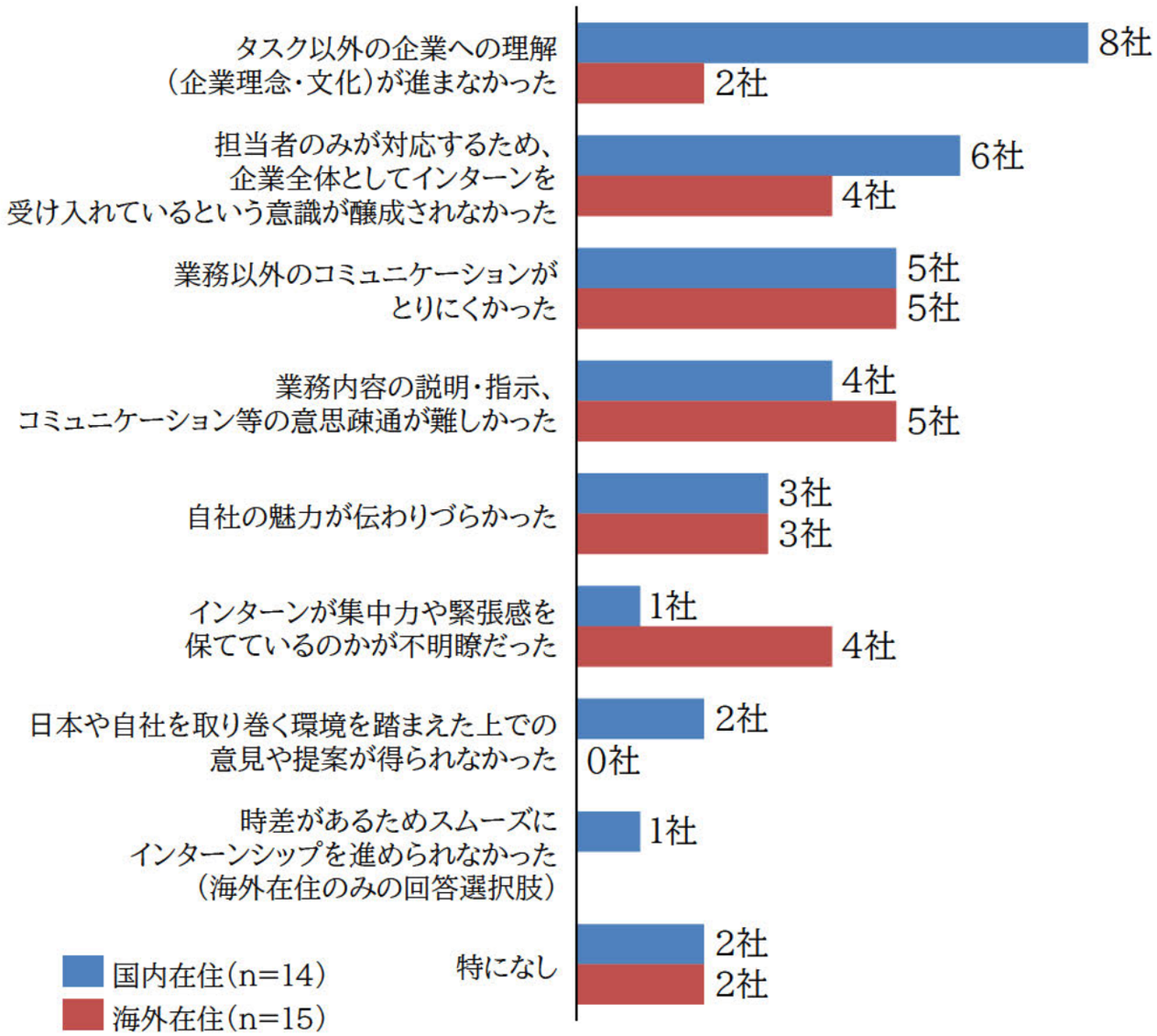
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3. 事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【オンラインインターンシップに関する企業アンケート結果】

一方、オンラインインターンシップでは、実際のタスク以外への理解促進やコミュニケーションにおいて課題があることが分かった。

オンラインインターンシップを実施するデメリットとしては、タスク以外の企業理解が進まないことや、受入企業全体での意識情勢に繋がりにくいこと、業務内外でのコミュニケーションの難しさが指摘されている。また、インターンシップ実施中の課題に関する回答のうち、オンラインに関連するものでも、コミュニケーションの課題が指摘されたほか、時差の問題やデータ共有の課題があったと回答した企業があった。

【オンラインインターンシップを実施するデメリット（複数選択）】



【インターンシップにおける課題と対処策】

インターンシップで発生した課題	その課題にどのように対処したか
オンラインインターンシップであったため、コミュニケーションが取りにくいことがあった。	オンラインでインターンと打合せを多めに行った。
急遽オンラインインターンシップに切り替わり、さらに実施期間が短すぎた。対面インターンシップであれば言語能力だけに依存しないコミュニケーションが取れていたかもしれない。	LINEを用いて、文字でコミュニケーションすることで、翻訳機能を使用した。
オンラインのみの受け入れだったので、共有できるデータに限りがあった。	共有可能なデータの範囲で活動にあたってもらった。
時差の問題があり、単純な問題として、始業時間と終業時間が異なった。また、外国人材を受け入れる際の注意点を事前に知りたかった。	時差を考慮した稼働にしたため、そこまで問題にならなかった。外国人の雇用の仕方や注意点、指示の出し方などはインターネットや書籍を使ってリサーチした。

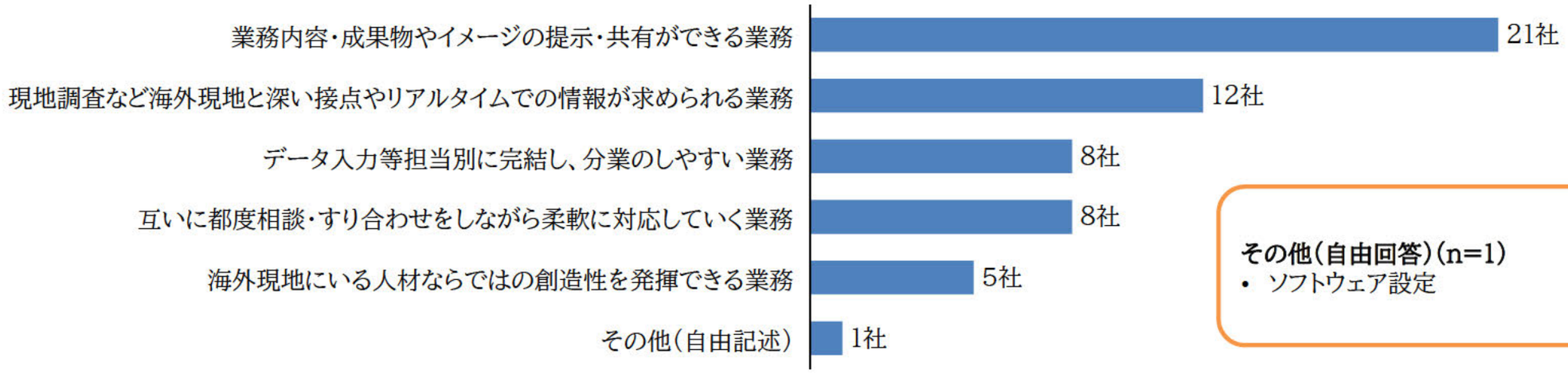
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

3. 事業成果 / Ⅱ. 事業結果の分析 【オンラインインターンシップに関する企業アンケート結果】

オンラインでのインターンシップの場合、成果物や業務内容を具体的に提示したり共有したりできる業務が実施しやすい一方、都度相談をしながら柔軟に対応する業務は向かないとの回答が集まった。

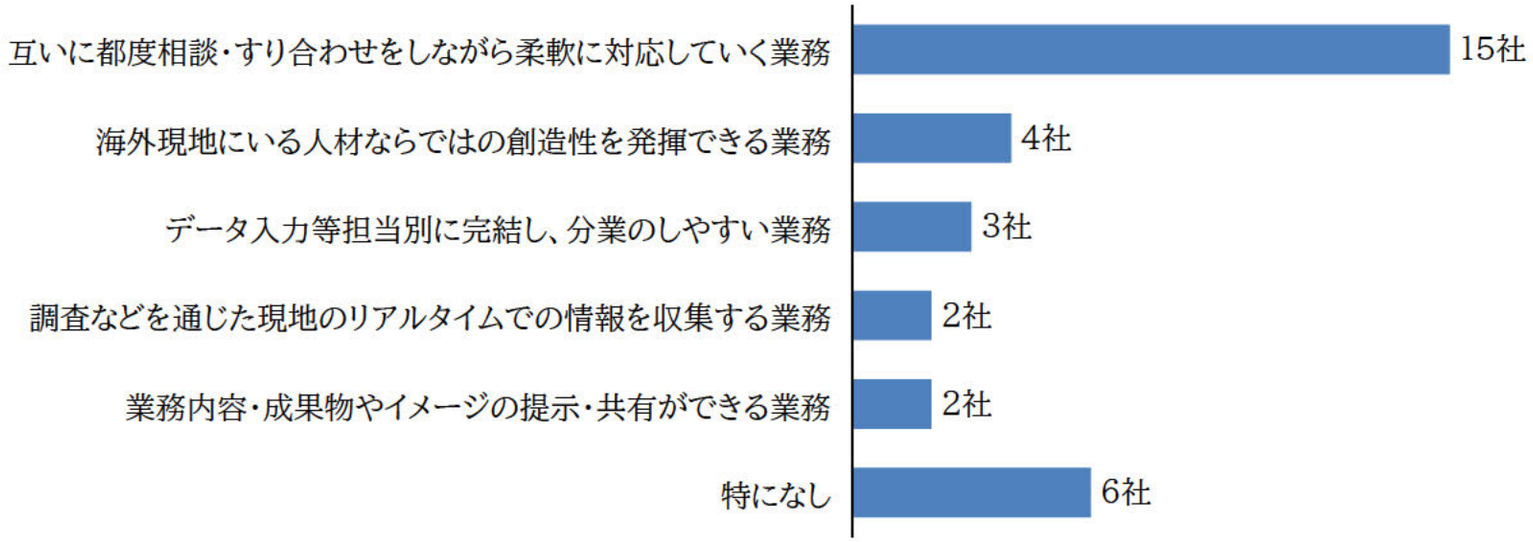
オンラインインターンシップに向いている業務についての設問では、業務内容や成果物のイメージが共有できる業務は向いているとの回答が多かった。反対にオンラインでの実施に向かない業務としては、互いに相談やすり合わせを都度行いながら柔軟に対応する業務に回答が集まった。ただし、この業務が向いていると回答した企業も8社あった。

【オンラインインターンシップに向いていると感じた業務内容】(n=28)



その他(自由回答)(n=1)
- ソフトウェア設定

【オンラインインターンシップに向いていないと感じた業務内容】(n=28)



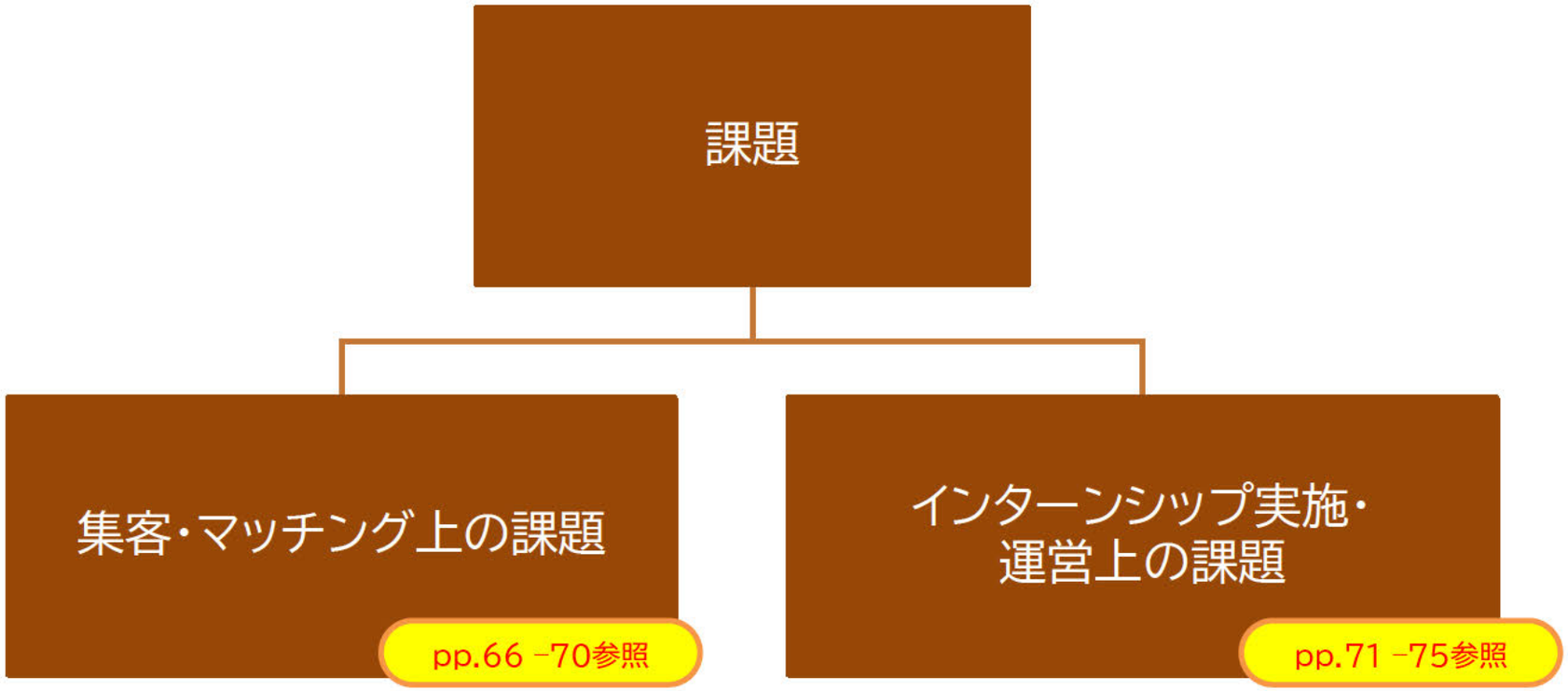
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

４．施策等の提言

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

4. 施策等の提言 / Ⅰ. 課題(1/3)

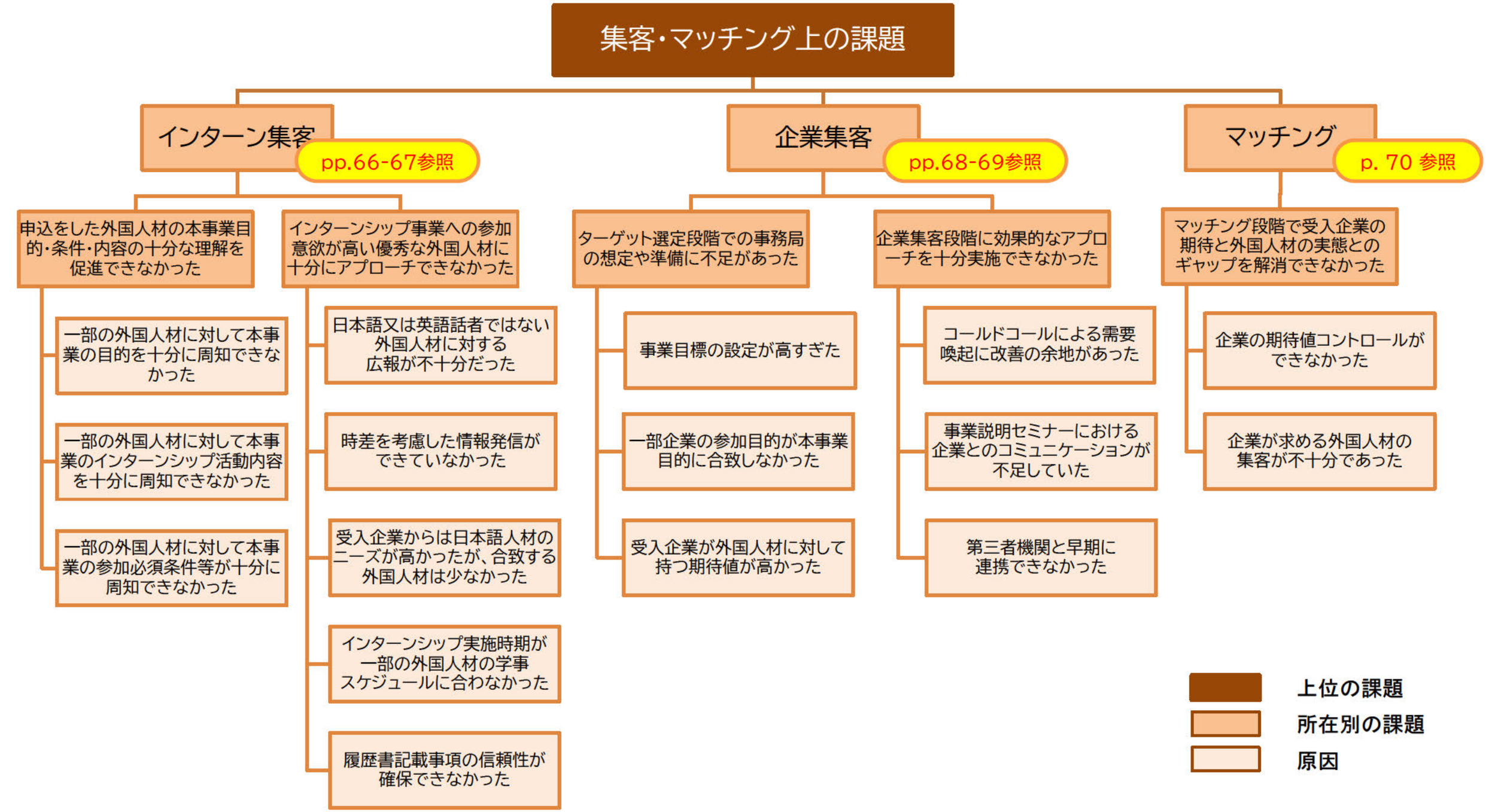
第4章では、本事業で明らかになった課題ごとに原因を特定し、解決策として提言をまとめた。本事業で特定された課題は、受入企業と外国人材の集客・マッチング上の課題とインターンシップ実施・運営上の課題に分類して整理した。



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

4. 施策等の提言 / Ⅰ. 課題(2/3)

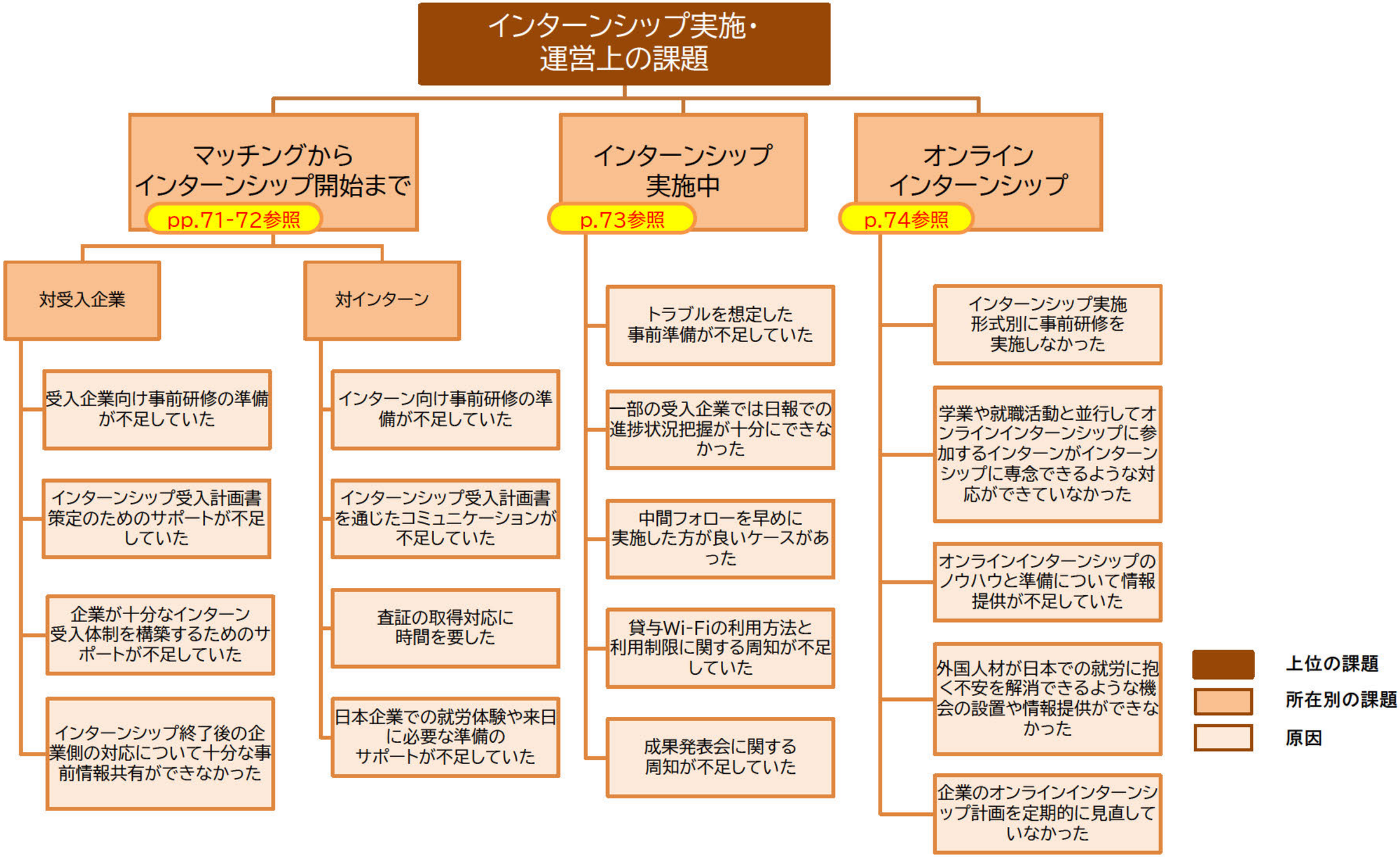
本事業の実施を通して、受入企業と外国人材の集客・マッチングにおいて課題が見られることが明らかになった。ここでの課題を、インターン集客、企業集客、マッチングの3つに分類し、それぞれ原因を特定した。さらに、pp.66-70において、より良い集客・マッチングに有効と考えられる解決策を提言としてまとめた。



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

4. 施策等の提言 / Ⅰ. 課題(3/3)

本事業の実施を通して、インターンシップ実施・運営において課題が見られることが明確になった。ここでの課題を、マッチングからインターンシップ開始までの間、インターンシップ実施中、オンラインインターンシップ実施中、及び政策評価の4つに分類し、それぞれの原因を特定した。さらに、 pp.71-75において、より良いインターンシップ実施・運営上の課題に有効と考えられる解決策を提言としてまとめた。



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

4. 施策等の提言 / Ⅱ. 次年度以降の事業実施に向けた提言(1/10)

Fourth Valley

集客・マッチング上の課題

インターン集客

受入企業と外国人材のマッチングでは、事務局が外国人材に提供した情報が不足していたことが一因で課題が発生した。特に、本事業の目的、インターンシップ活動内容、参加必須条件に関して外国人材の理解を十分に促進できなかった場合には、ミスマッチが生じることがあった。事務局は、本事業に参加する外国人材に留意してほしい点をまとめたハンドブックを作成し、配布する必要がある。

課題	原因	解決策／提言
申込をしたインターンに本事業の目的・条件・内容を十分な理解を促進できなかった。	• <u>**一部の外国人材に対して本事業の目的を十分に周知できなかった。**</u> (本インターンシップ事業で中堅・中小企業でインターンシップを実施することが理解できていなかったり、給与が支給されると勘違いしていたりして、不満を漏らすインターンがいた。)	1.≪事務局≫は、外国人材が本事業に参加申込をする際に、本事業が「中堅・中小企業における高度外国人材活用のための環境づくり」と「日本での就業を検討する外国人学生等への就業体験の提供」を目的としていることを外国人材に再度伝え、外国人材自身のインターンシップ参加目的と齟齬がないことを確認する必要がある。さらに、参加を検討している外国人材には、本事業の目的を記載したハンドブックを配布する。
	• <u>**一部の外国人材に対して本事業のインターンシップ活動内容を十分に周知できなかった**</u> (在留資格によって従事可能な業務内容と実施時間が限られることを理解できておらず、より実務的な業務内容を求めるインターンがいた。)	1.≪事務局≫は、外国人材の在留資格と従事可能な業務内容に関する情報を提供し、外国人材が日本企業でのインターンシップで体験したい活動内容や達成したい成果を検討してもらうように促す必要がある。さらに、参加を検討する外国人材には、限られた時間の中で期待する体験・成果を上げるために有効な過去の好事例をまとめたハンドブックを配布する。 2.≪事務局≫は、外国人材が本事業の実施期間が120時間と短期であるとを理解し、短期間で自らが目指す成果が得られるように企業と相談しながらインターンシップに取り組むように促す必要がある。さらに、参加を検討する外国人材には、在留資格に応じたインターンシップの業務内容と実施期間の制限をまとめたハンドブックを配布する。
	• <u>**一部の外国人材に対して本事業の参加必須条件等が十分に周知できなかった。**</u> (事前研修への参加が必須であるにもかかわらず、参加できず研修動画の閲覧もできていないインターンがいた。)	1.≪事務局≫は、外国人材が事業への参加必須条件等について理解できるように情報提供する必要がある。まず事前研修に参加することが必須条件の一つであり、その他の参加必須条件も事前研修で確認する必要があることを伝える。さらに、参加を検討する外国人材には、本事業への参加必須条件をまとめたハンドブックを配布する。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

4. 施策等の提言 / Ⅱ. 次年度以降の事業実施に向けた提言（2/10）

Fourth Valley

集客・マッチング上の課題

インターン集客

マッチング成立確度を高めるために、事務局は企業のニーズが高い外国人材の集客や企業の期待値コントロールに努める必要がある。一方、日本語を話さない優秀な外国人材も多い。そのような人材にも本事業に関心を持ってもらうためは、広報資料やアプローチを多言語対応にするなどの工夫する必要がある。さらに、事務局は、外国人材の履歴書の信頼性と、外国人材がスケジュールに合わせてインターンシップに参加できるか否かをマッチング以前に再確認しておくことで、マッチング成立後の辞退を回避する必要がある。

課題	原因	解決策／提言
インターンシップ事業への参加意欲が高い優秀な外国人材に十分にアプローチできなかった。	• **日本語又は英語話者ではない外国人材に対する広報が不十分だった。** （日本語版と英語版のチラシ・説明資料は作成したが、それ以外の言語には対応できていなかった。）	1.≪事務局≫は、日本語を母語としない外国人材にも伝わるよう、専門用語を除いた簡潔な日本語を用いて資料作成を行う。また、画像イメージ等を効果的に使用し、インターンシップ事業への参加のイメージをより明確に示す。
	• **時差を考慮した情報発信ができていなかった。** （情報発信の場として海外人材向け事業説明セミナーを実施したが、時差が原因で参加できない外国人材がいた。）	1.≪事務局≫は、事業説明セミナー動画をオンデマンド視聴できるようにする。または、開催時間を大幅にずらして様々な時間帯から参加できるような時間設定とする。 2.≪事務局≫は、本事業の重点地域に特化したインターンの集客を行う。
	• **受入企業からは日本語人材のニーズが高かったが、合致する外国人材は少なかった。** （7月末時点で募集要件を提出していた外国人材述べ2,325名のうち、日本語能力を有する外国人材は297名と全体の12%であった。）	1.≪事務局≫は、受入企業に対して日本語能力がなくても優秀な外国人材はおり、十分にインターンを実施できること、受入企業の戦力になることを説明し、受入企業の期待値をコントロールする。
	• **インターンシップ実施時期が一部の外国人材の学事スケジュールに合わなかった。** （マッチング成立後に学業や私用のスケジュールを理由にインターンシップを辞退する外国人材がいた。）	1.≪事務局≫は、外国人材が学事スケジュールや自身のスケジュールを踏まえ、インターンシップ事業に参加できることを、受入企業との面談前に確認する（必要に応じて誓約書を事前に提出してもらう）。 2.≪事務局≫は、マッチングの際に発生しうる課題を回避するために外国人材に留意してほしい点をまとめたハンドブックを作成し、配布する（ハンドブックに記載すべき留意点は、各解決策/提言にて例示した）。
	• **履歴書記載事項の信頼性が確保できなかった。** （日本語の語学力等について、虚偽記載する外国人材が一部いた。また、外国人材が作成した履歴書のフォームが多様であり、中には必要な情報が記載されていない場合があり、必要な情報を企業に提供できないことがあった。）	1.≪事務局≫は、日本語能力は資格証明書だけではなく、応募時に30秒程度の動画をアップロードしてもらう等、客観的に正確性を確認する。 2.≪事務局≫は、基本情報（学歴/学部、スキル等）、志望動機、日本就職意欲の有無等、将来の希望、人柄が分かる内容（長所・短所等）、言語レベル等の項目を含む共通の履歴書のフォーマットを準備し、外国人材に記入してもらう。また、機械翻訳ができるようにWord等の文書で作成を依頼する。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

集客・マッチング上の課題 企業集客	マッチング成立確度を高めるためには、ターゲット選定段階での事務局の事前準備が必要不可欠である。より多くの企業に本事業へ参加してもらうためには、事務局が適切な事業目標を設定する必要がある。また、本事業の目的を理解していない企業や、外国人材に高い期待を抱く企業が参加申し込みをするケースも見られた。本事業への参加を検討する企業の理解を促すために、受入企業に留意してほしい点をまとめたハンドブックを配布する必要がある。

課題	原因	解決策／提言
ターゲット選定段階での事務局の想定や準備に不足があった。	• **<u>事業目標の設定が高すぎた。</u>** (インターンシップから直接雇用に繋げることを最終目標に掲げていたことが、結果として企業側の本事業への参加ハードルを高めてしまった。)	1.≪事務局≫は、本インターンシップ事業の周知対象を「既に外国人材の採用を検討している企業(インターンから直接雇用することを前提としている企業)」に限定するのではなく、「まずは短期間外国人材の受け入れを実施することで将来的に外国人材活用に繋げたいという意志のある企業」にも幅広く周知活動をするべきである。
	• **<u>一部企業の参加目的が本事業目的に合致しなかった。</u>** (応募企業の中には、短期的な労働力の確保を目的とした企業からの応募が散見された。)	1.≪事務局≫は、短期的な人材補填を目的に参加している可能性がある企業とは別途面談を行い、目的の再検討を依頼したり必要に応じて参加をお断りしたりする。 2.≪事務局≫は、企業が本事業に参加申込をする際に、本事業の目的と企業が本事業で達成したい目的に齟齬がないか確認したうえで、申込みを行うように促す。さらに、参加を検討する企業には、本事業の目的を記載したハンドブックを配布する。
	• **<u>受入企業が外国人材に対して持つ期待値が高かった。</u>** (企業が外国人材に期待する日本語等の能力が、実際の外国人材の能力よりも高かった。)	1.≪事務局≫は、企業に外国人材の市場規模や属性(求める理系×日本語人材は限られる旨)を説明し、翻訳ツールや他言語でのインターンシップ実施方法を示すことで、日本語要件の緩和を求める。 2.≪事務局≫は、事業申込にあたって受入企業が順守すべき要項に以下の点を追加する。 「選考・マッチング面談を行った候補者が、受入企業が本事業への申込を行った際に定めた候補者に求める最低要件を満たしている場合、受入企業は、当該候補者を原則受け入れる必要がある。」

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

4. 施策等の提言 /Ⅱ. 次年度以降の事業実施に向けた提言(4/10)

集客・マッチング上の課題 企業集客	マッチング成立確度を高めるためには、集客段階で企業へ効果的なアプローチを行うことも不可欠である。具体的には、ペルソナ設定に応じたコールドコールマニュアルを作成して企業集客を行ったり、事業説明セミナー等を通じて企業とのコミュニケーション不足を解消したりすることが重要である。また、商工中金や金融機関等の第三者機関と早期から連携することも企業集客には効果的である。

課題	原因	解決策／提言
企業集客段階において効果的なアプローチを十分実施できなかった。	• **コールドコールによる需要喚起に改善の余地があった。** (アプローチした企業に対する需要喚起の方法には改善の余地があった。)	1.コールドコールはまだ興味をもたない企業に広く本事業を知らせることが出来る有効な集客手段の一つであるので、≪事務局≫はコールの実施を検討すべきである。 2.≪事務局≫は、事業で集客を図りたい企業のペルソナ設定や、そのペルソナに応じたマニュアルの作成・改善を行うことで、より効果的な企業集客手法として確立すべきである。
	• **事業説明セミナーにおける企業とのコミュニケーションが不足していた。** (事業説明セミナーを業種と職種ごとに分けて実施しなかったため、業種や職種に特化した具体的な説明ができなかった。)	1.≪事務局≫は、業種軸や職種軸で事業説明セミナーの日程を分け、より各業種や職種に適した具体的な説明を行う。 2.≪事務局≫は、企業に対して高度外国人材がどのような業務に従事できるのかを明示する。また、高度外国人材が企業に貢献した好事例を紹介する。 3.≪事務局≫は、受入企業の事業申込者とインターン受入担当者が異なる場合、それぞれへ必要な説明を行うとともに、社内での情報共有を依頼する。
	• **第三者機関と早期に連携できなかった。** (企業集客の終盤に第三者との連携の検討と実行に着手したため、第三者機関の担当者に十分な説明機会を設けることができなかった。その結果、連携した第三者機関の本事業に対する十分な理解を深めることができなかった。)	1.≪事務局≫は、企業集客の初期段階から第三者機関との連携を図る。さらに、連携機関に採用市況や外国人材採用の種類、高度外国人材採用について等、より具体的な説明を行い、事業参画を促進する。 2.なお、今年度は商工中金やりそな銀行との連携を行い、特に商工中金と連携する事業の申込数が20社を超える結果となった。非常に有効な企業集客手段であり、次年度以降ではより積極的に金融機関との連携を強めていくべきである。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

4. 施策等の提言 / Ⅱ. 次年度以降の事業実施に向けた提言(5/10)

Fourth Valley

集客・マッチング上の課題	マッチング成立確度を高めるためには、マッチング段階で受入企業の期待値と外国人材の実態の間のギャップを解消することが不可欠である。具体的には、企業からのニーズが高い人材の獲得にKPIを設定して重点的に取り組むとともに、人材確保に向けて柔軟な実施時期を設置するべきである。また、企業の持つ期待値が実態から大きく乖離しないよう、企業に外国人材市場の実情を適切に理解してもらい、外国人材に対する期待値を適切にコントロールする必要がある。
マッチング	

課題	原因	解決策／提言
マッチング段階で受入企業の期待と外国人材の実態とのギャップを解消できなかった。	• **<u>企業の期待値コントロールができなかった。</u>** (日本語能力の高い人材は少ないため、企業が採用条件を緩和させなければマッチングが難しくなる。企業が本インターンシップ事業と外国人材に抱く期待値をコントロールする必要があった。)	1.≪事務局≫は、事業説明セミナーで外国人材の実情(能力・スキル、採用市況等)を説明し、期待度をコントロールする。例えば、日本語ができるIT人材は多くない一方、IT分野の業務では日本語能力は必須ではないことを説明する。これらの取組により、外国人材に求める必須条件と歓迎条件の見直しを促す。 2.≪事務局≫は、事業説明セミナーにおいて、過去参加企業に登壇してもらい好事例を共有する、履歴書にイメージを示す等して、想定される人材のスキルを共有する、受入担当者に対応してもらう内容や必要工数を明示する等の対応を行う。これらの好事例は受入企業に配布するハンドブックにも記載する。 3.≪事務局≫は、より効果的なマッチングを行うために、募集要項の記載例を企業に対して示し、受入企業がインターンに依頼したい業務内容をできるだけ具体的かつ分かりやすく記載できるようサポートする。募集要項作成の際の留意事項は、受入企業に配布するハンドブックにも記載する。
	• **<u>企業が求める外国人材の集客が不十分であった。</u>** (日本語学習者の中で理系人材の割合は低い一方、企業の日本語・IT人材に対するニーズは大きい。需要を満たすだけの外国人材を確保することは容易でなかった。)	1.≪事務局≫は、インターンシップ事業に参加意欲がある優秀な外国人材(受入企業からのニーズの高い日本語×IT人材または語学力が高くなくとも秀でたスキルを有する外国人材)の確保を優先的に行う。具体的には、外国人材の属性ごとの集客目標値を設定し、IT人材の集客状況を週次で確認しながら、優秀なIT人材を輩出する海外大学等へアプローチする。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

4. 施策等の提言 / Ⅱ. 次年度以降の事業実施に向けた提言（6/10）

Fourth Valley

インターンシップ実施・運営上の課題等

マッチングからインターンシップ開始まで【対受入企業】

インターンシップ事業の円滑な実施・運営のためには、マッチング成立後からインターンシップが開始するまでの間に受入企業に対して適時適切なサポートを提供することが不可欠である。そのため、まずは事前研修での十分な情報提供のほか、留意事項をまとめたハンドブックを作成して事前に配布する。また、インターンシップ受入計画書作成のため、受入企業に外国人材市場の実態について情報提供を行う。さらに、インターン受入体制が十分に構築されるよう、メンター制度の運用方法や職場環境づくりについての助言を行う。インターンシップ終了後の流れも事前の情報共有し、終了後の雇用検討を促進する。

課題	原因	解決策／提言
マッチングからインターンシップ開始までの間、事務局の対応が後手になってしまう事態が生じた。【対受入企業】	• **受入企業向け事前研修の準備が不足していた。** （日本の生活習慣・ルールに関する理解が不十分なインターンがいた。日本の生活習慣・ルールに関する理解を深めるための事前研修資料の用意が不十分であった。）	1.≪事務局≫は、より円滑な事業実施を行うため、受入企業が留意すべき点をまとめたハンドブックを作成し、配布する（ハンドブックに記載すべき留意点は、各解決策/提言に例示した）。 2.≪事務局≫は、インターンシップの実施形式（対面/オンライン、来日/在住）ごとに事前研修を開催し、それぞれの留意点を説明する。。 3.≪事務局≫は、事前研修の参加形態にかかわらず参加（視聴）確認を実施する。
	• **インターンシップ受入計画書策定のためのサポートが不足していた。** （インターンシップ受入計画書が外国人材が実施できる活動内容や、外国人材本人の希望・能力にそぐわない計画となっていたことがあった。）	1.≪事務局≫は、受入企業に対して事前研修はハンドブックの作成・配布を通して外国人材の能力に関する情報提供を行い、受入企業が現実的な活動内容や目標設定を行えるよう促す。具体的には、インターンシップ受入計画策定に係る留意事項として、インターンが実施できない活動の例や、外国人材市場の概要を明示する。 2.≪事務局≫は、企業が外国人材の能力（言語能力・専門知識含む）を十分に活かせるような活動内容を準備できるよう、インターンシップ受入計画書に記載されている活動内容を事前に確認し、必要に応じて個別相談を行って適切な修正を依頼する。
	• **企業が十分なインターン受入体制を構築するためのサポートが不足していた。** （インターンの受入経験がない一部の受入企業では、メンターの設置ができなかったり、事前研修に参加するまで何も準備を進められなかった場合があった。）	1.≪事務局≫は、受入企業に対して、異文化や外国人材への理解が深いメンターや実地指導者を配置する等して受入体制を整備するように、事前研修で説明する。また、受入企業向けのハンドブックにもどのようにメンターを選定すれば良いかなどメンター設置時の留意事項や、メンター制度の好事例等を記載して、事前研修前に配布し、周知する。 2.≪事務局≫は、外国人材が本事業で達成したい目標を理解するよう受入企業に促し、その目標達成に適切と思われるメンターを設置するよう受入企業に依頼する。その際には、インターンとも適切なコミュニケーションをとる。 3.≪事務局≫は、言語や労働文化の違い等の外国人材の不安要素を解消できるよう、受入企業に配布するハンドブックに外国人材が働きやすい職場環境づくりのための助言を記載する。
	• **インターンシップ終了後の企業側の対応について十分な事前情報共有ができなかった。** （複数の企業から採用に関する問合せがあったが、個別に対応していた。本来、集客時からインターンシップ事業終了後の具体的な出口イメージと対応方法を共有すべきであった。）	1.≪事務局≫は受入企業に対してインターンシップ事業終了後の出口を事前に共有する。また、在留資格の取得に関する情報提供を行う。これらの情報は受入企業に配布するハンドブックにも記載する。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

4. 施策等の提言 / Ⅱ. 次年度以降の事業実施に向けた提言(7/10)

Fourth Valley

インターンシップ実施・運営上の課題等

マッチングからインターンシップ開始まで【対インターン】

インターンシップ事業の円滑な実施・運営のためには、マッチング成立後からインターンシップが開始するまでの間にインターンに対して適時適切なサポートを提供することが不可欠である。そのため、まずは事前研修で十分な説明を行うほか、留意事項をまとめたハンドブックを作成して事前に配布する。また、外国人材がインターンシップ受入計画書を正確に理解できるようサポートする。査証取得では、同一国でも担当官の違いで対応が異なる等、不確定要素が多くあるため、進捗状況を受入企業とインターンに逐次共有して不安を払しょくする。さらに、来日生活や日本での就労に関して、情報提供を行う。

課題	原因	解決策／提言
マッチングからインターンシップ開始までの間、事務局の対応が後手になってしまう事態が生じた。【対インターン】	• **<u>インターン向け事前研修の準備が不足していた。</u>** (日本の生活習慣・ルールに関する理解が不十分なインターンがいた。日本の生活習慣・ルールに関する理解を深めるための事前研修資料の用意が不十分であった。)	1.≪事務局≫は、より円滑な事業実施を行うため、外国人材が留意すべき点をまとめたハンドブックを作成し、配布する(ハンドブックに記載すべき留意点は、各解決策/提言に例示した)。 2.≪事務局≫は、インターンシップの実施形式(対面/オンライン、来日/在住)ごとに事前研修を開催し、それぞれの留意点を説明する。来日するインターンには事前研修で日本での生活習慣・ルールを具体的に伝える。 3.≪事務局≫は、事前研修の参加形態にかかわらず参加(視聴)確認を実施する。
	• **<u>インターンシップ受入計画書を通じたコミュニケーションが不足していた。</u>** (企業に対して日本語でのインターンシップ受入計画書作成を依頼していたため、一部の外国人材は内容を理解できなかった。また、一部の受入企業はインターンと受入計画に関する議論を十分にできていなかった。)	1.≪事務局≫は、受入企業からインターンシップ受入計画書を受領した後、事務局からインターンに対して、提出されたインターンシップ計画の概要を簡単な日本語か他言語への翻訳のうえ伝える。 2.≪事務局≫は、インターンに対して、「受入企業とインターンシップ計画について話しましたか？」といった確認をし、インターンの意向を考慮しない計画が作られないようコミュニケーションをとる。
	• **<u>査証の取得対応に時間を要した。</u>** (国毎や各国の担当官毎の対応が異なり、査証の取得に時間を要するケースがあった。)	1.≪事務局≫は、インターンの出身国/居住国ごとの査証申請フローを把握する。特に査証申請から承認まで1カ月程度時間を要する下記国々の査証申請時には注意を払う。 -ナイジェリア、ベトナム、パキスタン、ミャンマー 2.≪事務局≫は、受入企業やインターンに申請状況、想定日数や対応について共有し、受入企業・インターンの不安を払しょくするための取組を行う。
	• **<u>日本企業での就労体験や来日に準備のサポートが不足していた。</u>** 本事業参加にあたって必要な準備が不足しているように見受けられる外国人材がいた	1.≪事務局≫は、外国人材に事前研修参加が本事業参加の必須条件であることを伝え、事前研修への参加を促す。その上で、事前研修にて、日本での生活習慣やビジネスルールを説明し、来日前に再び自身で内容を確認するとともに、能動的に自ら情報収集を行うことも重要であることを伝え、能動的な参加姿勢を醸成する。本事業参加の際の条件や、日本生活の留意点、役立つ情報源等はハンドブックにも記載して周知する。 2.≪事務局≫は、外国人材に対して本事業では給与が支給されないことを繰り返し伝え、本事業で支給される手当の金額を確認したうえで、生活に必要な資金を持参するよう依頼する。外国人材に配布するハンドブックにも記載して周知する。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

4. 施策等の提言 / Ⅱ. 次年度以降の事業実施に向けた提言（8/10）

Fourth Valley

インターンシップ実施・運営上の課題等

インターンシップ実施中

インターンシップ事業の円滑な実施・運営のためには、インターンシップ実施期間中に適時適切なサポートを提供することも不可欠である。まず、インターンシップ実施中に想定されるトラブルや必要となる情報は、ハンドブックにまとめて受入企業と外国人材に事前に配布する。また、インターンが作成する日報やインターンとの中間フォロー面談を有効活用し、実施中に受入企業、インターン、及び事務局の3者が遅延なくコミュニケーションをとれるように工夫する。

課題	原因	解決策／提言
インターンシップ実施中に事務局の対応が後手になってしまう事態が生じた。	• **トラブルを想定した事前準備が不足していた。** （受入企業への事務連絡のみで、留意事項やトラブル対応といった事例が共有されていなかった等包括的なサポートが全く出来ていなかった。）	1.≪事務局≫は、より円滑な事業実施を行うため、企業、外国人材が留意すべき点やトラブル・事例を一括でとりまとめ、ハンドブック形式で事前に配布する。（本事業で発生した課題と事務局に必要とされる対応、及び受入企業と外国人材向けハンドブックに記載すべき事項はp.74のとおり）
	• **一部の受入企業では日報での進捗状況把握が十分にできなかった。** （社内セキュリティ等の理由でGoogleスプレッドシート上の日報を閲覧できない企業がいた。）	1.≪事務局≫は、企業の個別の事情に応じた手段で日報を共有する。 2.≪事務局≫は、日報に受入企業担当者の確認欄を設ける等して、受入企業が日報を確認しているか否か、事務局で把握できるようにする。
	• **中間フォローを早めに実施した方が良いケースがあった。** （インターンシップ期間の中頃に実施したフォロー面談では、事務局による問題把握と初動が遅れてしまう場合があった。）	1.≪事務局≫は、インターンシップ期間の中間では初動が遅れる可能性があるため、例えばインターンシップ開始後1週間の時点で中間フォローを実施する。また、問題が確認されたケースは、再度フォロー面談を実施する。
	• **貸与Wi-Fiの利用方法と利用制限に関する周知が不足していた。** （事務局が用意したWi-Fiの通信容量を私用で使い切ってしまうインターンがいた。）	1.≪事務局≫は、貸与Wi-Fiが無制限でないことを強調して、どのように使用済容量を確認できるか事前資料に含める等して情報共有する。
	• **成果発表会に関する周知が不足していた。** （成果発表会に関する情報が受入企業の社内関係者に共有されていないなど、一部の企業・インターンが成果発表会の目的や内容を十分に認識していなかった。）	1.≪事務局≫は、企業と外国人材双方への事前研修での説明に加え、企業に対して成果発表会の日程希望調査を行う際に成果発表会の目的や実施内容を再度伝えるとともに、社内周知を依頼する。これにより、外国人材が必要な社内関係者と共に成果発表会に向け準備ができるよう促す。外国人材には、中間フォロー面談の際に、改めて成果発表会について説明するとともに、外国人材に配布するハンドブックに成果報告書の目的や準備方法等の留意事項を記載して周知する。

このような解決策を実施するためには、事務局に以下の体制を構築することが望ましい。
- 今年度事業では、インターンシップ期間中事務局担当者1名あたりの担当企業数が2社～最大10社程度であったが、受入企業とインターンに対して迅速かつ適切なサポートを行うべく、次年度以降は最大5社程度までとする。
- 今年度と同様に、特に外国人材の来日時のトラブル（フライトキャンセル、宿泊先へのチェックインなど）に対応するため、インターンシップ期間中は土日祝日も9:00-18:00の時間帯の問合せに対応可能な人員を1名以上配置する。特に深夜帯の到着便がある場合は、夜間帯にも対応者を設置する。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

インターンシップ実施・運営上の課題等
受入企業・外国人材の課題を踏まえた事務局の対応

インターンシップ期間中の円滑な実施・運営のため、事務局は、受入企業と外国人材が留意すべき点をハンドブックにまとめ事前に配布することで、実施期間中のトラブル事例や注意事項の周知を図るべきである。

本事業で発生した課題と事務局に必要とされる対応と受入企業・外国人材向けハンドブックに記載すべき事項

段階	本事業で発生した課題と事務局に必要とされる対応	受入企業と外国人材向けハンドブックに記載すべき事項
インターンシップ事業の実施中	【課題:受入企業が策定するインターンシップ実施計画が外国人材の希望や能力にそぐわない実施計画となっていたことがあった】 • ≪事務局≫は、受入企業に対して外国人材の能力に関する情報提供を行い、受入企業が現実的な活動内容や目標設定を行えるよう促す。	【受入企業向け】 • インターンシップ受入計画策定に係る留意事項 • 外国人材市場の概要
	【課題:受入企業の中にはインターン受入体制が十分に整っていない企業があった】 • ≪事務局≫は、受入企業が外国人材を受け入れるにあたり、異文化や外国人材への理解が深いメンターや実地指導者を配置する等して受入体制を整備するように伝える。	【受入企業向け】 • メンター設置時の留意事項
	【課題:オンラインでは効果的なインターンシップが実施されなかった可能性がある】 • ≪事務局≫は、受入企業にオンラインインターンシップの好事例を共有し、オンラインインターンシップの充実化につながる受入計画書の策定や日々の取組を行うよう促す。 • ≪事務局≫は、オンラインで外国人材を受け入れる企業に対して、適切なツールを用いて外国人材とコミュニケーションを取れるような環境を整備するよう促す。	【受入企業向け】 • オンラインインターンシップの好事例 • オンラインインターンシップで活用すべきツールの紹介
	【課題:成果発表会に関する情報が受入企業の社内で十分に共有されていないケースがあった】 • ≪事務局≫は、事前研修等で成果発表会に関する情報を受入企業に共有するとともに、社内関係者に周知するよう依頼し、必要な社内関係者とインターンが協力して成果発表会に向けた準備を行うように促す。	【受入企業向け】 • 成果報告会の目的、準備方法、及び留意事項
	【課題:本事業参加にあたって必要な準備が不足しているように見受けられる外国人材がいた】 • ≪事務局≫は、外国人材に対して事前研修への参加が本事業への参加必須条件であることを伝えて事前研修への参加を促す。その上で、事前研修においては日本での生活習慣やビジネスルールを説明し、来日前に再び自身で内容を確認するとともに、能動的に自ら情報収集を行うことも重要であることを伝え、能動的な参加姿勢を醸成する。 • ≪事務局≫は、外国人材に対して本事業では給与が支給されないことを繰り返し伝え、本事業で支給される手当の金額を確認したうえで、生活に必要な資金を持参するよう依頼する。	【外国人材向け】 • 本事業に参加する際の必須条件 • 日本での生活習慣・ルール • 日本での生活に関する情報収集の方法 • 本事業で成果を得るために重要な外国人材の参加姿勢
	【課題:一部の外国人材は成果発表会への準備・参加の必要性を理解していなかった】 • ≪事務局≫は、事前研修や中間フォロー面談の際に外国人材に対して成果発表会の準備・参加の必要性を繰り返し伝える。また、質問事項があれば事務局に問い合わせるように促す。	【外国人材向け】 • 成果報告会への参加が必須条件であること • 質問・相談窓口の連絡先

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

4. 施策等の提言 /Ⅱ. 次年度以降の事業実施に向けた提言(10/10)

Fourth Valley

インターンシップ実施・運営上の課題等

オンライン インターンシップ

オンラインインターンシップによって得られる成果を最大化するため、事務局は受入企業に対して事前研修などを通して好事例集を含めた適切な情報提供を行うとともに、インターンと受入企業双方に対してインターンシップ実施期間中も手厚いサポートを行うべきである。

課題	原因	解決策／提言
対面形式に比べて、オンラインインターンシップの場合は成果の達成に繋がりにくい。	• **<u>インターンシップ実施形式別に事前研修を実施しなかった。</u>** (全参加企業・インターンを対象とする事前研修では、実施形式(対面かオンラインか、来日人材か日本在住の人材か)に特化した具体的な研修が実施できなかった。)	1.≪事務局≫は、インターンシップの実施形式(対面/オンライン、来日/在住)ごとに事前研修を開催し、それぞれの留意点を解説する。特に、オンラインインターンシップは、成果の達成度合い、コミュニケーションの頻度・深さ、活動内容の難易度等に課題があるため、オンライン受入の際に企業と外国人材が各々留意すべき点と回避策に重点を置いて説明する。
	• **<u>学業や就職活動と並行してオンラインインターンシップに参加するインターンがインターンシップに専念できるような対応ができていなかった。</u>** (オンラインでのインターンシップと並行して就職活動を行うなど、一部の外国人材はインターンシップに専念できていなかった可能性がある。)	1.≪事務局≫は、受入企業と協議のうえ、インターンシップの実施時期を前半と後半に分けたり、週当たりの日数を柔軟に設定するなど、外国人材がインターンシップ活動に専念できるよう調整を行う。 2.≪事務局≫は、オンラインで参加するインターンの出席確認をより厳密に行う。
	• **<u>オンラインインターンシップのノウハウと準備についての情報提供が不足していた。</u>** (リモートワークの導入が進んでいない参加企業は、オンラインでの指導経験が不足しており、苦戦していた。また、対面形式に比べ、オンラインインターンシップは低コストで実施できるメリットがある一方、担当者以外の部署や全社での意識改革等の成果に繋がりにくい可能性がある。)	1.≪事務局≫は、オンラインインターンシップの好事例(例:他部署との交流、オンラインで実施できる業務内容等)やオンラインインターンシップで活用できるツール等を受入企業に紹介し、実際に受入計画に組み込んでもらうことで、オンラインインターンシップの充実化を図る。 2.≪事務局≫は、オンラインで外国人材を受け入れる企業に対して、適切なツールを用いて外国人材とコミュニケーションを取れるような環境を整備するよう促す。
	• **<u>外国人材が日本での就労に抱く不安を解消できるような機会の設置や情報提供ができなかった。</u>** (特にオンラインの場合、インターンシップ期間では外国人材が抱く言語や労働文化の違いに対する不安を払しょくできなかった可能性がある)	1.≪事務局≫は、過去に本事業に参加後に日本企業で就業している先輩人材などと当該年度にインターンとして参加する外国人材との座談会を開催し、外国人材が日本就業に抱く不安や疑問を解消する機会を設ける。
	• **<u>企業のオンラインインターンシップ計画を定期的に見直していなかった。</u>** (多くの企業が「オンラインインターンシップは互いに都度相談し柔軟に対応する業務に向かない」と捉えており、柔軟な計画変更などの対応ができていなかった)	1.≪事務局≫は、インターンとの中間フォローアップ面談に加え、オンラインインターンシップを実施する受入企業とも個別の中間フォローアップ面談を行い、インターンシップの実施状況を確認する。その上で、受入期間の途中で計画変更を行った方が望ましいと判断される場合は、インターンと受入企業双方での協議をサポートし、柔軟な計画の変更や調整を促す。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

【別添資料】

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.
Confidential

別添資料として、別途PDFデータにて下記資料を同封する

- 海外大学等のコンタクトリスト
- 各種研修・報告会説明資料
- 成果事例集

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

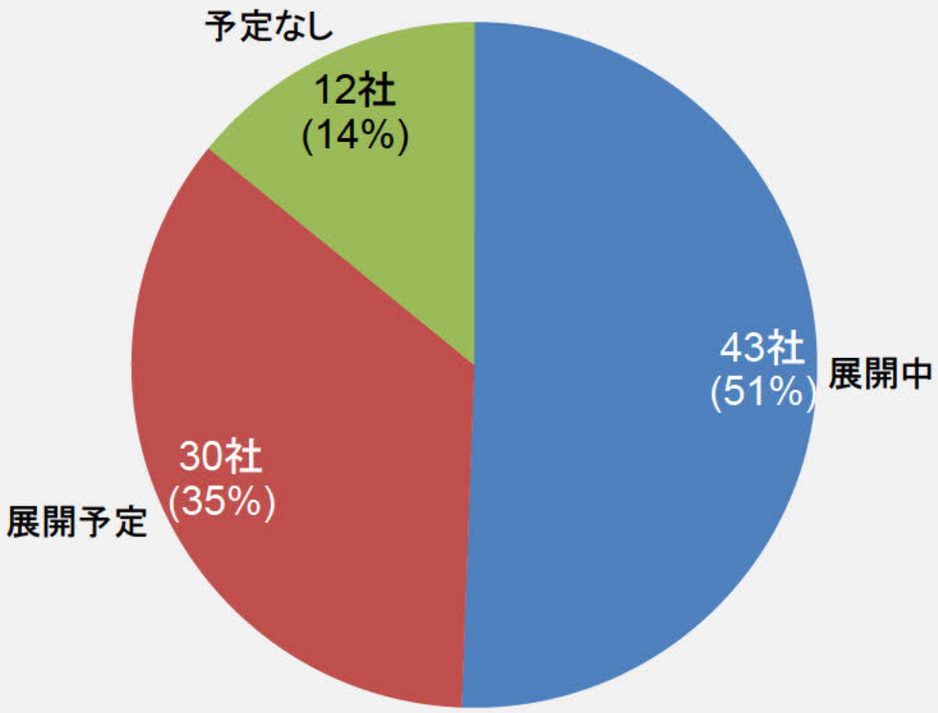
本事業の満足度や次年度以降に向けた改善点を把握するため、参加した全企業を対象にアンケート調査を実施した。夏季、冬季ともに、アンケート調査はオンラインアンケートの形式で実施し、1か月程度の回答期間を設けて回答を依頼した。アンケート調査の結果の詳細を次ページ以降に示す。

目 的	• インターンシップの成功要因と課題を明確化するための評価分析、及び事業改善のための提言に向けた情報収集を行う • 次年度以降の事業に活かせる教訓を得る • 次年度以降維持すべきこと及び改善すべきことを明らかにする • コロナ禍における対面・オンラインインターンシップの効果を測る
調査方針	アンケートでは本事業の実施状況について確認するとともに、本事業を通して達成すべき以下の3つの目標に対する達成状況を確認した ① 外国人学生等の対面・オンラインインターンシップを通じて日本の中堅・中小企業での外国人材の採用・活用が促進される ② インターンシップを通じて得られた知見や情報収集を活用し、DXの促進等によって日本の中堅・中小企業の海外展開が促進される ③ 外国人材を輩出する海外大学等と協力関係を構築する等、高度外国人材を採用・活用しやすいような社内体制・ネットワークが構築される
調査方法	• Google Formを用いてオンラインアンケート作成し、調査対象者にアンケート回答リンクをメールで共有した
調査期間	• 夏季：2022年10月　1日～2022年11月　8日 • 冬季：2022年12月26日～2023年　1月31日
調査対象・回答者数	• 受入企業（全101社、うち91社　回答）
留意点	• 夏季・冬季どちらも受け入れた企業からの企業情報に関する設問への回答は、夏季の回答を集計・分析対象とした • 2名のインターンを受け入れた企業で、それぞれの担当者が各自アンケートに回答した企業が1社あった。この企業の企業情報に関する設問への回答は、先着の回答を集計・分析対象とした • 企業情報に関する設問以外の設問は、すべての回答を対象として集計・分析した • なお、企業情報に関する設問は、次の設問である 自社の海外展開状況、自社のインバウンドビジネス展開状況、これまでに外国人材を採用した実績があるか、外国人採用実績がある場合は採用した外国人材の雇用形態は何か、現在外国人従業員が何名就労しているか、本事業参加以前にインターンの受入実績はあるか、過去のインターン受入目的は何か、本事業が半額補助事業となった場合は、半額負担をしてでも当該事業を行いたいか

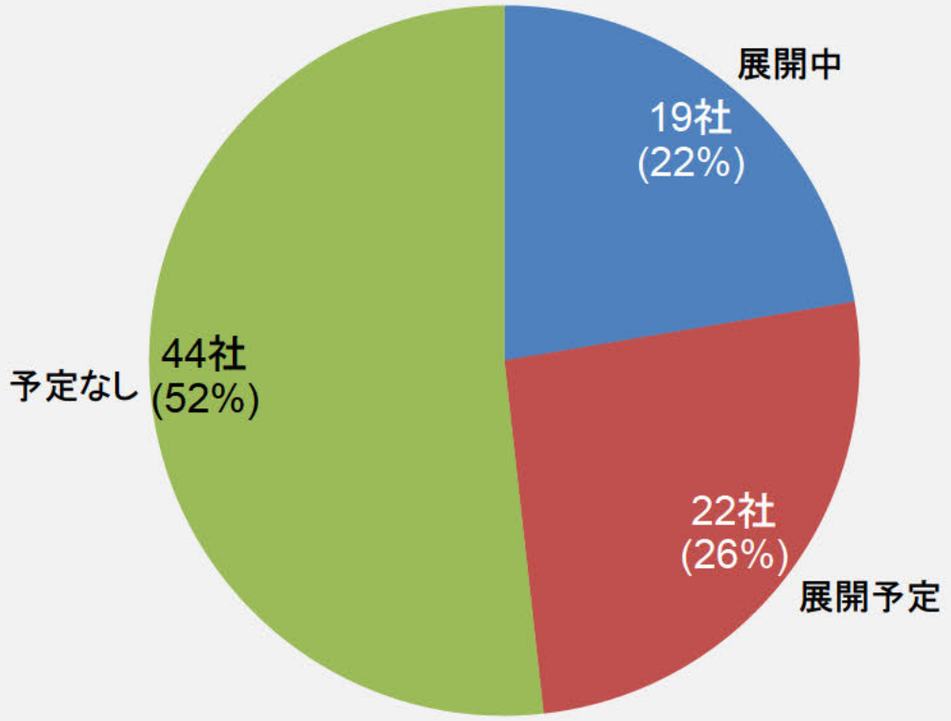
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

企業側へのQ1～Q3では、回答者の指名、メールアドレス、所属企業の回答を得た。Q4で各企業の海外展開状況を調査したところ、対象85社のうち、51%にあたる43社がすでに海外展開を行っており、35%にあたる30社は今後展開予定との回答があった。Q5では、インバウンドビジネスの展開状況を調査したところ、「展開中」又は「展開予定」と回答した企業は全体の47%にあたる41社であった。

Q4. 海外展開状況を教えてください。
（単数選択）（n=85）



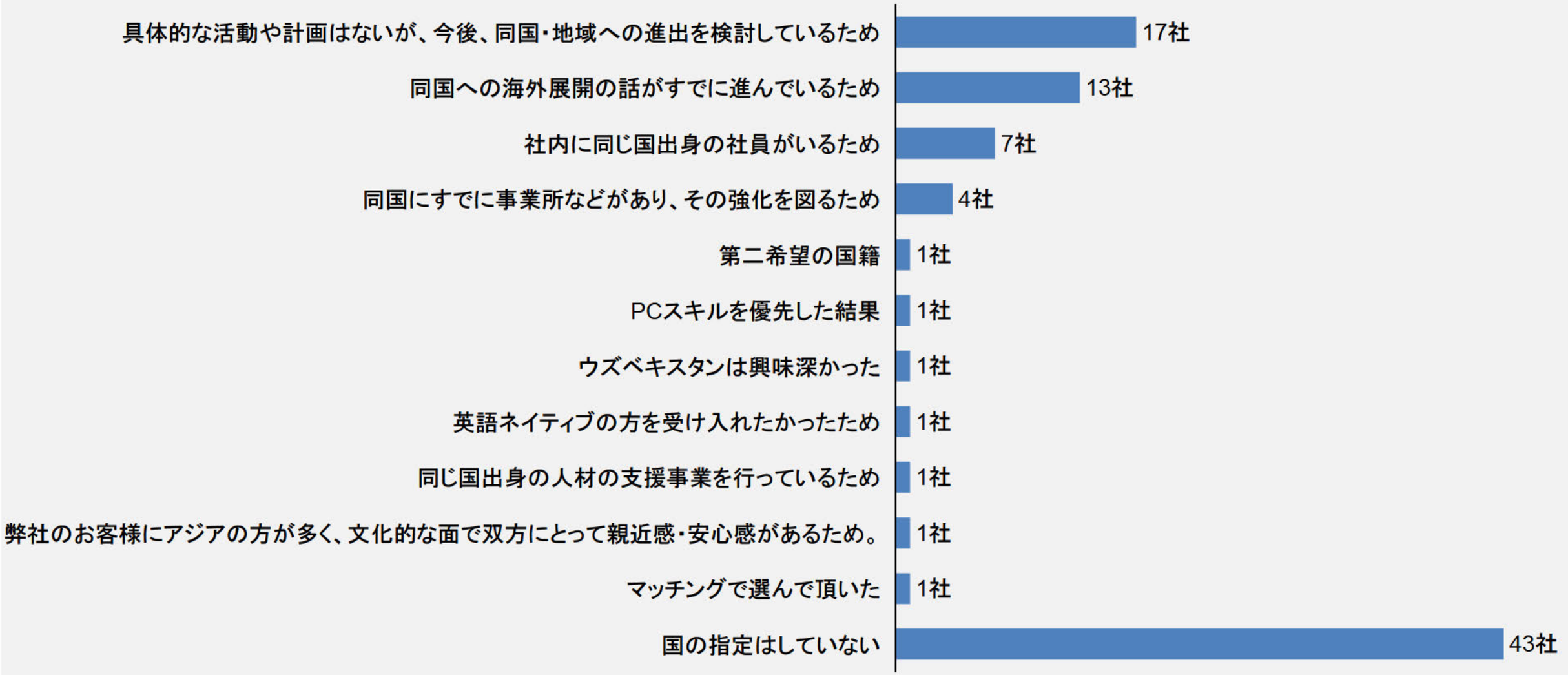
Q5.インバウンドビジネス展開状況を教えてください。（単数選択）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q6では、特定の国出身のインターンを選んだ理由を調査したところ、「今後、同国・地域への進出を検討しているため」との回答が回答企業91社の19%にあたる17社、「同国への海外展開の話が既に進んでいるため」との回答が全体の14%にあたる13社からあった。なお、全91社中43社は、本事業への参加申込に際して、インターンの国籍や出身国の指定は行っていなかった。

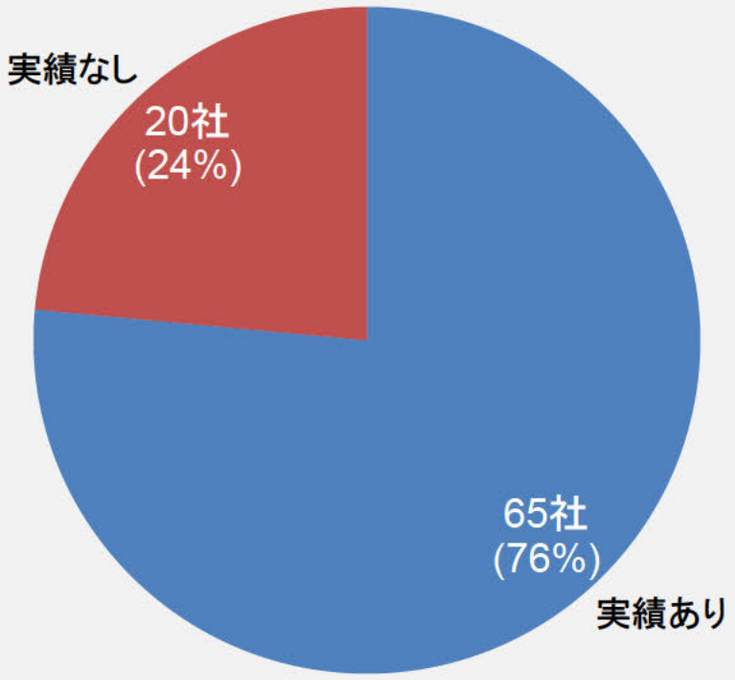
Q6. 今回インターンを受け入れるにあたり、その国出身のインターンを選んだ理由として最も当てはまるものを選択してください。（単数選択）（n=91）



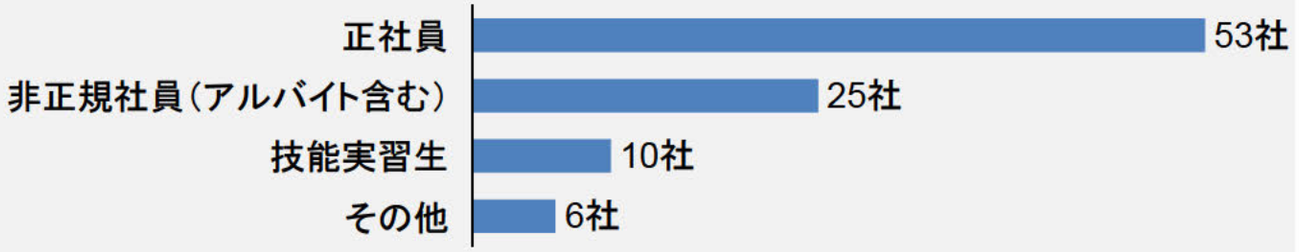
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q7～Q9では、各企業のこれまでの外国人材採用実績について調査した。対象85社のうち65社が既に外国人材を採用した実績があり、53社は正社員としての採用を行っていたほか、25社はアルバイトも含む非正規社員としての雇用実績があり、10社では技能実習生の受入経験があった。また、現在も外国人材が就労している企業は57社で、うち45社が10名以下、6社が11～20名、3社が21～30名を雇用している。100名以上雇用している企業も1社あった。

Q7.外国人材を採用した実績がありますか？
（単数選択）（n=85）

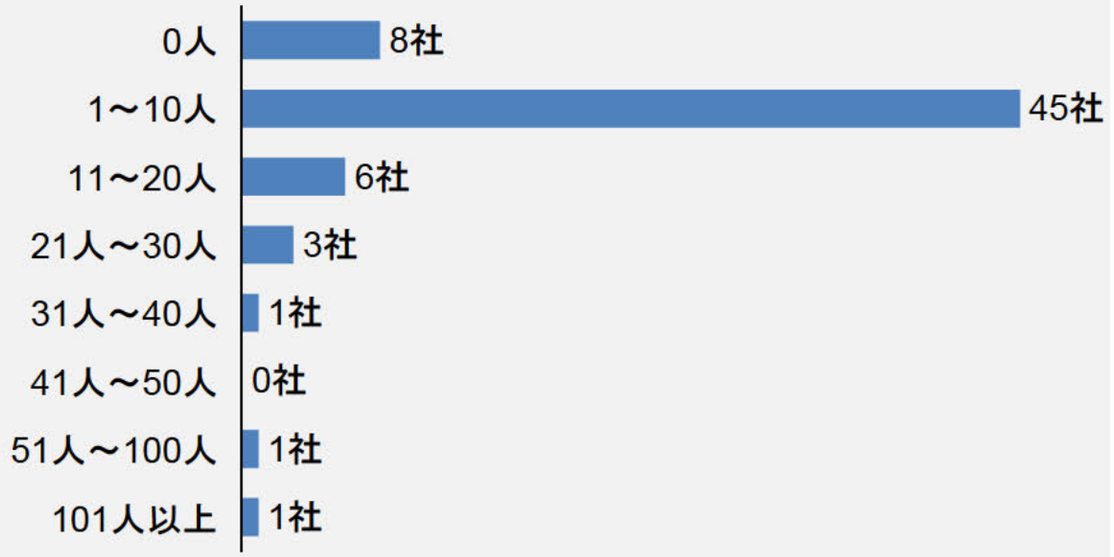


Q8. 採用された外国人材の雇用形態を教えてください。
（複数選択）（n=85）



その他内訳（n=6）
特定技能（2社）、ビザの関係のため1年ごとの有期契約（1社）、業務委託（1社）、契約社員（1社）、特定技能介護（1社）

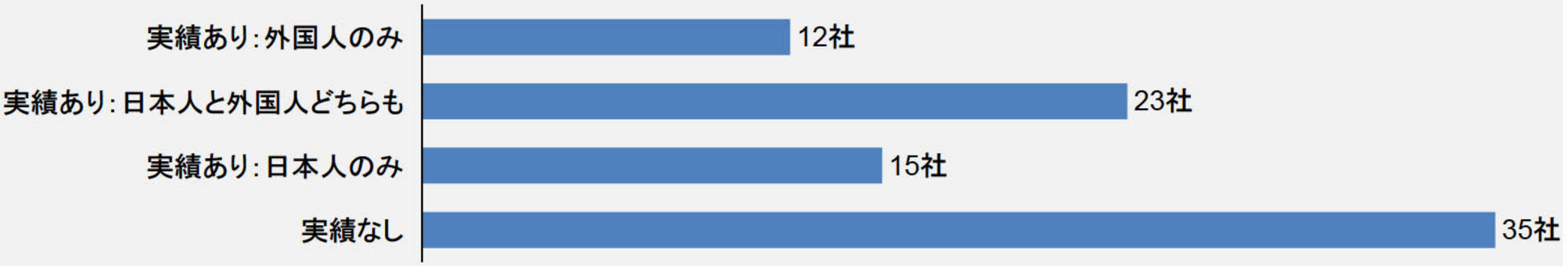
Q9.現在、貴社には外国人従業員が何名就労していますか？（自由記述）（n=85）



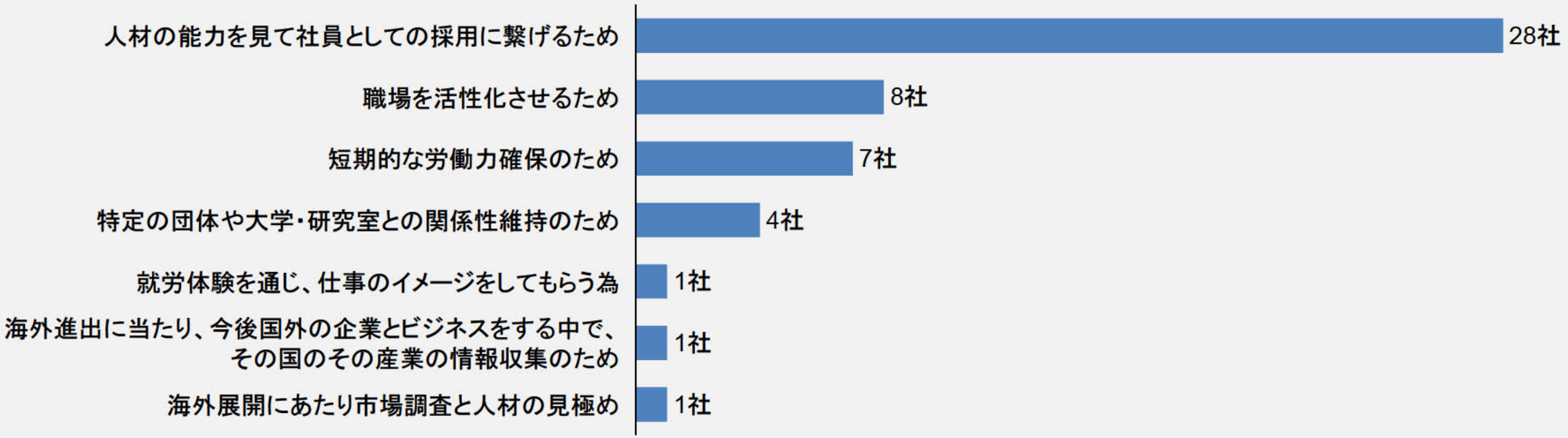
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q10と11では、各企業のこれまでのインターン受入実績を調査した。対象85社のうち、50社がインターンの受入実績があり、うち12社は外国人インターンのみ、23社は日本人と外国人のインターン双方、15社は日本人インターンのみの受入を過去に行っていた。また、過去にインターン受入実績のある50社のうち28社は、将来的な社員としての採用に繋げるために人材の能力を見ることを目的に受け入れたと回答したほか、「職場を活性化させるため」との回答が8社からあった。

Q10.本事業に参加する以前にインターンの受け入れ実績はありましたか？（単数選択）（n=85）



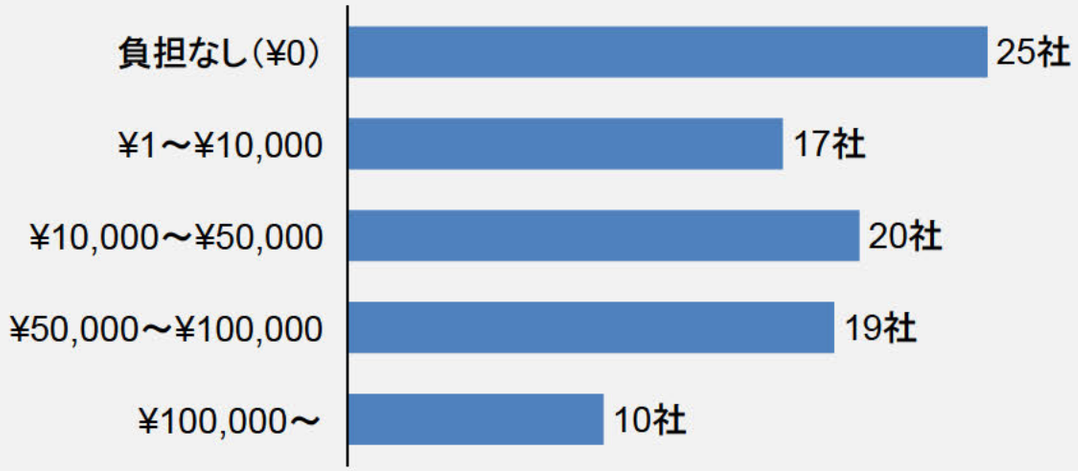
Q11.過去のインターン受入の目的を教えてください。（単数選択）（n=50）



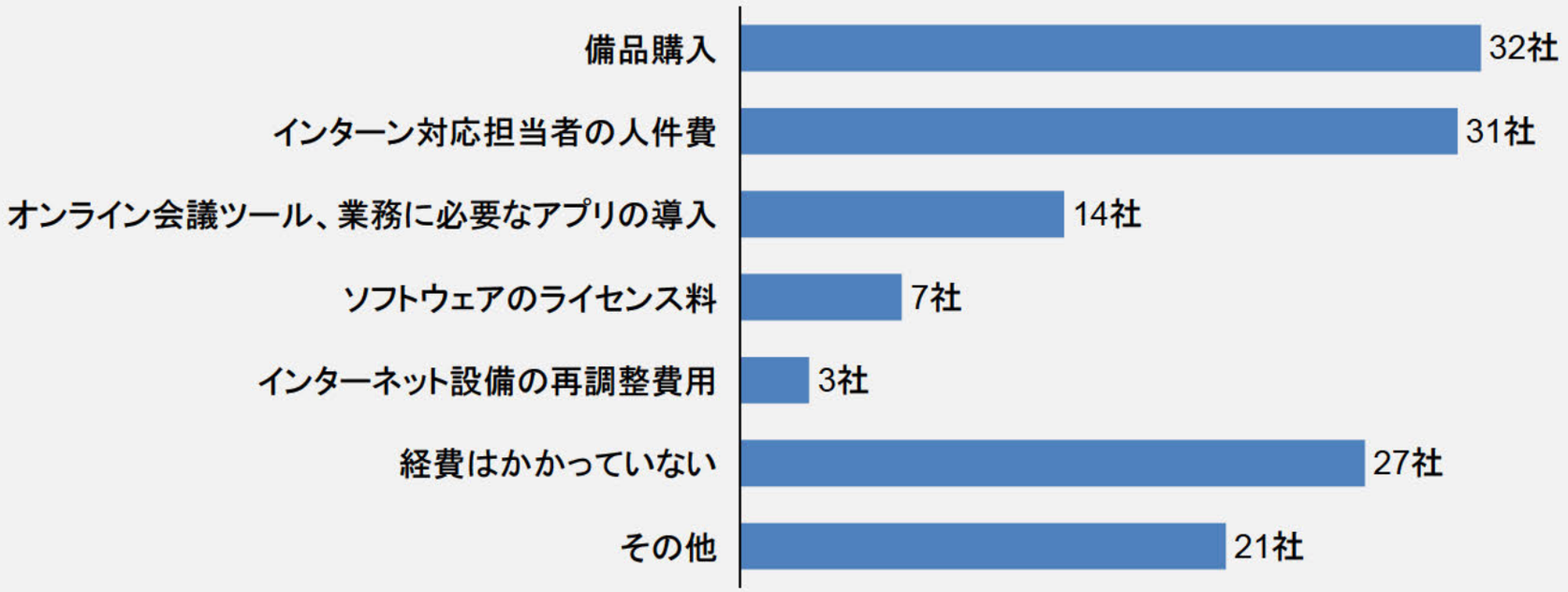
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q12と13では、インターン受入にあたって企業が要した経費について調査した。回答企業91社のうち、66社には自社負担が発生しており、そのうち負担額は1万円～5万円と回答した企業は17社、5万円～10万円と回答した企業は各20社であった。また、10万円以上の経費がかかったと回答した企業も10社あった。経費詳細としては、「備品購入」や「インターン対応担当者の人件費」といった回答が比較的多かった。なお、10万円以上の経費を要したと回答した企業10社の内訳は、備品購入やインターン対応担当者の人件費など様々な部分に経費が掛かった企業が4社、備品購入が3社、人件費が3社であった。

Q12.インターン受け入れにかかった経費はおよそいくらですか？（単数選択）



Q13.経費の詳細を教えてください。（複数選択）



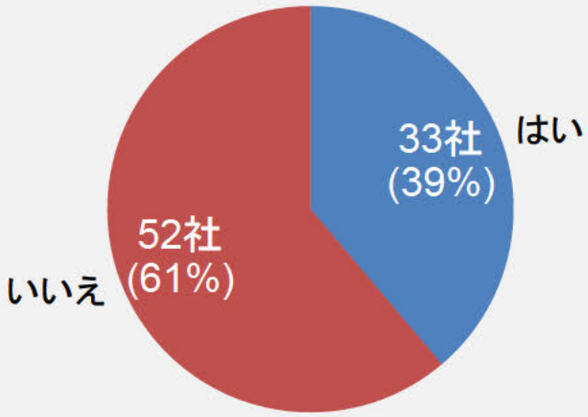
その他回答（1社につき複数の費用項目を挙げた回答もあり）（n=21）

- 交通費（送迎含む）（9社）
- 宗教対応備品等購入費（3社）
- 食費（3社）
- 交際費（歓迎会など）（3社）
- 通信（SIMカード）・配送費（2社）
- 出張費（2社）
- 企業手配宿泊先費用（2社）
- 宿泊費（1社）
- 観光案内費用（1社）
- 人材紹介企業費用（1社）
- 生活費（1社）

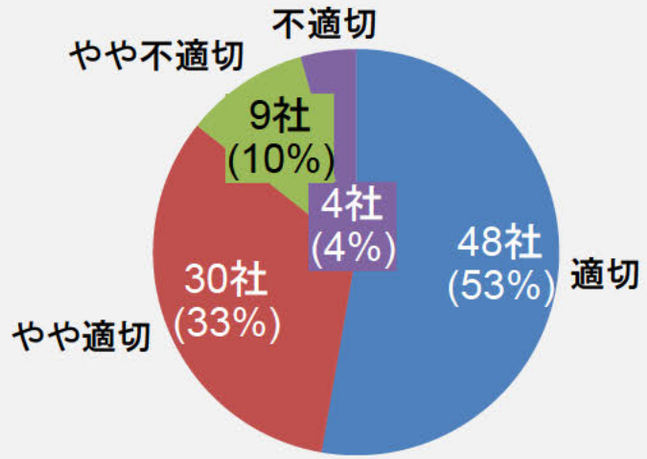
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q14では、本事業が半額補助事業となったと仮定し、半額負担をしても本事業に参加したいかを尋ねたところ、対象85社のうち35社からは参加希望の回答があった。また、支給した人材育成支援費（2,100円×勤務日数）についてQ15で調査したところ、回答企業全体91社の86％にあたる78社が「適切」又は「やや適切」と回答し、残り13社は「やや不適切」又は「不適切」と回答した。さらにQ16で人材育成支援費が不十分と考えた理由を尋ねたところ、特に対応社員の時間や労力を理由とした回答が多かった。

Q14.本事業が半額補助事業となった場合は半額負担をしてでも当該事業を行いたいですか？（単数選択）（n=85）



Q15.人材育成支援費は適切でしたか？（単数選択）（n=91）



Q.16 人材育成支援費が不十分だと考えられた理由をご記入ください。（n=13）

【社内人件費に関連する理由】
- インターン生が初めて来日する場合は、全く日本のことがわからないので、全てサポートする必要がある。日常の買い物や滞在場所の使い方のルールなどを教えるためにアパートに複数回行くなど、社内の人件費等の経費がかさんだ
- こちらでかかる人件費の方が圧倒的に高い
- 企業も受入コスト、労力コスト、光熱費コストを払っており、支援費を2倍にすることも検討して欲しい。結果、日本の為に成ると思う
- 指導員の時間的コストと比較すると支援費は安い
- 準備にかかる労力がかなり必要、かつ、依頼できる業務が限られている。当初の当社の想定と異なった
- 対応社員の時間と労力がかかるため、人件費に換算した時の負担が大きい

【受入期間や1日あたり活動時間に関連する理由】
- 1日当たりではなく、期間や活動内容も考慮しなければ業務内容が限られてしまう
- 1日8時間の対応を行ったが支援費が変わらなかった

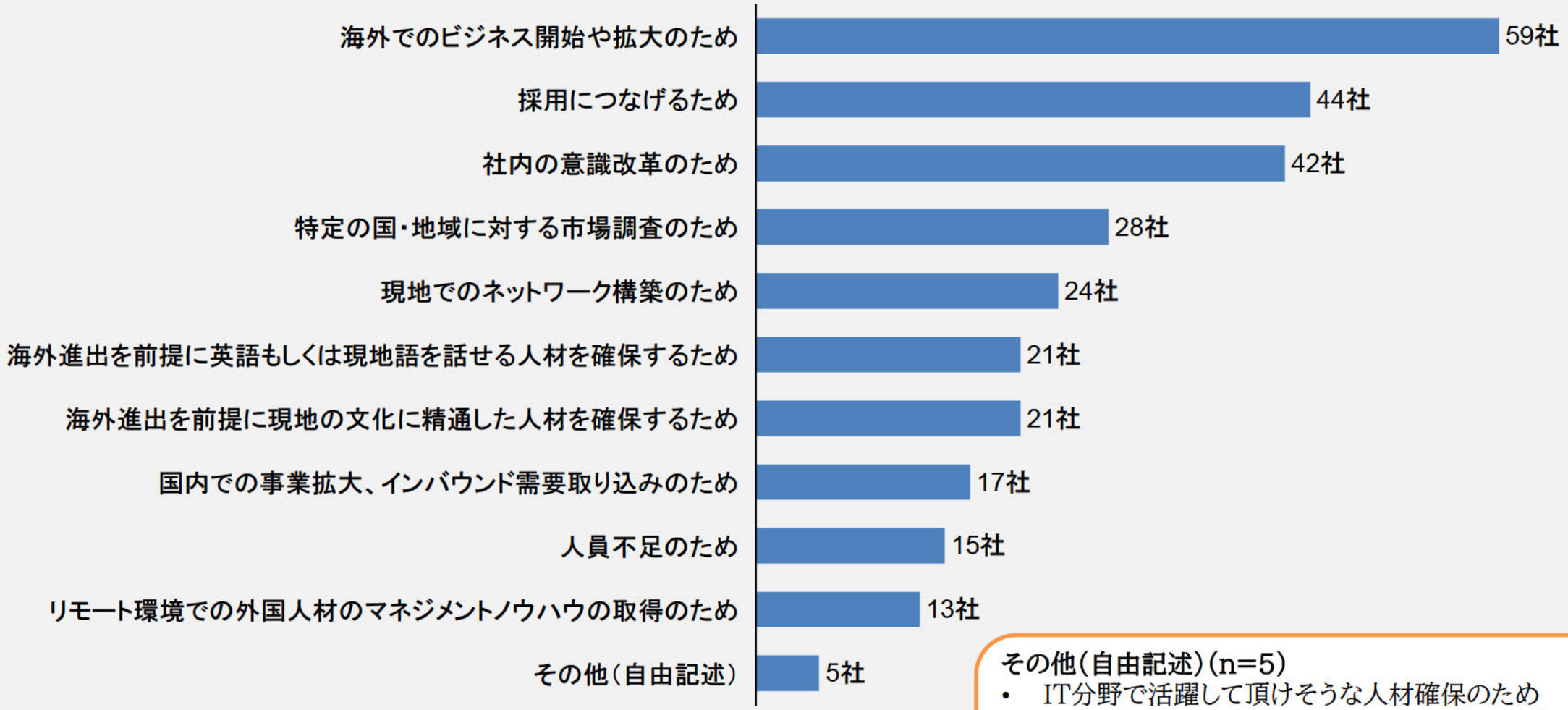
【インターンへの滞在費に関連する理由】
- 企業への支援費よりも外国から来るインターンの生活待遇をもう少し見直すべき
- インターンが本事業で受け取る滞在費が少額と聞き、職員が自己負担でインターン生の食費を負担していた

【その他】
- 企業の持ち出しが大きい
- 出張費を本事業の予算で負担してもらえるのかが明確でなかった
- 希望にすべて合致する人材であれば適切な金額とも思うが、そうでない場合は不適切

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q17では、各企業の本事業参加目的を複数回答で調査した。最多回答は「海外でのビジネス開始や拡大のため」で、全91社のうち59社から回答があった。次いで、「採用につなげるため」が44社、「社内の意識改革のため」が42社と続いた。さらに、「特定の国・地域に対する市場調査のため」、「現地でのネットワーク構築のため」、「海外進出を前提に英語又は現地語を話せる人材確保のため」、及び「海外進出を前提に現地の文化に精通した人材確保のため」といった特定の海外市場を念頭に置いて参加した企業もそれぞれ20社以上あり、海外進出を見越して外国人材に期待を寄せている企業が一定数いた。

Q17.本事業に参加した目的は何ですか（複数選択）（n=91）

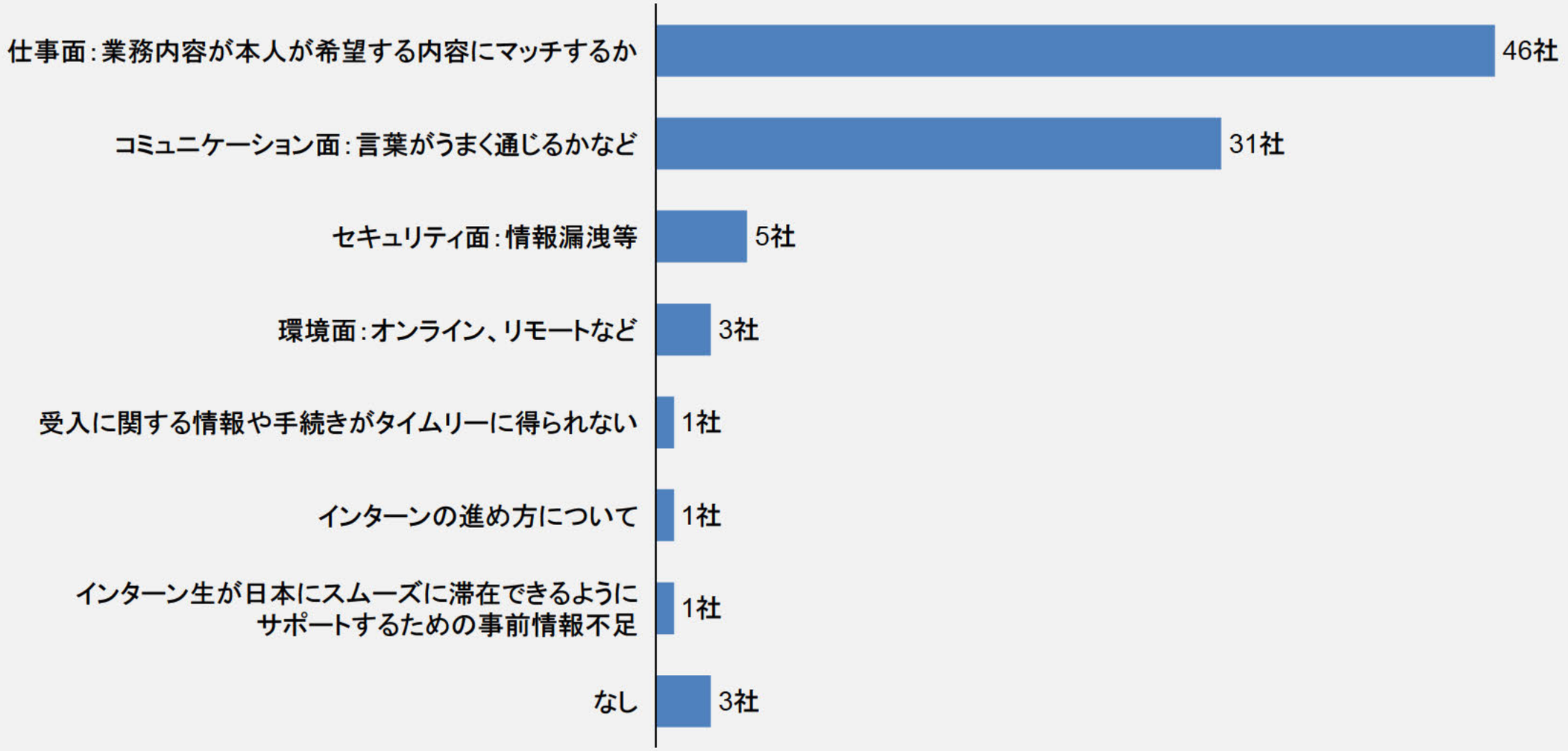


その他（自由記述）（n=5）
- IT分野で活躍して頂けそうな人材確保のため
- インバウンドのお客様に対応できる語学力の確保
- 異なる知見を持った方からアイデアを得るため
- 弊社クライアントに関連した事業を展開できると見込んだため
- 事務局からの紹介

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q18では、企業側が受入前に感じていた不安や課題について調査した。全91社のうち46社が、仕事面で「業務内容がインターン本人が希望する内容にマッチするか」という点を不安に感じていたと回答した。次いで、「言葉がうまく通じるか」など、コミュニケーション面での不安を抱いていた企業も31社おり、実際にインターンシップを開始してみないと分からないよう様な点に不安を感じていたことが分かった。一方、事務局からの情報共有がタイムリーでなかったり、不足していたことが不安を招いたとの回答もあり、改善が必要である。

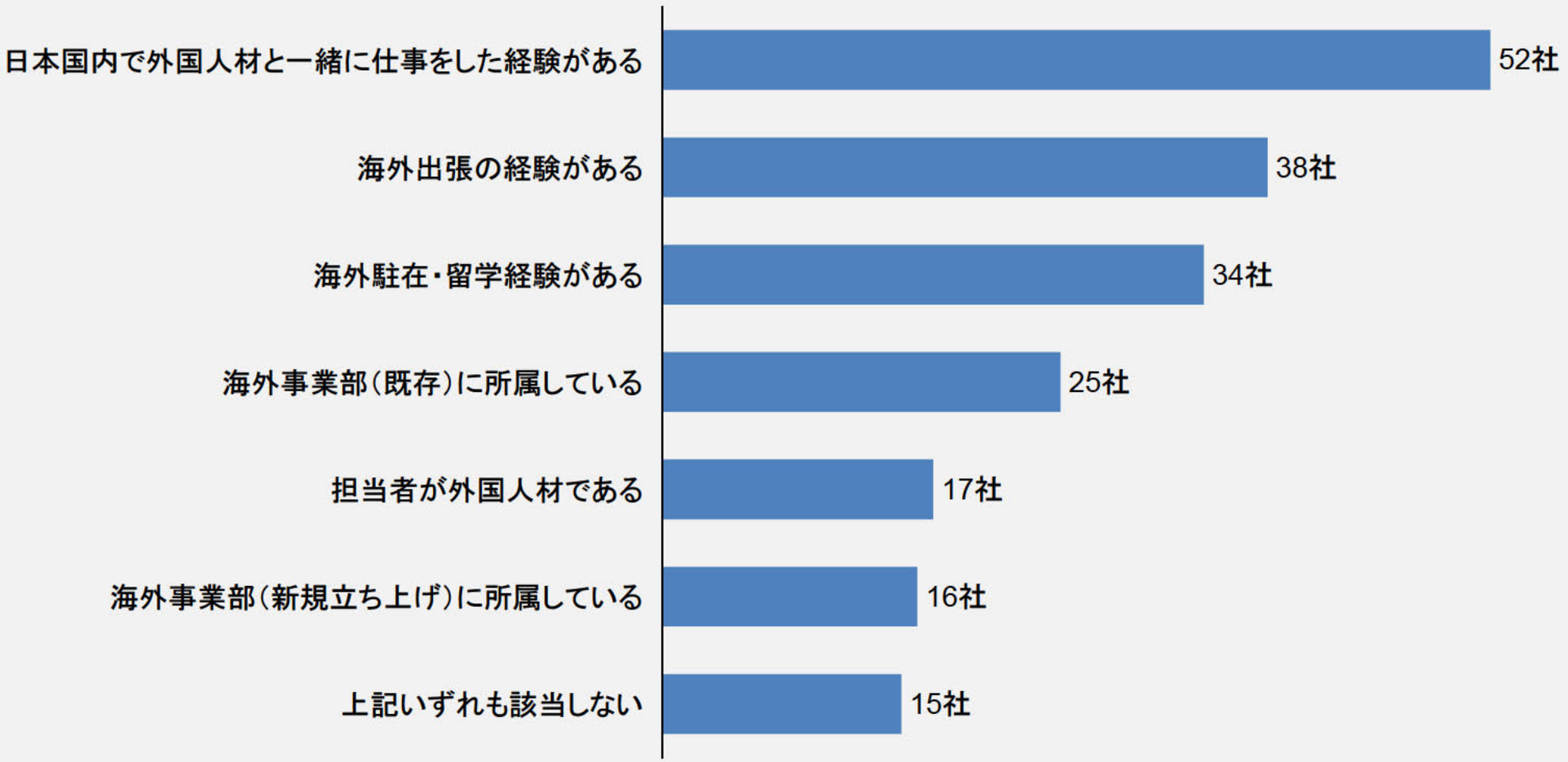
Q18.インターン受入前の主な不安・課題にはどのようなものがありましたか？（単数選択）（n=91）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q19では、インターン受入担当者の経験や属性について尋ねた。これまでに日本で外国人材と一緒に仕事をしたことがある社員が受入担当となった企業は91社中52社で最多であった。また、海外出張や海外駐在・留学経験があると回答した企業も、それぞれ38社と34社と比較的多かった。さらに、受入担当者自身も外国人材であった企業は17社あった。他方、外国に関連する経験がない社員が受け入れを担当したと回答した企業は15社であった。

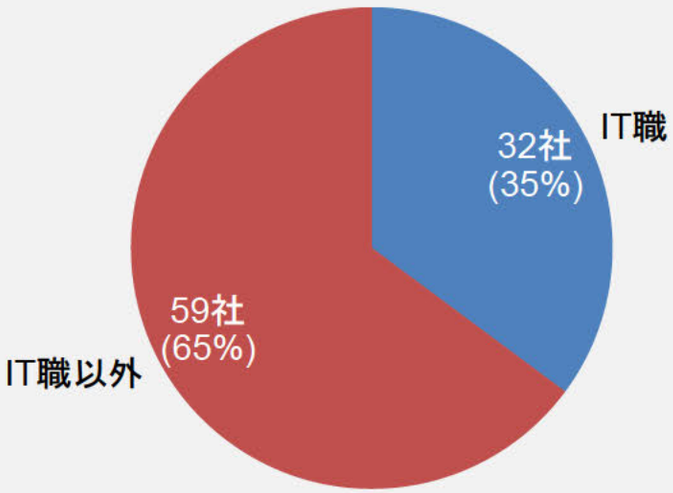
Q19.主にインターンの受入れ担当を行っていただいた方の経験・属性について教えてください。（複数選択）（n＝91）



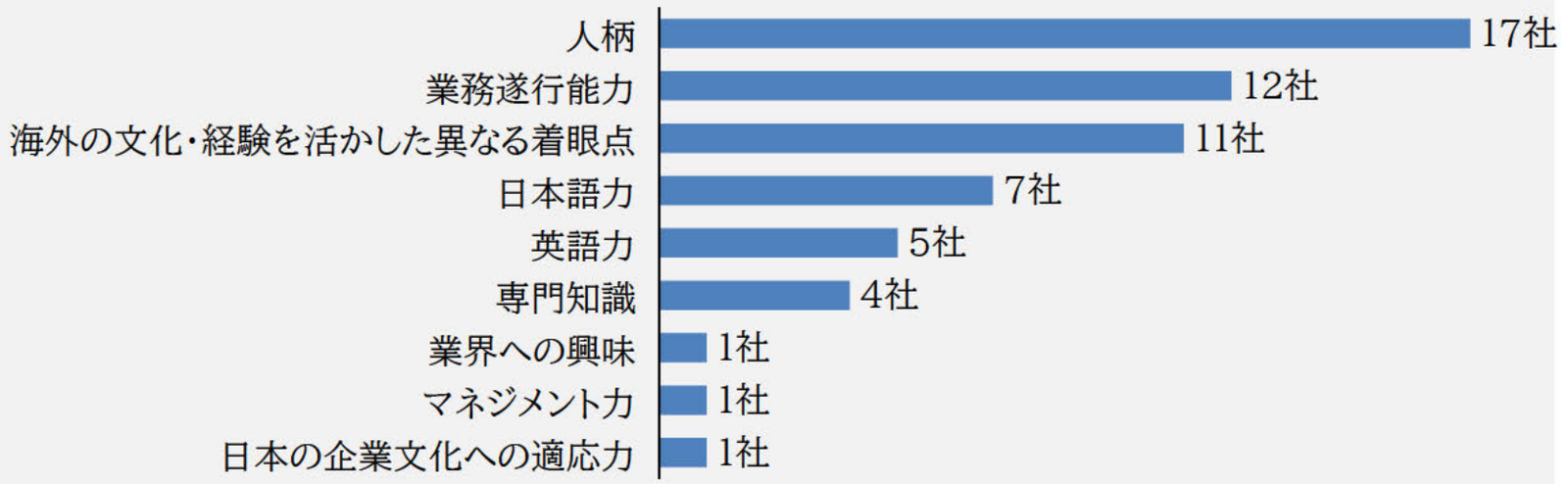
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q20では、各企業が受け入れたインターンがIT職であるか否かを尋ねた。その上で、IT職以外のインターンを受け入れた企業59社の間で最も重要視されていた能力は「人柄」（17社）であった。他方、IT職インターンを受け入れた企業32社の間で最も重要視されていた能力は「業務遂行能力」（8社）であり、英語や現地語の能力はあまり求められていない傾向にあった。

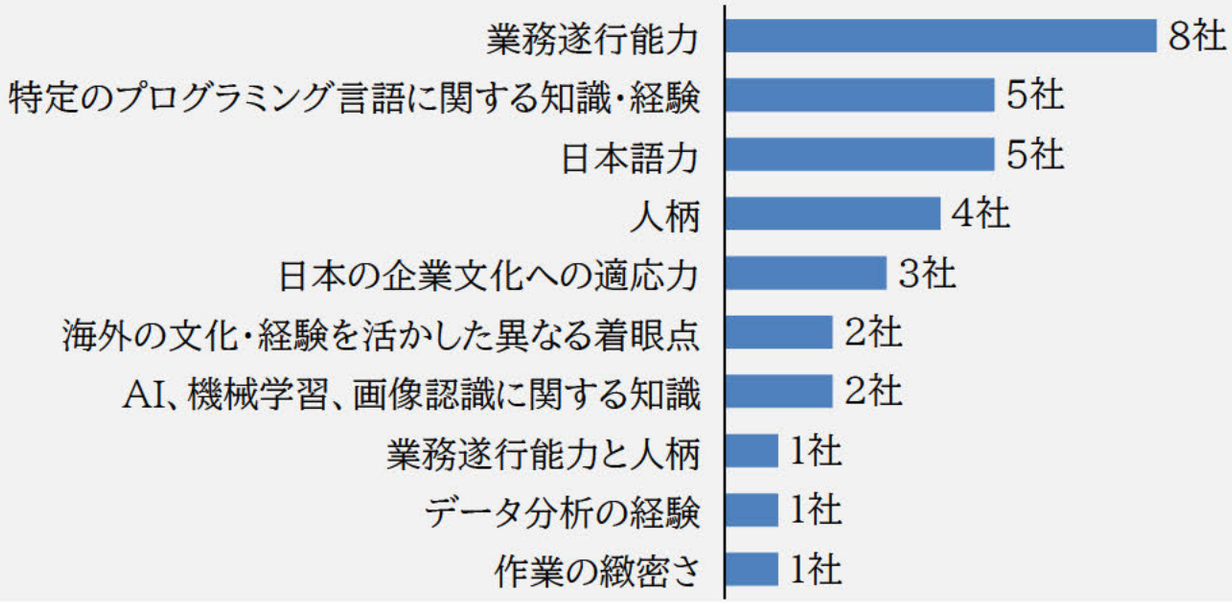
Q20.インターンの職種を教えてください。（単数選択）（n=91）



Q21.（IT職以外のインターンを受け入れた企業）外国人材のインターンに求める能力のうち、最も重要視していたものは何ですか？（単数選択）（n=59）



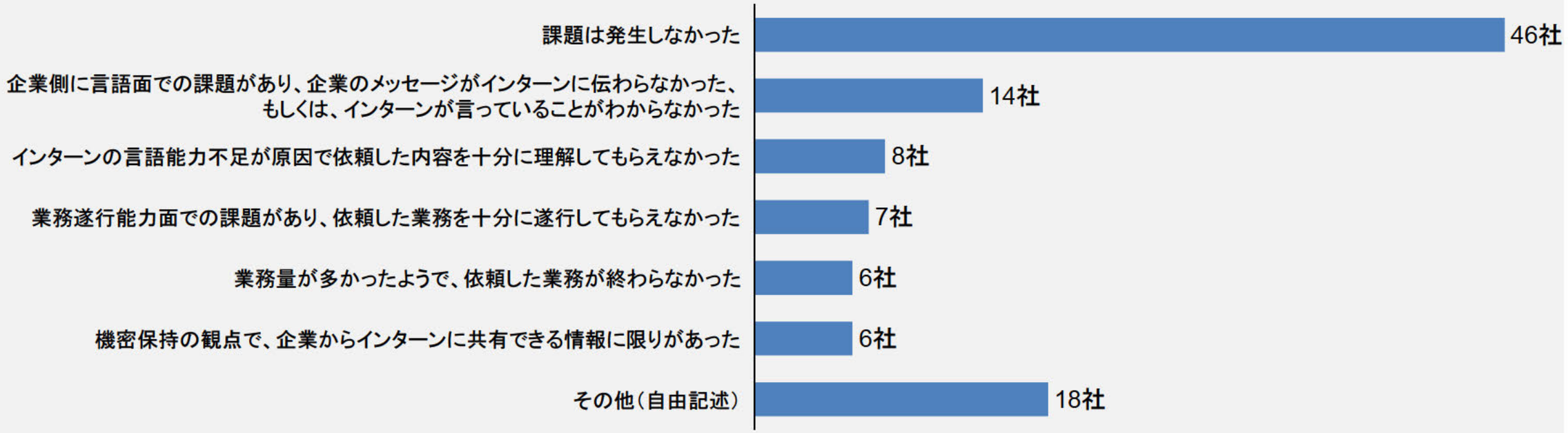
Q22.（IT職インターンを受け入れた企業）外国人材のインターンに求める能力のうち、最も重要視していたものは何ですか？（単数選択）（n=32）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q23では、インターンシップ期間中に発生した課題について調査した。91社の約半数の46社が「課題は発生しなかった」と回答した一方で、企業側の言語面の課題は14社から、インターン側の言語の課題は8社から回答があった。また、業務遂行能力面は7社、業務量と秘密保持の点はそれぞれ6社から課題として挙がった。さらに、その他の回答では、対面受入の際には日本の生活に馴染むまでに時間や説明を要することや、オンライン受入でのサポートの難しさ、受入工数や期間に関する問題、宗教的背景に配慮する難しさ、事務局からの連絡不足なども課題として挙げられた。

Q23.インターンシップを進めるうえでどのような課題が発生しましたか？（複数選択）（n=91）



その他（自由記述）回答（n=18）

【対面受入に関する課題】
- 2名受け入れたが入国時期がずれたため足並みをそろえて平等な経験を提供できなかった
- インターン生が日本の生活になじまず、途中終了となった
- 大きな問題ではなかったが、ビジネスカジュアルの服装、就業時間に間に合わない際には事前に遅れる旨を電話やメッセージなどで上長に連絡を入れるなど、日本人的なビジネスマナーの点で受け入れ当初は課題があった
- 日本の環境に慣れてもらうためのサポートが想定以上に必要だった
- 体臭など、実際に対面するまで分からない要素がある
- 通勤に関する事項、連絡手段に課題があった

【オンライン受入に関する課題】
- オンラインだとどのような働きをしているのかわかりづらかった
- 時差があり、こちらからの作業指示が曖昧な時に作業内容を理解してもらうのに時間がかかった

【受入期間に関する課題】
- 実施時間が2週間弱だったため、やりたいことを再調整せざるを得なかった
- 日数が短くなってしまった
- インターンシップ期間が短すぎる。また、インターンに業界への興味がなかった

【受入工数に関する課題】
- 時間的に余裕がなかったため、日常業務との両立が難しかった
- 対応社員の時間がなく、満足いただける対応ができなかった可能性がある

【宗教・文化的背景に関する課題】
- 宗教上のルール
- 礼拝（イスラム教）

【事務局に関する課題】
- 事務局との連携、連絡が円滑ではなかった

【その他】
- 日報や成果発表の内容に偏りがあった
- 業務に一貫性を保つのが難しかった

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q24と25ではより具体的なインターンシップ期間中の課題と、それに対する対処策について調査した。

Q24、Q25回答一覧（1/4）

課題種別	Q24.インターンシップを進めるうえで発生した課題を具体的に教えてください。（自由記述）（n=91）	Q25.インターンシップを進めるうえで発生した課題にはどのように対処しましたか？（n=91）
コミュニケーション	コミュニケーションは一定取れていたものの、日本人と同様ではなかったため、100%十分になコミュニケーションはとれなかった（とはいえ一定できたので、大きな支障ではない）。	翻訳ツールの使用、極力平易な表現でコミュニケーションするように修正した。
	コミュニケーションでの壁が多少あった。	ボディランゲージを使ったり、お互いに分かりやすい解釈や言葉やツールを使って対応した。
	コミュニケーションのすれ違いがあった。	間に母国語が通じる人を入れた。
	コミュニケーションを取った際、聞き取れない場合があった。	外国人のスタッフが対応し、母国語で説明した。
	英語しか話せなかったので社内で英語を話せる人材が対応した。	社内で英語を話せる者の横に配席した。
	語学力不足が課題だった。	対処しなかった。
	想定より日本語力が低く、日本語の文章の読解に難があった。	英語で説明した。
	言語、確認方法に課題があった。	チャットで指摘した。
	言語習熟度合いの理由で社内プレゼンテーションが難しかった。	聞き手側で丁寧に対応した。
	日本語の文章力は優れているが、会話になると通じにくい場面が多かった。	文書でテキスト化したり、何度か繰り返しやり取りをした。
	実体験の気づきをもとに業務遂行の報告を求めたが、作業の感想や印象の報告が多かった。	都度指摘してはみたが、なかなか意図が伝わらなかった。
	日頃のコミュニケーションに課題があった。	定期的な面談を行った。
	当方の言語面の問題が多少あった。	インターン2名の内、1名が日本語を話すことができカバーできた。
	弊社の場合、担当者が外国人スタッフであり問題はなかった。担当者が日本人スタッフだった場合は、言語面でも問題はあった可能性がある。	事前に受入スケジュールを検討しており特に問題はなかった。また、担当者が外国人スタッフだったこともあり問題はなかった。
	作業内容を明確に提示する必要があった。	作業内容を文書化することで意思疎通が図れるようになった。
	専門用語が伝わりずらいことがあった。	単語を分けて説明するようにした。
	Web制作について日本国内では慣例的に対応している箇所を伝えるのが困難だった。	細かく指示・チェックを繰り返して、少しずつ対応を進めた。
	開発をしていく中、お客様のニーズを理解し要件定義、詳細設計、プログラムをしてもらう上で、日本語でどのように説明し、理解してもらえるか、その為の職場環境をどう作り上げるかが課題であった。	仕様書をしっかりと作り上げて、一部自動翻訳しコミュニケーションを図った。
	業務指導上、日本語で伝える場合よりも手間が増えた、日本の商習慣を共有する必要があった。	インターンに質問し回答するようにした。
	特になし。コミュニケーション面で多少説明が多くなることもあったが気にならないレベルであった。	しっかりとしたコミュニケーションをとった。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q24と25ではより具体的なインターンシップ期間中の課題と、それに対する対処策について調査した。

Q24、Q25回答一覧（2/4）

課題種別	Q24.インターンシップを進めるうえで発生した課題を具体的に教えてください。（自由記述）（n=91）	Q25.インターンシップを進めるうえで発生した課題にはどのように対処しましたか？（n=91）
対面	2名受け入れたが入国時期がずれ込んだため足並みをそろえて双方に平等な経験を提供できなかった。	個人でできる活動を依頼した。
	VISAの取得や、金銭の負担の主体に関して課題があった。	金銭の負担主体があいまいな場合は企業で負担した。
	インターンが日本で滞在するにあたり、日常の食事を買うにも何を買えばよいのか分かっていなかった。どのような準備をしてあげれば日本国内滞在中にインターン自身が一人で必要なことができるようになるのかを把握するのに時間がかかった。	遠慮せずダイレクトにインターンとコミュニケーションを取った。
	インターンが日本の環境になじまず、当初想定していた活動がほとんで実施できなかった。	インターンが帰国後、リモートでのオンラインインターンシップに切り替えた。
オンライン	時差の問題があり、単純な問題として、始業時間と終業時間が異なった。また、外国人材を受け入れる際の注意点を事前に知りたかった。	時差を考慮した稼働にしたため、そこまで問題にならなかった。外国人の雇用の仕方や注意点、指示の出し方などはインターネットや書籍を使ってリサーチした。
	オンラインインターンシップであったため、コミュニケーションが取りにくいことがあった。	オンラインでインターンと打合せを多めに行った。
	オンラインのみの受け入れだったので、共有できるデータに限りがあった。	共有可能なデータの範囲で活動にあたってもらった。
	急遽オンラインインターンシップに切り替わり、さらに実施期間が短すぎた。対面インターンシップであれば言語能力だけに依存しないコミュニケーションが取れていたかもしれない。	LINEを用いて、文字でコミュニケーションすることで、翻訳機能を使用した。
宗教	宗教上の理由で、インターンが業務時間中に抜けることがあった。	休憩時間の見直しを行ったり、宗教上の規律についてどこまで厳守する必要があるか等インターンと話し合いをし解決した。
	礼拝の時間はどう対応していくべきか。弊社は毎日の礼拝や金曜日のモスクでの礼拝に関する全てのリクエストに対応したが、本来はどう対応するべきなのか分からなかった。	全てのリクエストに対応した。
	特になし。しいていえば食、ハラルフードに課題があった。	コミュニケーションを増やすことで相互理解を促進し対応した。
コロナ対応	インターンがコロナに罹患し、1週間以上稼働できなかった。その結果、想定と違う活動内容に変更せざるを得ず、予定てしていた対応人員も別業務で忙しくなってしまい、インターンを受け入れて説明・サポートする体制を保つのが難しくなった。	実施期間を延期できないか交渉した。
社内体制	当社からの確定した依頼内容やオペレーションの提供に課題にあった。	管理人員を増加した。
	社内メンバーとの連携業務のタイムマネジメントがうまくできなかった。	気合で乗り切りった。
	対応社員の時間がなく、インターンに満足いただける対応ができなかった可能性がある。	インターンが1人で取り組める課題を出して対応していただいた。
	来日期間中の一部日程と担当が海外出張日程が重なったため、事前に合意した内容での活動が難しくなった。	担当者の海外出張期間中は別の部署のものがサポート行い、急遽だが事前の活動計画とは別の作業にあたってもらった。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q24と25ではより具体的なインターンシップ期間中の課題と、それに対する対処策について調査した。

Q24、Q25回答一覧（3/4）

課題種別	Q24.インターンシップを進めるうえで発生した課題を具体的に教えてください。（自由記述）（n=91）	Q25.インターンシップを進めるうえで発生した課題にはどのように対処しましたか？（n=91）
インターンの取組状況	1人目のインターンは能力も高く、依頼した業務をタイムリーに遂行していただけたが、2人目は若干業務遂行能力が低く感じた。また、業務中も周りの写真を撮ったり携帯を触ったりと、子供たちのケアが十分にできていないことが多々あった。（受入企業：英語教育学習塾）	都度コミュニケーションを取り、やってほしいこと、やらなければならないことなど、目的やTo doを伝えるようにした。
	①本人はたくさんやりたいと頑張っていたが、時間内にできなかった場合に残業しようとした。②入国後の動きや初日の通勤などケアできる内容があったが、本人に事前に連絡を取れず負担をさせてしまった。	①説明をしっかりと行い、意識を高めた。 ②（回答なし）
	業界への興味がなく、製品への理解を深めてもらうことが難しかった。	ひたすらコミュニケーションをとった。
	若干内向的であったようで、自分から他者への働きかけが少なかった。	担当者から、食事の際や仕事で同行の際にコミュニケーションを図った。
	体力的な問題があった。体調不良が多く、休みたがることが多かった。状況により、社員寮から職場までの送迎も行った。（「雨で出勤できない」などのリクエストがあった場合）	本人の希望通り休ませた。
	遅刻、早退のほか、業務中にランチ休憩を2時間取ったり、家で働いているときに連絡がつかなかったりした。	こまめに連絡しても連絡が付かない場合、事務局に相談した。
	遅刻や業務中の対応などの違いが、文化の違いによるものなのか、本人の性格によるものなのか、判断に迷った。	インターンの経験や考えを聞く機会を毎回設けたうえで、日本で働く場合に必要な考えは伝えるようにした。
	インターンの目的と当社での活動内容のマッチングに苦労した。	インターンの問題解決のためにとことん議論した。これにより良い方向に互い理解が深まった。
個別業務	依頼した業務への理解度の促進に苦労した。	いきなり業務に従事してもらうのではなく、概論の講義を行い、各論へ繋げた。
	電話対応が難しかった。	電話に出てもらい、隣で確認して、回答した。
ビジネス基礎・マナー	過去に受け入れた留学生は社会人経験があるか大学院生で、割と社会人としても心構えなど既に基礎的な部分を持っていた。今回はタイから2名のインターンを受け入れたが、1名は大学生4年生になったばかりで、働いた経験もほとんどなく基礎から教える必要があった。これは逆に、新卒採用に向けどのように新入社員教育をしていけばよいのかのヒントにもなった。	メンターとして、同じ国籍であるタイ人スタッフがサポートしたため、日本のビジネスマナーなど基礎的なところはインターンに母国語で伝えて説明してもらった。
	日本のビジネス文化を習得してもらうことに苦労した。	丁寧に何度も教えた。
活動内容	本事業では業務をしてもらうことができなかったため、弊社事業に関心を持ってもらうことを活動内容としたが、結果として教育研修や交流的な内容のみとなってしまった。また、弊社の業務ではクライアント機密情報を多く扱うため、インターンに提供するデータも限定されてしまった。	インターンに弊社事業を理解していただき、関心持ってもらうことをテーマに設定した。
	ビザ・在留資格によって、活動内容が限定されてしまった。	新たにデータ分析を担当してもらい成果を出してもらった。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q24と25ではより具体的なインターンシップ期間中の課題と、それに対する対処策について調査した。

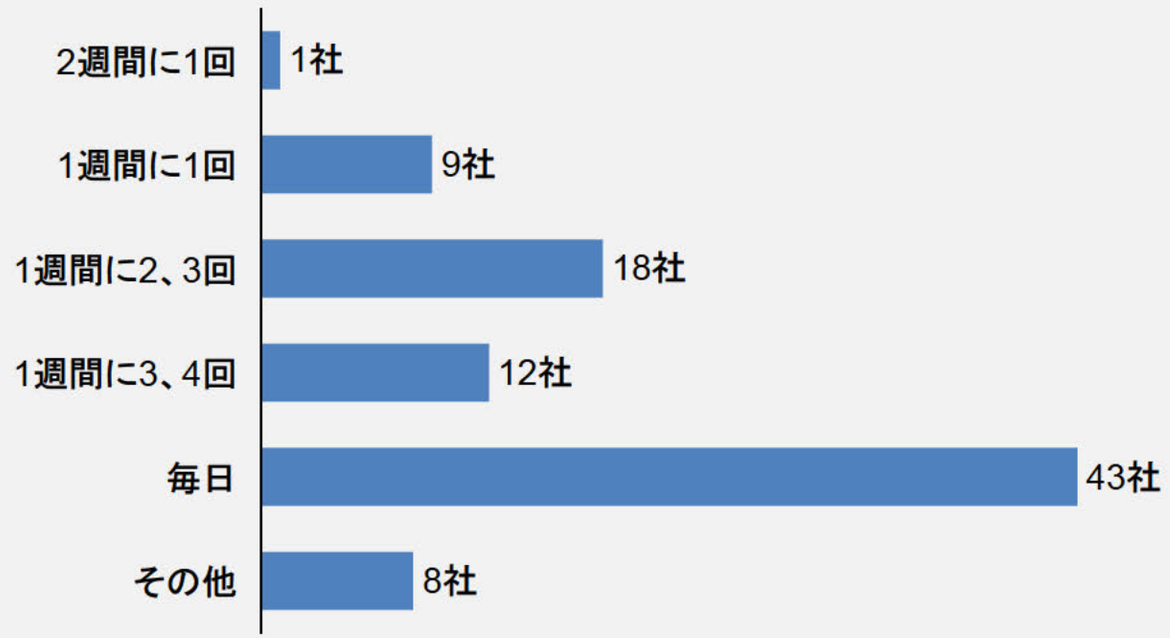
Q24、Q25回答一覧（4/4）

課題種別	Q24.インターンシップを進めるうえで発生した課題を具体的に教えてください。（自由記述）（n=91）	Q25.インターンシップを進めるうえで発生した課題にはどのように対処しましたか？（n=91）
実施期間/活動時間	インターンの活動時間が平日夜と週末のみだったため、業務の細かい進捗管理に難点があった。常にリアルタイムで一緒に働くことができなかった。	チャットツールでの細かい報告を依頼した。また、週次での1on1ミーティングで本質的な課題抽出を行い、解決策を考えた。
	こちらから伝えることが多く、15日間の実施期間ではインターンからの質問に回答することが不完全になってしまうことがあった。	インターンシップが終了してからもメールなどで対応する。
	期間が短いので 完全に依頼した内容を終了することは難しい。	計画表を作り、完了したことやできることを可視化した。
	期間が短く、ロングタームの仕事を依頼できなかった。	単発の仕事のみ教えた。
	業務に一貫性を保つのが難しかった。時間がもう少し欲しい。	前提条件（バックグラウンド）の説明を丁寧に行った。その結果、時間が足りなくなった。
	短期間だったため、ベトナムや出店に関する情報交換の時間を十分にとることができなかった。	短時間ではあったが情報交換を行った。
事務局	本年度のインターンシップ運営に問題があった。	業務内容の再調整（短縮や簡略化を行った）。
	依頼した国の間違い、日程調整や連絡遅延などの問題があった。	メールや電話で事務局担当者に連絡をした。
課題なし	インターンができることを依頼したので、課題らしい課題はなかった。	できること、できないことの見極めには気をつかった。
	インターンが出来ることを把握する期間を計画に織り込んでいたので、止まることなくインターンシップを進めることができた。	1週目で力量を把握し2週目で調整を行った。
	事前に調整できたので、課題は発生しなかった。	インターンと相談しながら調整した。
	日本人雇用との差はなく、日本人以外のマネジメントに可能性を感じた。	対処なし
	課題なし（29社）	依頼業務の内容が伝わりづらい場合、業務を細かく分担して指示するようにした（1社）。 対処なし（28社）

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q26では、インターンと企業担当者が実施した業務打合せ・面談の頻度について調査を行った。インターンと毎日打合せ・面談を行っていた企業は全91社中43社で、1週間に2回以上の打合せ・面談を行った企業は30社であった。また、対面でインターンを受け入れた企業では、隣の席に座り常にサポートをしていたというケースや、業務進捗の都度に打合せを行っていたケースもあった。さらに、稼働日は仕事を始める前と終える時の2回打合せを行っていた事例や、SNSを活用して随時コミュニケーションをとっていた例もある。

Q26.インターンと業務に関する打合せや面談はどのくらいの頻度で行いましたか？（単数選択）（n=91）



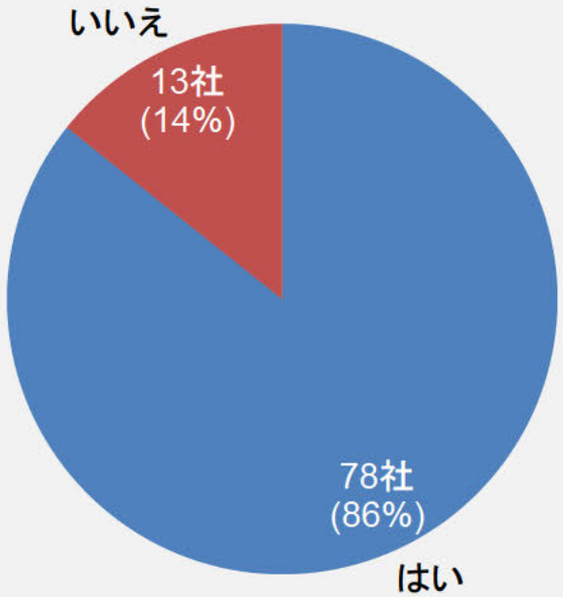
その他（自由回答）（n=8）

- 1週間に1回に設定しましたが、実際には調整点があればその日に行いました。
- 稼働日は毎日打合せを行った。
- オフィスで隣同士で座っていたこともあり、業務に就いては常にサポートしていました。
- 日々顔を合わすので、業務進捗の都度おこなった。
- オンラインMTGは1週間に1回、SNSでのコミュニケーションは毎日。
- 稼働開始時と稼働終了の毎日2回。
- Facebookグループで都度。
- SNSグループで随時。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q27と28では、インターンと企業の業務打合せ・面談の頻度が十分であったか、また十分でなかった場合にはどのくらいの頻度が理想であったのか調査を行った。全体の86%にあたる78社は各社の打合せ・面談の頻度が十分であったと回答したものの、13社は不十分であったとの述べており、Q28に対しては概ね頻度を上げるべきであったとの回答があった。また、毎日打合せを実施していた企業でも、理想の頻度は「毎日」と回答しているほか、「業務以前の問題が発生した」といった回答があり、頻度に起因しない課題があったものと考えられる。

Q27.業務内容に関する相談・打合の頻度は十分だったと考えますか？（単数選択）（n=91）



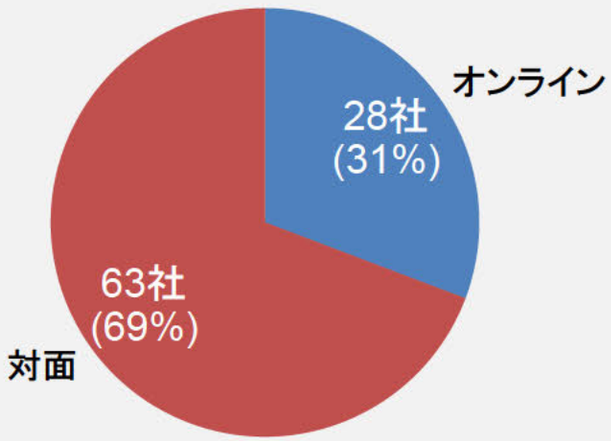
Q28.どのくらいの頻度で打合せや面談を実施すべきだったと考えますか？（単数選択）（n=13）

No	実際の頻度（Q26回答）	理想の頻度（Q28回答）
1	2週間に1回	1週間に1回
2	1週間に2、3回	1週間に3、4回
3		毎日
4		毎日
5		毎日
6		業務以前の問題が発生した
7	1週間に3、4回	対面で日々、都度の打合せ
8		毎日
9		毎日
10		毎日
11	毎日	毎日
12		毎日
13		複数の社員の視点で色々と確認する必要があった

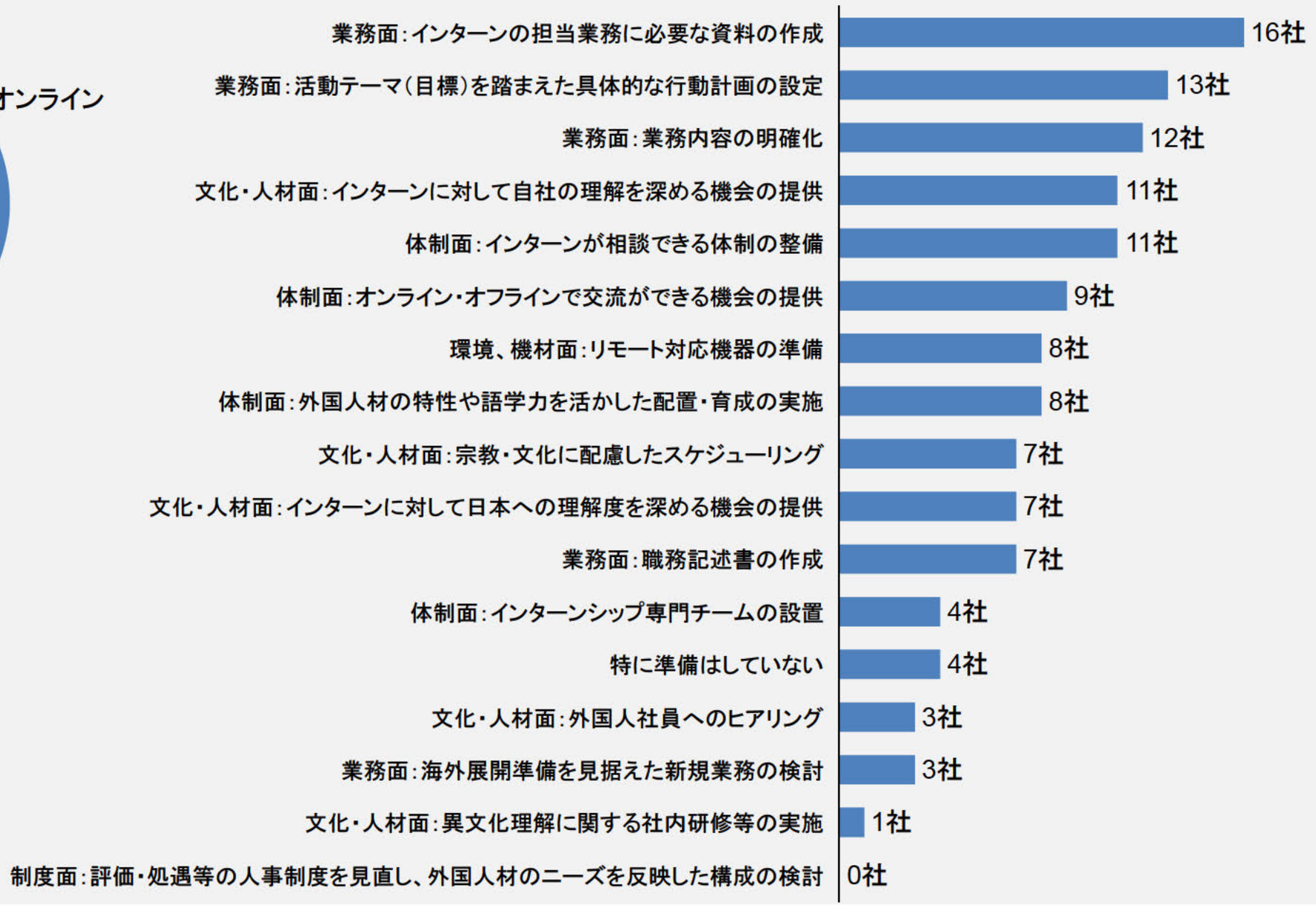
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

全91社のうち、オンラインでインターンを受け入れた企業は28社であった。これら28社に対して、Q30で受入に向けた準備内容を尋ねたところ、「インターンの担当業務に必要な資料の作成」をしたと回答した企業が16社、「具体的な行動計画の設定」をした企業が13社、「業務内容の明確化」を行った企業が12社、「インターンに自社理解を深めてもらうための機会の準備」や「インターンが相談できる体制の整備」をした企業が各11社あった。他方、評価や処遇等の人事制度の見直しを行った企業はいなかった。

Q29.インターンをオンラインで受け入れましたか、対面型で受け入れましたか。
（n=91）



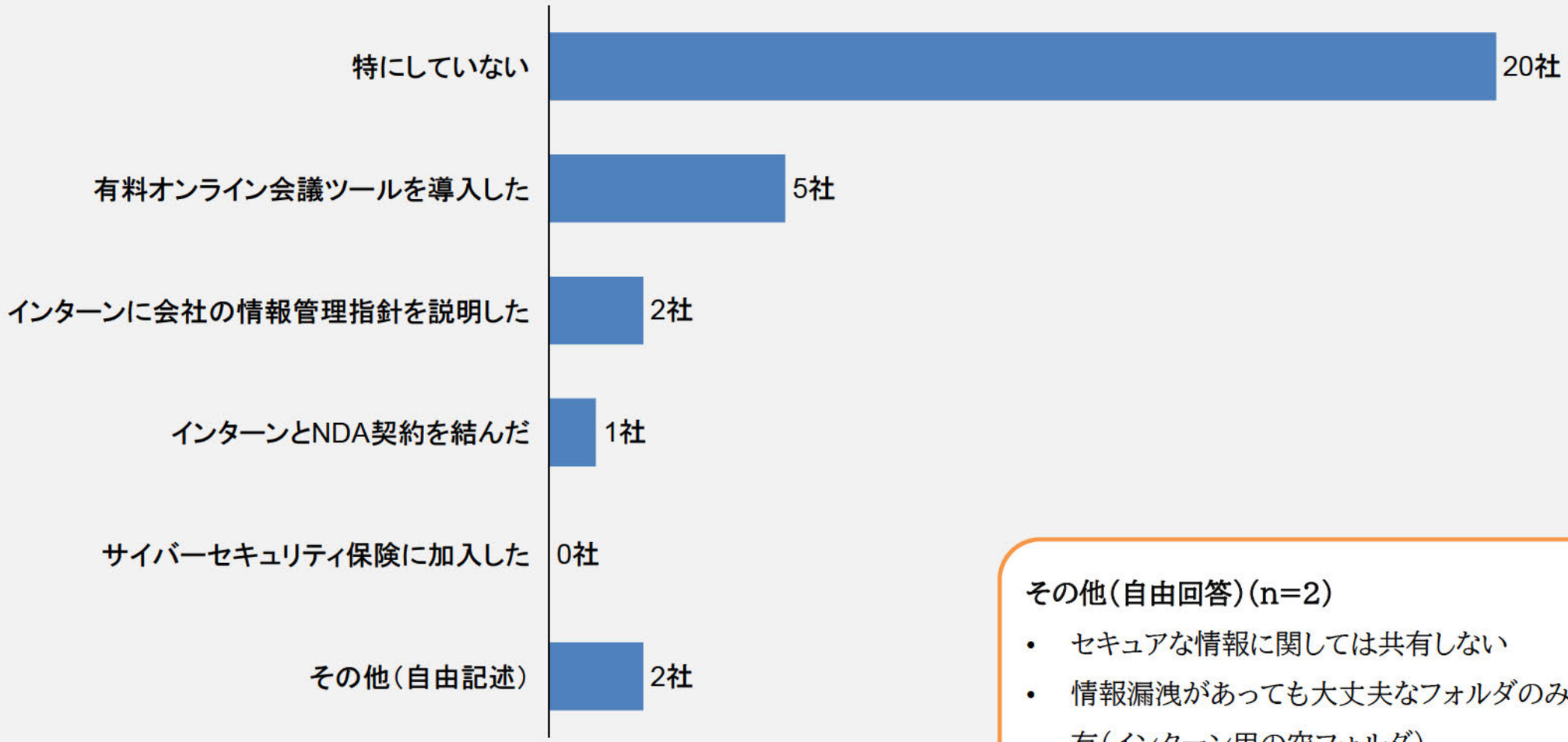
Q30.オンラインインターンシップ受け入れに当たり、どのような準備をされましたか？（複数選択）（n=28）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

さらに、オンラインでインターンを受け入れた企業28社に対して、Q31で情報セキュリティ対策を講じたか尋ねたところ、半数以上の20社から特段の対策を行わなかったと回答があった。他方、「有料オンライン会議ツールを導入した」企業は5社、「インターンに会社の情報管理指針を説明した」企業は2社、「インターンとNDA契約を結んだ」企業は各1社との結果となった。また、セキュアな情報は共有せず、情報漏洩対策としてフォルダを別に設けたといった対策を行った企業もあった。

Q31.オンラインインターンシップの実施に当たり情報セキュリティ対策はされましたか？（複数選択）（n=28）



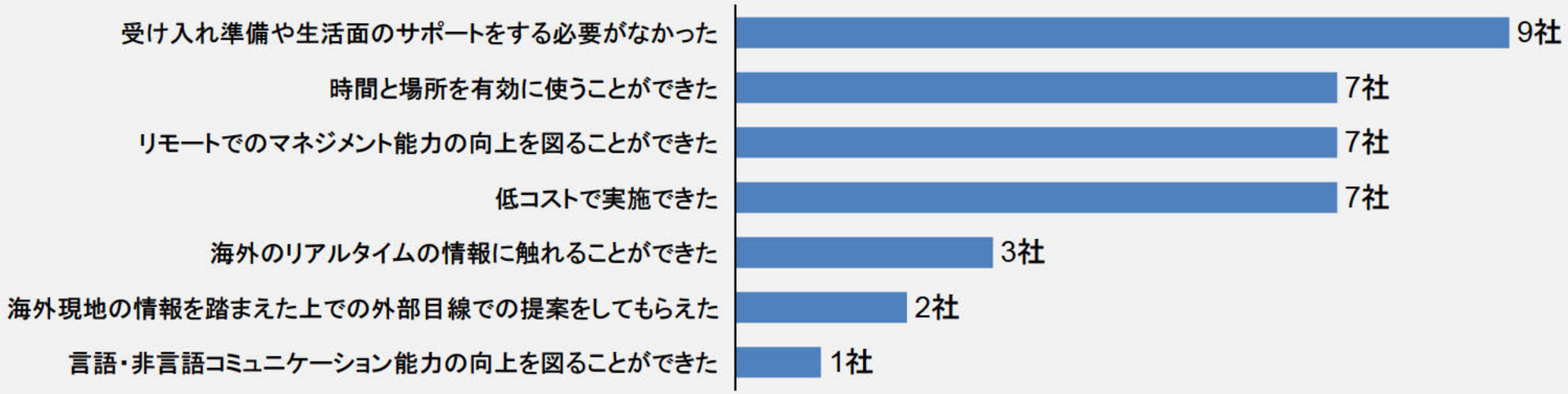
その他（自由回答）（n=2）

- セキュアな情報に関しては共有しない
- 情報漏洩があっても大丈夫なフォルダのみ共有（インターン用の空フォルダ）

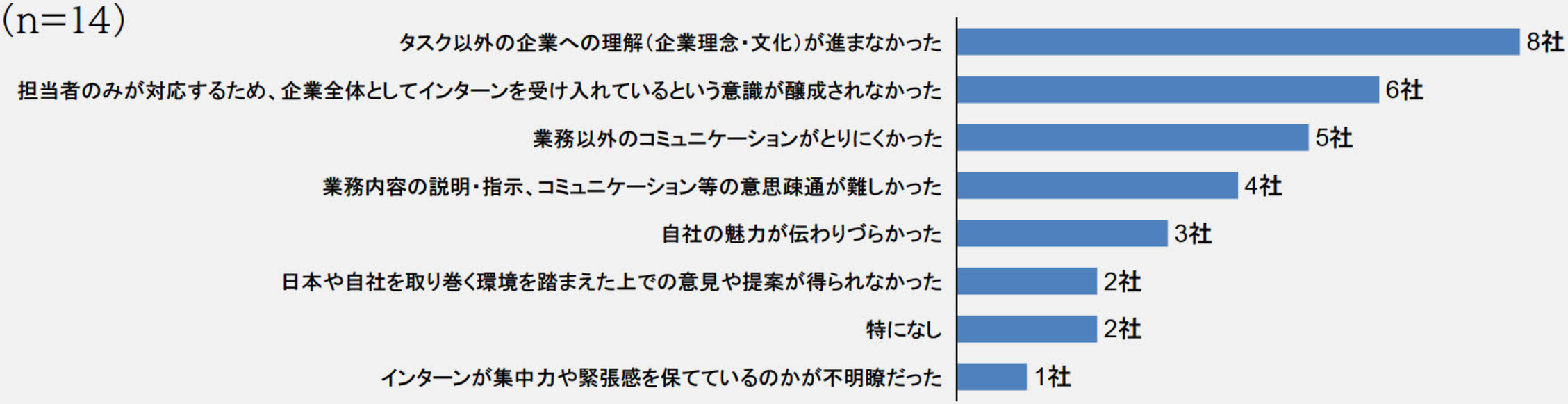
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q32と33では、日本国内に在住するインターンをオンラインで受け入れた企業に対して、そのメリットとデメリットを尋ねた。メリットとしては、対面での実施ではないために「受入準備や生活面のサポートをする必要がなかった」ことが9社、「時間と場所を有効に使うことができた」、「リモートでのマネジメント能力の向上」ができた」及び「低コストで実施できた」が各7社からの回答として挙げられた。一方、デメリットは「タスク以外の企業理解が進まなかった」とした企業が8社、「企業全体でインターンを受け入れている意識が醸成されなかった」が6社、「業務以外のコミュニケーションがとりにくかった」が5社であった。

Q32.国内在住のインターンを対象にオンラインインターンシップを実施することのメリットを教えてください。（複数選択）（n=14）



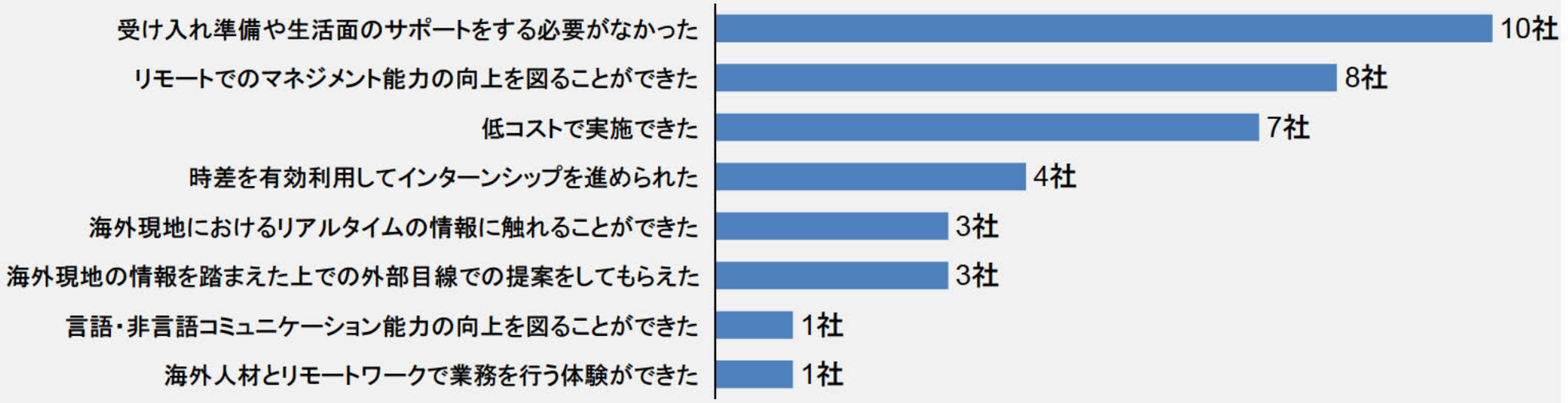
Q33.国内在住のインターンを対象にオンラインインターンシップを実施することのデメリットを教えてください。（複数選択）（n=14）



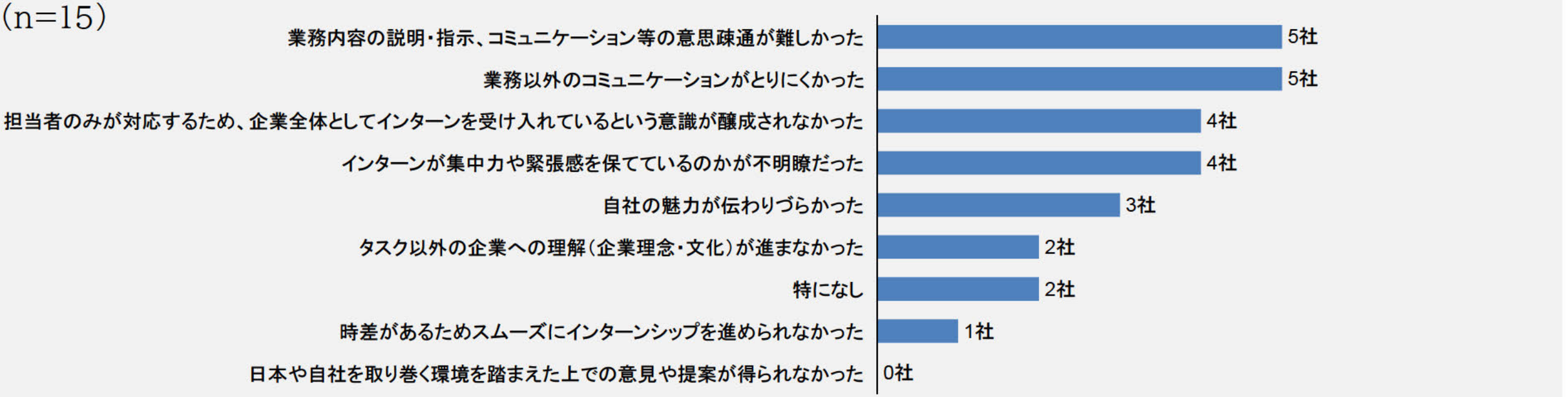
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q34と35では、海外在住者をオンラインで受け入れた企業にそのメリットとデメリットを尋ねた。国内在住者の場合と同様に、受入準備や生活面のサポートが不要であったことをメリットに挙げた企業が10社で、リモートでのマネジメント能力向上には8社から回答が集まった。デメリットとしてはコミュニケーションが取りにくい点が業務内外に各5社の回答があった。また、国内在住者と同様に「企業全体でインターンを受け入れている意識が醸成されなかった」との回答は4社からあった。時差をデメリットとして回答した企業は1社、メリットとして回答した企業は4社であった。

Q34.海外在住のインターンを対象にオンラインインターンシップを実施することのメリットを教えてください。（複数選択）（n=15）



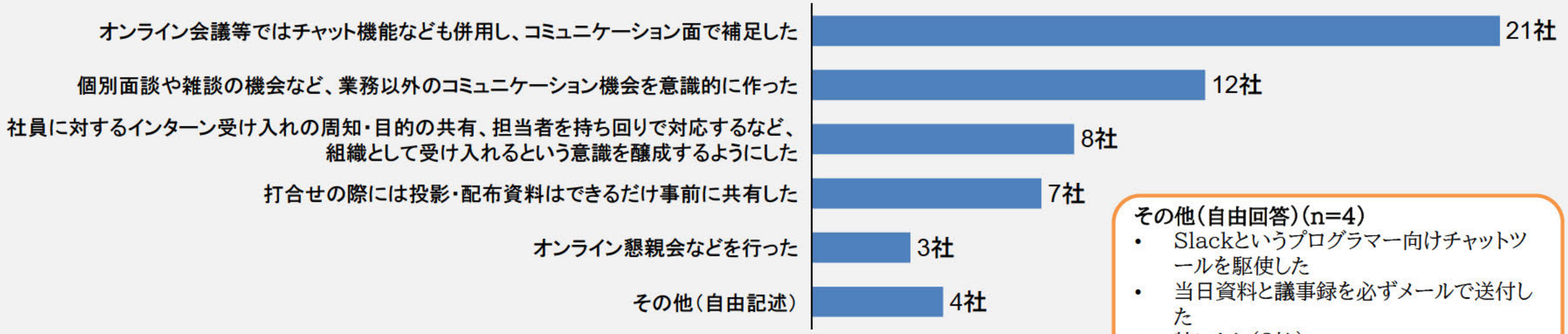
Q35.海外在住のインターンを対象にオンラインインターンシップを実施することのデメリットを教えてください。（複数選択）（n=15）



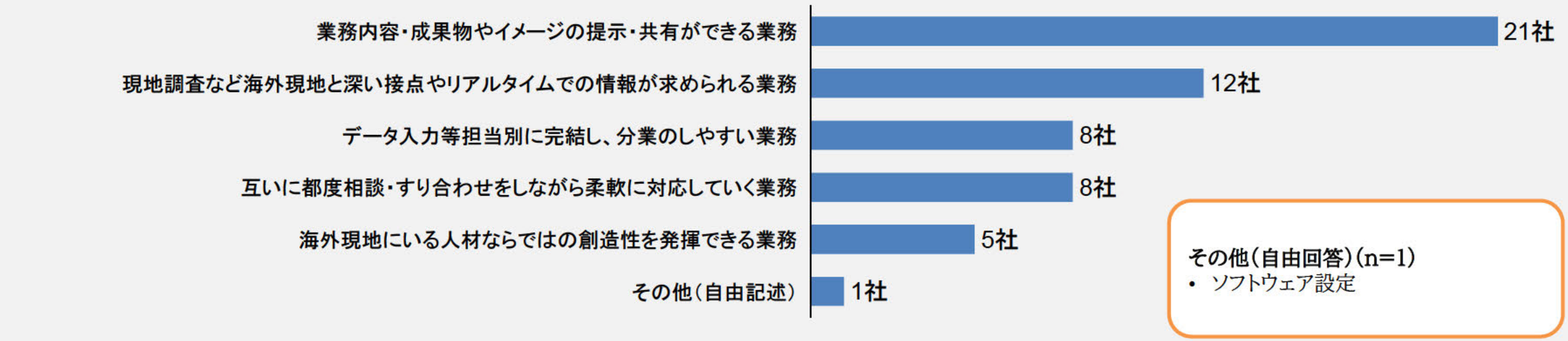
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q36ではオンラインインターンシップ上の工夫を、Q37ではオンラインインターンシップに向いている業務内容を調査した。Q36では業務上のコミュニケーション面で工夫したとの回答が最も多く（21社）で、業務外のコミュニケーションの場を設けた企業も12社あった。一方、オンライン懇親会などの機会を設けた企業は計3社と比較的少なかった。Q37では、成果物等のイメージの提示・共有ができる業務がオンラインインターンシップに向いているとの回答が21社からと最も多く、次いで海外現地のリアルタイムの情報が必要な業務が向いているとの回答が12社からあった。

Q36.オンラインインターンシップならではの工夫にはどのようなものがありましたか？（複数選択）（n=28）



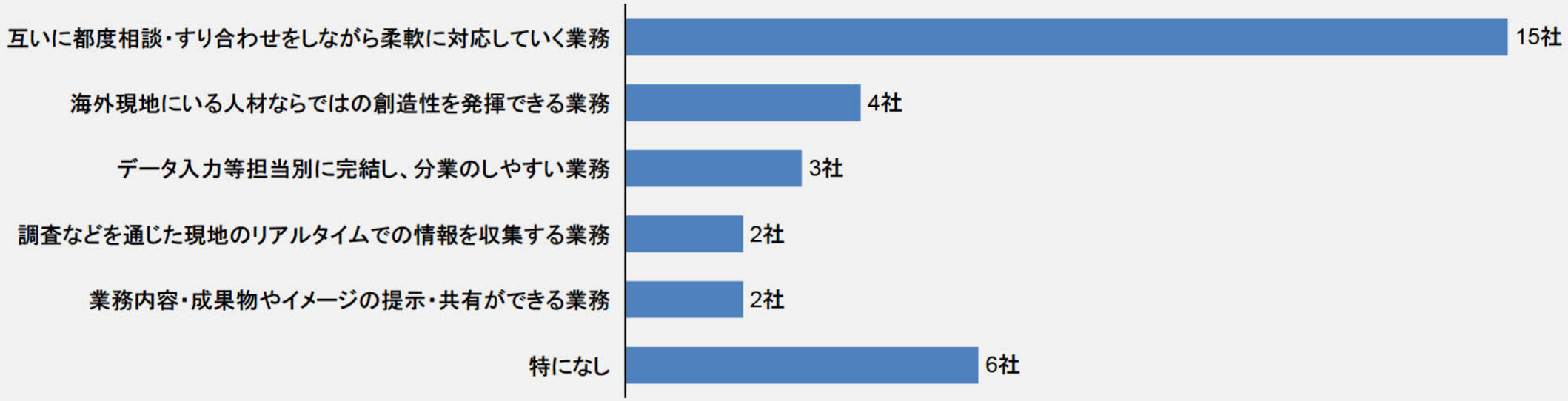
Q37. オンラインインターンシップに向いていると感じた業務内容は何でしたか？（複数選択）（n=28）



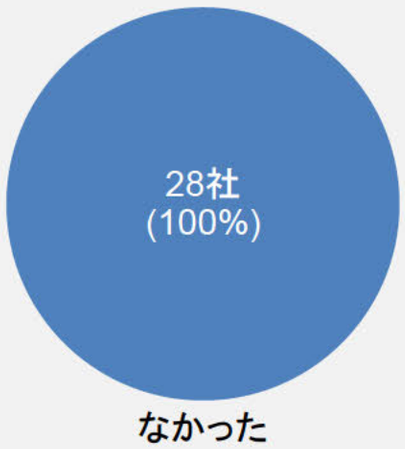
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

他方、Q38ではオンラインインターンシップに向かない業務内容を尋ねたところ、「互いに都度相談・すり合わせをしながら柔軟に対応していく業務」と回答した企業が15社となり、最も多かった。頻繁なコミュニケーションや調整を要する業務の難しさが示された。また、Q39とQ40では、オンラインインターンシップにおける情報管理上のヒヤリハットを調査したが、これについてはオンラインインターンシップを実施した28社すべてがヒヤリハットはなかったと回答した。

Q38.オンラインインターンシップに向いていないと感じた業務内容は何でしたか？（複数選択）（n=28）



Q39.オンラインインターンシップを行う中で情報管理上ヒヤリとしたことはありましたか？（単数選択）（n=28）



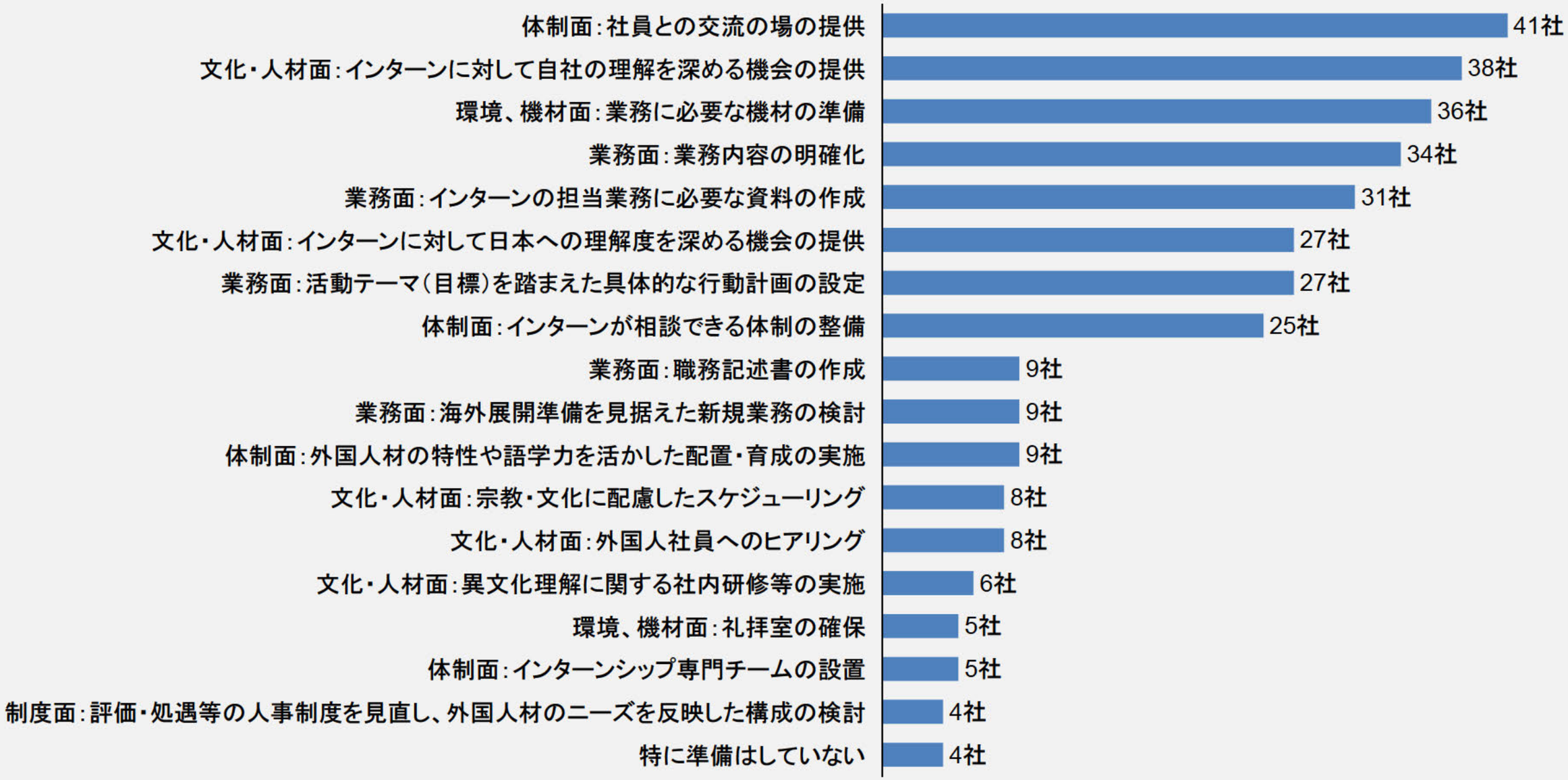
Q40.情報管理上ヒヤリとしたことについて、具体的な内容をご記入ください。

- Q.40は具体的なヒヤリの内容を問うものであり、回答がなかった。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q41では、対面でのインターンシップ受入を行った企業63社に対して、複数回答で受入前の準備について尋ねた。対面受入を利点として捉え「社員との交流の場の提供」準備を行った企業が41社と最多であった。次いで、「インターンに対して自社の理解を深める機会の提供」準備が38社、「業務に必要な機材の準備」が36社となっている。他方、「宗教・文化に配慮したスケジューリング」8社、「異文化理解に関する社内研修等の実施」は6社、「礼拝室の確保」は5社と回答は少数にとどまり、インターン側の文化や宗教的背景を尊重して受け入れる準備を行った企業は多くなかった。

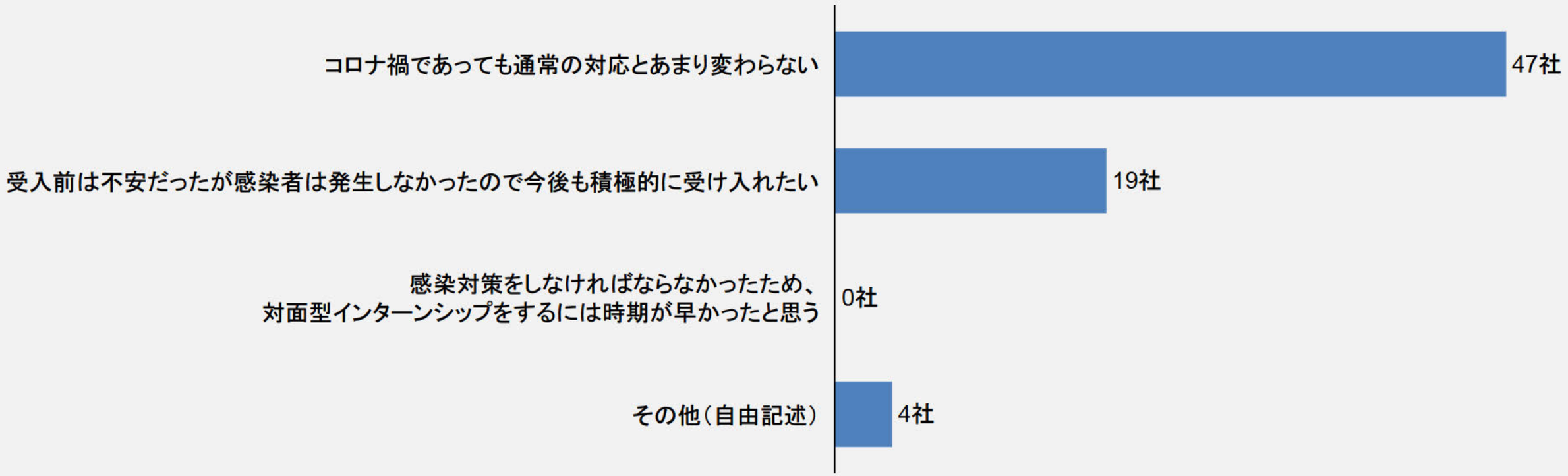
Q41.対面型インターンシップ受け入れに当たり、どのような準備をされましたか？（複数選択）（n=63）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q42では、新型コロナウィルス感染症の拡大以降における対面でのインターンシップ受入に対して、企業がどのような印象を持っているかを調査した。対面での受入を行った63社中47社が「通常の対応とあまり変わらない」と回答した。また、19社は「受入前は不安だったが、感染者は発生しなかったので今後も積極的に受け入れたい」と回答しており、今回の受入前後で印象の変化があったことが示されている。その他、「抗原検査を実施した」との回答や、「感染対策を徹底できれば受け入れる」との回答があり、事前の検査や対策を行うことで対面受入を実施した企業があることも示される一方、マスクの着用義務がない国からの受入では「やはりマスクを嫌がるので（国内への対面受入は）早かったと思う」との回答もあった。

Q42. コロナ禍で対面型インターンを受け入れたことについて、どのようにお考えですか？（複数選択）（n=63）



その他（自由回答）（n=4）

- 感染対策を徹底できれば受け入れる
- 抗原検査実施
- やはりマスクを嫌がるので早かったと思う
- 海外とのビジネスをする以上、過度な反応はマイナスと捉えている

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

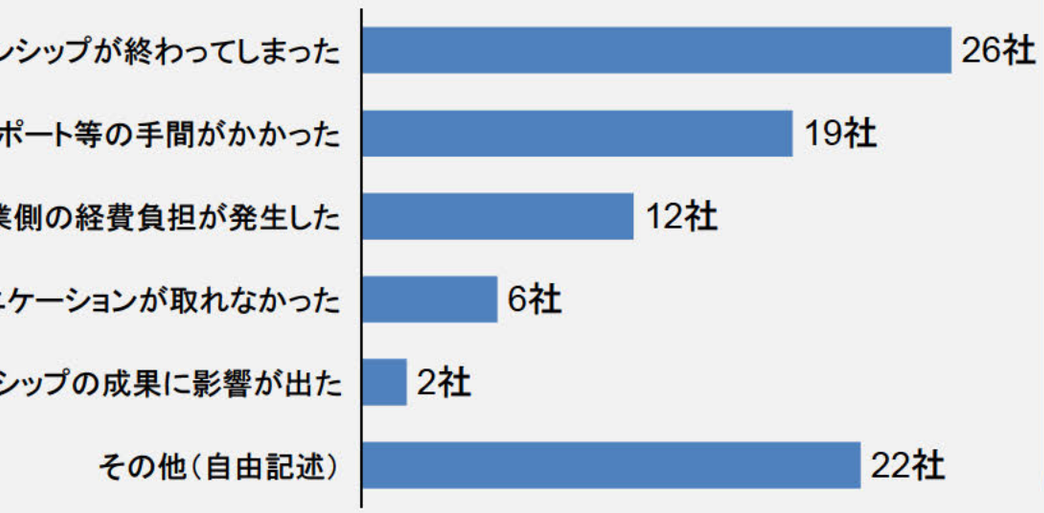
Q43と44では、対面型でのインターンシップのメリットとデメリットを調査した。メリットを複数挙げる企業が多く、「企業の雰囲気を感じてもらえた」と「相手の考えを聞きやすかった」はそれぞれ51社と49社がメリットとして挙げる等、対面であったことにより企業とインターン相互でのコミュニケーションや理解が促進されたことが伺える。他方、デメリットを挙げた企業数はメリットと比較すると少なかったが、インターンシップ期間が短く成果が出なかったことを指摘する企業が26社、来日や生活面のサポートを挙げる企業が19社、企業側での経費負担をデメリットとする企業が12社あった。その他回答でも、通勤時間や送迎など対面固有の課題が示されている。

Q43. 対面型インターンシップのメリットを教えてください。（複数選択）（n=63）



その他（自由記述）（n=2）
- 機密保持
- 体臭や普段の所作などが実際に分かる

Q44. 対面型インターンシップのデメリットを教えてください。（複数選択）（n=63）

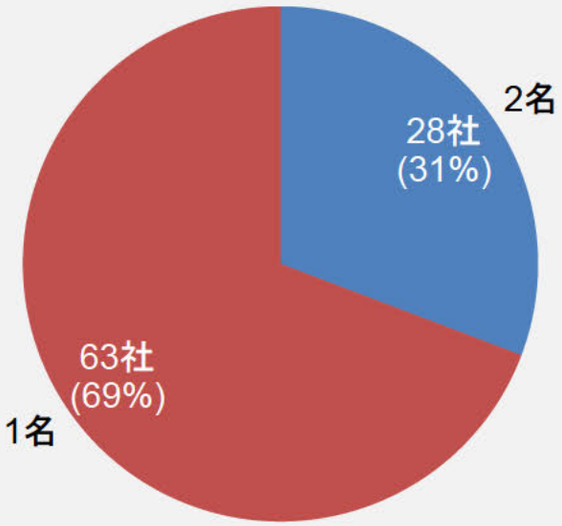


その他（自由記述）（n=22）
- 通勤時間がかかる（1社）
- 滞在場所からの送迎の負担があった（1社）
- 弊社がこれまで学生新卒採用を行っていなかったため、若い外国人材のの採用では、教育計画や日常生活での指導などハードルが高かった（1社）
- 弊社の場合は対応チームでしたので他の部署との連携をとることは出来なかった（1社）
- 体臭などで他のメンバーから話しかけづらい（1社）
- あえて遠隔地での作業を意図している場合以外にはデメリットなし（1社）
- 特になし（16社）

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

回答数91社のうち、2名のインターンを受け入れたのは31%にあたる28社であった。これら28社に対しては、Q46と47で2名受入に関するメリットとデメリットを調査した（回答一覧は次頁及び次々頁）。なお、本アンケートに回答した企業のうち、2名の受入を行ったのは以下表のとおりである。一部の企業は夏季と冬季に分けて2～3名の受入をしている。また、2名のインターンを受け入れた企業の中には、オンラインと対面の双方で受入を行った企業もあった。

Q.45 インターンシップの受け入れ人数をご回答ください。（n=91）



No	企業	受入時期・形式・人数
1	株式会社シーサイド	夏季（オンライン）2名
2	株式会社アクトプロ	夏季（対面）2名
3	株式会社東京繁田園茶舗	夏季（オンライン）2名
4	株式会社ワイズ	夏季（対面）2名
5	株式会社toraru	夏季（オンライン）2名、冬季（オンライン）1名
6	株式会社流通サービス	冬季（対面）2名
7	株式会社eftax	夏季（オンライン）1名、冬季（オンライン）2名
8	ジャポックス株式会社	夏季（対面）1名、冬季（対面）1名
9	生田グローバル株式会社	冬季（対面）2名
10	株式会社ニンニンドットコム	冬季（対面）2名
11	和漢シンカ研究所株式	冬季（対面）1名、冬季（オンライン）1名
12	ヌーベルメディア株式会社	冬季（対面）2名
13	有限会社カール英会話ほいくえん	冬季（対面）2名
14	株式会社いけうち	冬季（オンライン）2名
15	株式会社 POGLI	冬季（対面）2名
16	株式会社レクストラボ	冬季（対面）2名
17	株式会社スリーアワーズ	冬季（対面）2名
18	株式会社Lead in Fashion	冬季（オンライン）2名
19	株式会社MEBUKU	冬季（オンライン）2名
20	株式会社わかたむ	冬季（対面）2名
21	株式会社マキシマムオーバードライブ	冬季（対面）2名
22	クラウドサーカス株式会社	冬季（オンライン）2名
23	メークス株式会社	冬季（対面）2名
24	株式会社DISCOVERY SUPPORT	冬季（対面）2名
25	株式会社　尾崎設計事務所	冬季（対面）2名
26	アジアンハイウェイ株式会社	冬季（対面）2名
27	株式会社大洋産業	冬季（対面）1名、冬季（オンライン）1名
28	株式会社younet光	冬季（対面）2名

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q46へは、企業側のメリットとインターン側のメリットについて各企業から回答があった。企業側のメリットは、2か国分や2倍の成果が得られたことや、同時に異なる視点での意見が得られたこと、比較対象が得られたことなどが挙げられた。また、インターン側のメリットについては、インターン同士での協力が進んだことや疎外感を減らせたことなどが挙げられた。

Q46. 2名を受け入れたことのメリットを教えてください。（自由記述）（n=28）

【企業側のメリット】

- 成果物が2倍になった。それぞれ異なる国のご出身だったので、自分が知らない現地の情報や考え方を知ることができた。
- 1名は大学4年生、もう1名は社会人を5年ほど経験しており、新卒クラスの20代前半、主任・係長クラスの30代前半の意見やアドバイスを貰えたことは非常にメリットがありました。
- 同じことに対して違う意見を得られた。
- 2カ国のマーケティングができた。インターンにとって安心感があったようだ。
- 依頼可能な業務量が増やせたこと。
- 2名のインターン受け入れ期間が連続していた為、業務の引継ぎができた。生徒や講師がインターンシップの方の国について学ぶ良い機会になった。（受入企業：英語教育学習塾）
- 異なる文化に多くふれあえた。
- 異なる文化圏から受け入れられた。
- 多様な価値観を知ることができた。
- 多様性を得た。
- 意欲的な行動パターンが比較できた。
- 比較対象がいることで違いが分かった。
- 会社の経験値が増えた。
- 社内の活性化。
- それぞれに担当者をつけられた。
- こちらの体制として2名までなら充分なサポートが可能と分かった。
- 総合演習の質が高かった。

【インターン側のメリット】

- 1人だと煮詰まるので、2人受け入れてよかった。
- 2人で相談しながら活動できていた。
- ２名で協力してコミュニケーションをとっていた。
- インターン同士のコミュニケーションによる業務フォロー。
- インターンの疎外感をなくすことができた。
- 2名で一緒に活動することで孤立がない。
- インターンの不安が減少したと思う。
- インターン同士が互いに協力し合いインターンシップが円滑に進んだ。
- 違う国からの2名で、宗教も考え方も違うので初めはどうなるかと心配したが、最後はお互いが仲良くなり、非常にインターンに来て良かったと思えるようになった。
- 不足点の補完、連携した共同作業が可能、共同生活。

【その他】

- とくになし。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q47へは、企業の負担が大きくなったことをデメリットとする回答が多かった。経費が掛かったことのほか、人的コストについてデメリットとする企業が多い一方、インターン2名の目標が異なり対応が大変だったなどの声もあった。また、インターンも2名で活動することで能力差が明らかになったことをデメリットとして挙げた企業や、互いに頼ったり甘えたりしてしまう点をデメリットとする企業もあった。

Q47. 2名を受け入れたことのデメリットを教えてください。（自由記述）（n=28）

【企業の負担に関するデメリット】

- コスト（稼働と実際の費用）。
- 経費がかかった。
- マネジメント、管理コストが増えたこと。
- 多くの時間が割かれた。
- 別々の受入だったので説明が二度手間になってしまった。
- 特にありませんが、あえて言うなら一人は日本語が流暢で、もう一人は英語又はタイ語でのサポートが必要だったので、その点若干手間はかかりました。
- 入国時期が異なるだけでなく、言語、スキル、文化が違うため、それぞれに合った対応をすることがマンパワーの面で難しかった。
- 業務遂行に時間のズレがあり手間取った。
- お互いの目標が違うので希望にこたえるのが大変だった。
- 事務的な手続きに時間を要した。
- 作業用PCの確保。
- しいていえば同じに問題が発生したときに大変なくらい。
- 役割分担を工夫する必要がある

【インターンの取組状況に関するデメリット】

- おしゃべりが多かった。
- 頼ってしまうところが逆にデメリット。
- 取り組みに甘えが出た。
- 能力差が露呈。はやり人によるなと痛感。

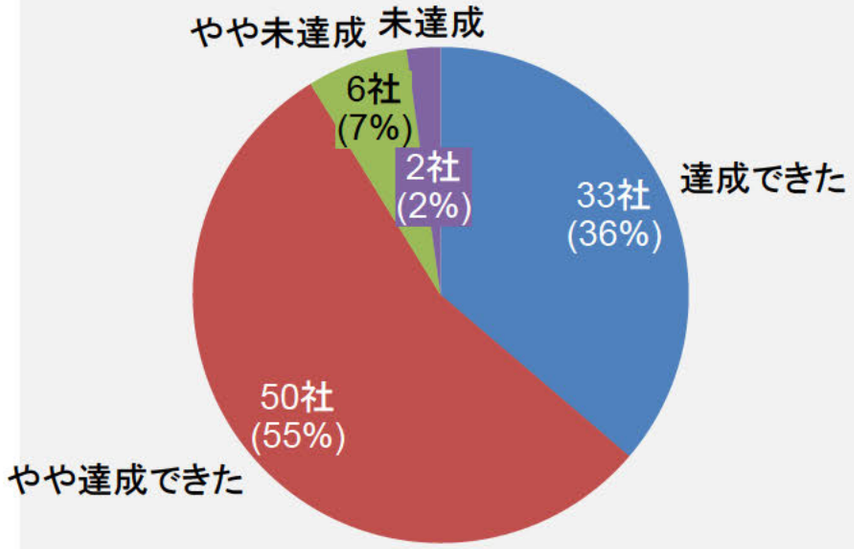
【その他】

- 資料をきちんと準備しておけば、もう1名～2名の受け入れが可能であった気がします。
- 特になし（10社）

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

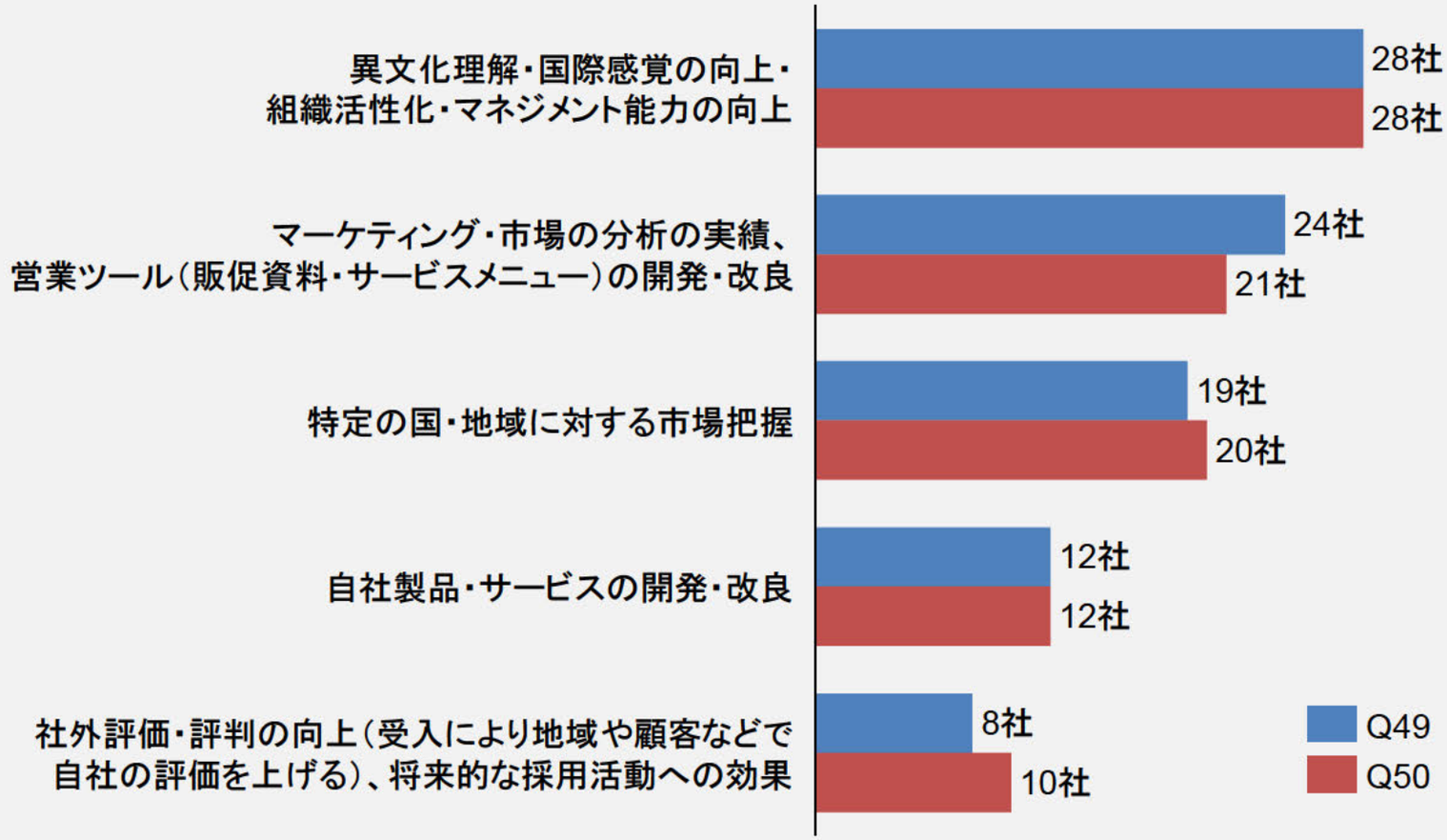
Q48～50では、受入企業の目標や成果とその達成状況について調査した。91社のうち、91%にあたる83社が本事業での目的は「達成できた」又は「やや達成できた」と回答した。各社が受入前に目指していた主な成果としては、「異文化理解・国際感覚の向上等」と回答した企業が28社、「マーケティング・市場分析の実績等」と回答した企業が24社で、結果としてこれらの目標を達成したと回答した企業はそれぞれ28社と21社であった。

Q48. 本事業での目的は達成できましたか。（単数選択）（n=91）



Q49.　インターン受け入れに当たって、計画当初に目指した主な成果はどのようなものでしたか？（単数選択）（n=91）

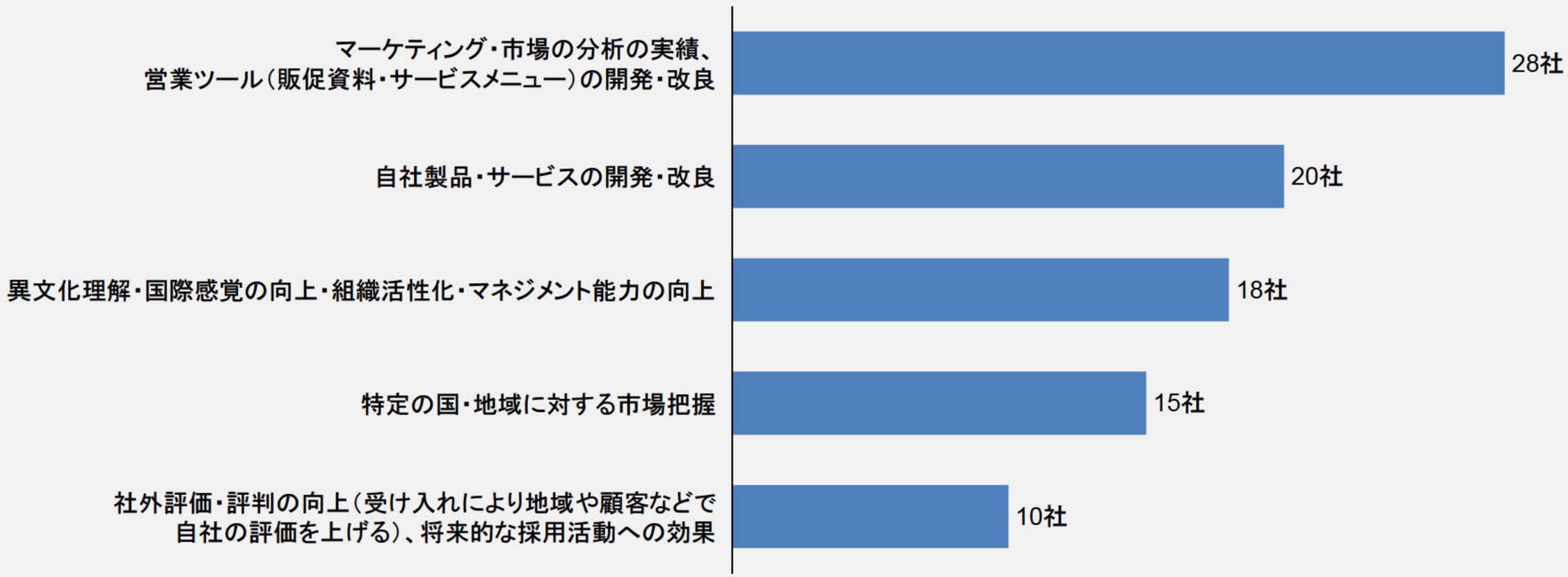
Q50.インターン受け入れの結果、実際に達成できた主な成果はどのようなものでしたか？（単数選択）（n=91）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q51では、次回以降にインターンを受け入れる場合に達成したい成果を尋ねたところ、マーケティング・市場の分析や営業ツールの開発・改良を達成したいとする企業が28社と最多であった。次いで、自社製品・サービスの開発・改良が20社など、各社とも、様々な目的をもって本事業に参画していることが伺える。なお、Q49と50の回答とは異なる成果を挙げている企業もあった。

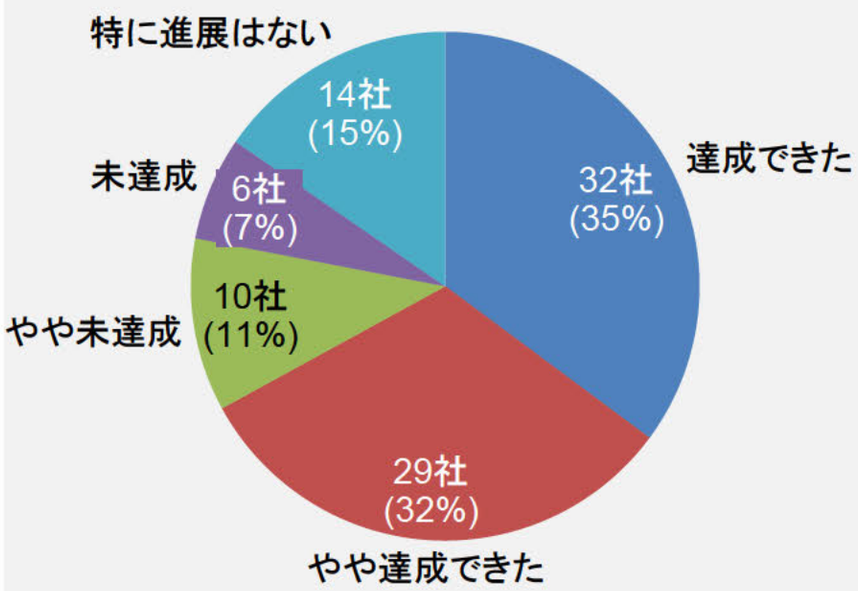
Q51.　次回以降、インターンを受け入れる場合、目指したい主な成果はどのようなものですか？（単数選択）（n=91）



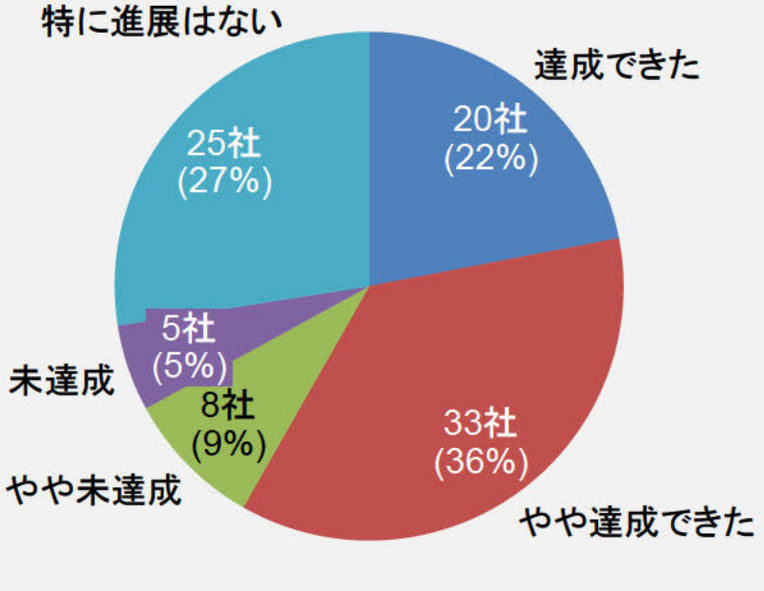
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q52～54は、本事業において設定している3つの目標（p.81調査方針参照）の各社による達成状況を調査した。「外国人材の採用・活用の促進」については67%の61社が「達成できた」又は「やや達成できた」と回答した。一方、「インターンシップを通じて得られた知見や情報を活用した海外展開」及び「高度外国人材を採用しやすいような体制の構築」では、同様の回答の比率は少し低くなり、それぞれ53社（58%）、49社（53%）であったが、全て半数以上の企業が「達成できた」又は「やや達成できた」と回答した。

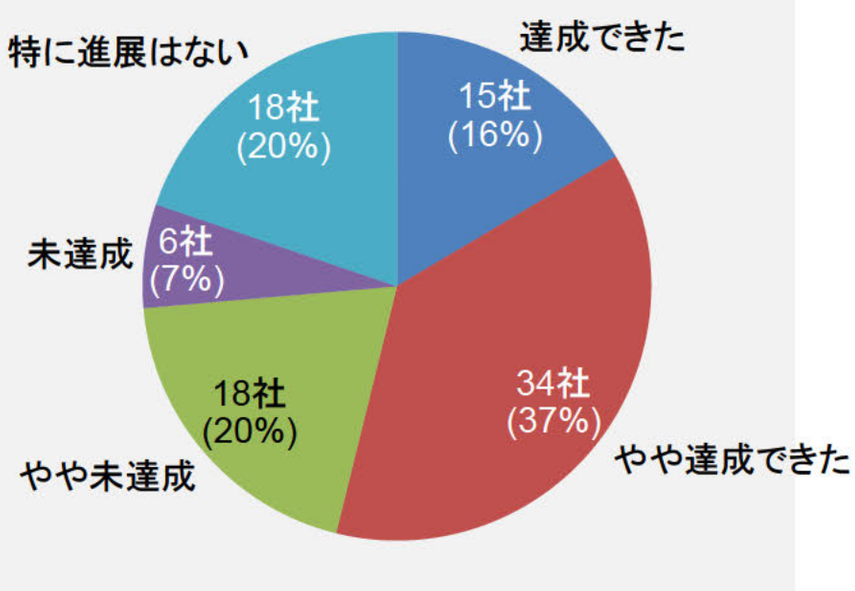
Q52.「外国人材の採用・活用の促進」の達成状況を教えてください。
（検討を開始されたということでも可）
（単数選択）（n=91）



Q53.「インターンシップを通じて得られた知見や情報を活用した海外展開（オンラインインターンシップの場合はDXの導入による海外展開促進）」の達成状況を教えてください。
（検討を開始されたということでも可）
（単数選択）（n=91）



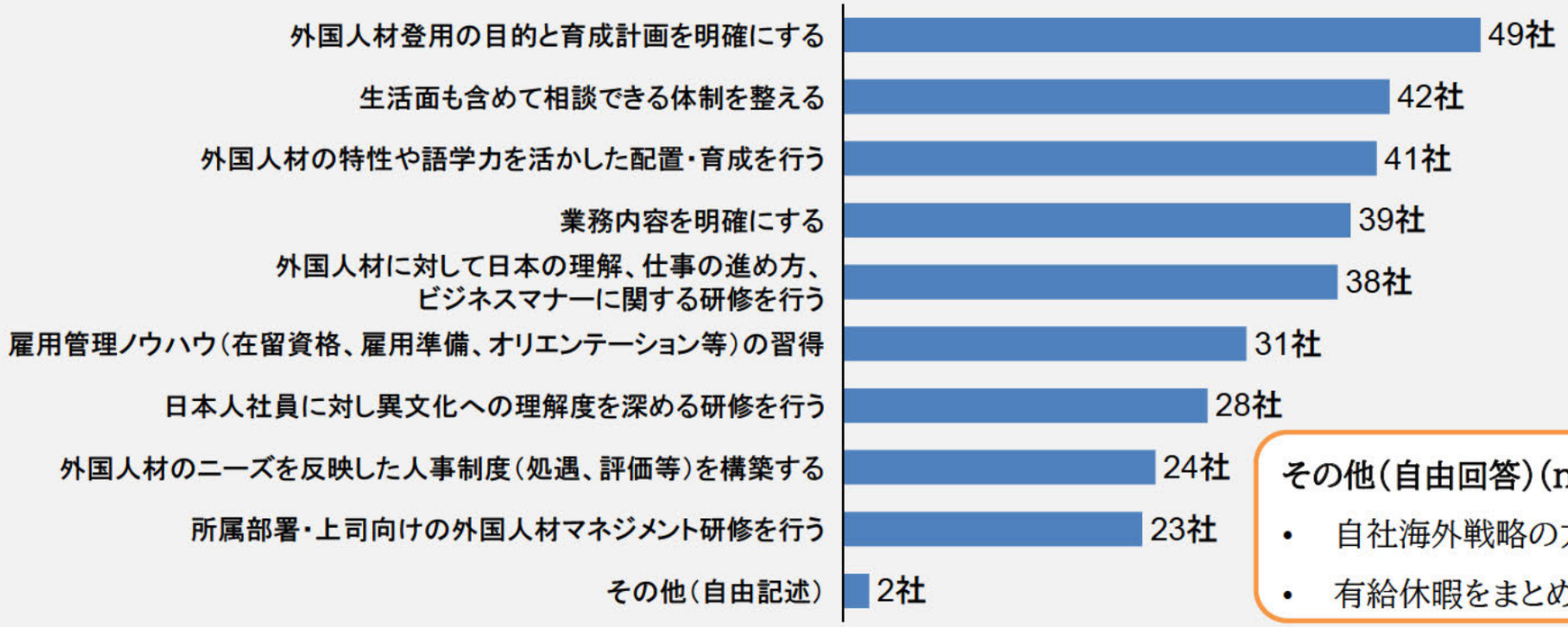
Q54.「高度外国人材を採用しやすいような体制の構築（社内体制、社外・海外大学等との連携等）」の達成状況を教えてください。
（検討を開始されたということでも可）
（単数選択）（n=91）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

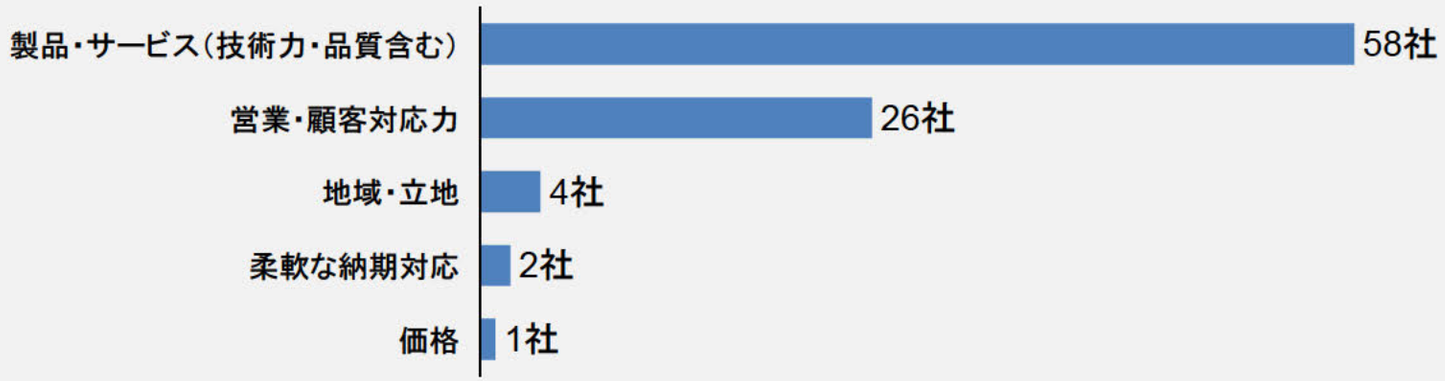
Q55と56では、各企業の今後の外国人材受入・活用やグローバルビジネス展開における意見を調査した。「外国人材登用の目的と育成計画を明確にする」との回答が49社からあり最も多く、次いで相談体制の構築が42社、外国人材の特性・語学力を活かした配置・育成が41社、業務内容の明確化が39社、外国人材に対する研修の実施が38社であった。その他回答の中には「有給休暇を40日取得できるような体制づくり」との回答もあった。グローバルビジネスの観点では、58社が自社の製品やサービスを強化したいと回答、次いで営業・顧客対応力を26社が挙げた。

Q55.今後外国人材を受け入れ・活用するために会社が取り組むべき項目を選択してください。（複数選択）（n=91）



その他（自由回答）（n=2）
- 自社海外戦略の方向性を明確化する
- 有給休暇をまとめて40日取得できる体制づくり

Q56.グローバルビジネスの観点において、今後強化していきたい自社の強みは何ですか？（単数選択）（n=91）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q57では、インターンを指導する担当者に必要な資質・能力を調査した。57社が「背景、目的、手順などをわかりやすく説明する能力」が必要であると回答し、次いで「インターンの意見や提案を引き出す能力」が必要と回答した企業が51社であった。文化的背景の異なる外国人材インターンに対して物事を伝える力と、インターンから意見を聞く力の双方がより重要と捉えられている結果となったが、「異文化理解力」は46社から、「チームマネジメント力」は42社から必要との回答があり、これらも重要な能力であると示唆される。

Q57.インターンを指導するにあたり必要と考えられる資質・能力について選択してください。（複数選択）（n=91）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q58では、インターンの指導担当社員にどのような負担が発生したかを尋ねた。今回インターンの指導を行った担当者には、実際に日々インターンに指導を出したり、業務の進捗を確認したりするための時間コストや資料作りという負担があったほか、外国人材であり文化的背景や慣習が異なることを理由とする遅刻や勤務態度に対する指導などの負担が生じたと捉えている企業もあった。コミュニケーションに対する配慮や体制づくりを負担とした企業や、来日したインターンの生活をサポートする点の負担があったとした企業もある。

Q58.インターン指導担当者にはどのような負担が発生しましたか？（n=91）

【インターン指導の時間・業務に関する負担】
- 時間（指導、説明、レビュー、フィードバック、打合せ等の時間）（15社）。
- 時間と手間。
- 業務の方向性がずれないようにフィーバックの時間を毎日取ること。作業内容の明確化とスケジュール設計。上記内容のコンテンツ化（スプレットシートやパワポなど）。
- 労力（指導、教育、コミュニケーションツール）
- 指導時間および他メンバーとの接点づくり。
- 業務の進捗確認を、日本人より頻繁に行う必要があった。
- 進捗状況の確認（理解度の確認）
- 毎日の朝礼、依頼内容に関する資料作り
- 資料作成等。
- 資料準備、分かり易い日本語の選択。
- 業務指導をより細かくレクチャーする。
- 業務内容、業務指示を明確化すること
- 計画作成と進捗管理、メンターとしての気配り
- 育成、管理面での負担。
- 新人の社員教育にかかわる業務
- 通常業務が遅延した、又は遂行量が減った（7社）。
- 通常業務に加えての業務負担（2社）。
- 日常業務（システム開発）以外にインターンに理解してもらう為の資料作りと説明に時間を要した。
- 担当する仕事と同時に進行するため所要時間がかかった。
- 業務時間をインターンの指導に振り分けた。
- 細かな指示とチェックが必要となり、通常遂行業務が滞り、残業が増えた（2社）。
- 勤務時間外の対応があった。
- インターンの受入時期が遅れたため、繁忙期と重なり、インターン指導がタイムリーになかなかできなかった。
- 連絡がつかない、業務が終わらないため、コミュニケーションと教育に時間を要した。
- 外国人インターンが遂行可能な業務内容を考えたり、学習塾文化のない国出身であったこともあり、理解してもらうために時間がかかった。また、遅刻や勤務中のスマホの扱い等、注意すべき点も多く、文化の違いなのか、本人の性格なのか判断が難しく、伝え方や関わり方が難しかった。（受入企業：英語教育学習塾）

【インターン受入準備に関する負担】
- 指導にあたるための準備や同行によって時間がとられた。
- 具体的な指示のドキュメントを制作する時間。
- 受け入れ準備
- 受入にかかる事務局とのやり取り、宿泊施設準備、毎回の切符購入、清算などの庶務全般と、組織全体における目配り
- 事前準備と事後まとめの作成

【コミュニケーションにおける負担】
- インターンの日本語ヒアリング能力がそれほど高くなかったため、理解できるように伝える時間がかかった。
- コミュニケーション、特に専門用語等（香り、味覚等の感覚）。
- なるべく柔軟にコミュニケーションを取れる体制。
- 日本語でのコミュニケーション（会話）。
- 英語によるコミュニケーション（2社）。
- 言語の問題による意思疎通の難しさ。
- 言語理解のための不安

【文化等の違いを背景とする負担】
- 異文化に対する理解に時間がかかりました。
- インターンからのホウレンソウがないこと。

【対面受入に関する負担】
- インターンを生活面でもサポートする必要があった。
- 休日もインターンに対応する必要があった。
- 業務以外の生活の世話。
- 移動手段の準備（自転車の貸し出し、送迎）、通訳の用意（ベトナム人社員の時間調整）、インターンからの要望（業務以外の事柄）への対応。
- リモート勤務の休止。

【インターンシップ実施期間等の変更に伴う負担】
- インターンシップ実施期間の短縮に伴い、インターンシップ計画の簡略をした。
- 対面からオンラインに切り替わることになり、計画を変更する作業が発生した

【その他】
- 精神的な疲労。
- 特になし（21社）

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q59では、外国人材採用における各社の課題を調査した。外国人材の雇用や在留資格取得申請に係るノウハウを得ることや、まずは雇用をしてその実績を作ることなど、雇用準備や体制について多くの回答があった。また、組織のマネジメント体制や受入体制の強化を課題とする企業もいた。さらに、人事制度を外国人材のニーズにあって整備することや、来日して働く外国人材の住居を用意することなど、具体的なステップの回答もあったほか、外国人材に担当してもらう業務を明確にするという点を回答した企業もあった。

Q59.外国人採用に向けた貴社の課題は何ですか？（n=91）(1/2)

【雇用準備・体制】
- ビザ等、雇用管理のノウハウを得ること
- ビザ取得の対応など、エージェントさんとの関わり（誰と、どう進めればよいのか？外国人採用において、相談役となってくれるのかどうか？）
- ビザの取得や採用説明会は様々な方法で進めたいと思うが、よりスムーズにできるようになると良い
- まずは雇用すること
- 実績づくり
- 募集を公知すること
- 理工系人材の応募
- 外国人採用におけるネットワークの拡充
- 進出国以外とのネットワークが弱い
- 必要な技術を持った外国人との接点
- 外国人枠の拡大
- 日本茶に興味のある外国人をどのように採用するか
- 間接部門の受入基盤
- 身元保証などについて

【組織・マネジメント体制】
- マネジメント体制の強化
- マネジメント力
- 指示とチェックを中心としたテクニカルディレクターの配置が必要
- 受け入れる体制が整っていない
- 受入体制、フローの確定（3社）
- よりシステマティックな組織を構築する
- 社内の書類などまだまだ日本語しかないものも多く、またメンタル的なサポートなど日本語以外で出来ていないため、日本語を話せる外国人スタッフでも英語でサポートが受けられる環境を整えていく必要がある

【待遇】
- 外国人材のニーズを反映した人事制度（処遇、評価等）の構築
- 人事評価基準の設定
- 評価制度の確立
- 採用・人事制度が未確立であることと、言語の壁（特に技術部門）
- 給与
- 通貨差を理解した時給設定（欧米は高い、円安、元々の時給の差）
- 日本での生活シミュレーションを行い賃金を決定する
- 雇用者の住宅の確保
- 住居の用意
- 長く続けてもらえるようにする

【業務内容の整理、準備】
- 外国人材の業務内容を整理、調整すること
- 業務内容、業務指示の明確化
- 当該外国人向けのタスクの設定
- 外国人人材に行ってもらう業務の確立と雇用条件などの整備
- 外国人が行うことのできる業務の幅が狭い点

【育成・教育制度】
- 技術指導体制
- 教育
- 育成、研修制度
- 研修のライブラリー化
- 日本での社会人経験がある人のみの採用だったため、ゼロから育てる経験をしてきておらずノウハウがない

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

さらに、日本語が母語ではない外国人材とどのようにコミュニケーションを取るのかが課題と回答した企業もある。また、中堅・中小企業に対しては外国人材採用サービスの利用コストが高い点も課題として挙げられた。その他、顧客側の不安払拭という回答もあり、企業単位の取組だけではなく業界全体、社会全体で外国人材を受け入れる姿勢や意識の醸成が必要である点も指摘されている。なお、一部企業は既に外国人材採用実績があるなど、課題は特になしと回答した。

Q59.外国人採用に向けた貴社の課題は何ですか？（n=91）（2/2）

【コミュニケーション】
- コミュニケーション
- ソフトウェアの外国語対応
- 専門用語などの言語対応
- 英語力（2社）
- 語学力、多言語対応（5社）
- 今後の海外展開に伴う外国人雇用を行った際の社内でのコミュニケーション等の確認
- 日本人スタッフの交流を力にもっと入れる必要がある

【リソース】
- リソース、費用
- 業務量の増加

【コスト】
- 人材にかかるコスト
- 沢山採用したいが、通常の採用だと金額がかなり高額になってしまうこと
- 中小規模事業所に対して人材紹介料が高い

【自社ビジネスの強化】
- 海外との取引において実際に売上（入金）につなげられるノウハウを持つこと
- 自社海外戦略をより明確化すること
- 明確な事業計画
- 自社販路の拡張
- 経験豊富な外国人講師の獲得
- 外国人人材を活用してオフシェア拠点をいかに確立するか

【異文化理解の促進】
- 異文化理解と協働の姿勢
- 制度の理解、異文化の理解
- 言葉や日本の文化が課題
- 日本企業におけるビジネス上の習慣、暗黙のルール等の説明

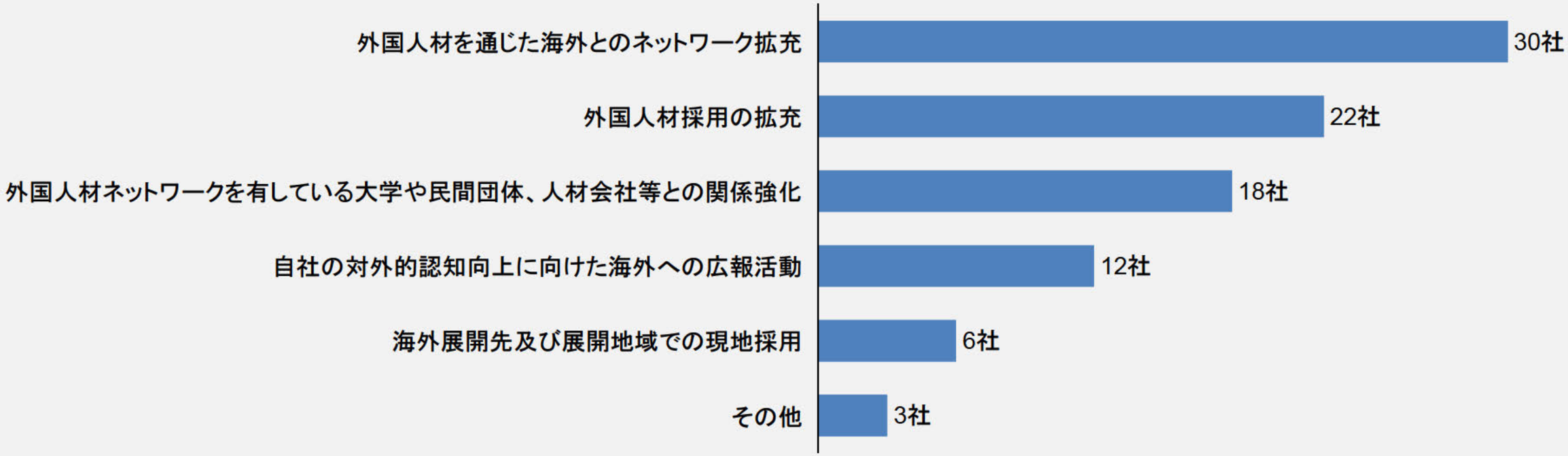
【外国人材に対する要望】
- 弊社業務の理解度
- 日本語の理解力を高めていただきたい
- 日本的慣習に対する外国人の理解

【その他】
- 外国籍の社員が担当することへの、顧客の不安払拭
- 所属業界の仕事に対する先入観
- 会社知名度
- 外国人採用による社内IT力の強化
- 優秀な人材がなかなか見つからない
- 特になし（14社）

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q60では、今回のインターン受入の成果を踏まえ、各社が取り組むべきと考える事項について調査した。特に、「外国人材を通じた海外とのネットワーク拡充」と回答した企業が30社で最も多く、次いで「外国人材採用の拡充」が22社、「外国人材ネットワークとの関係強化」が18社、「海外への広報活動」が12社の回答を得た。他方、海外現地での採用を行うべきという回答は少なかった。

Q60.成果を踏まえて今後対外的に会社が最も取り組むべきと考える項目について選択してください。（単数選択）（n=91）



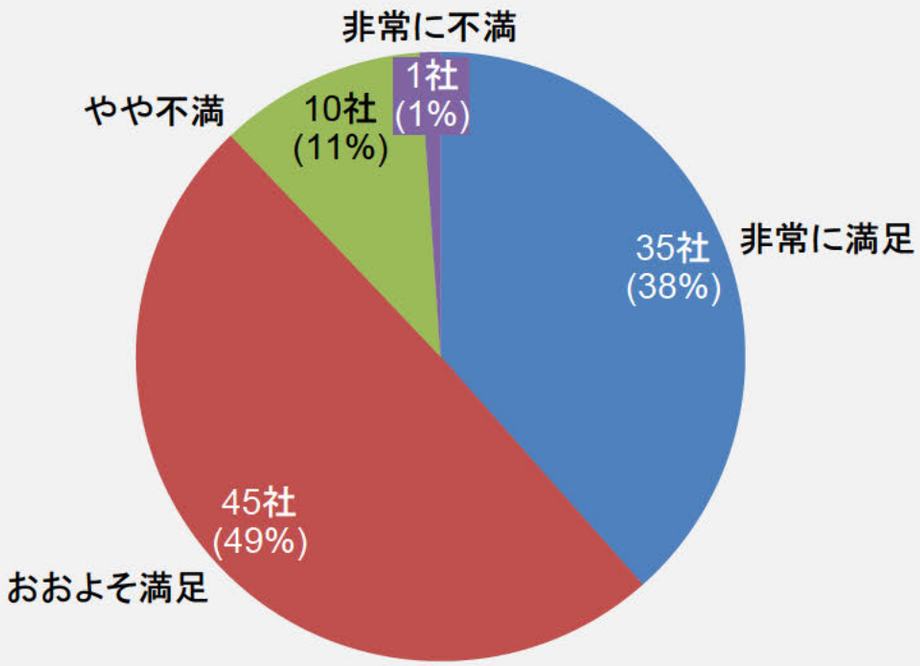
その他（自由回答）（n=3）

- 自社海外戦略をより明確にすること
- 未定
- 特になし

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q61では、本事業でのインターンシップの満足度を調査した。全体の87%にあたる80社が「非常に満足」又は「おおよそ満足」と回答しており、「やや不満」と回答した企業は10社、「非常に不満」との回答は1社となった。それぞれの満足度を選択した理由について、まず「やや不満」と「非常に不満」の場合を見ると、希望していた人材とのマッチングが叶わなかったことや、インターンシップ制度であるために活動内容に制限があること、実施期間の短さ、事務局の対応などの回答が集まった。

Q61.本インターンシップの満足度を教えてください。（単数選択）（n=91）



Q62.この満足度を選択した理由を教えてください。（自由記述）（n=91）（1/3）

【やや不満】（n=10）
- ベトナムの外食事情についての情報収集を求めていたが、インターンにはあまり知識や考えが無いようだった。短期間だったせいか、観光気分に感じられた。本人がなぜ本事業に参加したのかよくわからなかった。
- インターンのマッチングに関して不満がある。業界に興味がなさ過ぎた。
- 進学をすでに決めたインターンを受け入れたため、入社につながらなかった。
- 予定通りの内容でインターンが実施できなかった。
- インターンシップ制度ゆえの制約（業務指示不可、限られた期間）があった。
- 業務内容に制限がある。また、優秀な方だったが、その業務をできる適性がある人材ではなかったため、こちらが本来実施したかったことが実施できなかった。
- 実施期間が短すぎて、インターンと弊社の能力を100%発揮できなかった。
- インターンシップの実施開始日や来日の日が直前で決まったり、6週間の予定が3週間に変更になった。
- 国柄か、本人の特性か、体調管理・マナー・時間意識に関して不安（甘え・ルーズさ）を覚えた。日本人のインターンであれば、起こらないであろうと感じた。また、インターン開始までの事務局の応対も、大幅にスケジュールのズレが生じたり、その経過連絡が無かったりしたことに、不満が残った。
- 事務局側による受入企業への連絡体制に不備があった。

【非常に不満】（n=1）
- 業務が終わらなかった。インターンに連絡がつかないことがあった。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

続いて、「非常に満足」と回答した企業35社の理由を見ると、外国人材の採用に向けた経験ができたことやネットワークが作れたことや、優秀な人材をインターンとして受け入れられたことを理由として挙げている企業が多かった。また、各1社ではあるが、企業側の負担が無いことや、成果発表会の実施が満足度につながったと回答した企業もあった。

Q62.この満足度を選択した理由を教えてください。（自由記述）（n=91）（2/3）

【非常に満足】（n=35）

＜インターンの能力・働きに関連する理由＞
- インターン生が非常に優秀だった。
- インターン生の人柄も良く、業務遂行力も非常にレベルが高く、ほぼ目的を達成できた。また主管部との協力体制で進められたことが社内的には良い意味で刺激されるものがあったように感じた。
- インターン生の能力、人柄が良かった。
- コミュニケーションが良好で、本人の意欲的な行動がみられた。
- 我々が求める知見を持ったインターンを受け入れられた。
- 技術に対する知見の能力が高かった。
- 業務能力、日本語能力。
- 本人へ伝えたい内容が伝わらなかったこともなく、本人も業務をきちんと遂行しトラブルも特になかった。非常に真面目な人物であった。真面目な人が一番なため、非常に満足している。
- 優秀でポジティブ思考の人材を紹介してもらえた。
- 優秀な人材に巡り合えた。（2社）
- 非常に優秀な人材確保の機会を頂いた。
- 非常に良い方に来ていただくことが出来た。また、ビジネスにおける感度も非常に良い方で、私たちが行いたい事業に対するマーケティングだけではなく実際に販売することまでできた。こういった結果が残ったことと、今後もインターンとの繋がりを大切にすることでインドでのビジネスの足掛かりができたことが非常に良かった。
- 今回タイ人2名を受け入れたが、世代が違う二人の意見を聞くことが出来た点がよかった。
- 実際に海外インターン生と業務遂行できた。

＜企業での受入成果に関連する理由＞
- 対象となる海外国のリサーチが非常に進んだ。
- 予め想定していた以上の成果があった。
- 目的とした内容がマッチして十分な成果が得られた。
- 社内メンバーと多くのコミュニケーション取れ、異文化理解が深まった。
- 社内活性化につながった。
- 成果もあり、企業文化の醸成にも効果的であった。

＜外国人材採用に関連する理由＞
- 今回のインターンシップに参加するまで、海外人材を受け入れることは一部の大企業や海外展開をしている企業のみが行えるものだと思っていた（ハードルが高いイメージ）が、その考え方が代わり海外人材の採用が現実的なものになった。日本語でのコミュニケーションを考えると至らない点はもちろんあるが、それ以外は非常に優秀な人材だった。優秀な人材確保の一つの選択肢として、海外人材の採用があるということが理解できた。海外人材向けのマネジメントを学ぶことで、自社内のマネジメント能力のレベルも上がった。
- これまでネットワークがない国のインターン生を無償で紹介して頂けた。
- 海外と日本の人材の差がわかった。言葉の問題を感じなかった。
- 海外人材の紹介はありがたかった。
- 外国人の視点によりコミュニケーションの理解の難しさが分かった。外国人の支援の経験を積んだ。

＜成果発表会に関連する理由＞
- インターンを行った他社の発表も共有されたため。

＜全般的な理由＞
- はじめてのインターンシップであり手探りであったが、トラブルなく形に残るものができた。
- 外国人材を受け入れたことで社内スタッフの勉強にもなった。
- 今までにない経験ができた。
- 有意義な時間を共有できた。
- 良い時間となった。

＜その他＞
- 双方ともに良好な関係を築けた。
- 手続き等スムーズな対応であった。
- 負担がなかった。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

さらに、「おおよそ満足」と回答した企業の理由では、インターンの能力や働きについてはポジティブな理由のみが挙げられており、評価されている。一方、事務局の対応にはポジティブとネガティブ双方、実施時期と活動時間にはネガティブな理由のみの回答となった。

Q62.この満足度を選択した理由を教えてください。（自由記述）（n=91）（3/3）

【おおよそ満足】（n=45）

＜インターンの能力・働きに関連する理由＞

（ポジティブ）
- 優秀な人材を出会うことができた（5社）。
- 自社の社風に合った方に来ていただいた。
- 日本語能力の高いインターンと会うことができた。
- 日本語能力の高いインターンでコミュニケーションが出来た。
- 前向きで元気な人材と出会うことができた。
- 人柄・能力ともに素晴らしいインターンが来てくれ、業務に良い影響が出た。インターンシップ後に部内で実施したアンケートでは90％以上が「またインターンを受け入れたい」と回答した。
- 思っていたよりもインターンの意識が高かった。
- 初めての受入であったが、インターンがよく対応してくださった。また、異文化交流という言う点では、生徒や講師（受入企業の顧客や社員）にとって良い経験になった。
- 優秀な人材採用につながった。

＜企業での受入成果に関連する理由＞

（ポジティブ）
- インターン受入の目的を達成することができた。
- インターンともコミュニケーションが円滑に行え、当初目的が達成できた。
- 当初期待した結果は得られた。（4社）
- 初めての受入での経験値を得た。
- インターン生を受け入れることにより、社内活性化が図られた。
- 時間的な負担はあったものの、ある程度の成果が得られた。
- 活動を通じて成果と課題の洗い出しに取り組めた。

（ネガティブ）
- ある程度の成果が達成されたが、期待されたアウトプットにつながらなかった。

＜外国人材採用に関連する理由＞

（ポジティブ）
- 異文化の海外人材と仕事の取り組み方や進め方が国内人材と違うとを理解できた。
- 育成カリキュラムなどの検証ができた。
- 外国人材のポテンシャルを把握できた。
- 人材と交流するキッカケをいただけた。

＜事務局の対応に関連する理由＞

（ポジティブ）
- インターンシップはリモートだったが事務局が間にたって臨機応変にサポートしてくれた。
- スムーズに受入を進めることができた。経費面での敏速な対応があった。

（ネガティブ）
- インターン本人には問題がなく満足しているが、事務手続きが煩雑で満足度が下がった。
- 事務局とインターンの連携がとれていなかった。
- 日程や情報共有で、事務局とインターンの間にコミュニケーション不足があった。
- 事務局の連絡が少なく、進捗が把握しにくかった。
- インターンのスケジュールをもう少し厳しく管理してほしかった。

＜実施時期・活動時間に関連する理由＞

（ネガティブ）
- 人材のスキルには大きな問題はなく業務遂行自体には問題ないが、期間の短さと卒業が2年先のため、直接的雇用には繋がらなかった。
- 総勤務時間の制約により1日の勤務時間が短いため、成果を求めることが難しかった。
- 非常に優秀だったが、やはりもう少し期間が長い方が良かった。

＜全般的な理由＞

（ポジティブ）
- いくつの問題があったが、上手く受け入れてインターンシップを実施した。

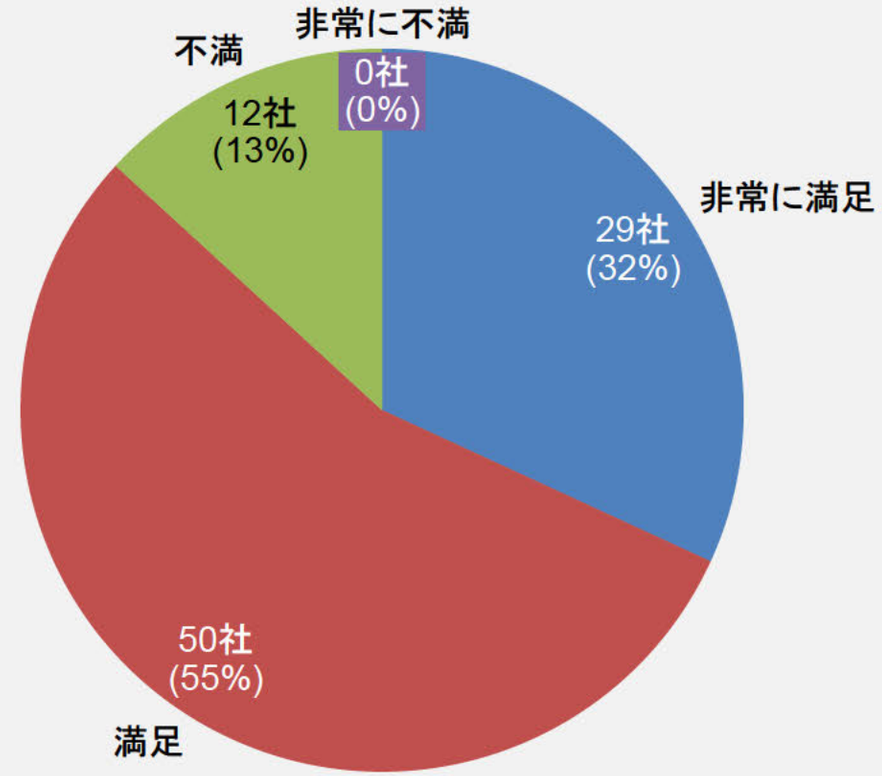
（ネガティブ）
- 初めてのインターンの受入で外国人材からの視点で意見をもらい、会社として視野が広がったのは良かったが外国人材が実施できる業務や役割が少なく、難しさを感じた。

＜その他＞（詳細不明含む）
- 急遽変更をせざるをえない場面があったが、しっかり対応してくれた。
- 説明がわかりやすかった。
- 可もなく不可もない。
- なし。
- 記載なし。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q63と64では、受入担当部署・担当者以外の社員の満足度や、他部署・担当者を巻き込む工夫を調査した。他部署や担当者以外の社員の満足度は、87％にあたる79社で「非常に満足」又は「満足」と高かった。一方、「不満」と回答した企業は12社あった。

Q63.インターン受け入れ部署・担当者以外の社員・他部署の方々の満足度はいかがでしたか。（単数選択）（n＝91）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q64では、各社がどのように他部署や全社員を巻き込む工夫をしたか尋ねた。参加した企業の中には、インターンシップ対応チームを作ったり、複数の部署を体験できるように予め機会を設けるなど、受入体制を工夫して担当者以外の社員や他部署の社員を巻き込んでいた。また、社内全体への挨拶や情報共有を行ったと回答した企業もいる。社員寮に入寮したインターンもいた。

Q64.担当者以外の社員・他部署の社員を巻き込むためにした工夫を教えてください。（n=91）（1/2）

【受入体制の工夫】
- 兼任でインターン生対応チームを編成した（4人）
- メンターを設置した（メンターが積極的に他の社員との交流を活発に行ってくれた）
- 小さい会社なので全員が担当した。
- 期間を決め各部署持ち回りで担当した
- 日毎に各自インターンの方と一緒に業務に取り組む機会を設ける
- 業務内容の習熟の為、各部署社員に教育の場を与え、飲食を共にする機会を作った
- 各部署で研修を実施など
- 様々な部署を体験してもらった。休日に観光案内や食事の席を設けた。
- 弊社で企画しているイベント業務に部署関係なく参加していただいたこと
- ミーティングへの参加、各部署見学
- 他部署見学時間を設けた
- 全社員が集まる会議へ参加してもらったり、実際の教室へ行くことで現場の社員と関わる機会を設けました。
- 想定部署への相談、面接への同席など
- 弊社の業務フローの中で他部署との接することがあり、事前にスケジュール作成を行った
- 部署全体に対する事前打合せの設定、インターンが興味を持った他部署管理職との面談設定
- 毎月曜日の勉強会

【挨拶、社内全体への周知】
- 挨拶
- 朝の挨拶
- 挨拶回り、社長含め趣旨説明、社内全員に周知
- 案内を行い周知を図った。社内の成果報告会は参加を依頼した。
- 開始前に全社員への周知、インターン生の紹介、中間レビュー・最終報告会の参加案内、報告書の共有
- 受け入れに関する要件や依頼したい内容を整理して伝えた
- 全社紹介、懇親会
- 全体での目標共有／ふりかえり会議を定期開催
- 他部署メンバーへの紹介
- それぞれに周知する
- 最終報告会の共有
- インターンにも協力頂いて、インタビューや研修中の様子などをまとめて社内報で紹介した

【インターンへのコミュニケーション奨励】
- 積極的にコミュニケーションを図ること
- 積極的に日本語の会話をさせた
- インターンシップの目標の共有。インターン生と他の職員のコミュニケーションをとる機会を作った。
- 日常会話の中で、スマホの翻訳機能を使って異文化知識の知見を広め合う

【情報共有】
- 交流・活動の情報共有（4社）
- 担当者から週次で進捗を上司へ報告
- 日誌や活動内容の情報共有

【勤務環境】
- 同じフロアでの勤務
- インターンと一緒に作業する。業務外でのランチミーティングなどを通しての交流。

【社員寮への入居】
- 社員寮（シェアハウス）への入寮

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

対面で受け入れた企業の中には、食事の機会や休日を活用して交流を行ったと回答した企業もいた。中には社員旅行に参加したインターンもいる。インターンと全社員がいつでも交流できるようなオンラインフォーラムを作ったり、オンラインの懇親会を行ったりと、対面ではなくても交流の機会を作ろうと工夫した企業もあった。なお、一部企業ではこういった工夫ができなかった場合もある。

Q64.担当者以外の社員・他部署の社員を巻き込むためにした工夫を教えてください。（n=91）（2/2）

【食事の機会の活用】
- ランチの時間を一緒に過ごした。（4社）
- 積極的に食事に誘った。
- 毎日一緒に昼食。週2回夜外食、週1回休日を一緒に過ごす（街の案内）
- 顔合わせ、ランチ
- 食事会、他部署のイベントに参加
- 食事会の実施、工場巡視への同行
- 昼食会や社員旅行などの社内イベントへの参加
- 昼食休憩時や就業後のコミュニケーション
- ご飯を食べに行ったり、会議に参加してもらったり、成果と課題の報告をしていただく事で関わり増え巻き込んでいく事が出来たと思う

【オンラインツールの活用】
- 全社員が見れるインターン用のスラックチャンネルを開設。そこで積極的にコミュニケーションをとるように事前に社員に周知した。インターン生が投稿するごとに会社全体的にリアクションするような取り組みができた
- SNSグループなど
- オンラインミーティングへの同席
- 全体でのオンライン懇親会を実施し、インターンとの接点を作った。

【交流会の開催】
- 食事会、懇親会、交流会、歓迎会の実施。（7社、複数回行った企業もあり）
- 日々の雑談の場へ参加いただく
- 歓迎会等の食事会を開催したり、本人とのコミュニケーションを積極的に図るような課題の提出を行った

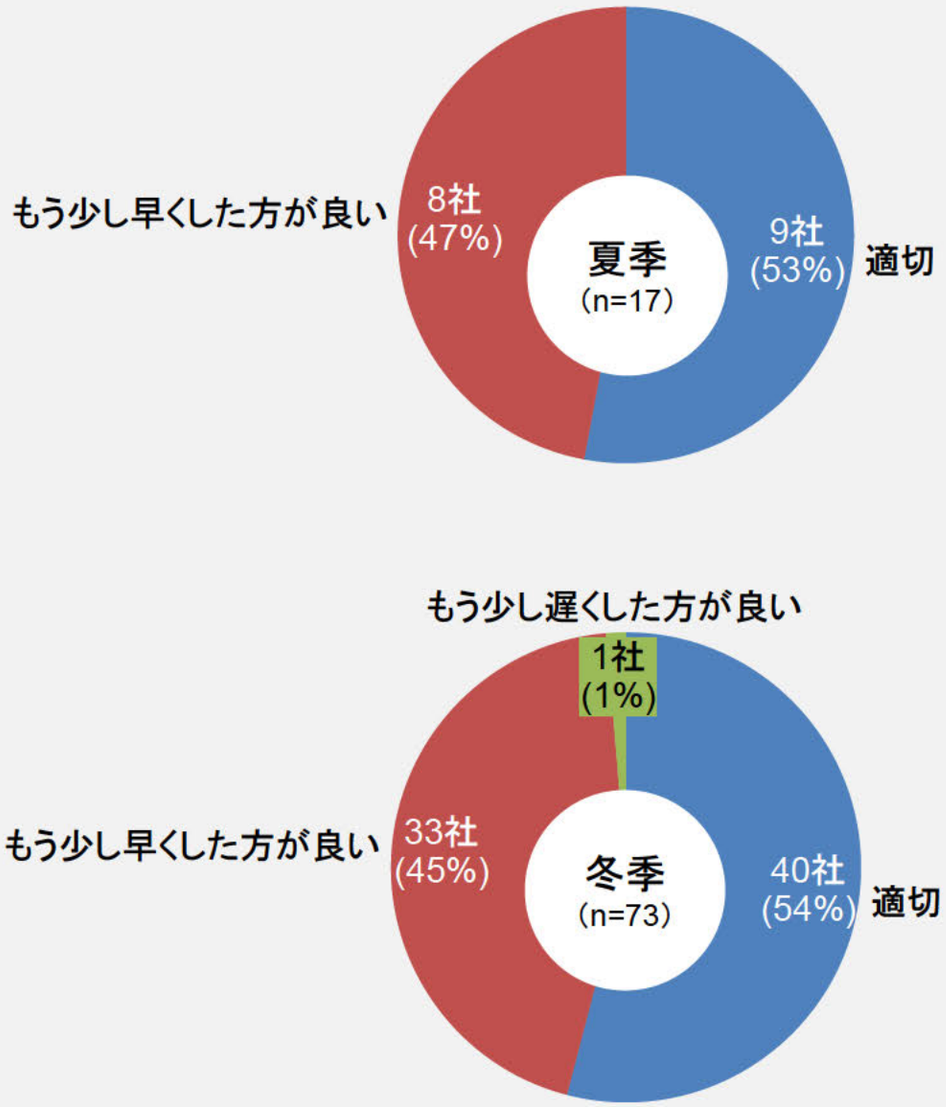
【休日の活用】
- 休日観光同行、交流会、コミュニケーションツールでの情報共有で、興味関心を持ってもらうように工夫した
- 土日の休みを利用して、一緒に遊びに出かけたりした

【その他（質問の回答として成立しない回答も含む）】
- 特になし（10社）
- 業務内容の説明を明確にした
- コミュニケーションの回数を増やした
- 相談して調整した
- 礼儀が正しく、与えた業務を積極的に取り込む
- 自分ごとへの置き換え
- インターン対応業務が負担として増えたため、通常業務に回るスタッフの数が減った
- 比較的古い業歴の会社であるため、新たな異文化交流ができたことで社内の活性化にもつながった
- 世界基準で生きる時代だと何度も伝えた
- 他部署とはグループ業務全般（医療・介護・福祉施設）の見学と理解に終わり交流までできなかった
- 決まった人としか関わっていないためわかりません
- 未遂
- 私一人で会社を経営しているため、他の社員はおりません

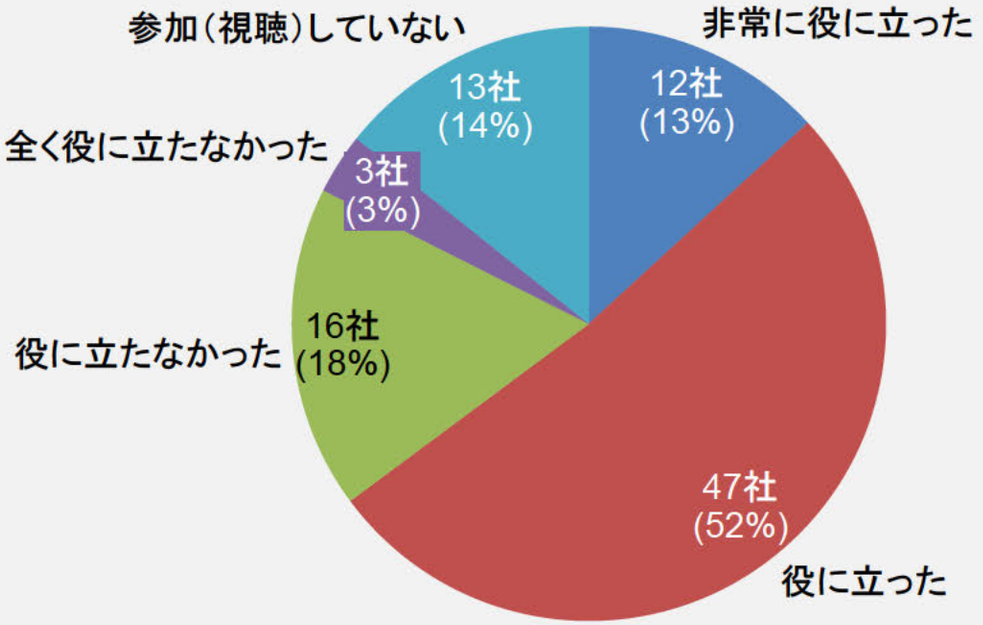
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q65と66では、インターン受入前に実施した事前研修について、時期の適切性と効果を調査した。夏季の事前研修の実施時期については、適切と回答した企業が9社あった一方、早くすべきと回答した企業は8社であった。冬季については、適切が40社、早くすべきが33社、遅くすべきが1社との回答となった。研修は「非常に役に立った」又は「役に立った」との回答が59社からあったが、「役に立たなかった」又は「全く役に立たなかった」との回答も19社から寄せられた。

Q65.事前研修の実施時期は適切でしたか？（単数選択）（n=91）



Q66.インターン受け入れに当たり、事前研修は役に立ちましたか？（単数選択）（n=91）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q67で事前研修の良い点と改善点について調査した。まず、良い点としては全般的に本事業の理解が進んだり、進め方のイメージが分かったという回答があったほか、インターンの目的が理解できた、文化の違いやコミュニケーションが実践的に説明された、メンターとしてどのような心構えで関われば良いか事前に分かり良かった、トラブル時の対応方法を事前に確認でき良かった、といった回答があった。

Q67.事前研修の良かった点、改善すべき点を教えてください。（自由記述）（n=91）（1/2）

【良かった点】

＜全般＞
- インターンシップの受け入れ制度が分かりやすかった
- インターンシップ制度の進め方が理解できた
- 過去インターンを何人か受け入れてきたので、大体は分かっていたがはやり事前に一度研修を受けられると、確認しないといけない点など見直し出来るので助かった
- 事前に全体の流れを把握することができたのでよかった（2社）
- 事前研修をすることにより、インターンシップへの理解が深まった
- 取り組むべきことの詳細が理解できた
- 受入前に意識を固めることができた
- 進め方のイメージを掴むことができた

＜インターンの理解＞
- インターンの目的が示された点がよかった
- 相手のスキルセット、コミュニケーション能力の把握ができた。こちらの指示方法を事前に共有できた
- 相手の求めていることが分かった

＜異文化理解・コミュニケーション＞
- 細かい生活圏でのレクチャもあったのは良かった
- 文化のちがいやコミュニケーションを実践的に教えてくれた点

＜メンターの方法＞
- メンターについてお話があったので、どのような心持で関わればよいか事前にわかった点は良かった
- 異文化コミュニケーションや、インターンに対するメンターの心構えについて具体的に教えていただき、大変参考になりました。

＜その他＞
- 受入時の注意事項・緊急時の連絡先、トラブル時の対応方法を事前に確認できたこと
- 手続き関係の説明が明確であった点が良かった
- Facebookで事前に本人とコミュニケーションを取れるきっかけになったので良かった
- 受入環境・受入計画書を事前にメンバー全員と共有化して受け入れ準備体制ができた
- リアルタイムで質疑応答があったのがよかった
- わかりやすかった
- 開始がスムーズだった
- 話がコンパクトにまとまっており良かった
- 不安点を説明いただいたこと

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

続いて、改善点については、よりインターンのマネジメントや宿泊先などについて詳細で踏み込んだ説明が欲しいといった回答や、インターンシップの実施形式に分けて研修を開催してほしいとの声、実施時期を検討してほしいとの回答などがあった。複数年度参加している企業からは、毎年事前研修の参加しているため、研修参加を免除してもらえる選択肢が欲しいとの回答もあった。
なお、一部の回答は良い点か改善点かが明確でなかったため、分類せずにそのまま記載している。

Q67.事前研修の良かった点、改善すべき点を教えてください。（自由記述）（n=91）（2/2）

【改善点】

＜より詳細な説明＞
- インターンのマネジメントについてもう少し触れてほしい
- もっと個別の計画で研修すべきだ
- 確かに踏まえておく基本的な点は網羅されていたが、踏み込んだ内容ではなかった
- 机上論が多く、実際の受入イメージが湧かなかった。研修後フォローが不十分（2社）
- 国、宗教ごとの攻略を教えてほしかった
- 宿泊先への入室や備品等の情報共有があると尚よかった（2社）

＜実施形式＞
- インターン生を含めて対面で行いたかった
- オンラインと来日対面とはポイントが異なるため、分けて開催頂けると効率的だった
- 複数回開催にして参加日時を選択できるようにすれば良い
- アーカイブでも問題ないと感じた
- 毎年参加している企業は参加しなくても良いという選択肢を用意してほしい（2社）

＜実施時期＞

（早めを希望）
- もう少し早い対応をしてただければ尚良かった（2社）
- 研修中に費用負担について多くの質問が出ていたため、研修時期を早くするか、または明瞭な説明資料を用意いただければ助かりました
- 受け入れ数日前では手遅れで、社内体制は組めない。受け入れ確定時でないと遅い
- 直前の説明となり、なかなかイメージできなかった。また、書類提出済未提出など、どちらも含んだ内容で、自社がどこなのかも分かりにくかったと感じる

（遅めを希望）
- 事前研修と、実際のインターン開始までの日数が開きすぎたため、あまり事前研修の記憶が残らない状態になってしまった。
- 受け入れ開始の日程と間を空けて欲しい
- 日常業務で多忙なので、事前研修をもっと早めに行ってほしい。

＜時間＞
- もっと短くする（2社）
- 時間を早めにして欲しかった

＜来日のスケジュール＞
- インターン生の来日日程が決まらない中での事前研修だったため、いつ実施されるのかわからず不安であった

＜その他＞
- 投影資料を事前に配布してほしい
- 研修動画が共有されなかった（2社）
- 事前研修の内容が多かったためインターン生が全て理解しているとは思えなかった
- 説明してくれた内容と実行する際の内容に差があったように思う

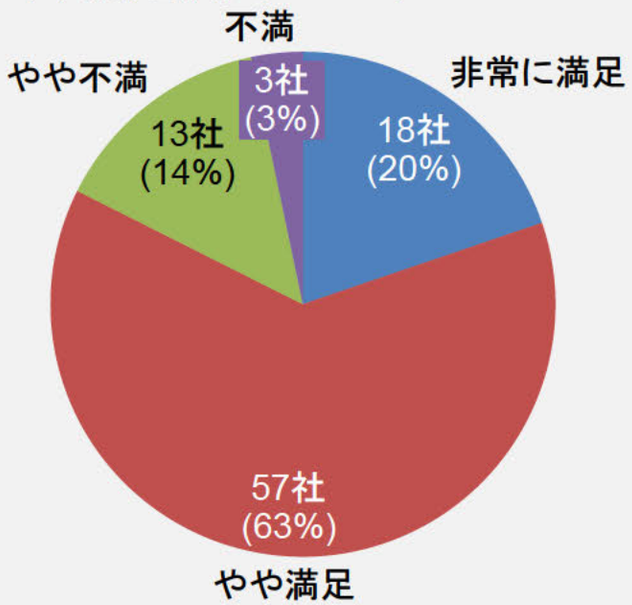
【良い点と改善点どちらを意図しているか明確でなかった回答】
- オンラインであった点
- スケジューリング
- スケジュールとインターンに関する資料の共有
- 心構え
- 宗教の違いには気を付ける点

【その他】
- 担当者にきちんとメール連絡が来なかったため、確認と徹底をしてほしい
- オンラインのため特段なし
- 参加していない（3社）
- わからない
- 特になし（21社）

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q68と69では、インターンシップ最終日に実施した成果発表会に関する意見を聞いた。成果発表会における自社の評価関しては、18社が「非常に満足」、57社が「やや満足」と回答している。具体的に気になった企業としては、株式会社eftaxを挙げた企業が2社、アクセスエンジニアリング有限会社と株式会社三本松茶屋を挙げた企業が各1社いた。その他、他社の実施方法やインターンの取組の様子などが参考になったとの回答が寄せられた。一方で、業種が異なるために参考になる情報はあまりないとの回答もあった。

Q68.成果発表会における自社の評価を教えてください。（単数選択）（n=91）



Q69.成果発表会で気になった企業や情報、参考になった企業や情報を具体的に教えてください（n=91）。

【気になった/参考になった企業】
- 株式会社eftax。（2社）
- アクセスエンジニアリング有限会社。
- 株式会社三本松茶屋がインターンにお菓子の試作を依頼していたかと記憶しているが、味覚は文化により大きく異なると思うので、ユーザー視点にたった素晴らしいアプローチだなと感じた。
- IT企業。
- ベトナムのビジネスツールのカスタマイズを行う会社。資料がわかりやすく、大変参考になった。
- 飲食業の企業で、繁忙期にも関わらず働いている皆さんが受け入れに前向きだったように見え大変尊敬した。
- ベトナム人人材を受け入れていた企業。いずれもコミュニケーションが密だった印象を受けた。
- 既に海外でのビジネスを展開されている企業のお話は興味深かった。

【気になった/参考になった情報】
- エンジニア系の企業が英語力のコミュニケーションのサポートを必要としていること。
- 他社が専門性高く、海外人材を活用していること。
- インターンにインスタグラムの投稿を作ってもらうのは、手軽にできていいと思った。
- オンラインで開催している企業の実施方法。
- お茶屋さんのインターンで製造方法を知ってから海外市場を学んだという流れ。
- どのような企業さんがインターンを受け入れているのか、採用ニーズがあるのかどうか、がわかり学びになった。
- イスラム教徒のインターンが調査したこと。
- 最終ミッションを与えると良い、自分でテーマぎめをさせてレポートをさせると良い。

【全般的なポジティブな感想】
- 他社の状況を把握することで、弊社でのインターン受入がどれくらいよかったのかなど、一つの判断材料になり良かった。
- 当社と同業種の企業が類似目的を達成された内容を共有いただけて良かった。
- インターン主導で行えたことが良かった
- パワーポイントを使って分かりやすく発表している企業があったので良かった。
- 動画での発表などレベルが高いところがあった。
- 他の方々が日本語で成果発表していることに驚いた。
- 他者の取り組み事例。
- 様々な企業が参加しており、それぞれの情報を得られる機会で、勉強になった。
- どの企業でもインターンが積極的に取り組まれていた様子が参考になった。
- 各社、色々な工夫をされていて広く参考になった。
- 各社の独自性があり、どの企業も特色があり良かった。
- どの企業のインターンも満足度が高くなっていると感じた。
- 親身になり対応している企業が多かった。
- どこも参考になった。（4社）

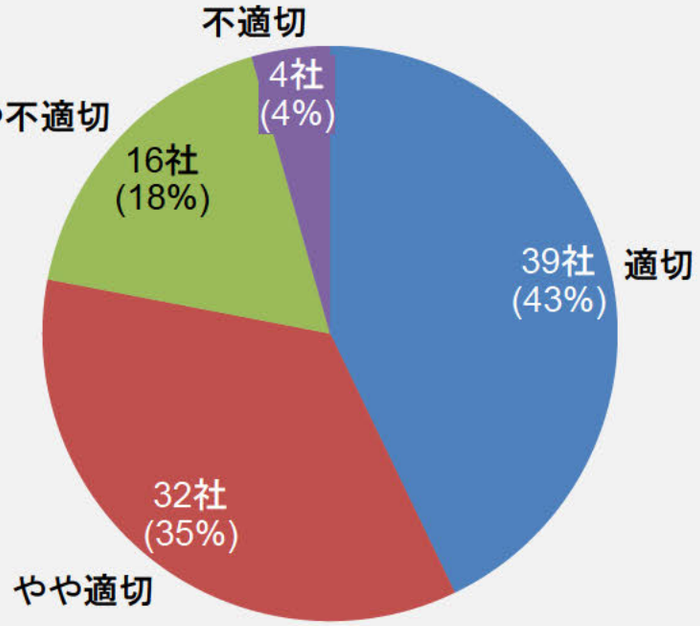
【全般的なネガティブな感想】
- あまり細かい内容まで発表できる時間がない。
- インターンへの丸投げが目立ち、成果共有ではなく実績報告になっている。
- 英語で発表されたため、内容がよくわからなかった。
- 既に帰国したインターンもいた。本人の発表が聞きたかった。
- 業種が異なる点から今回はあまりなかった。（2社）
- 資料準備に大きなバラツキがあった。当該会の重要性や目的や必要事項をより明確に事前伝えた方が良い。
- 長い。

【その他】
- ビジネス分野だけでなく、幅広く日本の文化・特に奈良県に所在するため古代の歴史を体験してもらうようなカリキュラムも必要であると思った。
- 別の担当者が参加したため、不明
- 全ては聞けていないのでわからない。
- 本事業へ参加していない企業名を挙げた回答（2社）
- 特になし（43社）

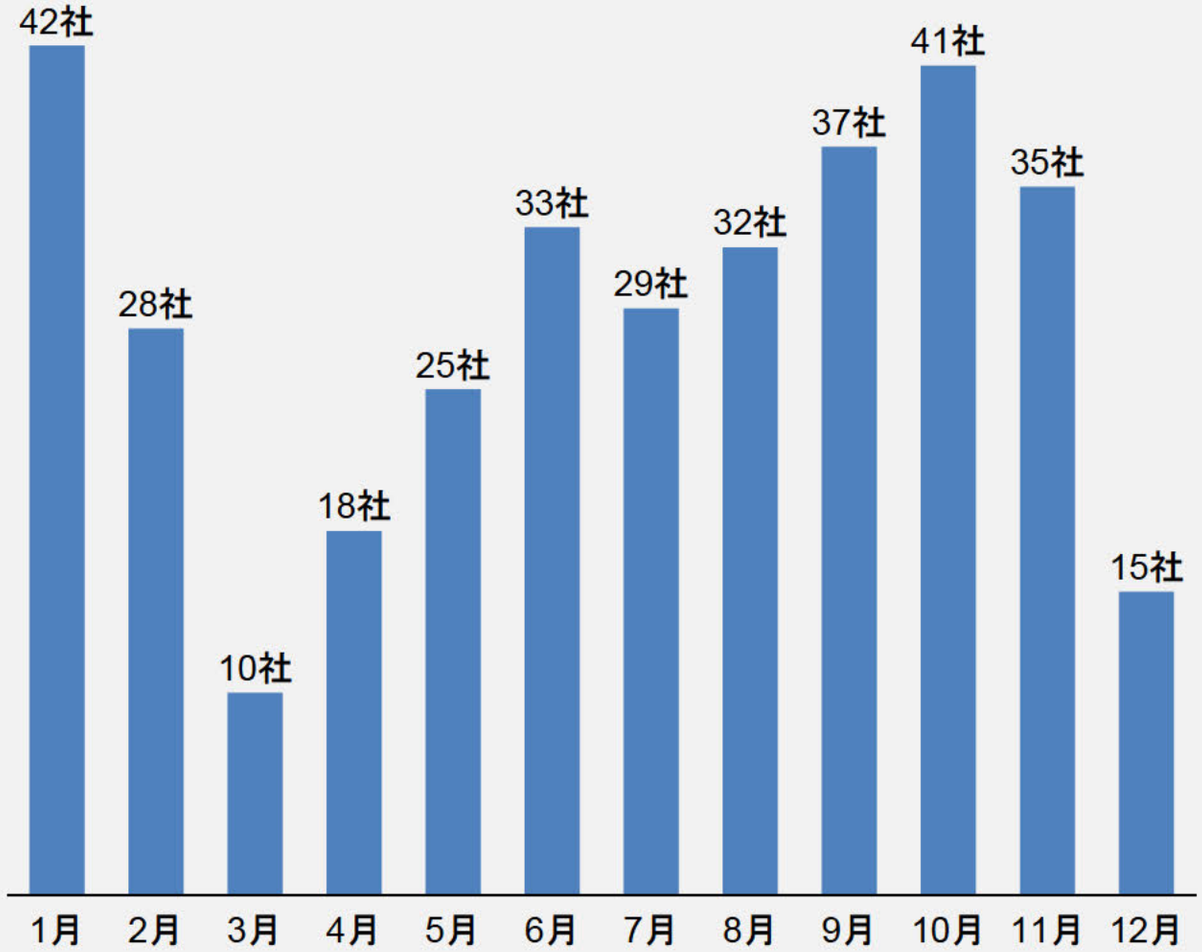
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q70と71では、インターンの受入時期について調査を行った。受入時期に関しては39社が「適切」、32社が「やや適切」と回答している一方、16社が「やや不適切」、4社が「不適切」と回答した。Q71で調査した受入時期として望ましい月の回答では、1月が42社と最多で、次いで10月が41社、9月が37社、11月が35社と回答が集まった。他方で、3月、4月、12月には回答があまり集まらず、受入を避けたい企業が多い傾向にあると言える。

Q70.インターンの受入れ時期は適切でしたか？
（単数選択）（n=91）



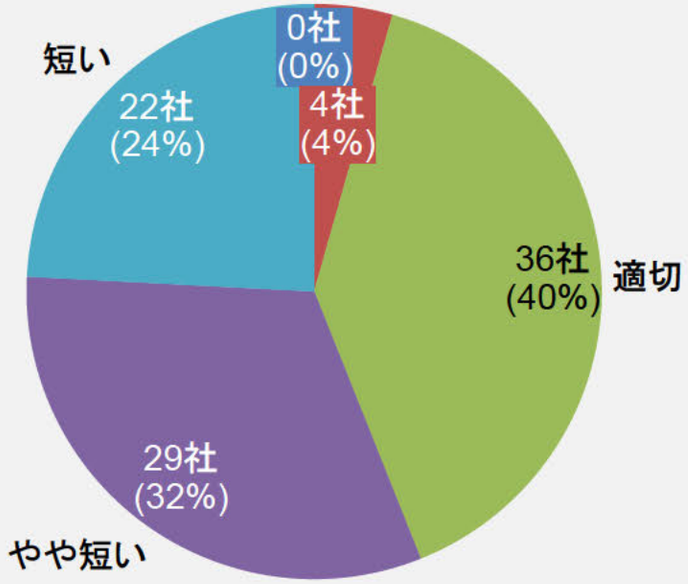
Q71.インターンの受入れ時期として望ましい月はいつですか？
（複数選択）（n=91）



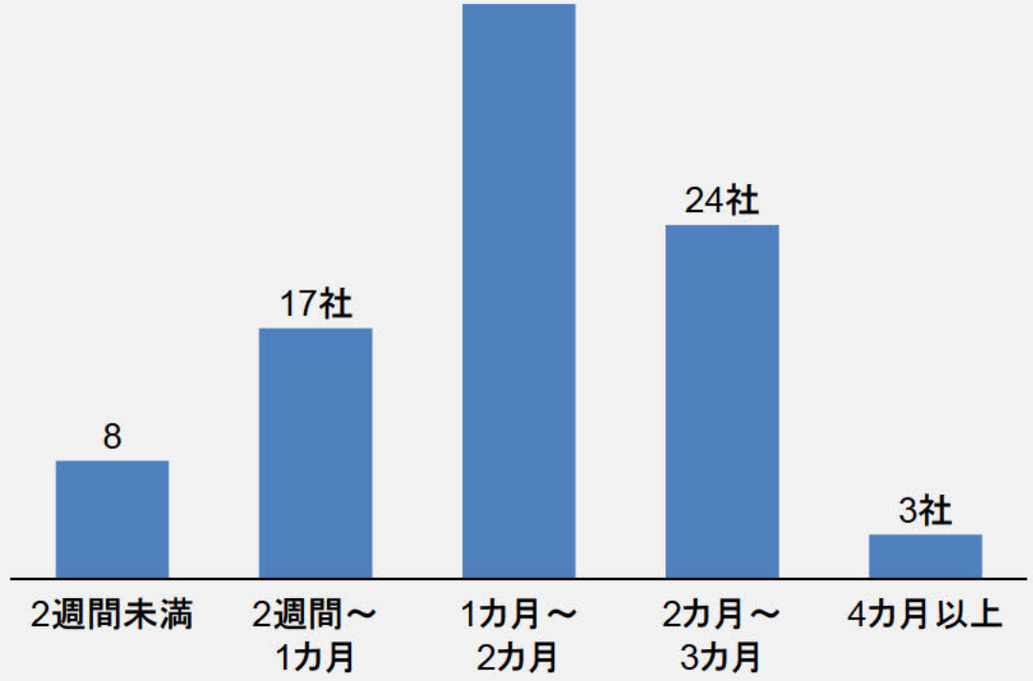
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q72と73では、インターンの期間について調査を行った。今回の120時間という受入期間は、36社が「適切」と答えた一方、「やや短い」又は「短い」と回答した企業は全体の56%にあたる51社あり、より長くインターンの受入を行いたいと考える企業が多い結果となった。Q73で尋ねた望ましい期間としては、1～2カ月を希望する企業が39社と最も多く、次いで2～3カ月が望ましいとした企業が24社であり、1か月以上の比較的長期での受入が望ましいとする企業が多かった。

Q72.インターンの受け入れ期間は適切でしたか？（単数選択）（n=91）



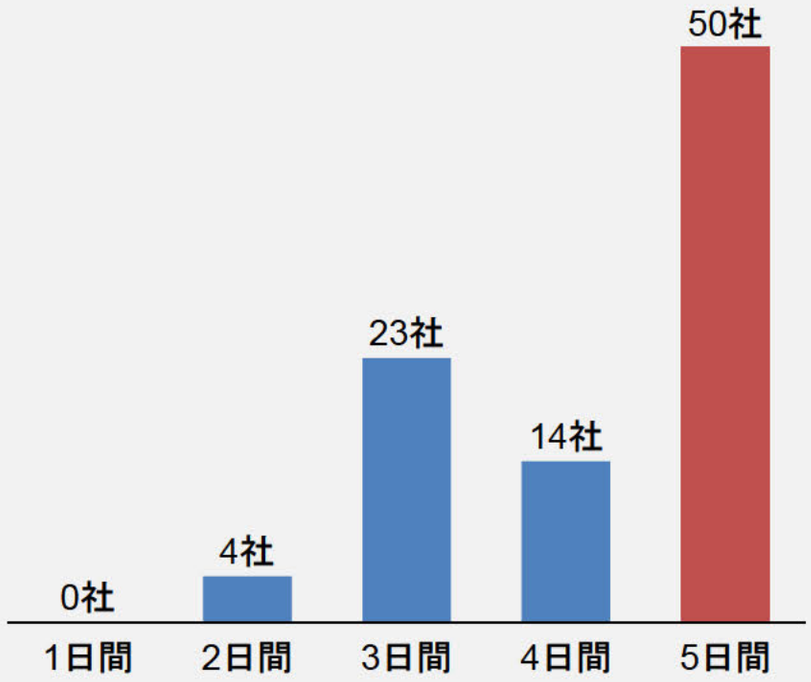
Q73.受入期間として望ましい期間はどれくらいの長さですか？（単数選択）（n=91）



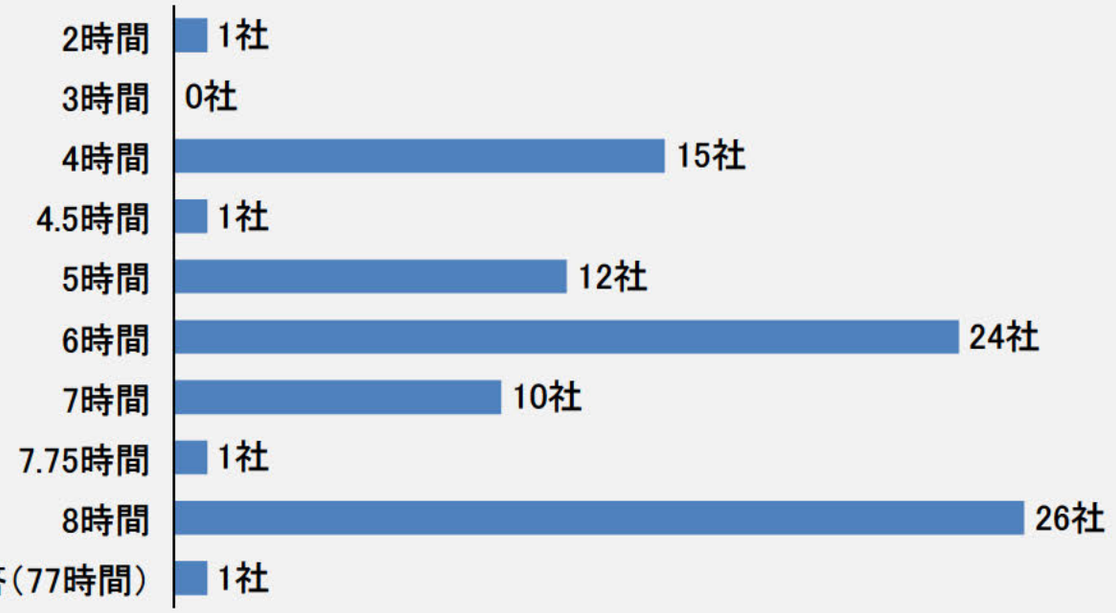
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q74～76では、1週間あたりの受入日数と、1日あたりの活動時間について調査した。1週間あたり5日間の受入が望ましいと回答した企業は50社と最も多く、次いで3日間が23社の回答となった。今回の受入での実際の1日あたりの活動時間については、8時間が26社と最多で、次いで6時間が24社であった。1日当たり4時間の比較的短い時間の活動時間を設定した企業も15社あった。他方、適切と思われる理想の活動時間では、1日あたり8時間と回答した企業が最多で33社、次いで6時間が20社であった。

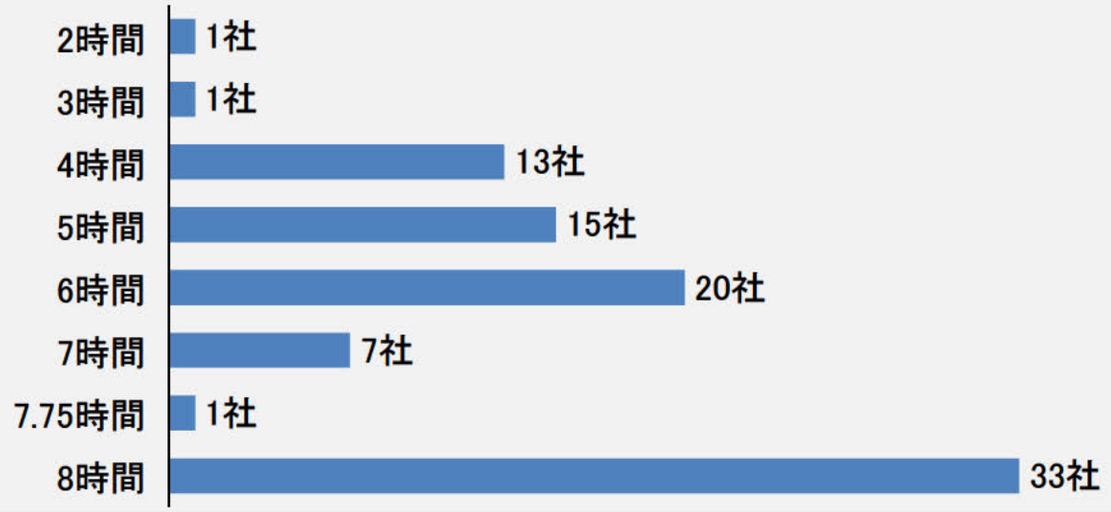
Q74.インターンの受入日数として望ましい日数は1週間あたり何日間ですか？（単数選択）（n=91）



Q75. 1日の活動時間は何時間でしたか？（自由回答）（n=91）



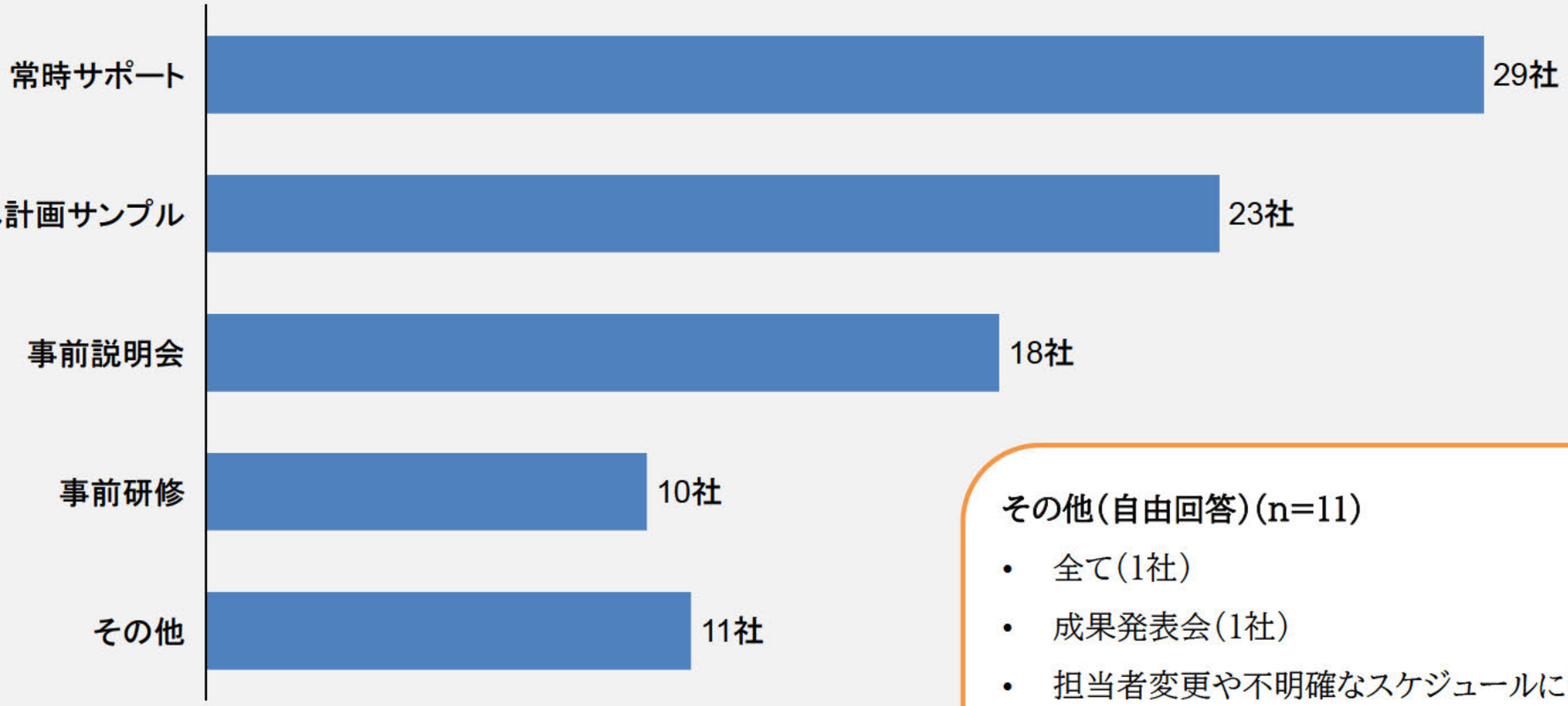
Q76. 1日の活動時間は何時間が適切だと考えますか？（自由回答）（n=91）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q77では、事務局から各企業に提供したサポートが役立ったかを調査した。最も役に立つとの回答が多かったのは、「常時サポート」で29社から回答があり、次いで受入計画書作成時に提供した「受入計画サンプル」が役立ったとの回答が23社からあった。すべてのサポートが役立ったとの回答も1件あった。自由回答の中には、事務局の担当者変更があった点を指摘する声や、役立ったものはないとの回答もあった。

Q77.主催企業側から企業に提供したサポートのうち、今後の高度人材受け入れに向けて役に立つと考えられたものを教えてください。（単数選択）（n=91）



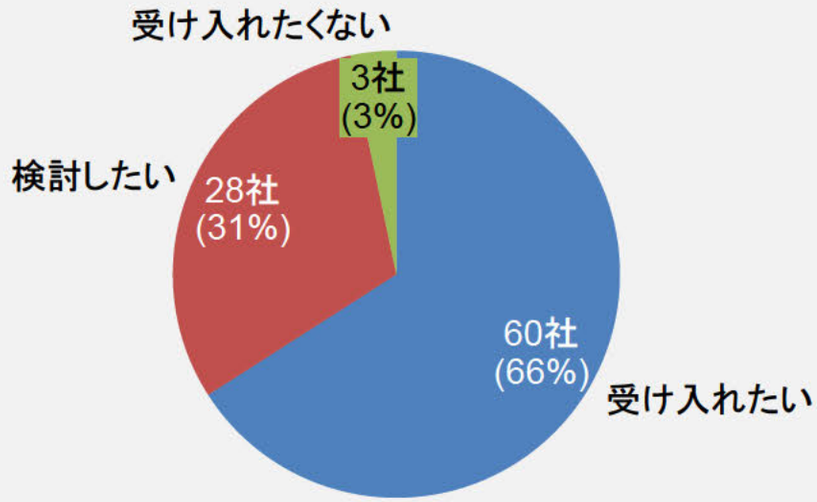
その他（自由回答）（n=11）

- 全て（1社）
- 成果発表会（1社）
- 担当者変更や不明確なスケジュールに困った（1社）
- 改善点が多く役に立ったものはない（1社）
- 不明（1社）
- 特になし（6社）

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

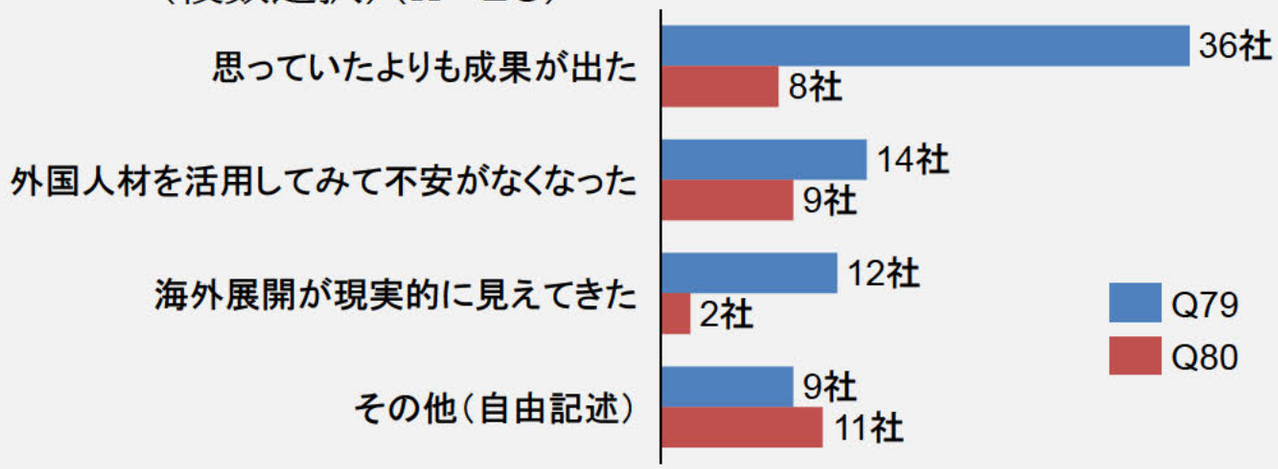
Q78～81では、今後も本事業でインターンの受入を行いたいか調査した。受け入れたいと回答した企業は60社で、うち36社が「思っていたよりも成果が出た」ことを理由に挙げた。「検討したい」と回答した企業は28社で、うち9社が「外国人材を活用してみて不安がなくなった」とポジティブな検討理由を挙げた。他方、「検討したい」と回答した企業が最も解決を望む課題は「受入工数」が最多11社で、次いでインターンの能力7社、語学力5社であった。

Q78.今後も本事業でインターンを受け入れたいと思いますか？（単数選択）

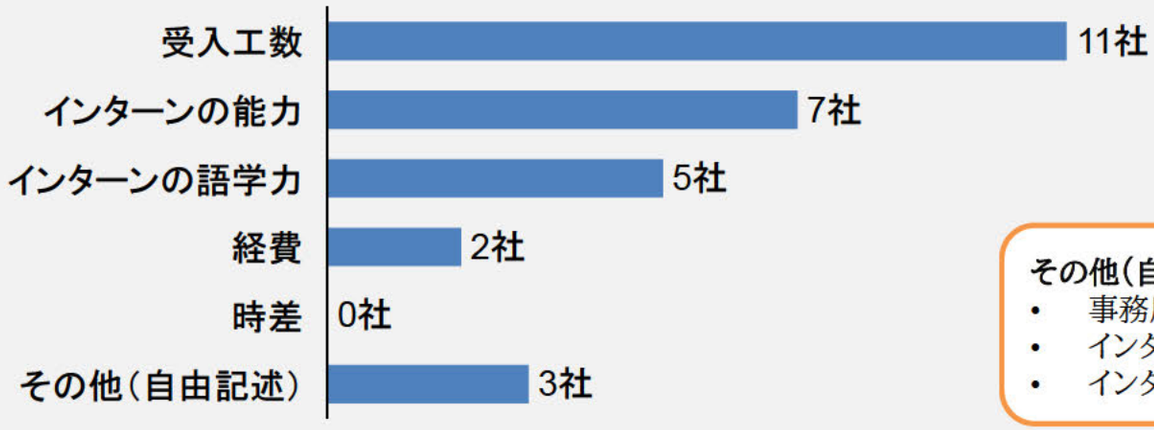


Q79.「受け入れたい」と回答した理由を選択してください。（複数選択）（n=60）

Q80.「検討したい」と回答した理由を選択してください。（複数選択）（n=28）



Q81.「検討したい」と回答した場合、以下の選択肢のうち、最も解決したい課題を選択してください。（単数選択）（n=28）



その他（自由回答）（n=3）
- 事務局とのコミュニケーション
- インターンの人格
- インターン生の生活面サポート

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q79と80で「その他」と回答した企業が今後も本事業でのインターンを「受け入れたい」又は「検討したい」とした理由（自由回答）は以下のとおりである。「受け入れたい」とした企業は、独自の背景を踏まえて今後も外国人材を受け入れていきたいとした回答もあれば、今年度のポジティブな経験を理由とする企業や、今年度実施できなかった対面受入や2名受入を希望する企業もあった。また、「検討したい」とした企業には、インターンシップを外国人材受入の有効な手段として捉えている企業があった一方、対応できる人員が確保できる場合などの状況に応じて検討するとした企業や、事務局や事業の改善があれば検討したいとした企業があった。

※Q79.「受け入れたい」と回答した理由、Q80.「検討したい」と回答した理由のうち、「その他回答（自由回答）」のみ抽出

その他（自由回答）

【受け入れたい】（n=9）

＜企業独自の理由による回答＞

- 弊社にはインドネシアからの実習生・特定技能が多くおり今後も採用予定であるため、介護職以外のインドネシア人材を受け入れられることは実習生などの安心につながる。
- 外国人の採用が今後の事業計画で必須なため。

＜今年度のポジティブな経験を理由とする回答＞

- いろいろな国のインターンを受け入れ交流したい。
- 想定していたよりも仕事がしやすかったため。
- 新鮮な感覚と既存では得られない発想・アイディア・思想を得られたため。
- 社内の活性化につながる。

＜今年度実現できなかった内容を理由とする回答＞

- フルリモートでなければより大きな成果が出せるのか確認したい。
- 2名の受入を希望していたが1名のみの受入となり、1名不足しているため。
- 今回のインターンで実現できなかったことを次回で実現したい。

【検討したい】（n=11）

＜外国人材受入・採用に向けた回答＞

- 外国人受け入れの経験を積みたい。
- 外国人人材は常に不足しているため。
- 元々外国人材の採用に前向きなため、一つの方法としては有効に感じた。
- 対象とする国の方を受け入れることができるため、方法として有効である。

＜事務局の対応・事業内容を理由とする回答＞

- ビザなどの都合を除き、それ以外での事務局のコミュニケーションに不安と不満が残るので、それらが改善されるなら検討したい。
- 今年と去年の流れなども違いますので、次回は内容を見てから決める。
- 今回はあまり成果が出なかったが、弊社も事前準備をしっかり行い、本来の規定期間のインターンを行った場合、十分な成果がでるかもしれないから。

＜状況に応じて検討したいという回答＞

- 海外展開国の局面と受け皿が合えば。
- 対応社員など人員的に余裕があるかどうかによる。
- 受け入れたい気持ちはありますが、インターンが従事できる業務面での幅が広がるか次第かと思います。
- 生の情報が入ればいい

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q82～83では、今後は本事業でインターンを「受け入れたくない」と回答した3社を対象に、その理由と最も解決したい課題を調査した。成果が出なかったことや、受入手続き、経費、受入年度・時期による作業の偏りなどが理由として挙げられている。Q83の解決したい課題に関する質問には、受入工数、インターンの語学力、インターンの能力をそれぞれ選んで回答があった。

Q82.「受け入れたくない」と回答した理由を選択してください。（複数選択）（n=3）

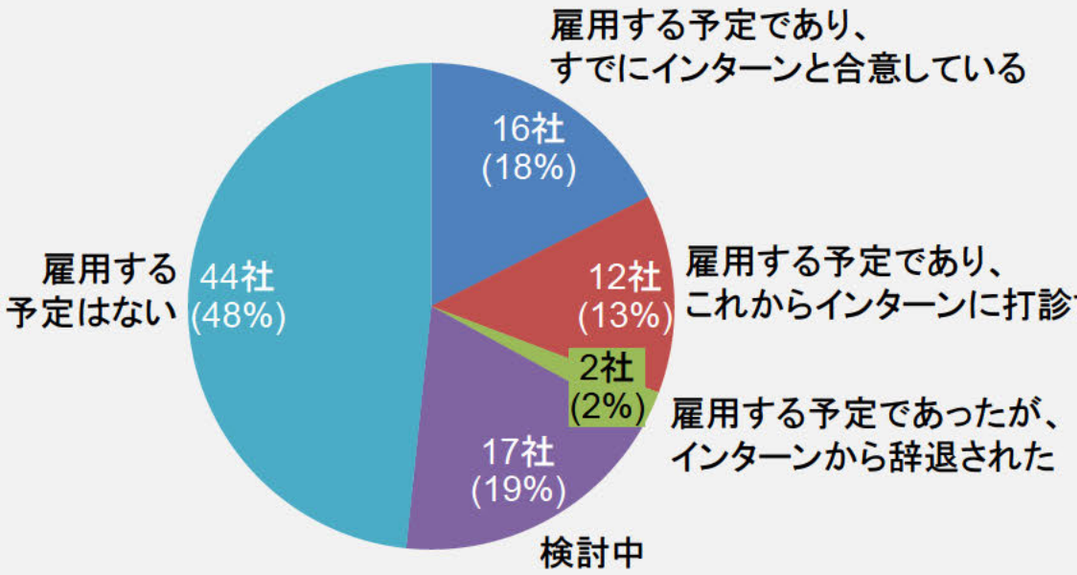
Q83.「受け入れたくない」と回答した場合、以下の選択肢のうち、最も解決したい課題を選択してください。（単数選択）（n=3）

回答者	受け入れたくないと回答した理由（Q82）	最も解決したい課題（Q83）
A社	• 思っていたよりも成果が出なかった	• 受入工数
B社	• 受入れにあたっての手続きが煩雑だった • 経費がかかった • 農学・工学専門のインターンを採用したいため	• インターンの語学力
C社	• 受け入れ年度と時期によって作業の偏りが出てしまうため	• インターンの能力

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q84と85では、今回受け入れたインターンを今後雇用する予定があるか、またその理由を尋ねた。全91社のうち、雇用を予定している企業は30社で、うち16社は既にインターンの合意も得ている。他方、44社からは雇用予定はないとの回答があった。雇用する又はしたい、との判断に至った企業にその理由を尋ねたところ、今回の受入を通して確認したインターンの能力や働きを評価していた。

Q84.受け入れたインターンの雇用予定はありますか？（単数選択）（n=91）



Q85.雇用する（したい）というご判断に至った理由をご記入ください。（自由記述）（n=30）

雇用する予定であり、すでにインターンと合意している（n=16）

- スキルや思考力が素晴らしかった
- 意欲と人柄
- 求める技術の高さ
- 業務に対する前向きな興味
- 業務への向き合い方、的確で上質なアウトプット、日本文化を理解している
- 人柄、理解力、コミュニケーション力等が非常に高いこと
- 本人の人柄とコミュニケーション力、業務に対する意欲
- 優秀な人材だったから
- 人柄がよい
- 専門知識があるため
- 日本語力がN1であり、判断力が良い、履歴と当社の業務との関連付けができる
- 日本語教師で、生徒の来日用書類の準備等をしていた経験を当社で活かせる
- 実際に売上利益が見込めており、現地バイヤーとの窓口になっていただきたい
- 自国と日本との給与差とインターン能力との総合パフォーマンス
- 海外展開が必須であるため
- 雇用が条件であったため

雇用する予定であり、これからインターンに打診する（n=12）

- 我々の技術に対する理解が高かった
- 業務に対する専門知識があり、インターン生の母国での経歴も実務につながる
- 言語能力（日本語とベトナム語）とこれからの事業のため
- 当方が期待したIT業務能力とコミュニケーション能力を保有している
- 日本語能力とコミュニケーション能力と数学的思考
- 能力が高かった
- 能力が高く、人間性も良い
- 本人の意欲および、期間中の活躍
- 優秀だから
- 日本語力だけでなく、能力、コミニュケーション力とともに、日本人人財より優秀であると評価
- 将来オフシェア拠点を確立していく上でブリッジSEとして成長が期待できる
- 現地で対応してもらいたい事業内容があるため

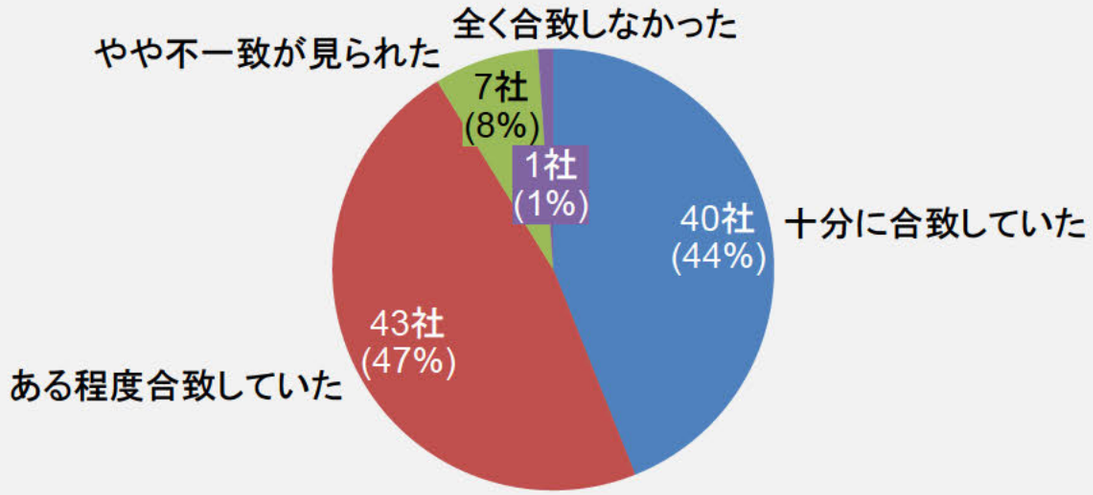
雇用する予定だったが、インターンから辞退された（n=2）

- 能力が日本人より高かった
- 弊社の業務に合致、人柄の良さ

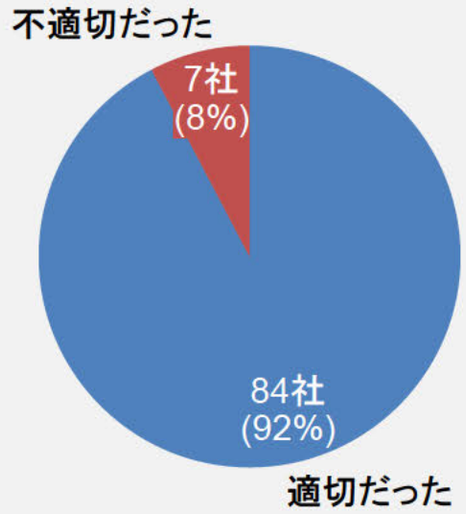
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q86～89では、事務局から推薦したインターンに対する満足度と、提供した候補者情報の適切性を確認した。推薦したインターンに関しては、40社が「十分に合致していた」、43社が「ある程度合致していた」と回答しており、概ね企業の希望に合致するインターンを推薦することができた。他方、「やや不一致が見られた」との回答は7社、「全く合致しなかった」との回答1社からあり、専門性などに不一致があったと判明した。インターンとのマッチング以前に、事務局が企業へ提供した候補者情報は、92%の企業が「適切だった」と回答した。「不適切だった」とした企業は、連絡の遅れや情報の不足を指摘している。

Q86.事務局が推薦したインターンは希望を満たしていましたか？（単数選択）（n=91）



Q88.インターンとのマッチング前に主催企業が貴社に共有した候補者情報は適切でしたか？（単数選択）（n=91）



Q87. 不一致であった場合、何が不一致でしたか？（複数選択）（n=8）

- 専門性（4社）
- 実施形式（1社）
- 業務遂行能力（1社）
- 国籍、業界への興味（1社）
- 国籍、専門性、実施形式（1社）

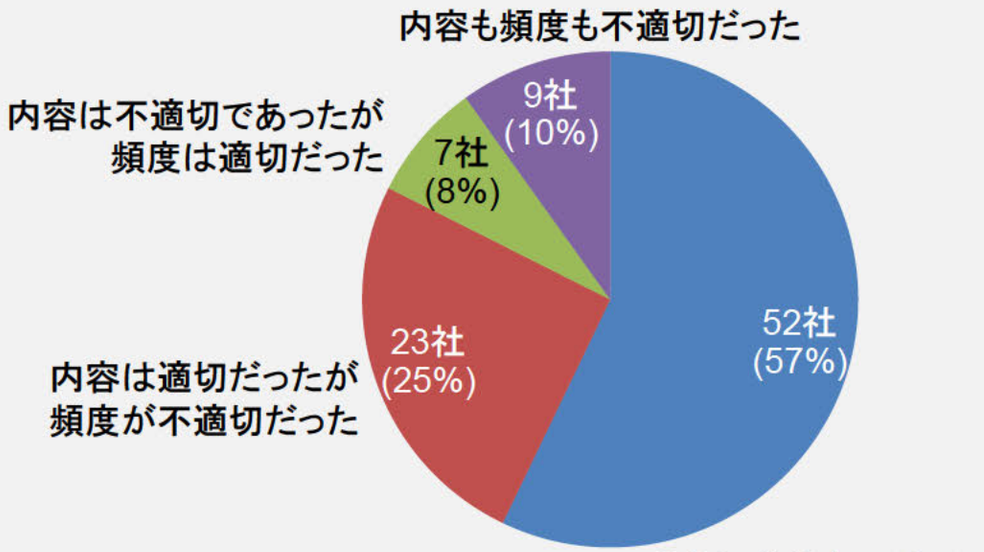
Q89. マッチング前の提供情報が不適切であったと答えた方は、その理由を教えてください。（複数選択）（n=7）

- 本人の能力に関する情報が足りなかった（3社）
- 事務手続きに必要な情報が足りなかった（2社）
- 形式的なCVのみで、関心や求めている人物像との合致度が何も判断できない
- 希望した国籍以外のインターンだった
- 本人の問題だが、結果的に対面でのインターンシップNGであった
- すべての連絡が遅い
- 事前面談からある程度期間もあったので直前にまた連絡が欲しかった

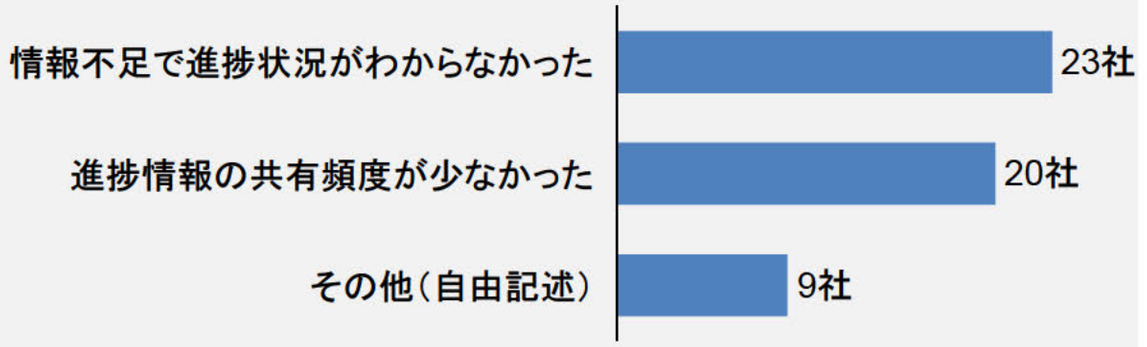
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q90と91では、事務局から企業へ共有した専攻進捗情報の内容と頻度について調査した。52社が内容も頻度も適切と回答した一方、残り43%は内容と頻度のいずれか又は双方が不適切と回答した。不適切と回答した理由についてQ87で確認したところ、事務局からの全体の流れやタイムラインに関する情報が不足・遅延していたことや、候補者の情報が少なかったことが指摘された。また、選考の進捗情報の共有があったか分からないとの回答も2社からあった。

Q90.主催企業が貴社に共有した選考進捗情報の内容と頻度は適切でしたか？（単数選択）（n=91）



Q91. 1つでも不適切だった場合、不適切だと考えられた理由を教えてください。（n=39）



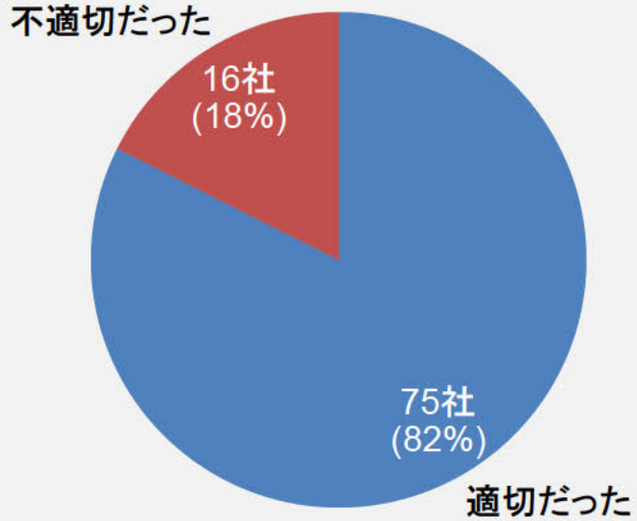
その他（自由回答）（n=9）

- インターン実施時期（候補者がいつインターンに参加できるのか）や、事業期間の確認が不十分だった
- タイムラインが示されず、情報がいつも唐突なため、非常に負担となった
- 大きな流れが分かりづらく窓口の担当が結局どの方なのか分かりづらかった
- こちらから連絡しないと予定が分からないことが多々あった
- 詳細情報の伝達が遅かった
- 候補者の情報が少なかった
- ミスが有り、別の候補者に採用連絡をしてしまった
- 選考進捗情報の共有自体があったかわからない（2件）

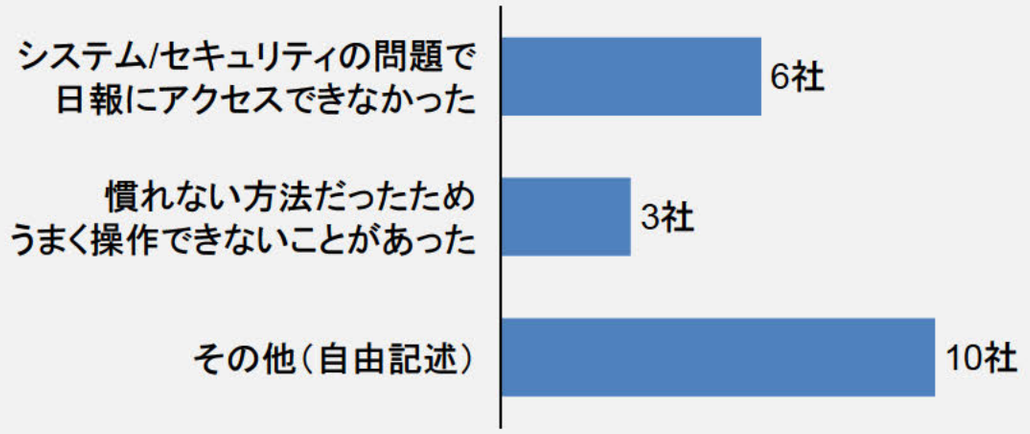
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q92と93では、インターン生の日報共有方法に対する企業の考えを調査した。75社が適切と回答した一方、16社は不適切と回答し、企業側では操作できない方法での共有であったことや問合せ対応の遅延を理由として挙げた。また、日報が共有されていることを認知していない企業も4社あったほか、インターンの作業負担になっていたことを指摘する企業が1社あった。なお、日報はGoogleスプレッドシートで作成、企業に閲覧用リンク（編集は不可）を共有した。

Q92.インターン生の日報の共有方法は適切でしたか？（単数選択）（n=91）



Q93.不適切だったと回答した場合、その理由を教えてください。（複数回答）（n=16）



その他（自由回答）（n=10）

- 企業側で操作できなかったため
- 企業側の日報記載を必須にするべき
- アクセス不可の問い合わせ対応が遅かった
- 形式的な内容でインターンの作業負担となっている
- よくわからなかった
- 説明をうけていなかったので不明
- 共有があったのか知らない（5社）

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q94として、事務局や本事業に対する意見や改善点、要望を調査した。特に事務局から受入企業への連絡頻度や内容、体制が改善点と指摘されたほか、過年度参加企業から過年度との比較した意見もあった。また、本事業が有意義であり、今後も受け入れたいとの意見や、受入企業のパートナー企業で採用に繋がったとの報告もあった。本回答の一覧は次頁と次々頁にわたって掲載する。

Q94.本事業、事務局に対するご意見、改善すべき点、ご要望等ございましたらご記入ください。(1/3)

【採用報告】
- インターンがタイ現地の当社のパートナー企業で正社員採用された。
- 採用に至り、満足している。
- 会社の受入体制が未整備のため、正社員雇用はしないが、業務委託契約での契約はインターン本人たちと締結した。

【マッチングに関する意見・要望】
- 是非新たなインターン生を受け入れたい。
- 本事業は大変有意義で、インターン候補者を挙げてくれるメリットも大きい。
- インターンを直接雇用に結びつけたいため、卒業予定も加味した紹介をお願いしたい。
- 企業側としてはもっと能動的に候補者選びを行いたいと思った。
- 日本にすぐに就職したい優秀な人材が欲しい。

【実施形式に関する意見・要望】
- オンラインの方がいい面も多い。
- ぜひ対面でのインターンシップを実施してほしい
- 1か月間のインターンシップを対面とオンライン両方で実施するのは忙しすぎると感じた。ビザ申請・来日のタイミング・スケジュールの調整など色々なことをしなければならず、本来の業務にも影響を与える。この点を改善できれば、より良いインターンシップになると考えている。

【事務局の体制に関する意見・要望】
- コロナ禍で大変かとは思うが、結果として過密なスケージュールとなったため、スムーズなインターンシップ実施を支援できるような体制の強化をお願いしたい。
- 事務局側の体制でどちらに相談したらよいかわからなかったことがあるため、整理をお願いしたい。

【事務局からのサポートに関する意見・要望】
- 昨年度から本事業でインターン受入を始めた。今年度は昨年度よりも受入企業の手間が減り、大変助かった。受入企業としてはちょうどよい程度の手続きや事務局とのやり取りだったと思う。一方で、最後の成果発表会の日時連絡は事務局からインターンにはされていなかったのかなと気になった。
- 事務局でどこまで対応してくれるのか、よくわからなかった。インターンシップの時期、インターン人数はどちらも希望に叶わなかった。インターンに対して、日本企業で働く際の意識（マナー・時間厳守など）について事前研修を実施してほしい。
- 連絡の不十分さや正確性に対しインターンは事務局に不信感があったようである。異国での生活で不安が大きいと思うので安心感を与えられる何かしらの工夫が必要であると思う。
- 今年度で3回目の参加だが、今回が一番、作業量が軽微で、かつ、丁寧にサポートいただけた。
- 初めてのインターン受入で、決定までの進捗状況や準備しておくべきことなどがわからず不安があったので、開始までのサポートをもう少ししていただけると有難い。また、インターンへの事前研修で日本で働くうえでの最低限のマナー（時間厳守することや、遅刻する場合はどのぐらいに連絡を入れるべきか等）などを伝えておいていただけると良かったと思う。
- 事前や実行中の進捗やフォローがもっとあった方が良いと思う。
- 対面インターンシップのために日本に来たインターンへの生活面サポートがもう少しあるとよいと感じた。
- 不安な気持ちが少しでも和らぐよう、事務局にインターンとの連絡をもう少しこまめにとっていただきたい。

※「特になし」、「今後ともよろしくお願いいたします」、「ありがとうございました」、「とてもよかった」という記入内容は一覧に示していない。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q94.本事業、事務局に対するご意見、改善すべき点、ご要望等ございましたらご記入ください。(2/3)

【事務局からの連絡（手段、頻度、内容）に関する意見・要望】(1/2)

- 事務局からのメール回答が非常に遅い。初参加の企業に対しての案内が著しく不足していた。
- インターンを通して知らされることが多々あった。受入企業担当者へのメール連絡を何度も依頼したが連絡がなかった。
- インターンシップ開始前に、開始時間や準備などの連絡方法が明確にされておらず、不安があった。
- インターンシップのスケジュールや住まいの確保について、事務局担当者とのやり取りでディスコミュニケーションが頻発したり、問い合わせに対する回答がなかったり、かなり問題を感じた。事務局に確認するより来日前のインターンとチャットで確認するほうがより正確に自体がつかめる状態が長く続くこともあった。不測の事態もあり大変だったと思うが、意思疎通がインターン以上に取れなかったのは残念。
- 事務局については、進捗状況やレスポンスに課題を感じた。大変煩雑な業務を限られた人数で対応している感があった。
- 事務局メンバーの役割明確化、連絡の早期化が必要である。
- 受入企業も準備があるので、進捗状況などを間隔を空けないで伝えていただきたい。都内の様な便利な立地ではないため生活するため準備等をするのに、情報をいただけると良かった。
- 出入国の情報等、事務局からの連絡がほしかった。
- 選考プロセス進捗等の案内メールは複数人で管理すれば情報共有がスムーズになると思う。
- 事務局とも密にコミュニケーションが取れるともっと良かった。
- 事務局の色々な担当者から連絡がくるので、担当を一本化し、事務局内で情報を共有してほしかった。
- インターンに提供する情報をすべて受入企業にも共有してほしかった。入国時の情報に不明点が多く、大変苦労した。
- インターンの来日前までに事前の連絡をもっととりたかった。
- すべてが急すぎで、事前連絡が遅すぎる。
- 過年度と比較し今年度はサポートや情報が少なかった。
- 事務局からの問合せ回答が遅かった。インターンに指示している情報を受入企業にも開示してほしい。
- 事務局と連絡がスムーズに取れなかった。
- 受入スタートや終了の合図がなく、始まった感じがしなかった（特にオンラインだったため）。成果発表会については、発表者の対象や発表イメージがしっかりと共有されておらず十分な発表ができなかった。
- 来日の日や就業日の連絡をいただけずいきなりインターンが会社にやってきたので、事前にちゃんと連絡が欲しかった。それ以外はしっかりと対応してもらった。
- 来日時の航空券予約と宿泊先予約で問題があり、その対応に現場で工数がとられた。要因は事務局の担当窓口が複数であったこと、情報共有が出来ていないかったこと、受入企業への情報提供のタイミングが遅いことや、受入企業から事務局への再確認不備など。
- 受入企業と事務局の連携が遅かったり、事務局からの折り返しがなかったり、困った部分はあった。
- 募集の段階より、事務局にはこちらから問い合わせしないとアクションがない、担当者間で情報共有されていない、が常態化しており、受入企業側に不必要な負担が生じた。受入時にはインターン緊急連絡方法の確保もされておらず、連絡不十分によるインターンの事務局に対する不信感も見受けられた。インターンががんばっていても、運営事務により台無しになっていることが非常に残念。
- インターンは明るくて人柄は良く、時間をしっかり守って遅刻等は無かった。最終日前日に、一日早くインターンシップを終わりたいと言われ困ったが、それはできないと伝えると素直に応じてくれた。弊社は初めての参加で、インターンに何をしてもらえばいいのかいまいちわからず、形に残る成果（調査結果レポートやパワーポイントなど）を作る時間を作ってあげることができなかった。事務局の担当者と連絡が取れないことが多かった。緊急で連絡を取りたいときに代表番号にかけても繋がらず、担当者にかけても繋がらず、折り返しもなかった。違う担当にかけて、ようやく繋がり相談に乗ってもらった。緊急連絡先がマニュアルに記載してあったが、対応できない時間や曜日があるのなら記載してほしい。インターンシップ初日は、インターンが何時に、どのようにして会社まで来るのかがわからず、不安だった。何日からインターンシップが開始するのかは担当者から聞いたが、その後の詳細（何時に来るか、どのような方法で来るか、どこに宿泊するのか、駅まで迎えに行くべきか等）が全く情報がなく、メールで質問した返信もなかった。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q94.本事業、事務局に対するご意見、改善すべき点、ご要望等ございましたらご記入ください。(3/3)

【事務局からの連絡（手段、頻度、内容）に関する意見・要望】(2/2)

- VISAの発給が遅れているという致し方ない理由であったが、やはり1日でも多く対面で実施がしたかった。わずかの時間を対面で実施できたが、できることが限られておりインターン本人に申し訳ない気持ちになった。事務局には丁寧に対応いただけたものの、説明が不十分であると感じることがよくあった。提供いただく資料や情報が、「なんのためか」「誰のためか」よくわからないものが多く、現場に共有しづらかった。よくある質問のようなものをオンラインで共有して随時閲覧できるようにするか、カスタマーサポートのようなポジションの方がいれば安心できると思った。(2社)
- 企業側の負担を極力抑えた形の事業であった。事務局の対応は、下記を改善していただきたい。1. インターンのマッチングプロセスで候補者の弊社希望が二転、三転した点の改善（時期が合わないという理由で一度取り下げられた方について時間が経ってから再度申し込みがあったが、事務局の対応に不信感をもったためお断りした。）2. 費用負担は契約書にすべて記載してほしい。交通費、宿泊費は口頭やメールのみの連絡で、契約書に明文化されておらず不安を感じた。3. 全てのプロセスでの担当窓口1本化。内容によってどなたに連絡すれば良いか分からなかった。
- 事務局の担当が少ないのか、進捗がわからないことが一番の不安だった。例えば、誰がボールを持っていて、どこで止まっているのか、採用できたのか、辞退されたのか等、不明な状況があった。そのため何度かメールや電話にて確認させて頂くこともあった。当社の場合、本インターンシップ事業は社内稟議を上げて進めていたため関わる上司も多数おり、どのフェーズにいるのか、進捗しているのかしていないのか、報告あげる必要があったため余計に不安を感じた。インターンからも開始前に事務局との情報共有がうまくいっていないと聞き、対インターンでも同じ状況なのかと少々残念に思った。一方、インターンの生活費が足りなくなったときは臨機応変に対応頂き、感謝している。インターン期間中の窓口業務も非常に助かった。最後に、本事業に参加でき経営陣の外国人社員採用へ対する考えがまとまった。次回も機会があればぜひ参加したい。

【その他の意見・要望】

- インターン受入事業に2回目以降も参加できるようにしてほしい。そのために、1回目よりも具体的に成果を出すための事業計画が必要など、初回参加よりも進歩が見られる結果を出すことを条件にするなどして、インターンの力を十分に発揮できるようにしてほしい。
- インターンが実施できる業務内容に限定があるのは厳しい。ビジネスである以上、営業に全てはつながる。その中で、実務に近い部分の業務は任せられないとなると、採用からは遠ざかる。この点は改善される必要があると感じた。本当に外国人人材の採用につなげるのであれば、インターンシップと言う呼び名が良いか、検討が必要かと思う。
- インターンには企業理解を深めていただき、スキルアップしていただけたのではないかと思う。
- 来日インターンの受入だったので到着予定日が明確に決まっておらず、突然始まったような感じがした。コロナ期で大変であったと思うが、到着予定が決まっていたらもっと事前に予定を組むことが出来たと思う。
- 使用するオンラインツールは、できるだけTeamsよりzoomの方がいいのではと思う。Teamsは使い慣れていない企業も多いと思う。（私はどちらも使っているがTeamsの方が使いにくいと感じる）
- 海外ビジネスの展開に当たり、海外の優秀に人材を確保したいため、海外大学含め海外とのネットワークづくりご支援を頂きたい。
- 査証は、積極的に専門家（現地コーディネーター、現地法律事務代行）を活用した方が良い。
- 日報をきちんとチェックするシステムがあったほうが良い（昨年度はあった）。
- 過年度より、実施時に自由になった反面、過年度は事務局が負担していた雑費や交通費がなくなったりして、若干グレードダウンしているところもある。ただ何年か参加してると何度も聞いたセミナーに強制参加させられたりしていたが、事務局が変更になり、実施時に自由な方が運用しやすいので、現在の方がありがたいと体験してわかった。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

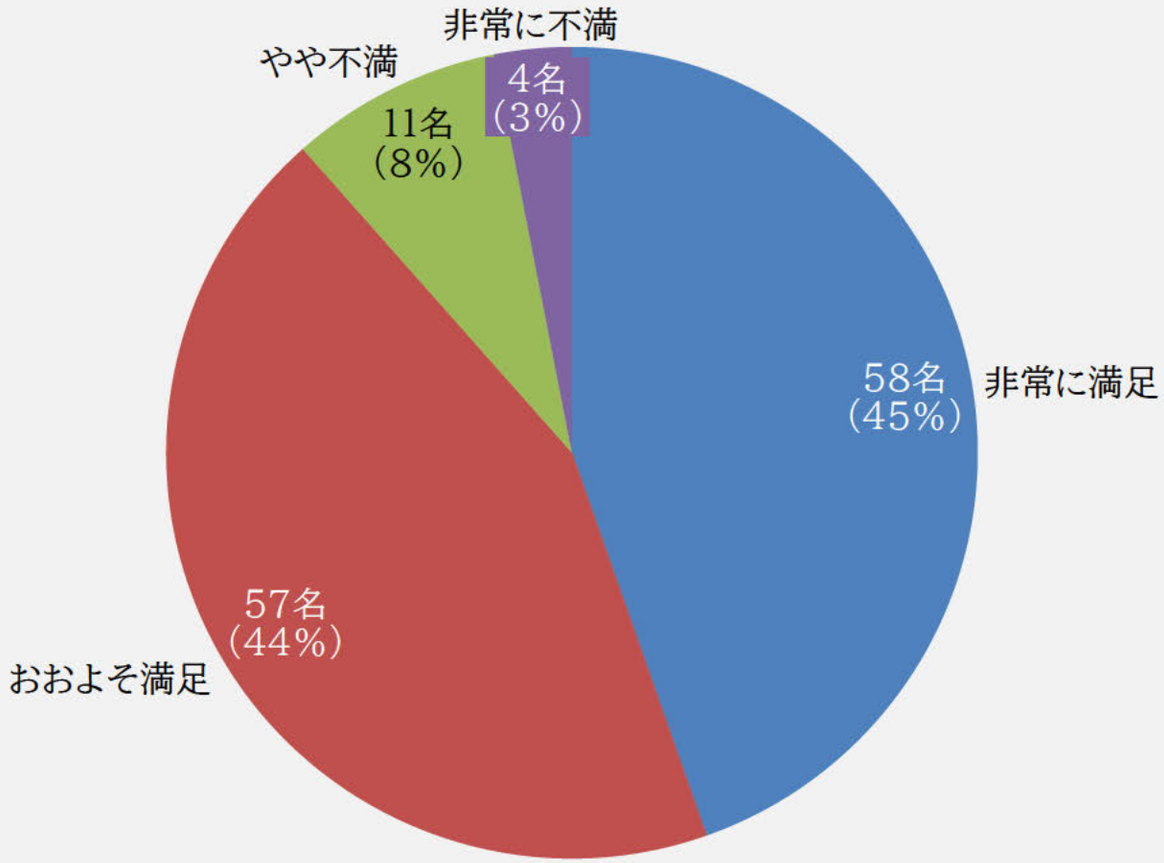
本事業の満足度や次年度以降に向けた改善点を把握するため、参加した全インターンを対象にアンケート調査を実施した。夏季、冬季ともに、アンケート調査はオンラインアンケートの形式で実施し、1か月程度の回答期間を設けて回答を依頼した。アンケート調査の結果の詳細を次ページ以降に示す。

目 的	• インターンシップの成功要因と課題を明確化するための評価分析、及び事業改善のための提言に向けた情報収集を行う • 次年度以降の事業に活かせる教訓を得る • 次年度以降維持すべきこと及び改善すべきことを明らかにする • コロナ禍における対面・オンラインインターンシップの効果を測る
調査方法	• Google Formを用いてオンラインアンケート作成し、調査対象者にアンケート回答リンクをメールで共有した
調査期間	• 夏季：2022年10月　1日～2022年11月　8日 • 冬季：2022年12月26日～2023年　1月31日
調査対象・回答者数	• インターン（全141名、うち130名回答）

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

インターン側へのQ1～Q3では、回答者のメールアドレス、氏名、及びインターンシップを実施した企業名の回答を得た。
Q4では、インターンシップの満足度について調査した。回答者130名の89％にあたる115名から、「非常に満足」又は「おおよそ満足」との回答を得た。Q5でその理由を尋ねたところ、「非常に満足」と回答したインターンの多くは、ビジネス知識や専門知識などの学びが得られたことや日本文化の理解を深められたこと、日本での実務を体験できたことを主な理由に挙げた。

Q4.本インターンシップの満足度を教えてください。（単数選択）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

「非常に満足」と選択したインターンはその満足度を選んだ理由について、期間中に業界の専門知識や技術を身に付けられたことや、日本での勤務経験から日本人の労働に対する姿勢について学べた、と回答した。また、今回のインターンシップでの経験が今後の就職活動において良い経験となったという意見も得られた。受入企業の人間関係が良かったことも理由として挙げられていた。

Q5.上記の満足度を選んだ理由を教えてください。（1/4）

（回答抜粋）

【非常に満足】

（新たな経験・知識の取得）

- I have been able to experience new knowledge with a good attitude of teaching from the employee at the company.
- I was able to learn more than I expected in the field
- I got to learn a new technique and coding language
- I learnt about the trading industry, get to experience working in the Japanese company and understand the Japanese culture through this internship. Besides, I also gained invaluable friendship through this internship
- The company allows me to do various kinds of tasks that exert a positive impact on my career and cultivate hands-on skills such as interpretation, and market research,…The working environment is really friendly for foreigners like me.
- This internship has opened my eyes and widened my perspective about local business in Japan
- I have learnt lot of things and I believe that they will be definitely useful in the future. This opportunity really motivated me more to work in Japan in near future.

（日本での勤務経験、受入企業の人間関係）

- I learned a lot about the working life in Japan, and it was different than I expected in a good way.
- It was great experience to work in Japanese small size company
- I received a very detailed insight into how the working world works and how such an internship could become a stepping stone for my future professional life.
- 会社の皆さんの優しさ、何も分からない自分を家族のようにいろいろ教えてくれたことは絶対忘れられないです。
- Because it is my first time experienced Japan Company at Japan directly. Of course there are obstacles during this internship, but it's make me learning a lot.
- インターンの内容自体は自分にとって非常に今後の就職の参考になったため満足しました。

（日本語力）

- By virtue of using Japanese to interpret and preparing documents, my level of Japanese has been improved.

（事務面）

- Everything was handled and provided to have a smooth internship

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

「おおよそ満足」と回答したインターンも期間中に多くを学べたことを理由に挙げたが、「非常に満足」と回答したインターンと比較して受入企業での人間関係が良好であったことを理由として挙げるインターンが多かった。一方、一部のインターンは、オンラインでのインターンシップ実施だったことや事務局での対応が満足度を低下させたと回答している。3週間のインターンシップは不十分であり、可能であれば2、3か月程度のインターンシップがしたかったという意見も得られた。

Q5.上記の満足度を選んだ理由を教えてください。（2/4）

（回答抜粋）

【おおよそ満足】

（新たな経験・知識の取得）

- I had a brilliant opportunities which the host company provide me a oversea project contribution so I can improve my capabilities which requires to start the job hunting in Japan.
- After the internship, I have learnt and experienced the working environment in Japan as well as professional means of business approaches.
- While there is room for improvement, overall I was satisfied with the whole internship program
- I somewhat achieved my goals and learned a lot of new knowledge from the internship. I was also inspired to work in Japan after graduation.

（受入企業の人間関係）

- I learned a lot during the internship and met interesting people, I was able to do some networking. But I wish it was face-to-face instead of an online internship.
- The company treats us equally like other employees. They taught us every thing with good care.
- 私には初めての海外、初めてのinternship だけど、皆優しくて満足できた3週間だったからです
- The mentor are really nice and smart people. The only limiting thing for me is the internship duration. 3 weeks is not really the enough time. 8 hours a day for the internship is somewhat exhausting for a starter. But I am glad that I can come over that challenge. Thank you for the opportunity.
- Colleague were super friendly and helpful.
- 受け入れの企業は環境もいいし、インターンシップで優しくしてくれましたが、ただ仕事で日本語を話す機会ちょっと少なかったからです。

（その他）

- Because of the time of internship is too short for me maybe its much better if extended around 2-3 month
- Host company treat internship student well and let me learn a lot of stuff that I never see in Indonesian elderly care home. I am also learn to not just focus on work, but also gaining skills in Japanese language and get a license on elderly nurse is a way to support great career in the future for they who love this job.
- I am satisfied 10/10 with the host company in terms of scope of work as well as environment. However, the procedure during the internship was quite unclear and not timely. I also faced financial difficulties and sacrifices because living expenses in Tokyo was too high for an unpaid internship.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

「やや不満」と回答したインターンは、インターンシップの内容やそこで発生した問題、インターンシップ期間及び事務局の対応を理由として回答した。また、対面形式のインターンシップを希望したにも関わらず、オンライン形式での実施となったことを理由として挙げたインターンもいた。

Q5.上記の満足度を選んだ理由を教えてください。（3/4）

（回答抜粋）

【やや不満】

（プログラムの設計、事務局の対応）

- 事務局の案内が不十分、企業のインターンシップ内容が薄い。
- There are so many problems about internship program
- Because it could have been the best if the days of the internship is at least 2 months to 3 months and not just 23 days.
- Because supports from FVC weren't good enough.
- The internship in the company was really ok but the period was too short to learn new things from the company or contributed something to the company. And also the living expense (3000jpy/day for not only meals but also traveling expense, no allowance for day-offs) made maybe not only me find difficulty in spending to live a week, especially I lived in Tokyo where the price is very high.
- I wished I was placed in a role that was more intellectually challenging and related to my current area of study. I also wish information such as flight tickets and accommodation were released sooner. On the other hand, the accommodation had no wifi and my company required me to work mostly from home (3 days a week) and which incurred extra costs for me as I had to go to different Starbucks/cafés to work and had to get several beverages a day to stay in a cafe with stable wifi connection. However, in my interactions with the people in the company, they were mostly very polite and helpful, but it seems like the company was understaffed causing a lot of delays in communication and disseminating information.

（インターンシップ形式）

- Due to some reasons I could not go to Japan for in person internship. As a result there were many things I missed like interacting with local people. But as an online internship, I could do proper survey of my country by directly conducting interview of Indian people.

（インターンシップの内容）

- I realized that I'm not very interested in the Marketing major.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

「非常に不満」との回答者は4名であったが、そのうち3名はQ5で非常に肯定的な回答をしており、Q4の回答選択にミスがあったものと考えられる。また、もう1名は様々な体験ができたという感想を述べているため、非常に不満であったかどうかは不明瞭である。

Q5.上記の満足度を選んだ理由を教えてください。（4/4）

（回答抜粋）

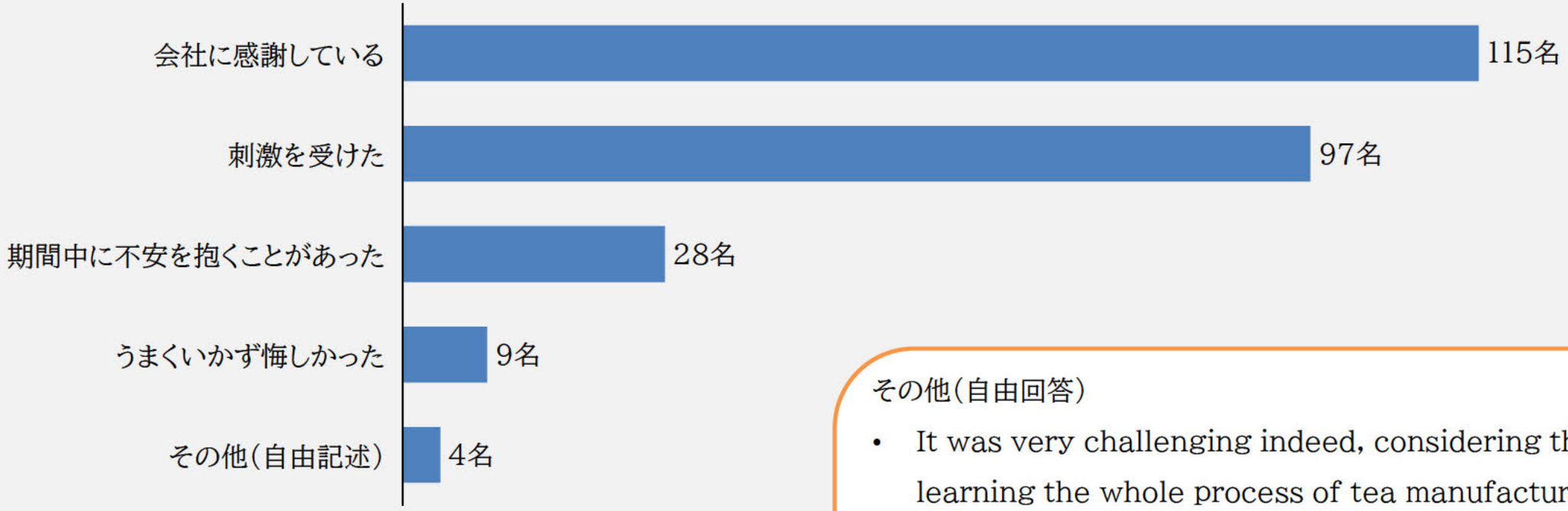
【非常に不満】

- The internship was a huge addition for me on both professional and personal levels. I have learned a lot throughout this experience and I was surrounded by so much kindness and support from the company side and the internship organizers. Everything was well planned and organized from day one which made everything much easier and more comfortable for me.
- 色んなことを体験できました
- The host company was taking a very good care for me, and willing to teach me diligently and sincerely.
- Very good company. They are friendly colleagues and superiors, enthusiastic to teach me Japanese culture and professional knowledge

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q6では、インターンシップの感想を複数選択で調査した。回答者130名中115名が「会社に感謝している」、97名が「刺激を受けた」と肯定的な回答をした。一方で、「期間中に不安を抱くことがあった」は28名、「うまくいかず悔しかった」は9名が選択している。また、自由回答の中には、「今回の体験は挑戦的でもあり、楽しくもあった」との回答があった一方で、「日本での就労には絶対に馴染めないと感じた」との回答もあった。

Q6.インターンシップの感想を教えてください。（複数選択）



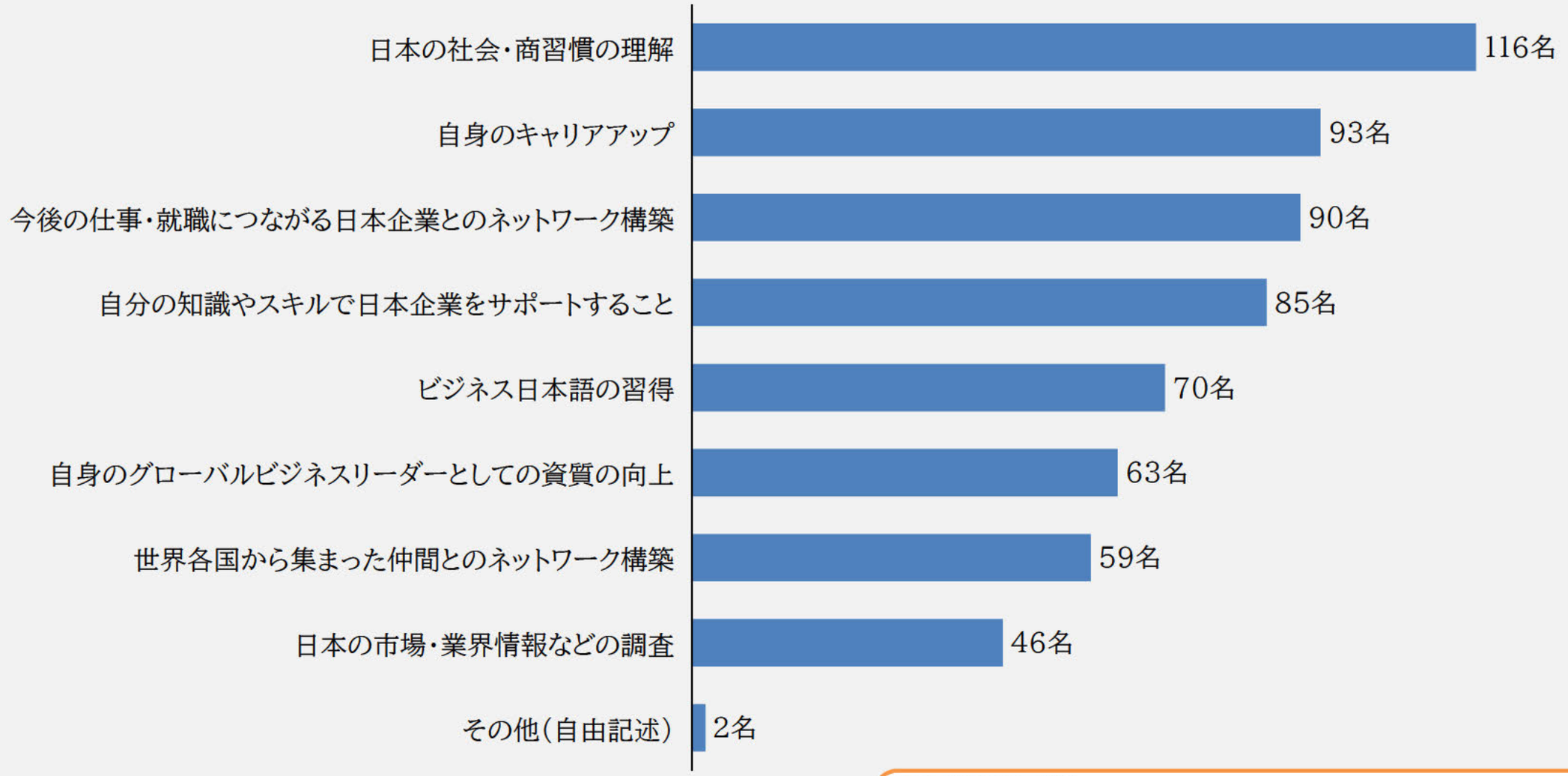
その他（自由回答）

- It was very challenging indeed, considering that learning the whole process of tea manufacturing in Japan is both challenging and somewhat fun.
- Felt I would never fit in to work in Japan
- The internship helps foreign students to give a great amount of exposure to Japanese work culture in a short amount of time.
- Overwhelmed with the environment

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q7では、各インターンが開始当初にどのような成果を上げることを目指していたのか調査した。回答者130名中116名が、「日本の社会・商習慣の理解」と回答しており、実際に日本企業で就業体験をすることで理解を深めようとしていたことが伺える。また、「自身のキャリアアップ」が93名、「今後の仕事・就職につながる日本企業とのネットワーク構築」が90名、「自身のグローバルビジネスリーダーとしての資質の向上」が63名と、インターン自身のスキルやキャリアの向上を目的とした参加者が多かった。

Q7.インターンシップの参加当初に目指した主な成果はどのようなものでしたか？（複数選択）

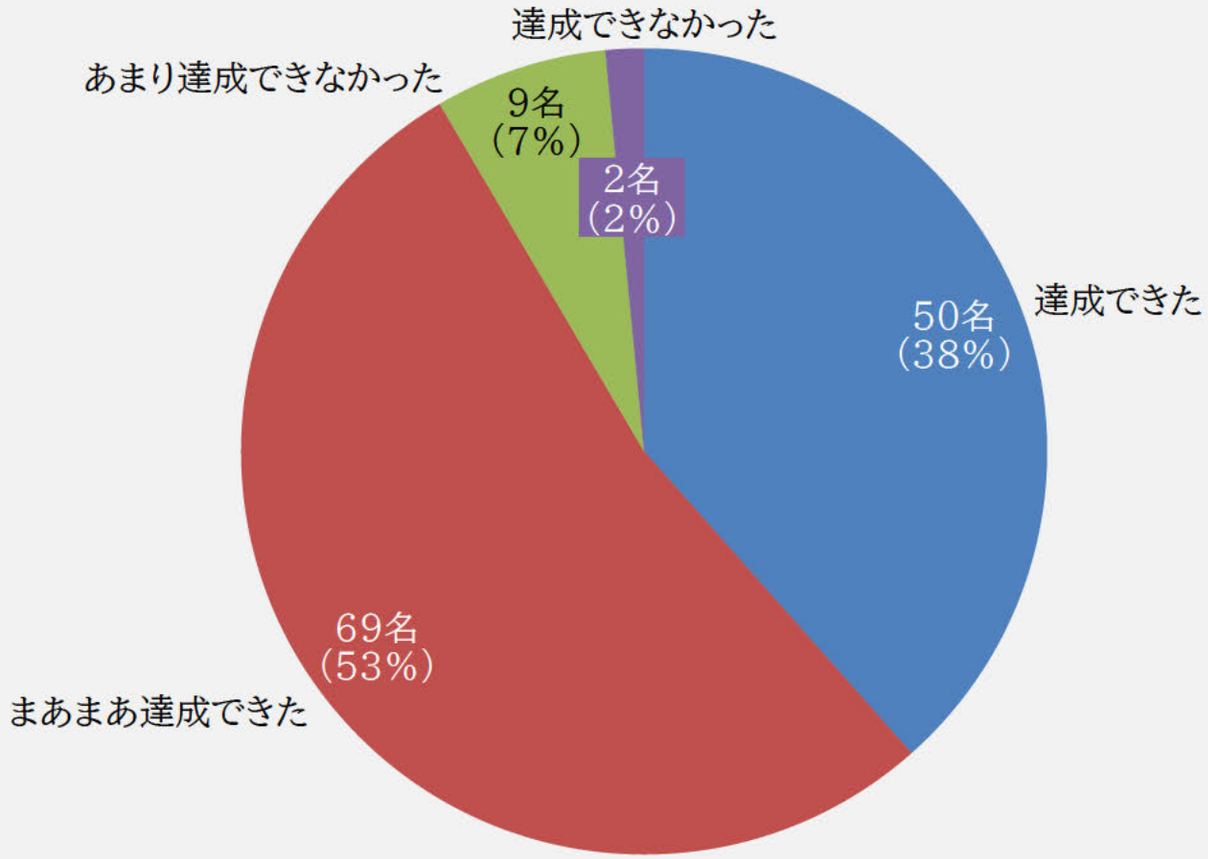


その他（自由回答）
- To have an opportunity to use my skills in real world setting.
- Understanding the technologies that are used by company

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q8では、各インターンが自身の目的を達成できたかを調査した。回答者130名のうち91%にあたる119名が「達成できた」又は「まあまあ達成できた」と回答した。他方、「あまり達成できなかった」又は「達成できなかった」と回答したインターンも11名おり、全員が満足した成果を得られたわけではなかった。

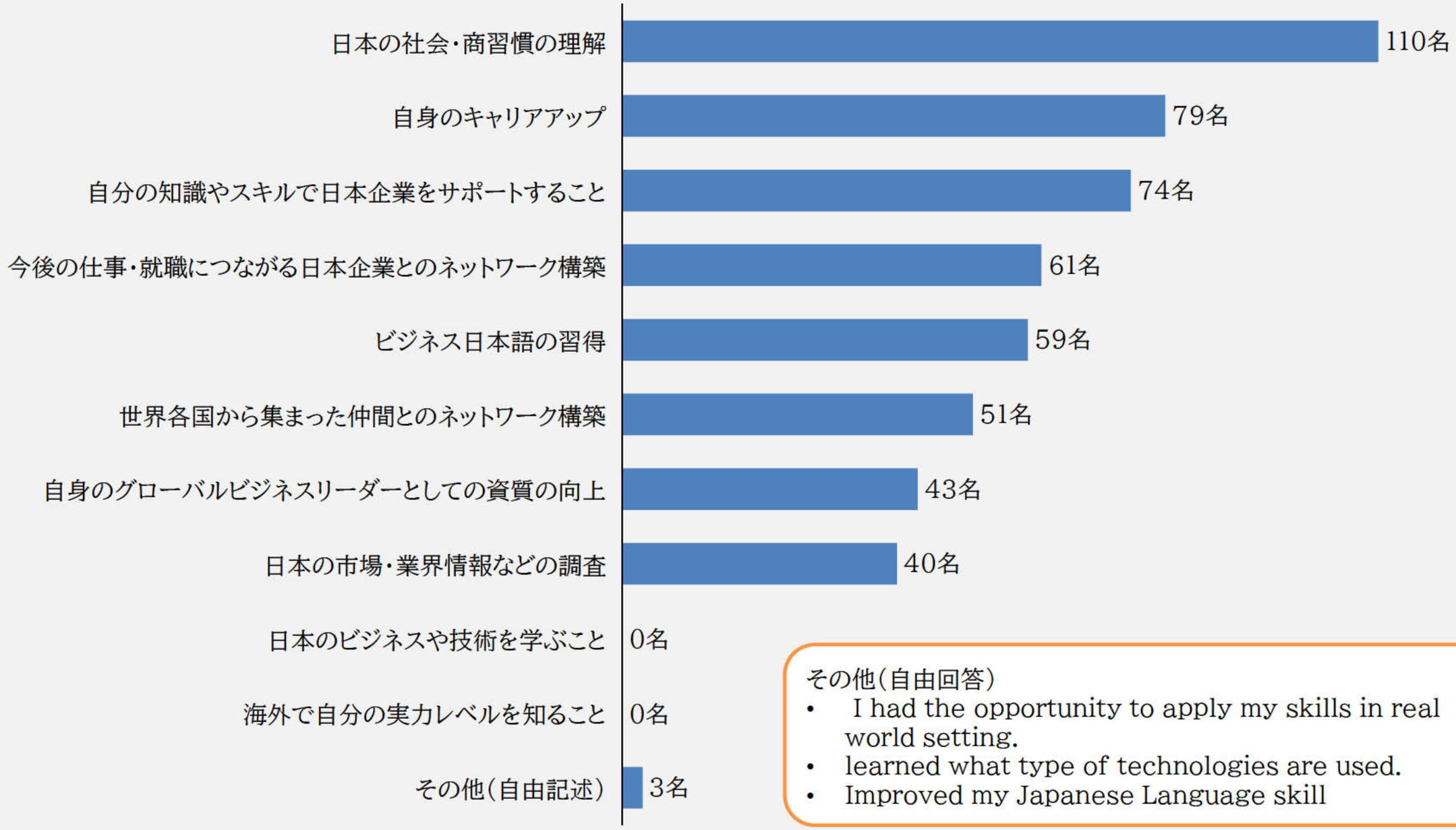
Q8.インターンシップであなたの目的は達成できましたか？（単数選択）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q9では、各インターンが実際に達成できた成果について、複数選択で回答を得た。回答者130名中110名が「日本の社会・商習慣の理解」が進んだと回答し、「自身のキャリアアップ」ができたと回答したのは79名、「自分の知識やスキルで日本企業をサポートすること」ができたと回答したインターンは74名であった。さらに、59名が「ビジネス日本語の習得」ができたと回答しており、各インターンにとってビジネスの場面で日本語を使う貴重な機会になったものと思われる。

Q9.インターンシップに参加した結果、実際に達成できた成果を教えてください。（複数選択）

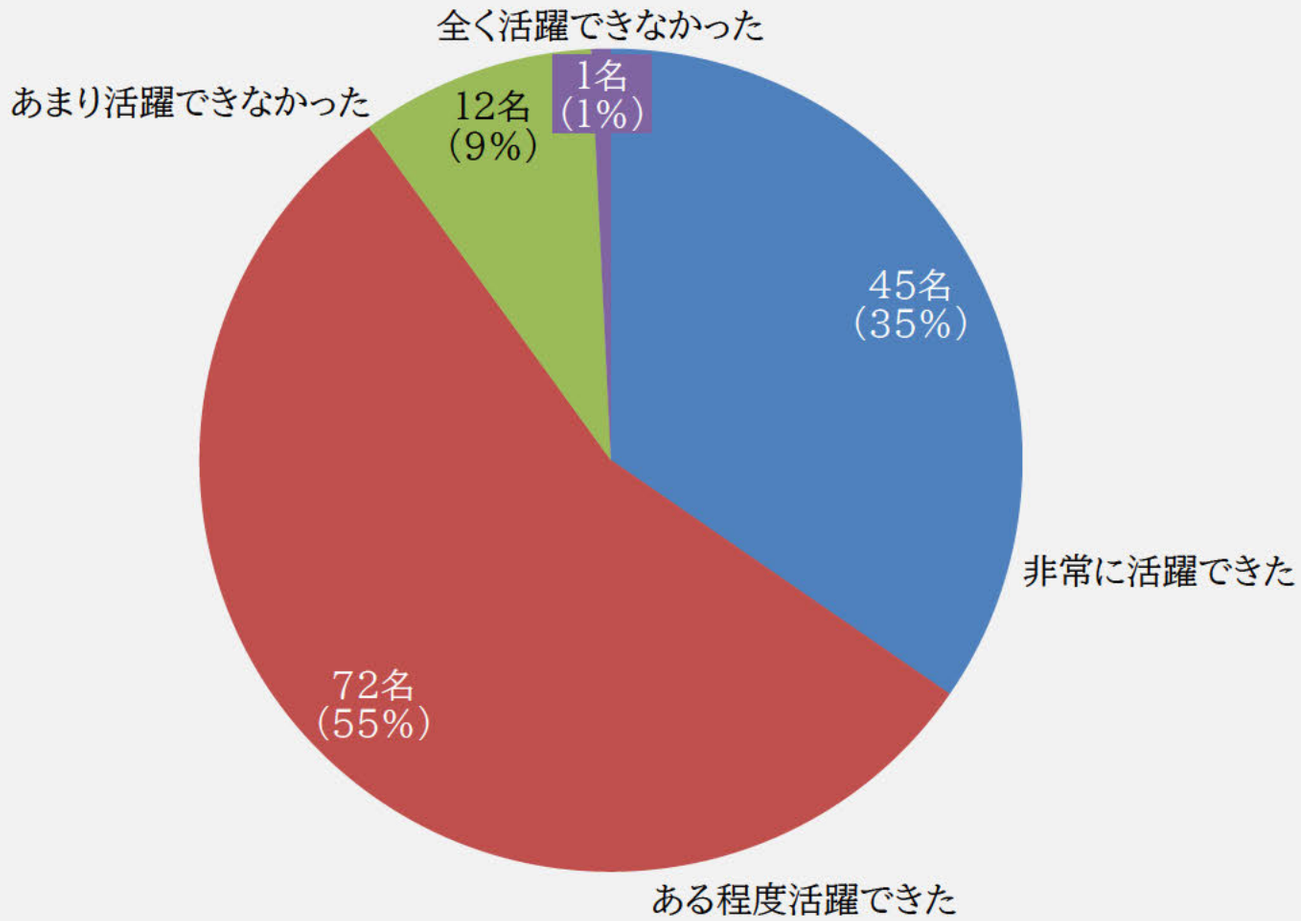


その他（自由回答）
- I had the opportunity to apply my skills in real world setting.
- learned what type of technologies are used.
- Improved my Japanese Language skill

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q10では、インターンの受入企業での活躍について調査した。「受入企業で活躍できたか」というQ10の設問に対して117名は「非常に活躍できた」又は「ある程度活躍できた」と自身の活動を肯定的に捉えていた一方、12名が「あまり活躍できなかった」、1名が「全く活躍できなかった」と回答した。

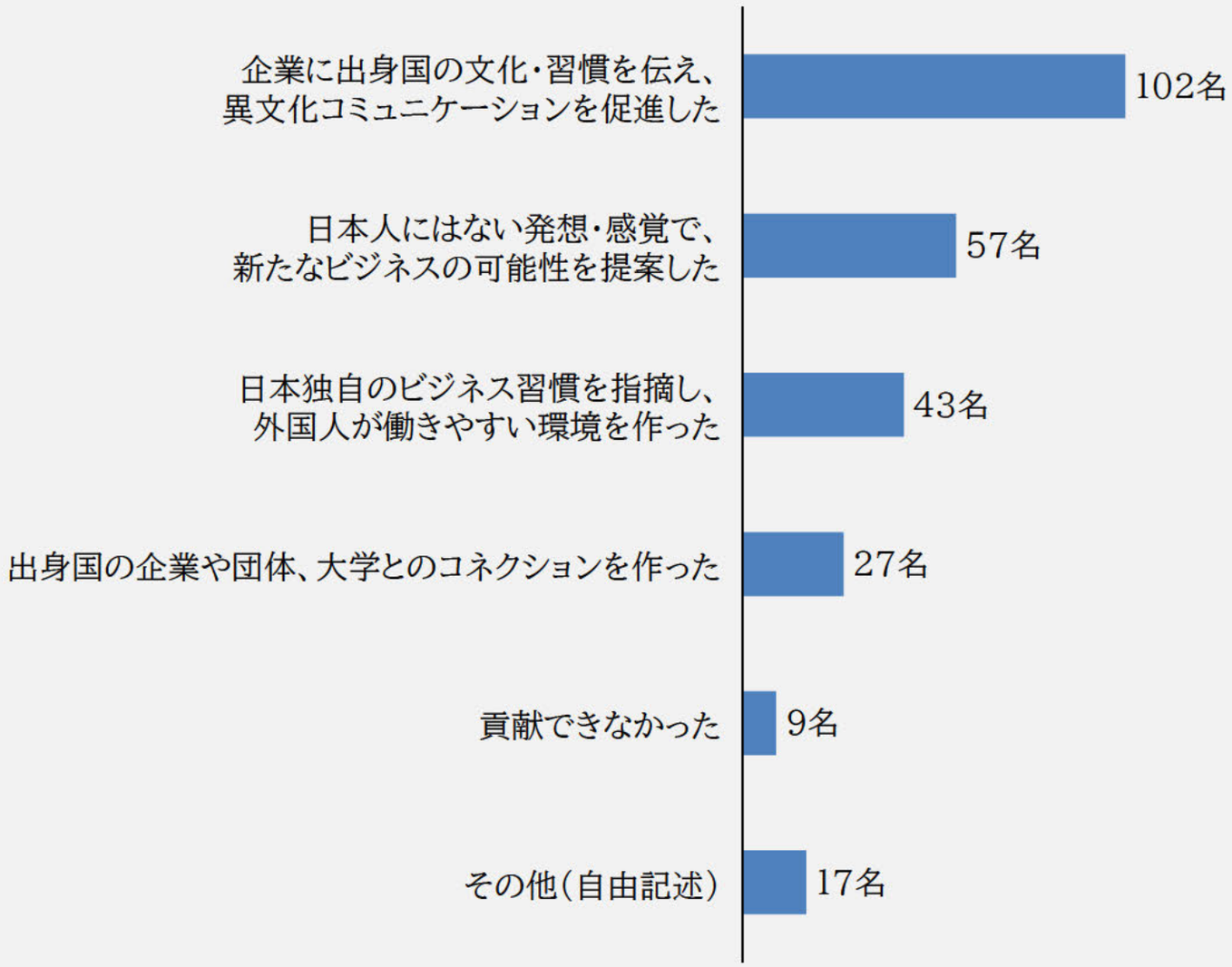
Q10.受入企業で活躍できましたか？（単数選択）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q11では、インターンの受入企業での貢献について調査した。受入企業内で「異文化コミュニケーションを促進できた」と考えているインターンは102名と最も多く、次いで57名が「新たなビジネスの可能性を提案できた」と回答している。

Q11.企業に貢献できたのはどのような面だと思いますか？（複数選択）



その他（自由回答）

【成果物を残せた】

- Produced data research and scripts for their marketing videos
- I added features to the host company's software program and I have written programs that they may use in the future.
- Make a landing page project that company want, and giving them a suggestion in design or business content
- I learnt about web development and shared more about information technology fundamentals with my host company which I think will be helpful too.

【企業をサポートできた】

- I provided additional support/helping hand to the business activities, and so provided understanding of new technologies/programming language
- I added value to the company's work
- My company needed additional manpower so I helped it by completing any tasks that I could do
- 自らの知識やスキルを活かし、会社のビジネスサポートに貢献できた
- Helped business team to solve their problem using my skills
- I was able to help around the company by being flexible in doing daily tasks
- 会社の行事に参加したり頼まれた資料を作成したりして少し会社の役には立ったと思います。（少しでもお役になったなら嬉しいです）

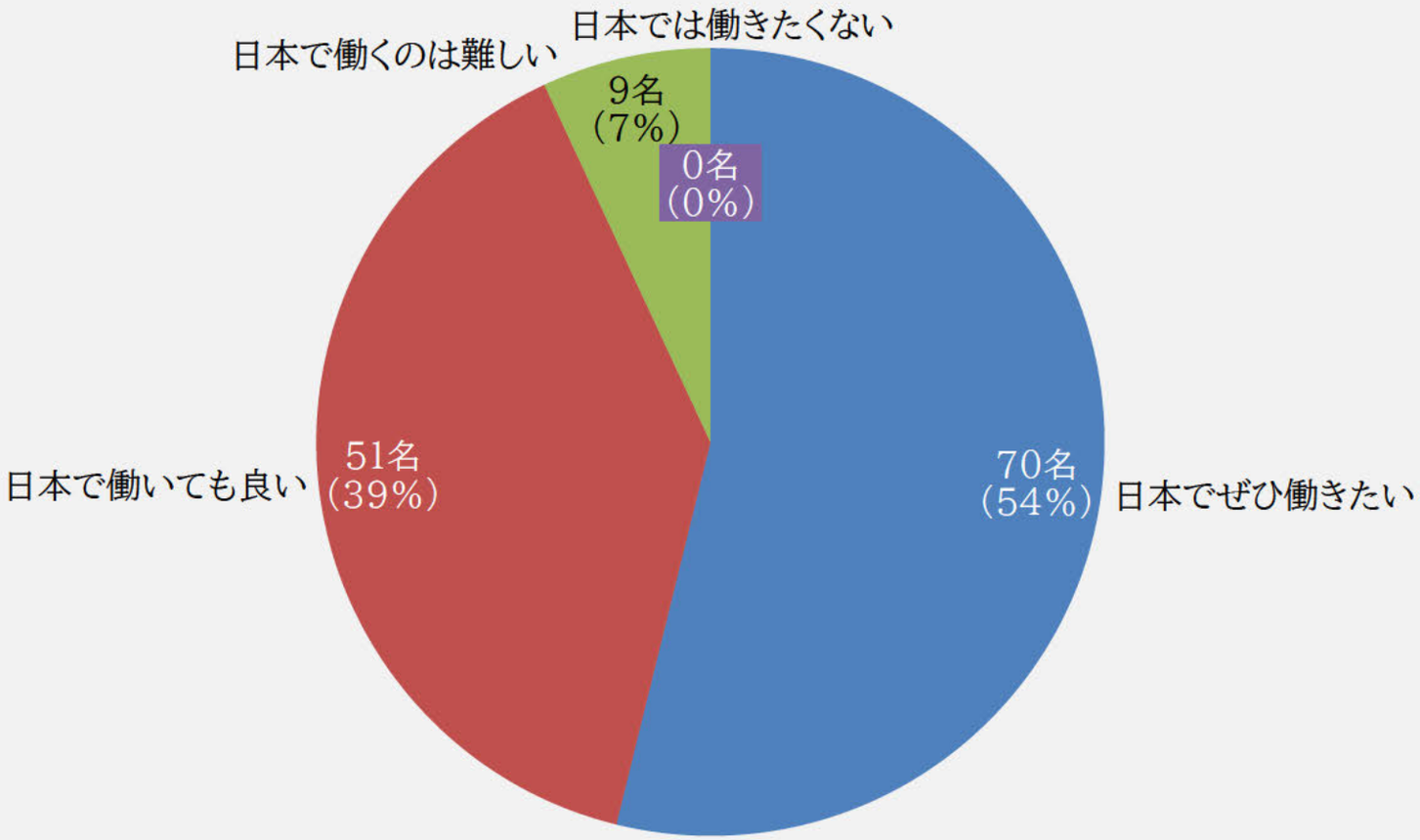
【期間が短かすぎて貢献できなかった】

- The internship was too short so that I could contribute to my host company.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q12と13では、インターンシップを経て各インターンが日本での就職をどのように考えているか調査した。130名中70名は「日本でぜひ働きたい」、51名が「日本で働いても良い」と回答したが、9名がは「日本で働くのは難しい」と回答した。この回答を踏まえ、日本での就職を希望する20名には、Q13でその理由を尋ねた。Q13への全回答は次頁に示すが、本事業への参加で日本での就労意欲が高まったり、日本語を勉強したいと考えるようになったとの回答があった。また、大学の専攻や日本の大学を卒業することを理由に挙げたインターンもいる。

Q12.今回のインターンシップを通じて、日本での就職についてどのように考えましたか？（単数選択）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q13.日本での就職を希望する方は理由を詳しく教えてください。（1/2）

【日本で是非働きたい】

（日本文化が好きだから）

- .私は日本がとても好きです。その文化と自然。日本でのサービスもとても気に入っています。日本のサービスは世界一だと思います。

（労働文化・環境・給与が良いから）

- Because I appreciate the culture and customs in professional setting of Japan
- I want to achieve my dream of working overseas, and I find Japan comfortable for both living and working.
- better payment, Easy life environment, better technology learning
- I really like the way Japanese people do in advance preparation for everything in a very timely and organized manner. They think very deeply about issues, which I got to experience through the internship also. I want to learn more about Japanese way of thinking and work culture by working in Japan.

（技術を身に付けるため/キャリアアップ・成長のため）

- I want to work in Japan because it will give me better opportunity to grow professionally. Also, I want to live in Japan.
- 自分の出身地でこのような機会が少ないのですが、日本で自己成長の余地があると信じています。
- 自分の日本語や知識が使いたいです。
- It offers a lot of interesting and challenging perspectives, in which I would like to be part and perhaps contribute meaningfully to the livelihood of society.

（先進国であるため）

- Japan has the 3rd largest economy in the world. It is also technologically advance.
- Japan has one of the biggest economies in Asia, and is a center for International Business done in its surrounding locations. The possibilities to advance my career here is bigger as compared to working in my home country, the Philippines. I also do not mind the business culture here in Japan, and actually prefer it as to working in any other country.

（日本の大学に在籍しているから/母国で日本語を専攻しておりその経験を活かしたいから）

- 日本で3年も住んでいたため、この時に日本で働かないと将来日本にもう一度戻って働くことが難しいからです。そもそも、今後帰国して働いても日本企業に就職しようと思っているため、日本で経験を貯めて帰国したほうが有利だと思います。
- 私の大学の専攻はビジネス日本語です。ですから、日本で仕事をすれば、学んだことをより効果的に適用できると思います。
- 私は今まで磨いてきた日本語能力やスキルを生かせられる、または社会の役に立つ環境で働きたいので、日本で就職したいと思います。

（その他）

- They are welcome even for the fresh graduates, the ones who do not have any background knowledge of the work, and they are patient to teach others.
- I would like to work in Japan , because the IT sector is still growing in Japan and there are lots of opportunities. I liked the discipline and culture of the Japanese people.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q13.日本での就職を希望する方は理由を詳しく教えてください。（2/2）

【日本で働いても良い】
（日本文化が好きだから）

- After I visited Japan, I knew that Everything is beautiful there even people heart. I got to meet a lot of nice and warm people.
- Japan's discipline and clean atmosphere gives good healthy life. Nature is beautiful. It was so peaceful to live there.

（労働文化・環境・給与が良いから）

- The salary is higher than in developing countries. There are many good opportunities here.
- what was holding me back was the myth about Japanese working environment to be not so healthy. To my surprise, after having my internship, I realized that a lot of them are just stereotypes. The Japanese working environment is actually becoming more and more international and foreigner-friendly.

（技術を身に付けるため/キャリアアップ・成長のため）

- working in Japan will also allow me to support Japanese companies through my skills and knowledge, propose new business ideas, promote cross-cultural communication between Japan and other countries in order to expand their sizes markets.
- I think working in Japan gives me an opportunity to step out from my comfort zone and learn to be independent. Besides that, I think the future prospect of job in Japan is better than Malaysia.（より高いレベルで挑戦できる。自分の国よりも日本の未来の方が明るい）

（先進国であるため）

- Because its a very advanced country

（日本の大学に在籍しているから/母国で日本語を専攻しておりその経験を活かしたいから）

- かなり長い間日本語を勉強しており、日本のビジネスに関する知識も学んでいるので、ここ日本で応用したいと思います。そして日本での生活が好きです。
- まず慣れた環境ですし、仕事の面も生活の面もバランス良く取れそうと感じました。今回のインターンシップを通じて日本にいるときの居心地よさも確かめることができたため日本で働いてみてもいいかもしれないと考えようななりました。

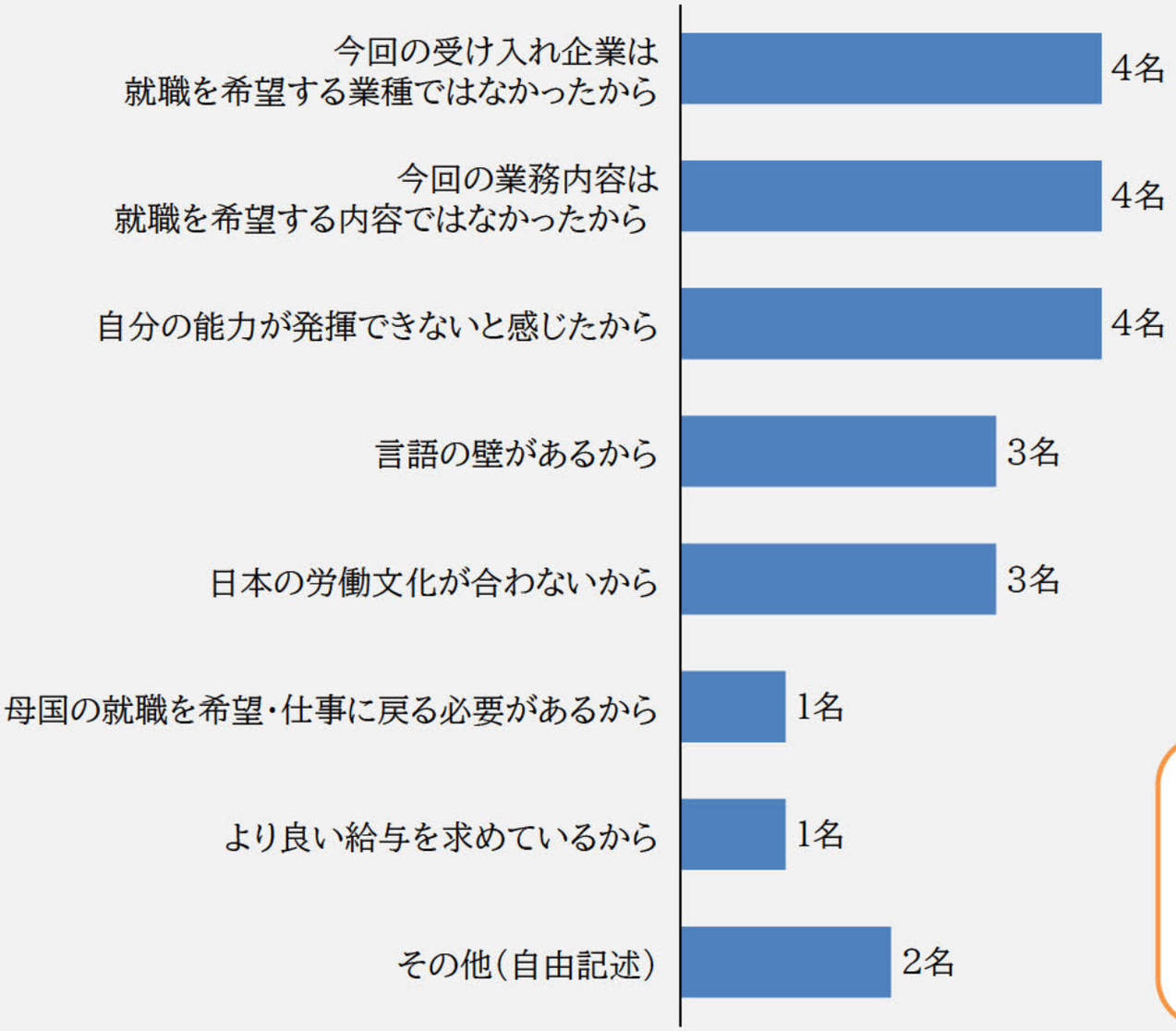
（その他）

- it 's a good and safe country but I think this internship taught me that i really do not want to work in Japanese 100% cause i was way too anxious about whether I got the Japanese correctly or not instead of focusing on the content（日本で働いても良いが、日本語が正しく使えているkどうか心配になってしまう。）
- 自分の知識やスキルで日本企業をサポートしていきたいと思います。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q14では、Q12で「日本で働くのは難しい」と回答した9名に対し、その理由を複数選択で尋ねた。理由は「受け入れ企業は希望する業種ではなかったから」、「業務内容は就職を希望する内容ではなかったから」、「自分の能力が発揮できないと感じたから」を選択した方が多く、今回のインターンシップの結果と日本での就職を直結して考えているインターンが多かったことがわかる。

Q14.日本で働くのは難しい、もしくは働きたくないと回答した理由をお答えください。（複数選択）

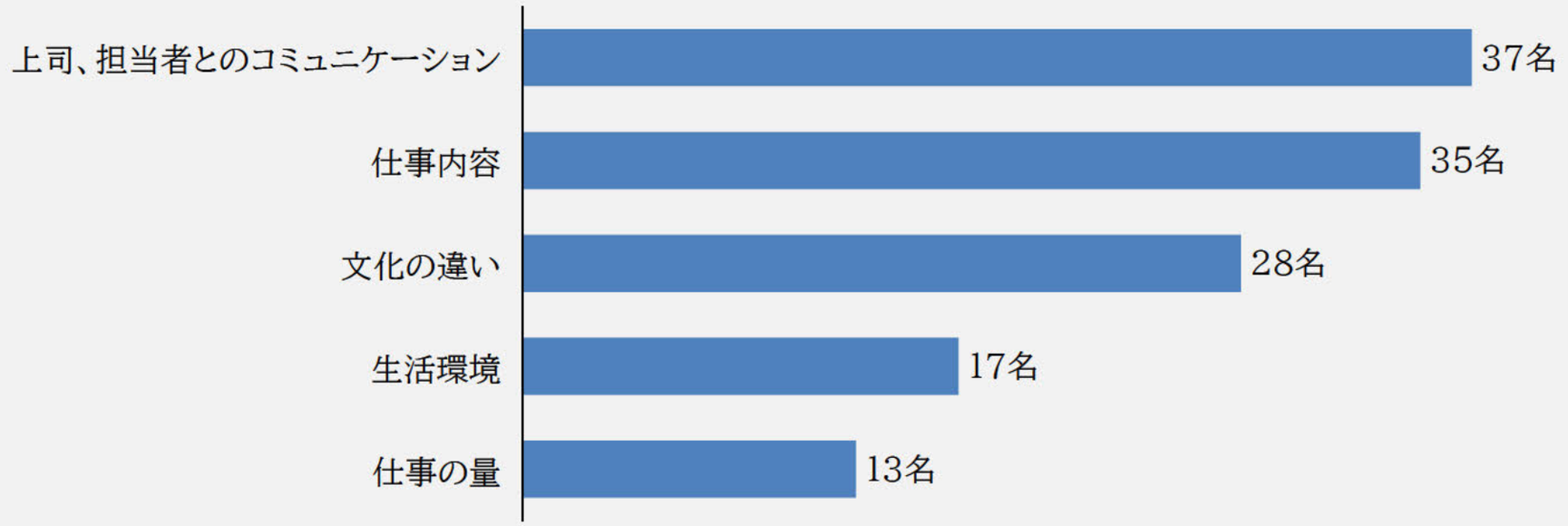


その他（自由回答）
- 日本で働きたくないということではないが、インターンシップ先の企業には毎日残業をしている社員がおり、身体面・精神面で健康的ではないと感じた。とはいえ、日本での就職機会があれば是非受けたいと思う。
- お祈りの時間の確保

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q15では、インターンが期間中に苦労した内容を複数選択で調査した。「上司、担当者とのコミュニケーション」が37名、「仕事内容」と回答したインターンが35名、「文化の違い」が28名、「生活環境」が17名、「仕事の量」が13名であった。また、自由記述の回答では、企業側の人員が十分でなくフィードバックの時間が十分に取られなかったことや、海外からのオンラインインターンシップ参加による時差を挙げたインターンもいる。また、業務や日常生活において日本語でのコミュニケーションに苦労したインターンが9名いた。

Q15.インターンシップにおいて苦労したことを教えてください。（複数選択）

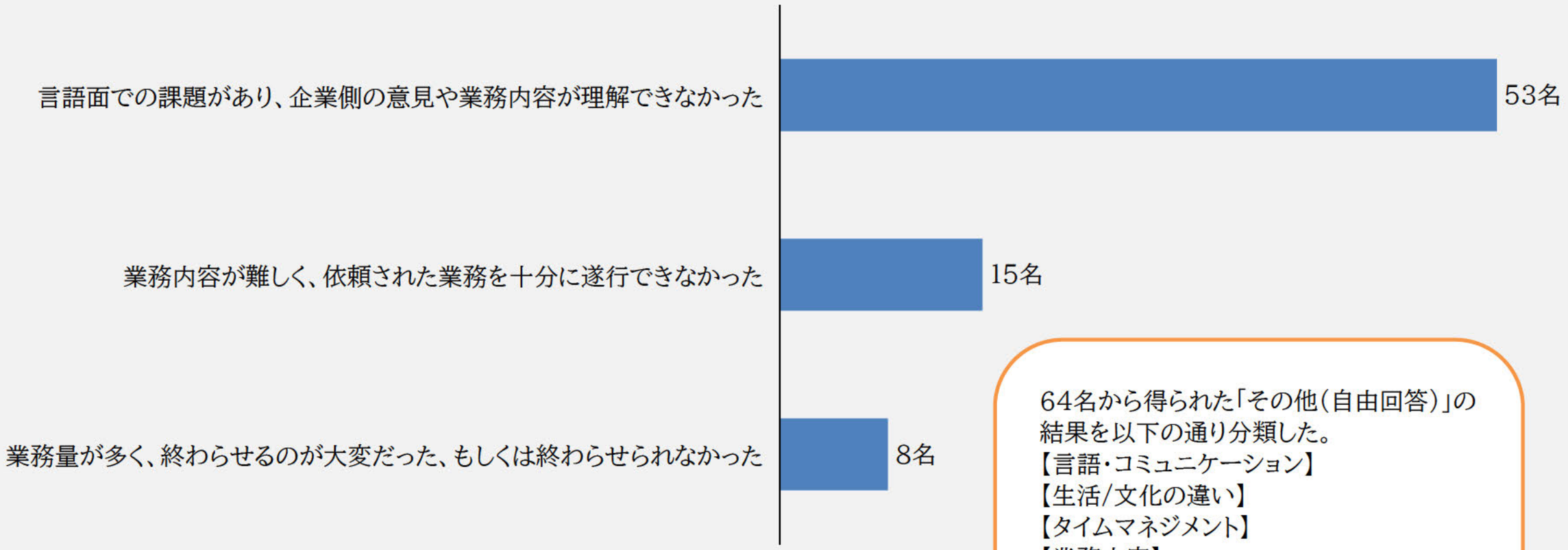


その他（自由回答）
- The company lacked staff, so it took a long time for my mentor to give me feedback.
- 時間の調整・管理/Time difference as I was not in Japan
- Communication with other company staff.
- there's not that much workload cause it was a simple task so it wasn't challenging enough for me
- Minor challenges like not attending the on-site meeting as I could not make it, but otherwise I had great fun.
- 担当者以外やインターンシップ期間中に接する社外の方とのコミュニケーション
- 通勤時間
- 言語の違い（9名）
- なし（21名）

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q16と17ではインターンシップ期間中に発生した課題について調査した。Q16では、130名の回答者のうち53名が、「言語面での課題」を挙げており、企業側の意見や指示内容が十分に理解できなかった場面が発生したことが伺える。また、Q17ではより具体的な課題について記述式での回答を得た。全回答は次頁に示すが、コミュニケーションについては単に日本語力だけではなく、メンターによるフィードバックで使われた間接的な表現に不慣れであったと回答したインターンがいた他、学業との両立や通勤を課題とした方もいた。

Q16.インターンシップを進めるうえでどのような課題が発生しましたか？（複数選択）(1/3)



64名から得られた「その他（自由回答）」の結果を以下の通り分類した。
【言語・コミュニケーション】
【生活/文化の違い】
【タイムマネジメント】
【業務内容】
【新しい分野への挑戦】
【受入企業の体制】
【学業と本事業参加の両立】
各テーマの回答を抜粋して次ページ示す。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q16.インターンシップを進めるうえでどのような課題が発生しましたか？（複数選択）（2/3）

（回答抜粋）

【言語・コミュニケーション】

- Simple misunderstanding due to language level but we already working on it so problem is minimal.
- Just a challenge relating and speaking with people outside the workplace because I couldn’t understand or speak Japanese well
- 日常的な会話だと大丈夫ですが、方言に苦労するところがあります。
- 自分の言語能力は足りなかったことをよく気にしました。コミュニケーションをなんとなくとりましたが、日本語が上手になればほうがいいと思います

【生活/文化の違い】

- The weather was so different from my country
- 住宅でインターネットがなくなったから、発表とか活動をやり難かったと思います。
- I was new to Osaka so living and working in Osaka is kind of challenging
- ビザを取るのが難しくなりました。
- 決められた時間帯に毎日オフィスに出勤するのは少しチャレンジングでしたが慣れてきたら問題でなくなるとも思います。
- There is no fixed workplace and my accommodation had no internet connection, making it challenging to work, but the work content is easy and would appreciate it if it was more challenging and related to my field of study.

【タイムマネジメント】

- I did online work so there is a problem with communication sometimes.

【業務内容】

- 海外の会社を探す時、情報が足りなかった
- 細かい業務あって時間かかりました
- the amount of workload is so small I don’t know what to do in 8 HOURS at the office
- there are part of the project that i have working on, is creating a server in AWS i think that the only challenges that i have encounter because i’m new to AWS, but that challenges makes the fun, because now i have the knowlegde to handle the situation
- 海外のお客様が来ることを知ってたら、いろいろな準備をしてうまくいくのかと心配してたが結局よくできたことは自分にとって大きなチャレンジだった。
- Some of task took a bit longer time than what I estimated to accomplish
- Gaining awareness to Japanese People about the company’s product
- Sometimes the work can be a bit difficult depending on the document’s content, but the company was very supportive so I did not encounter too many problems
- Difficulties wit Some of the company’s workload and some department processes.
- 自分に与えられた課題を持ち帰ることができなかったため、上手く進められなかった。
- Because the work content is not necessarily in line with my field, I needed some time to get used to the work.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q16.インターンシップを進めるうえでどのような課題が発生しましたか？（複数選択）（3/3）

（回答抜粋）

【新しい分野への挑戦】

- Understanding the technologies.
- Some of task took a bit longer time than what I estimated to accomplish
- I am an undergraduate student. There are some concepts of engineering that I don’t have expertise in. Web development was one of them. I got my theme from my host company as web development. Earlier I found it a little bit challenging to understand but when I studied about it I felt confident to work on it.
- I have no background about elderly care, so I must challenged to understand and experience what a nursing home in japan is like
- 通訳・翻訳する体験は初めてでしたので、緊張しました。

【受入企業の体制】

- There was a long waiting time for feedback, hence I could not proceed to other tasks.
- Too little time spent with my supervisor to go over the workplan and work-related discussion

【学業と本事業参加の両立】

- I have to do internship in the morning and come back to university in the afternoon. Doing this can be tiring.

【その他】

- 企画力と事前準備力も全くないインターン生。
- 仕事遂行のため、つい無理をしてしまい、体調不良になった。
- Not too much workloadThe work was smooth and fit to me

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q17.インターンシップを進めるうえで発生した課題を具体的に教えてください。（自由記述）（1/2）

（回答抜粋）

【言語・コミュニケーション】（言語を理由とした回答者45名）

- I think communication skills play a big part in the job. To ensure an effective communication, it would be better to be able to speak and understand Japanese languages.
- It was quiet challenging when I receive feedback upon my work because the communication style that my mentor has was rather indirect, of which I am not used to.
- Mentor did not answer what I need to know to do my job.
- To be able to speak in the formal way of speaking, ”Keigo”, as I did not have any practice of speaking it as there are very few occasions for me to speak in it.
- I did online work so there is a problem with communication sometimes.
- 時々日本人の方が話す内容がはっきりわかりません。
- メンターが何を言っているのか分からない時があります。
- 企業からインターンシップの課題がはっきり教えられていないので時々どうすればいいか分からなかった。
- 言語面での課題があり、企業の意見が理解するのに、自分の意見が表現できませんでした。それに、日本語のスピートが早すぎますから、聞き取りと理解が難しかったです。

【生活/文化の違い】

- Couldn’t fit on dress code for the first time, mostly watched performances of company’s employees, but had few chances to try by myself
- The difference of culture leads to many misunderstand and barrier in working
- To fit my prayer time at work time.
- The only thing was about the working email culture. Sometimes, I made some mistakes on report emails and my mentors was super angry about that. But I was trained and now I am master of this.
- 日本での生活に慣れること。（7名）

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q17.インターンシップを進めるうえで発生した課題を具体的に教えてください。（自由記述）（2/2）

（回答抜粋）

【タイムマネジメント】

- As the distance from my place to the company is really far, I need to wake up quite early in the morning to prepare food and to reach there on time. It was quite exhausted to be honest.
- Time difference, because my internship was in online
- The time difference made it difficult for me to schedule meeting with the company members

【業務内容】

- 仕事するときは全然パソコンを使わないで翻訳とか、難しい仕事は全然しなかった。だいたい単純な仕事をしてと思うから、「これでも大丈夫かな？」とずっと考えています。
- Since the internship is like full time 8 hours a day. It is more like working than learning. I wanted to learn more from them.
- 業務の内容が難しかった。

【新しい分野への挑戦】

- 未経験の業界・分野のタスクに挑戦すること。IT分野の場合、使ったことのない言語を使うことや作ったことのないものを開発すること。
- 体調がしょっちゅ不良だったこと；大量な仕事の量に対して自分にプレッシャーをかけて、無理でもこなせようとしたこと；知らないことが多すぎて毎日圧迫感と過ごしたこと等

【受入企業の体制】

- The company was very small, so they lacked staff and it took a long time to receive feedback and further instructions.
- The host company was very busy, so sometimes they didn’t have time to care for interns
- 配属された部署では若い社員が少なく、交流を深くできなかったこと

【学業と本事業参加の両立】

- Doing internship and university research at the same time.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q18では、Q16と17で得られた課題をインターンがどのように対処したのかを調査した。言語・コミュニケーション面での課題に対しては、各インターンとも受入企業の担当者からサポートを得たり、翻訳サイトを活用したりして対処していた。また、ドレスコード等の慣習や文化の違いについては、企業の指示に従ったり、事務局へのサポートも求めながら対処していた。

Q18.インターンシップを進めるうえで発生した課題にはどのように対処しましたか？（自由記述）(1/4)

（回答抜粋）

【言語・コミュニケーション】

- I tried learning certain words or phrases as best as i can
- Thankfully, one of my colleagues was there to interpret and explain.
- i used an AI web to check the grammar but even if the web said ok the reality may not be that way
- I used deep learning to translate all the conversations.
- I used dictionary and read from internet the similar contents.
- Try to express my personal opinion in different ways
- Thanks to the frequent discussion meetings with the internship office, almost issues were solved positively.
- わからないことがあったら、メンターと相談します。
- Through practice and error I was able to slowly be able to speak a good amount, and got used to it over time.
- Always be ready with a smartphone for new vocabulary learning and use Google translate for better communication
- Try to talk
- 毎日、聞き取り、多く話し、理解しないところをもう一回聞きました。耳がだんだん慣れていきました。まだ上手ではないですが、最初よりよくなっていると思います。
- Since it was an English lesson I’d ask them to speak English or try to explain themselves in English
- 事務所から帰った後で日本語を勉強したり、練習の為日本人の友だちと沢山話しました
- I straightly clarified that there was something they said that I did not understand
- I used to prepare beforehand for the conversations I’m to have the next day.
- I tried to use both English and Japanese to express my opinions although it was not quite helpful.
- Concentrate on the work and ask lot of questions
- I discussed with my supervisors several times and also asked other people I know for advices.
- Learn more words related to the tasks.
- After the working time is over, I review what I have learned while ono work day and then ask my mentor about it in the next day if there was anything I didn’t understand.
- 日本語が上手く話せないと感じても、出来るだけ日本語で話せました。
- I asked my mentor about what I had not understood, asked for more the same task so that I could practice and get along with the job.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q18.インターンシップを進めるうえで発生した課題にはどのように対処しましたか？（2/4）

【生活/文化の違い】

- Thanks to Japan Internship Program office's support, the company adjusted their attitude and improve their internship program properly
- I asked my mentor about it, and they acknowledged it and gave me time to pray.
- If I missed anything, my co-worker and my instructor will tell me and teach me how to work it well. Mostly is manners with colleagues.
- I encouraged myself that I can do it
- I researched about the issue first and tried to understand the problem. When I could not understand, I asked the host company to once again explain in simple language.
- ask help to mentor, and others, self-help and etc
- 名刺についてはとにかく鞄に5つぐらい残すこと。そして、移動する前にチェックすること。それから、名刺の特別財布を持つことだと思っています。同時通訳はとても頭の疲れになったので、経験を増やすことが良いと思っています。

【タイムマネジメント】

- I just try as hard as I could so that I can take full advantage of this internship
- I had to reschedule my personal life to better fit the time schedule , including early morning meetings etc

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q18.インターンシップを進めるうえで発生した課題にはどのように対処しましたか？（自由記述）（3/4）

【業務内容】

- more research required
- We brainstormed other items we could sell before settling on smaller Japanese items like products from DAISO, that are deeply wanted in India. Such items can also be very profitable to sell. We contacted an Indian company and were able to figure out such trade and the means though it can happen.
- Some future works implemented with help of colleagues
- できるだけ早くおわりました
- By reading the online forum, and talk the IT-related problem with programmer friends to find root-cause faster. The mentor also open for adjusting timeline / schedule if needed.
- メンターと相談して、教えてもらいました。
- I was not well versed with coding in PHP and storing data in databases and connecting it in the website. So, I first decided to create an Internship master schedule with the guidance of my mentors. After that, I spent time learning and researching the fundamentals on how to develop a website. I had regular discussions with my mentor on how to proceed with things.
- 様々な人に相談しました。
- Trying the best to spread the advertisement and contacting to the costumer
- I searched for the words I did not understand using the internet and the company's word database. I also asked the mentor for guidance for some parts I did not understand, and then figured it out the rest.
- Proactively asking before doing anything
- I just did my assigned duties.
- Made well planed and did a lot of research.
- 受け入れ会社の担当の方と相談してから、報告書作成や英和翻訳はできる範囲までこなして、情報リサーチの場合は色々工夫しました。例えば、Google翻訳の機能をよく使っていました。
- My challenge was mostly related to language rather than work. I studied a lot of different material and researched different things in Japanese. To overcome my language difficulties I used to read a lot of concepts, definations, and refer to different sites on the internet and consult with my seniors. This helped me do my work with out many difficulties in understanding and with efficiency. Studying and doing background research helped me gain lot of knowledge useful to my work also improving my Japanese ability. Week by week I could improve at work with practice. I felt more motivated to learn new things and work even more.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q18.インターンシップを進めるうえで発生した課題にはどのように対処しましたか？（自由記述）(4/4)

【新しい分野への挑戦】

- I used deep learning to translate all the conversations. Did my own research and tired to solve the problem.
- I took it as a motive to keep learning all the time.
- Mentor help me to understand the Docker and how they works.
- I read documentation, see lot of tutorial to setting the server and got the solution and done making the server, and required the new knowledge from the challenge itself
- 長くて文書が多い日本語を英語にどうやって翻訳するのか、冷静に考えてやりました。慌ててやると間違いが多くて時間的に終わらないかもしれないが自分は言葉や文に注意しながらちゃんとやりました。
- My mentor teached me. Sometimes I ask other staffs at there to explain to me so I can understand the contents easily.
- I did as I always do, by researching almost endlessly, to figure out what to do and how to do, in some cases I do believe this leads to a bad habit of working too hard individually and not reporting back to superior when the challenge actually proves difficult and end up spending too much time. Though in this internship, at times I do vocalise to my mentor that it did got hard. Which is also one way of solving the challenge
- メンターに相談して詳しく説明していただきました。
- Working smart, not hard
- I gathered all related materials and searched online and reviewed them myself
- I learned step by step about the Topology and practiced more challenging models of the products. In the AM Project, we thought the better way to be more accessible and used was by a polishing machine. Because of the language barrier, I used both English and Japanese.
- I learned how working in the education field works and feels, guided by my supervisor and my mentor at the company who are very helpful towards me.
- 社長やメンターと直接的に相談して、アドバイスをいただきました。
- I tried to solve by searching on Internet and communicated with PM.

【企業の体制】

- Communication.
- I learned to be very proactive with workplan proposal and always taking the initiatives. For example, when I finished my work earlier than we both anticipated, I would think about what I could do that would be value-adding to the company before presenting it to my supervisor and getting started on it.

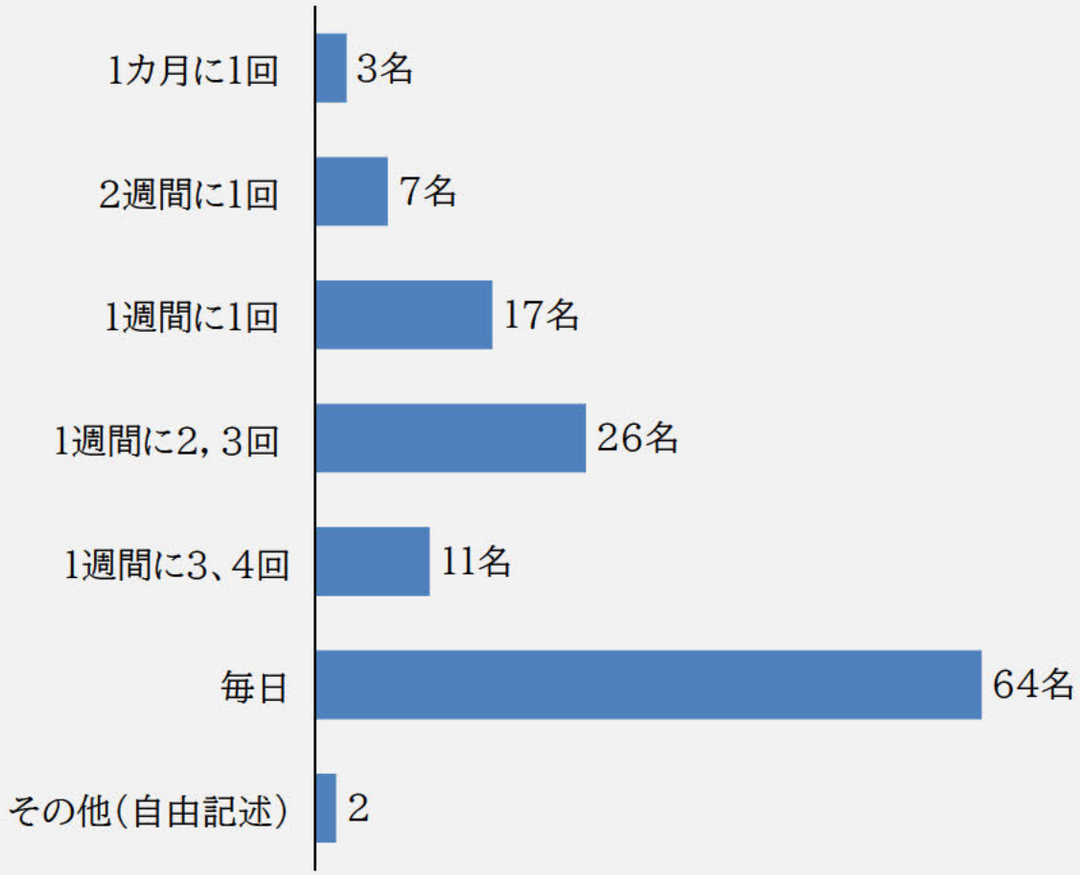
【学業と本事業参加の両立】

- Have a lot of sleep.

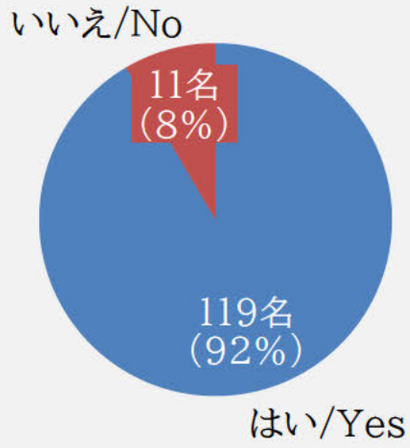
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q19～21では、期間中にインターンが企業と実施した相談や打合せの頻度について調査した。64名のインターンが、毎日企業担当者と相談・打合せを持っており、次いで多かったのが週に2、3回の打合せを行っていた場合で26名である。Q20では、回答者130名のうち、119名が相談・打合頻度が十分であったと回答している。他方、頻度が十分ではなかったと回答した11名は、Q21で調査した理想の頻度として1週間に1回以上が望ましいと回答しており、より定期的なコミュニケーションが望まれていたものと思われる。

Q19.インターンシップ期間中にどのくらいの頻度で企業と業務内容に関する相談・打合を実施しましたか？（単数選択）



Q20.業務内容に関する相談・打合の頻度は十分だったと考えますか？



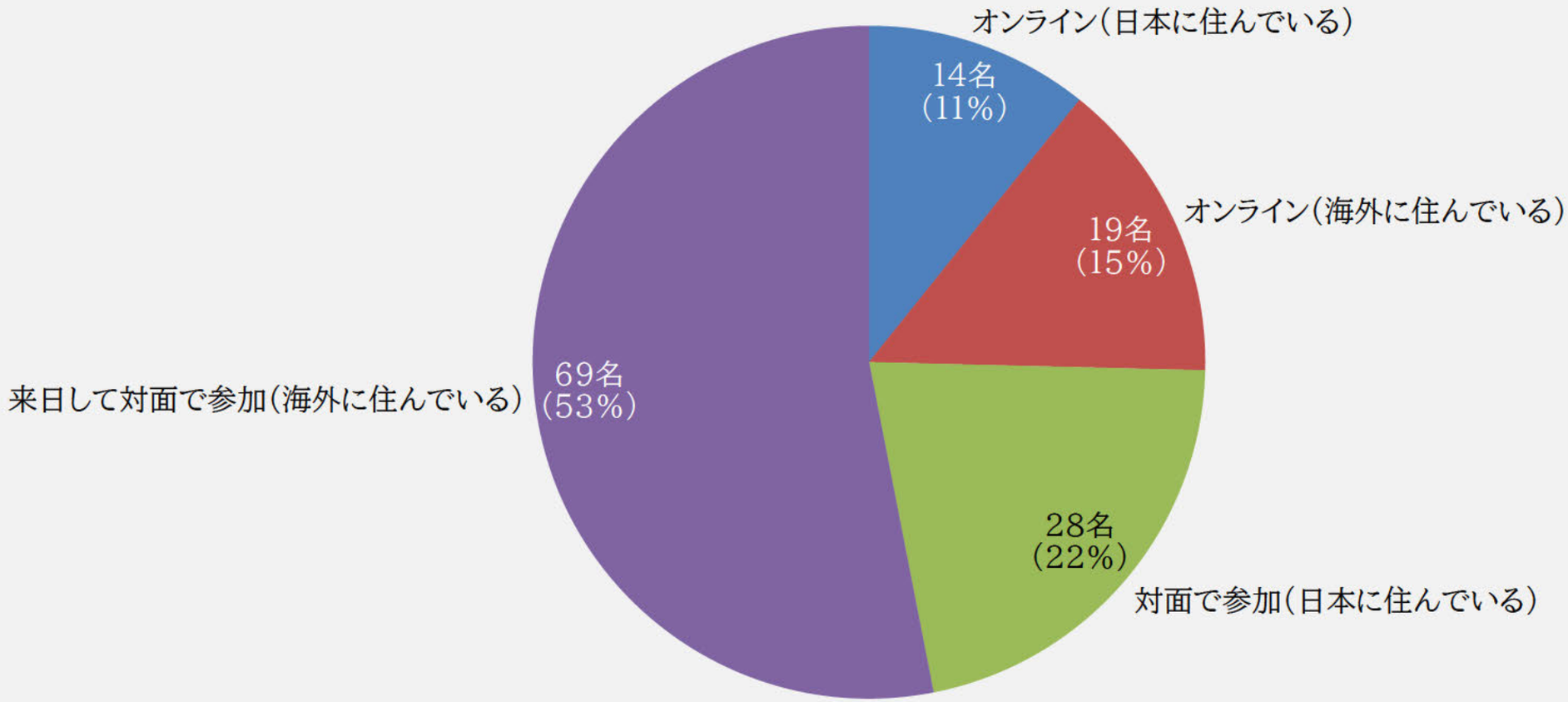
Q21.いいえと回答した場合、どのくらいの頻度で相談・打合をすべきだったと考えますか？（単数選択）

No	実際の頻度（Q19回答）	理想の頻度（Q20回答）
1	2週間に1回	1週間に2,3回
2	2週間に1回	**1週間に1回**
3	1カ月に1回	**1週間に1回**
4	1カ月に1回	1週間に2,3回
5	1カ月に1回	毎日
6	メッセージでやり取りしていた	**1週間に1回**

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q22では、インターンシップの参加形式を調査した。オンラインでインターンシップに参加したインターンのうち、日本在住の参加が14名、海外在住の参加が19名であった。また、対面でインターンシップに参加したインターンのうち、日本在住で参加した方28名、海外在住で来日した参加した方が69名であった。なお、冬季インターンシップでは、オンライン型と対面型の両方の形式を体験したインターンもいたが、本質問においては、より長い日数を経験した形式について回答を得られるようにした。

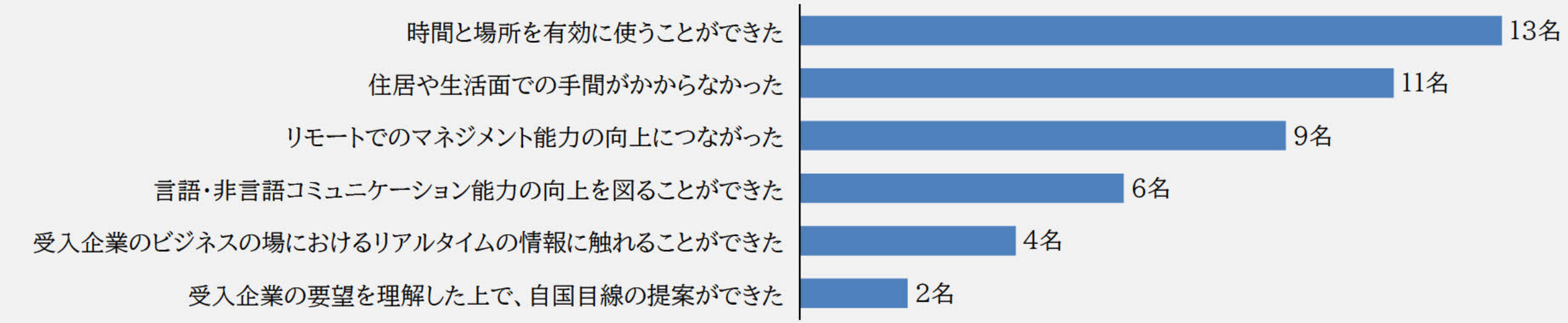
Q22.あなたのインターンシップの参加形式と居住地を教えてください。



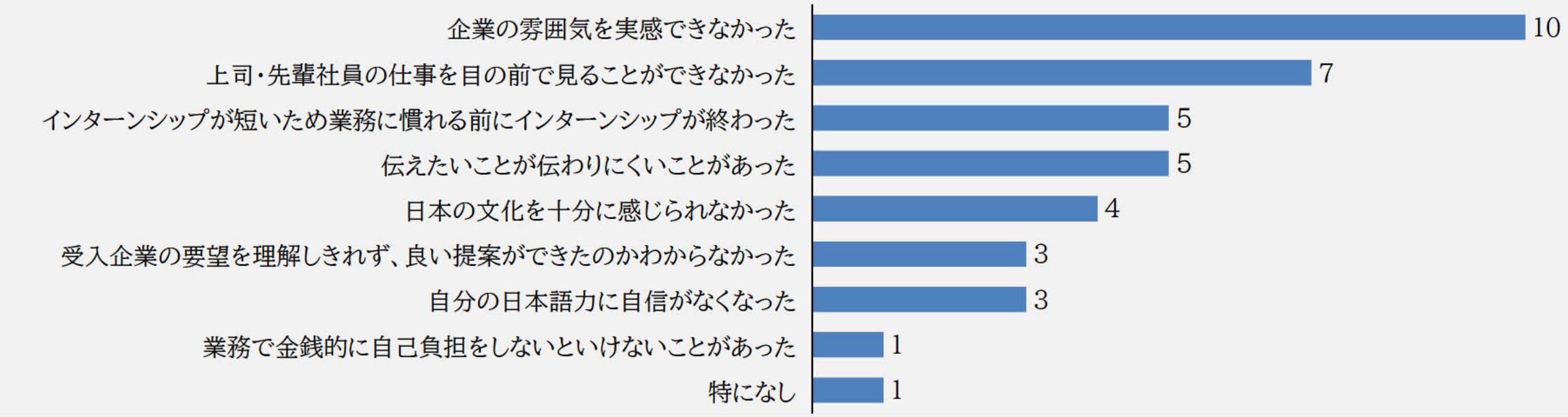
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q23と24では、オンラインインターンシップに参加した日本在住インターン14名を対象に、オンラインインターンシップのメリットとデメリットについて複数選択で回答を得た。13名が時間と場所を有効に使えることがメリットだと回答し、最多であった。次いで、11名が住居や生活面での手間がかからなかったと回答した。他方、10名が企業の雰囲気を実感できなかったことをデメリットとし、次いで7名が上司・先輩社員の仕事を目の前で見ることができなかったと回答した。

Q23.（日本在住者）オンラインインターンシップのメリットを教えてください。（複数選択）



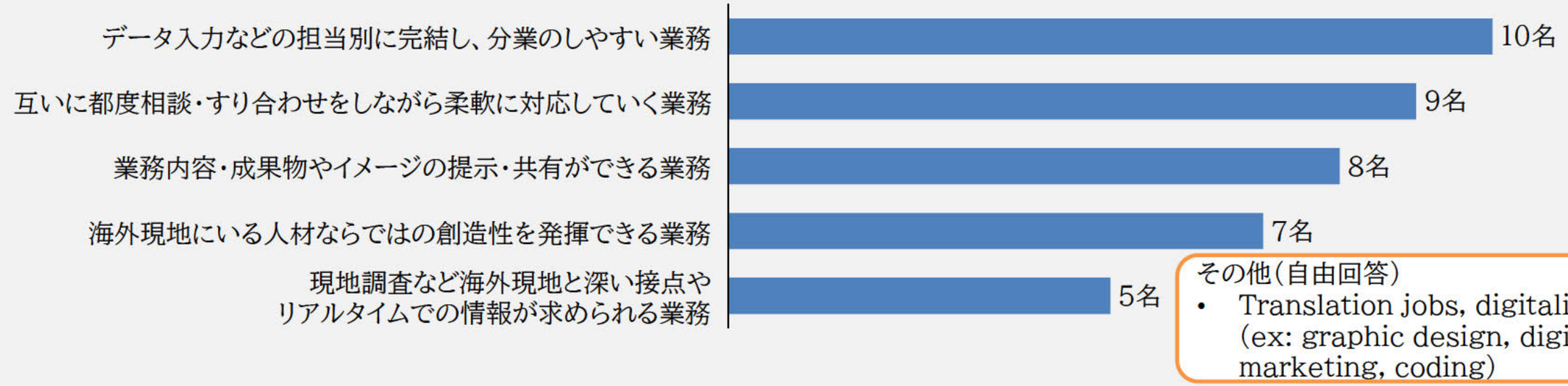
Q24.（日本在住者）オンラインインターンシップのデメリットを教えてください。（複数選択）



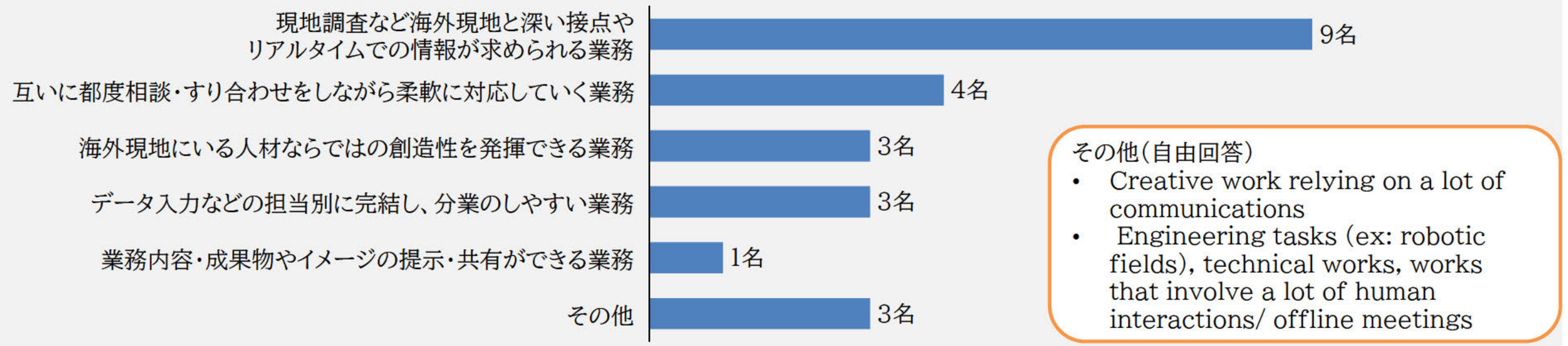
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q25と26では、オンラインインターンシップに参加した日本在住インターン14名を対象に、オンラインインターンシップに向いている、又は向いていない、と感じた業務について複数選択で回答を得た。向いている業務としては、10名が「データ入力等の担当別に完結し、分業のしやすい業務」を選択し、最も多かった。次いで9名が「互いに都度相談・すり合わせをしながら柔軟に対応しておく業務」、8名が「業務内容・成果物やイメージの提示・共有ができる業務」を選択した。向いていない業務として、「現地調査など海外現地と深い接点やリアルタイムでの情報が求められる業務」という回答が9名から得られ、最も多かった。

Q25.（日本在住者）オンラインインターンシップに向いていると感じた業務内容は何でしたか？（複数選択）



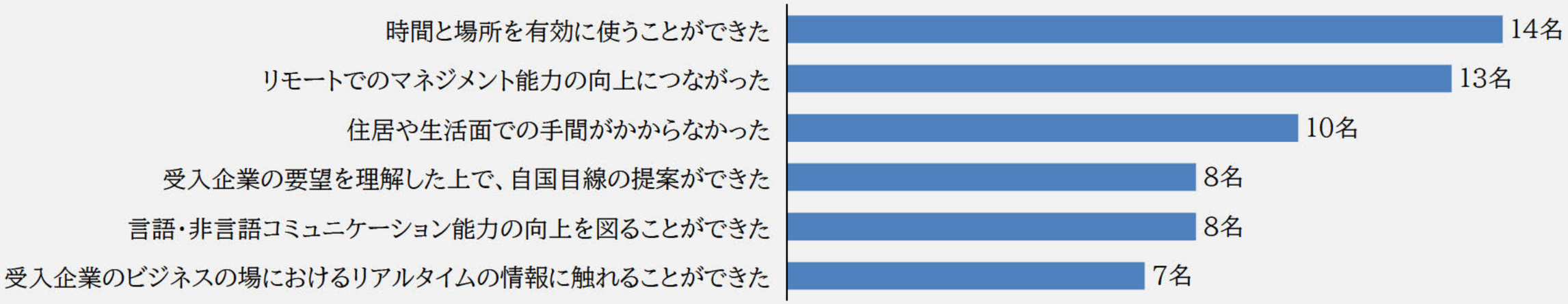
Q26.（日本在住者）オンラインインターンシップに向いていないと感じた業務内容は何でしたか？（複数選択）



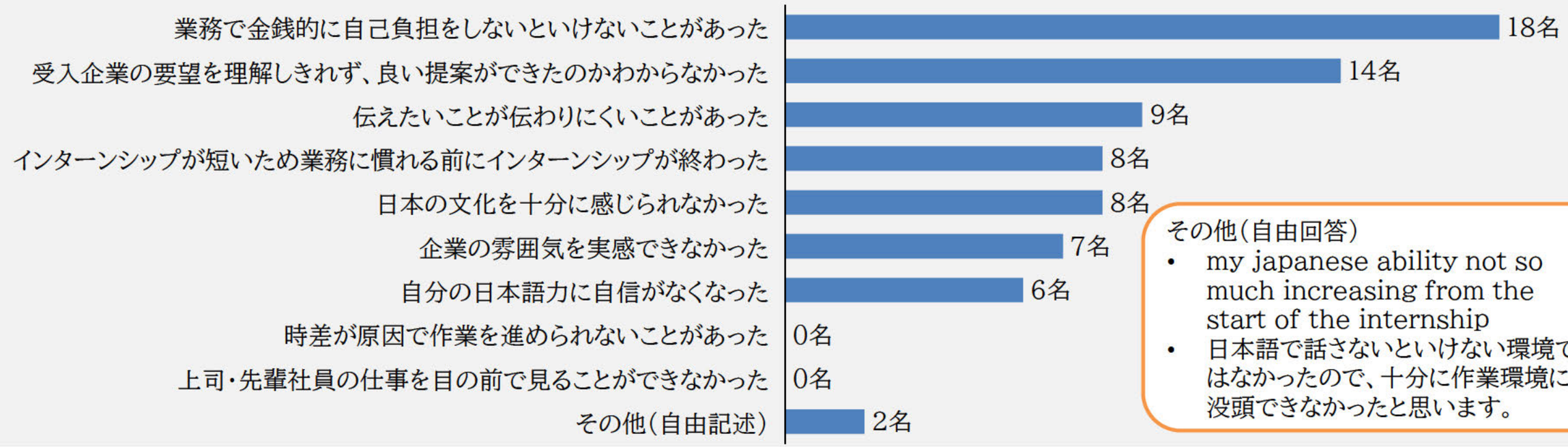
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q27と28では、オンラインインターンシップに参加した海外在住のインターン19名を対象に、オンラインインターンシップのメリットとデメリットについて複数選択で回答を得た。14名が時間と場所を有効に活用できたことをメリットと回答し、最も多かった。次いで13名がリモートでのマネジメント能力につながったと回答した。他方、デメリットとして、18名が業務で金銭的に自己負担をしないといけないことがあったことを挙げ、最も多かった。次いで14名が受入企業の要望を理解しきれず、良い提案ができたのかわからなかったと回答した。

Q27.（海外在住者）オンラインインターンシップのメリットを教えてください。（複数選択）



Q28.（海外在住者）オンラインインターンシップのデメリットを教えてください。（複数選択）

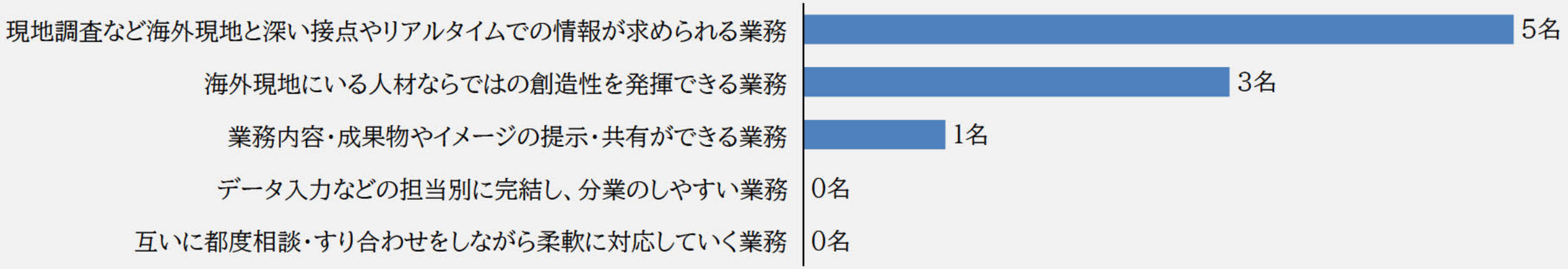


その他（自由回答）
- my japanese ability not so much increasing from the start of the internship
- 日本語で話さないといけない環境ではなかったので、十分に作業環境に没頭できなかったと思います。

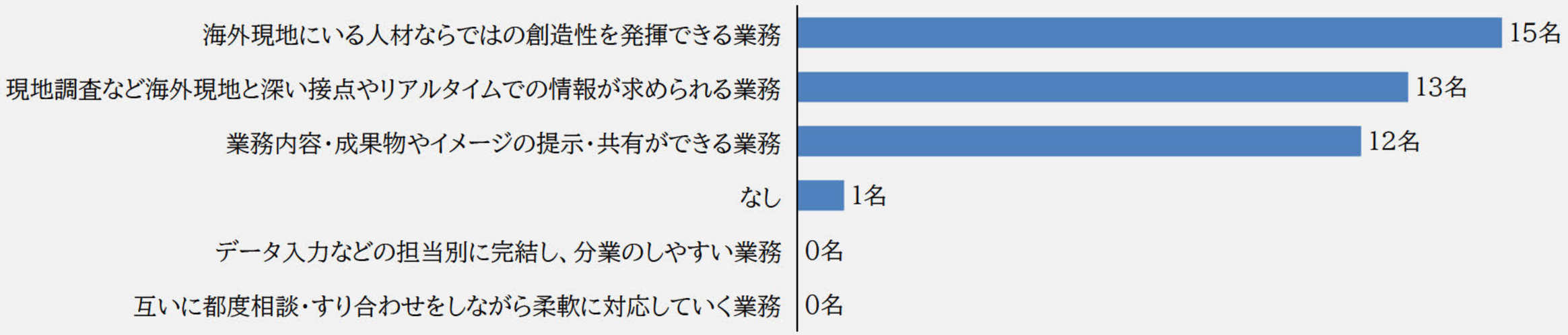
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q29と30では、オンラインインターンシップに参加した海外在住のインターン19名を対象に、オンラインインターンシップに向いていると感じた業務について複数選択で回答を得た。オンラインインターンシップに向いている業務内容として、5名が現地調査など海外現地と深い接点やリアルタイムでの情報が求められる業務を選択し、次いで3名が海外現地にいる人材ならではの創造性を発揮できる業務を選択した。日本在住のオンラインインターンシップ参加者とは異なる回答が得られた。他方、オンラインインターンシップに向いていない業務として、15名が海外現地にいる人材ならではの創造性を発揮できる業務を選択し、日本在住のオンラインインターンシップ参加者が最も多く選択した回答とは異なっていた。

Q29.（海外在住者）オンラインインターンシップに向いていると感じた業務内容は何でしたか？（複数選択）



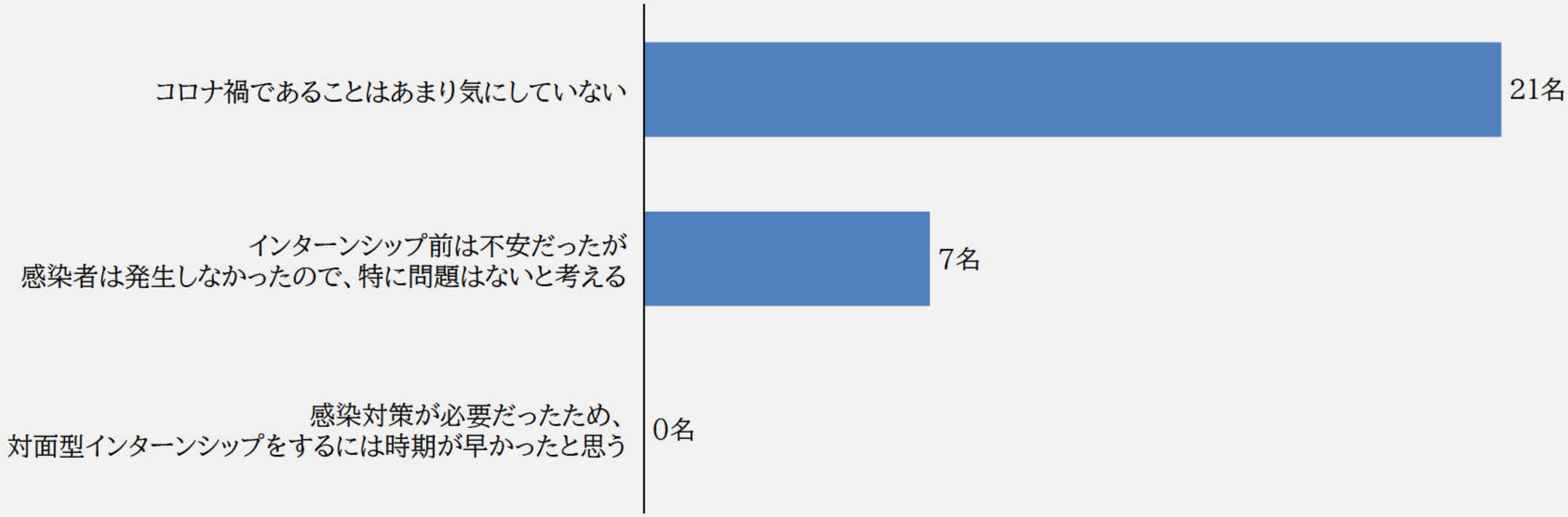
Q30.（海外在住者）オンラインインターンシップに向いていないと感じた業務内容は何でしたか？（複数選択）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q31では、対面型インターンシップに参加した国内在住のインターン28名を対象に、コロナ禍で対面型インターンシップを実施したことについての考えを調査した。21名がコロナ禍であることはあまり気にしておらず、また、7名がインターンシップ前は不安を抱いていたがインターンシップ期間中に感染者が発生しなかったため問題ないと考えていた。対面型インターンシップを実施するにあたり、時期尚早との回答はなかった。

Q31.（国内在住者）コロナ禍で対面型インターンシップをしたことについて、どのようにお考えですか？（複数選択）

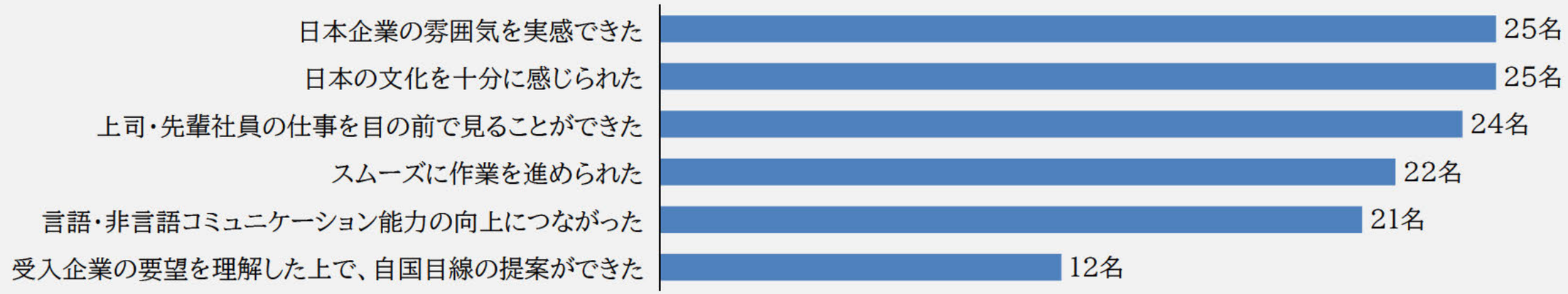


その他（自由回答）
- Since the covid situation has improved, I believe doing the internship face to face/offline is more advantageous. It increases the number of opportunities to learn and be productive.

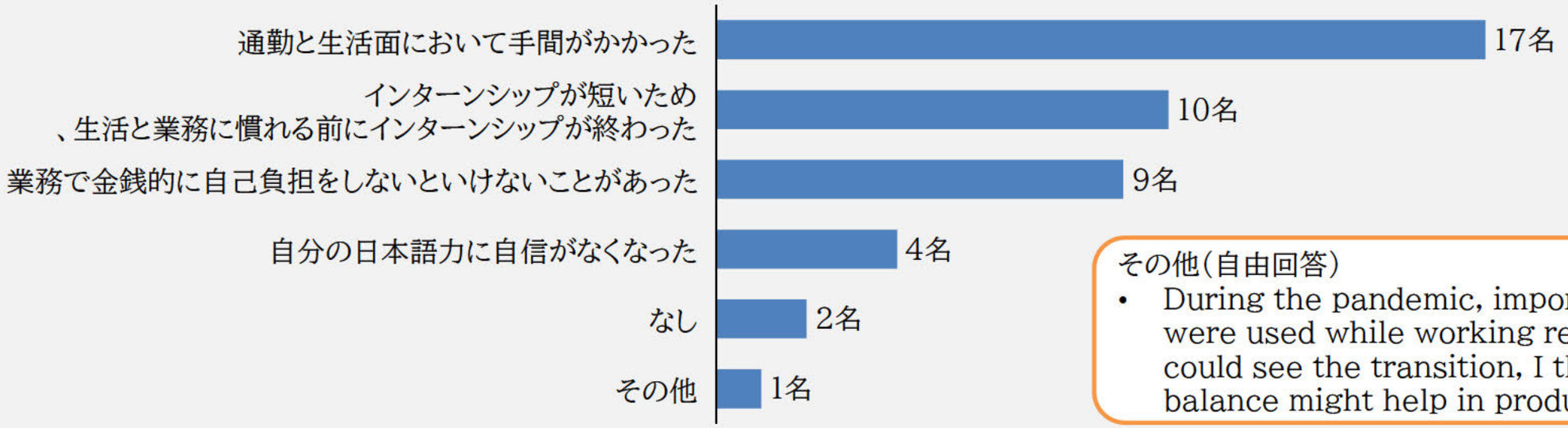
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q32と33では、対面型インターンシップに参加した国内在住のインターン28名に対して、対面型インターンシップのメリットとデメリットについて複数選択で回答を得た。メリットとして、25名が「日本企業の雰囲気を実感できた」こと、「日本の文化を十分に感じられた」こと、24名が「上司・先輩社員の仕事を目の前で見ることができた」ことを挙げた。他方、デメリットとして、17名が通勤と生活面において手間がかかったと回答した。

Q32.（国内在住者）対面型インターンシップのメリットを教えてください。（複数選択）



Q33.（国内在住者）対面型インターンシップのデメリットを教えてください。（複数選択）/ What are the disadvantages of the face-to-face internship? (Multiple choice)

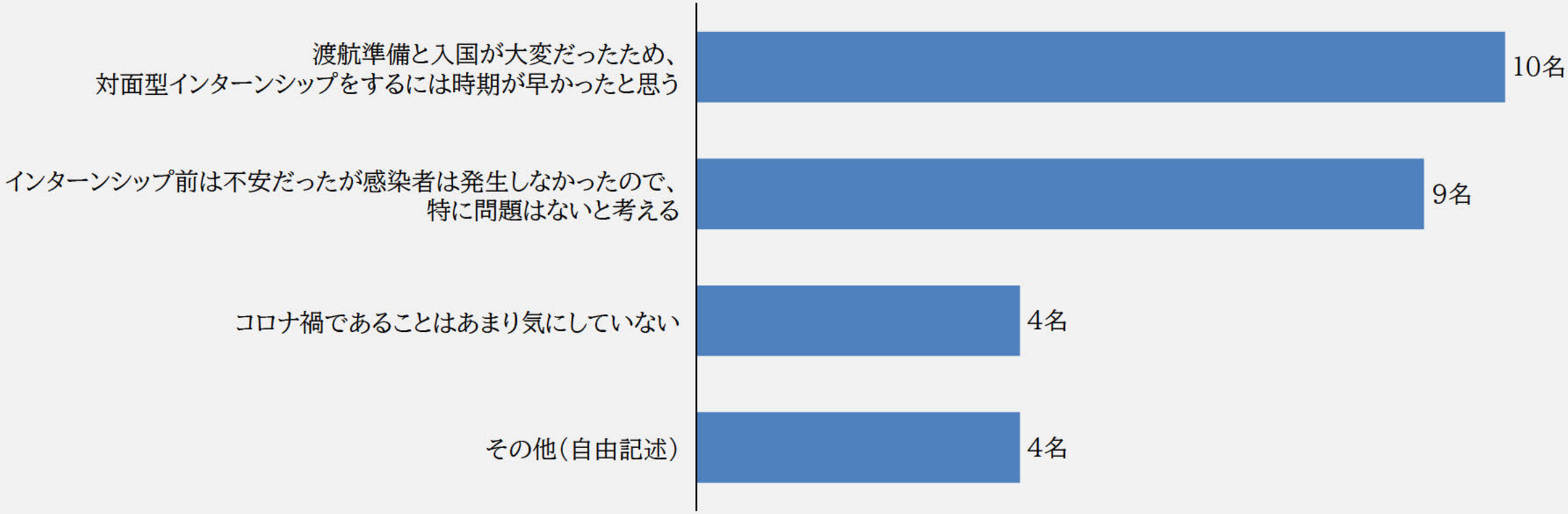


その他（自由回答）
- During the pandemic, important tools were used while working remotely. I could see the transition, I think finding a balance might help in productivity.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q34では、来日して対面型インターンシップに参加した海外在住のインターン69名を対象に、コロナ禍で対面型インターンシップを実施したことについての考えを調査した。10名が「渡航準備と入国が大変だったため、対面型インターンシップをするには時期が早かったと思う」と回答した。次いで9名がインターンシップ前は不安を抱いていたがインターンシップ期間中に感染者が発生しなかったため問題ないと考えていた。対面型インターンシップを実施するにあたり、時期尚早との回答が多かった。

Q34.（海外在住者）コロナ禍で対面型インターンシップをしたことについて、どのようにお考えですか？（複数選択



その他（自由回答）
- ワクチンを打っていたので問題ない（2名）
- 全く問題ない。
- 日本は衛生面のルールが厳しく、日本人は通常からマスクをしているイメージがあったので、安心していた。

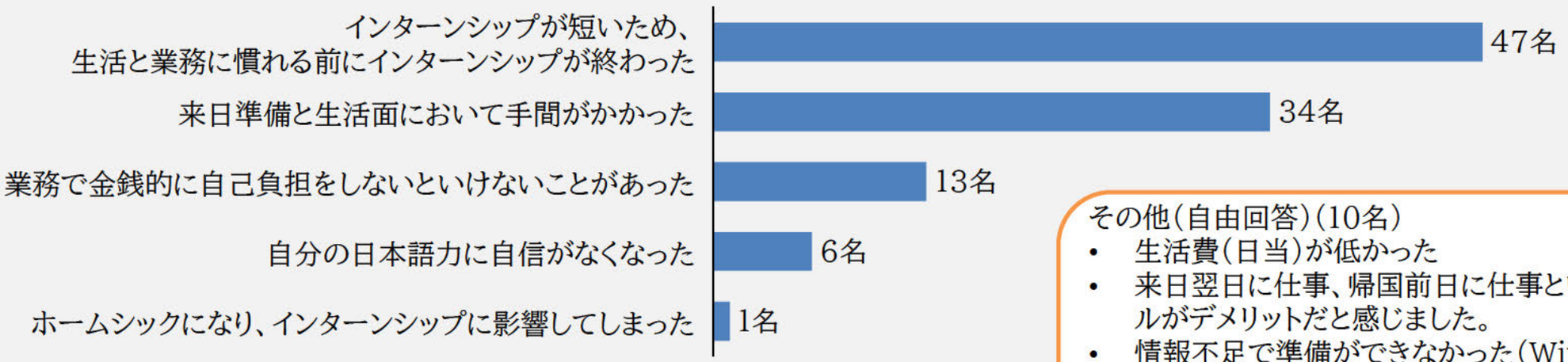
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q35と36では、来日して対面型インターンシップに参加した海外在住のインターン69名に対して、対面型インターンシップのメリットとデメリットについて複数選択で回答を得た。メリットとして、64名が「日本企業の雰囲気を実感できた」こと、63名が「日本の文化を十分に感じられた」こと、「言語・非言語コミュニケーション能力の向上につながったこと」を挙げた。他方、デメリットとして、47名が「インターンシップが短いため、生活と業務に慣れる前にインターンシップが終わった」と回答した。

Q35.（海外在住者）対面型インターンシップのメリットを教えてください。（複数選択）



Q36.（海外在住者）対面型インターンシップのデメリットを教えてください。（複数選択）



その他（自由回答）（10名）
- 生活費（日当）が低かった
- 来日翌日に仕事、帰国前日に仕事というハードスケジュールがデメリットだと感じました。
- 情報不足で準備ができなかった（Wifiが使えなくなった、食料を持ってくればよかった）（2名）
- インターンシップ期間が短すぎてやりたいことが十分にできなかった（3名）
- 特になし（2名）

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

本アンケートの最後（Q72）において、オンライン形式と対面形式の両方を経験したインターンを対象に、インターンシップ実施形式について感想を質問したところ、オンライン形式よりも対面形式の方が良いという意見が複数得られた。また、両方を経験することで、課題に直面した時に対処できるスキルが身についたと回答したインターンもいた。対面形式の場合には日当が支給されるが、オンライン形式の場合には支給されないことに不満を示すインターンもいた。

Q72. オンライン形式と対面形式の両方で参加された方は、その感想をご記載いただけますと幸いです。

【対面（日本に住んでいる）】
- オンライン形式より対面形式のほうがいいと思います

【対面（海外に住んでいる）】
- I thought that online internships have their merits, but by doing both, I only received allowances on the days when I was working in Japan, which was a bit of a hassle as it was necessary to do an internship at home. Prepare, such as various equipment for work, travel expenses to work outside.
- There is also a time difference and problem that is often encountered online is that sometimes there is a problem with the computer and the Internet during the meeting, causing delays in work. In addition, not meeting another intern before starting the job means not interacting as they should and not knowing about that person's skills, making it difficult to work together in the first place.
- From working in both ways, I gained more skills and different working perspectives. I used my potential to the best of my ability, even when I faced difficulties, I had to learn and overcome them. I have learned many new skills. I feel that it is a very good experience and cannot be found anywhere else for joining this program.
- I think online is more stressful because of looking at the screen all day without moving anywhere.
- My online-intern was not good as face-to-face internship. The reason may be about my task contents but the face-to-face always is the best to me.

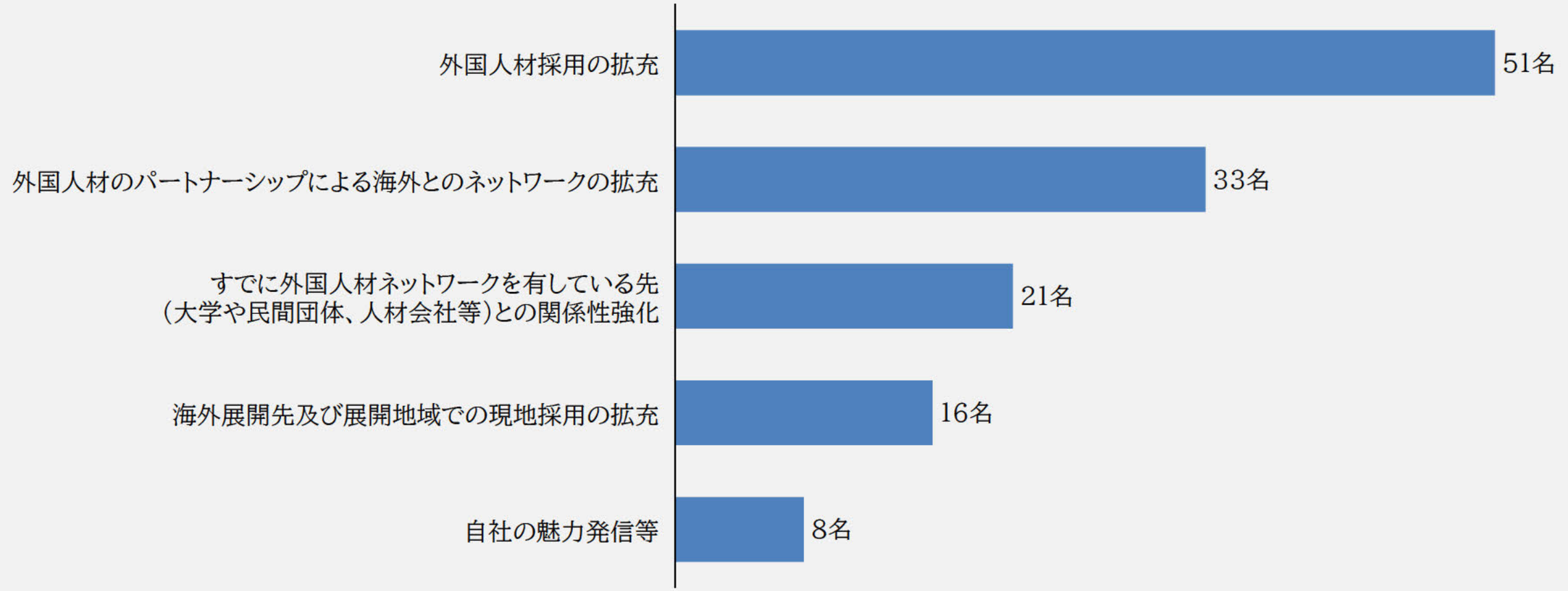
【オンライン（日本に住んでいる）】
- I participated both online and face to face. For the face to face part, we only had one day together, and it was mostly for bonding. There was no much difference in online and offline. The experience was good, but I would prefer if it had been longer so that I can participate more in the program.
- I would also like to thank METI and to whom it may concern for organizing this opportunity for us!

【オンライン（海外に住んでいる）】
- Online internship might be saving lot of time, but somehow I can't completely feel the company atmosphere. Fortunately, I able to visit company's representative office in my home country even only for 1-2 days.
- オンラインは便利ですが、日本の文化や社会が感じられないことがあると思います。毎日、大学の講座と同じみたいと思います。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q37では、国際化を進めるために日本企業が取り組むべきことについて単数選択で回答を得た。130名中51名が「外国人材採用の拡充」と回答した。次いで、33名が「外国人材のパートナーシップによる海外とのネットワークの拡充」、21名が「すでに外国人材ネットワークを有している先（大学や民間団体、人材会社等）との関係強化」を選択した。総じて、外国人材の確保とそのためのネットワークを作ることが最も重要だと考えるインターンが多い。

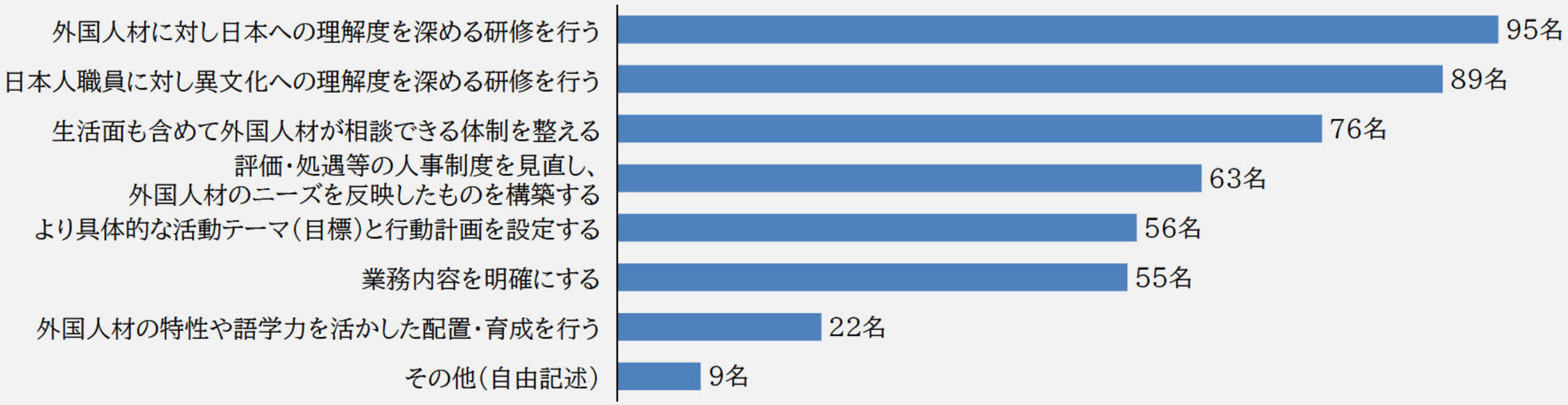
Q37.日本企業が国際化を進めるために取り組むべきとあなたが考えるものは何ですか？（単数選択）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q38では、外国人材の受入れと活用を進めるために日本企業が取り組むべきことについて複数選択で回答を得た。130名中95名が「外国人材に対し日本への理解度を深める研修を行う」と回答し、最も多かった。次いで、89名が「日本職員に対し異文化への理解度を深める研修の実施」、76名が「☒活☒も含めて外国人材が相談できる体制を整える」を選択した。

Q38.今後外国人材を受け入れ、活用していくために日本企業が取り組むべきとあなたが考えるものは何ですか？（複数選択）

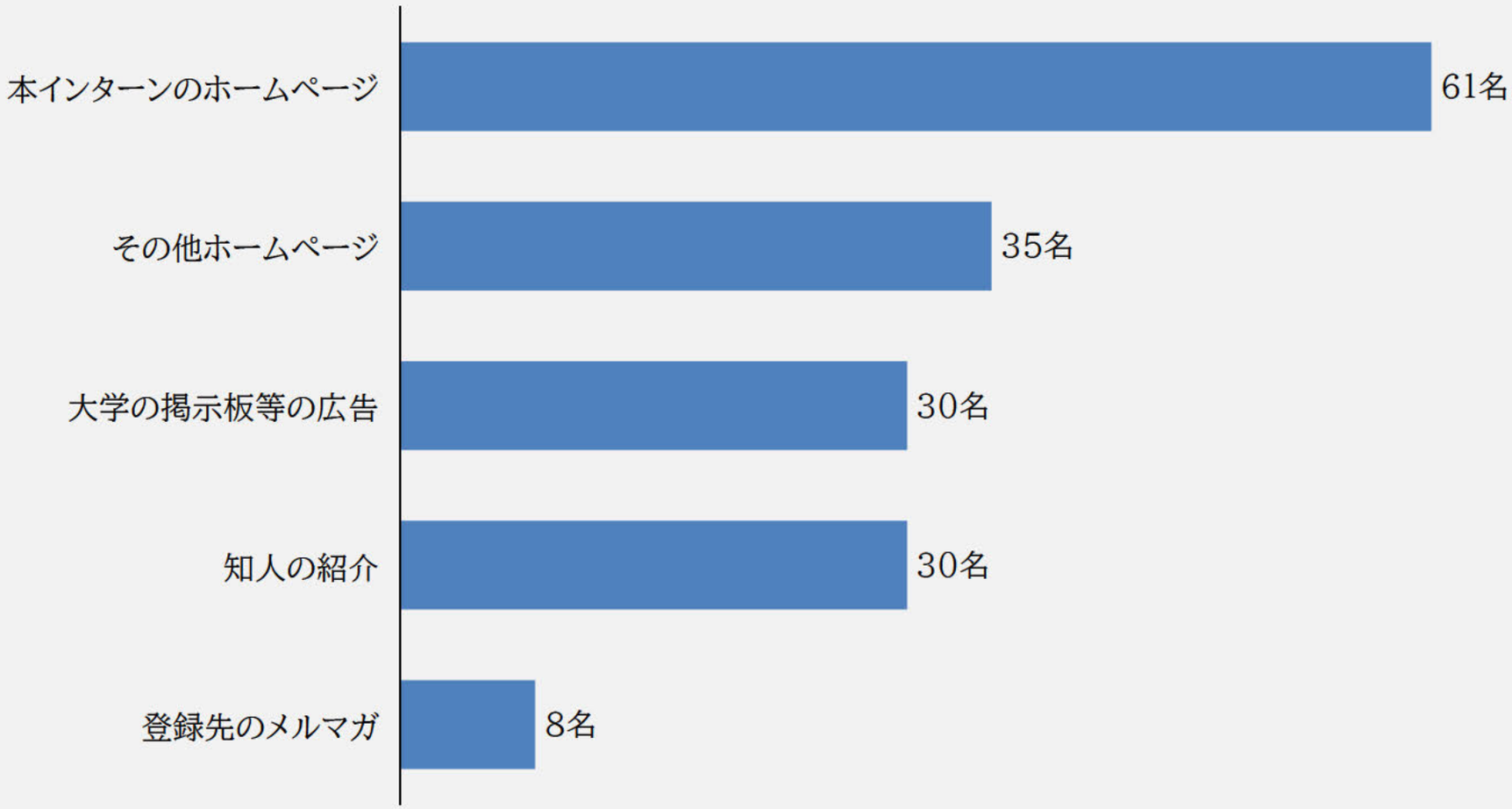


その他（自由回答）（9名）
- 外国人に対して日本語の教育を行う
- 海外の考え方を少しみる
- 採用システムを改善すること。例えば、オンラインSPIテストをなくすること
- Provide exhibition in determined country to get sense of working in Japan
- Communicate effectively to gain mutual understanding
- Create an open environment where there are lowest expectations as possible and a flat hierarchy where autonomy in making decisions is encouraged. Moreover, there are many countries with a fast-pace working style (China and Singapore) where it is better to skip as much procedure as possible to achieve speed and efficiency.
- Make more Job listing internationally, Clarify hiring process
- 外国人に働きやすい職場環境を作る。外国人だけ日本企業の文化を理解するのではなく、企業が外国人材の文化を理解しようとする。異文化を尊重し合う。
- I think having more intellectually challenging roles in prestigious companies advertised to job connect. I also think it would be enticing to highly capable individuals if Japanese Language courses were made available to foreign fresh graduates.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q39では、本インターンシップをどのような方法で知ったかを調査した。130名中61名が本インターンシップのホームページで知ったと回答し、最も多かった。次いで35名がその他ホームページを選択した。日ごろから日本へのインターンシップの情報をインターネットで探していることが想定される。次いで、大学の掲示板等での広告で知ったと回答した方が130名中30名であったことから、大学での広報も有効であったと考えられる。

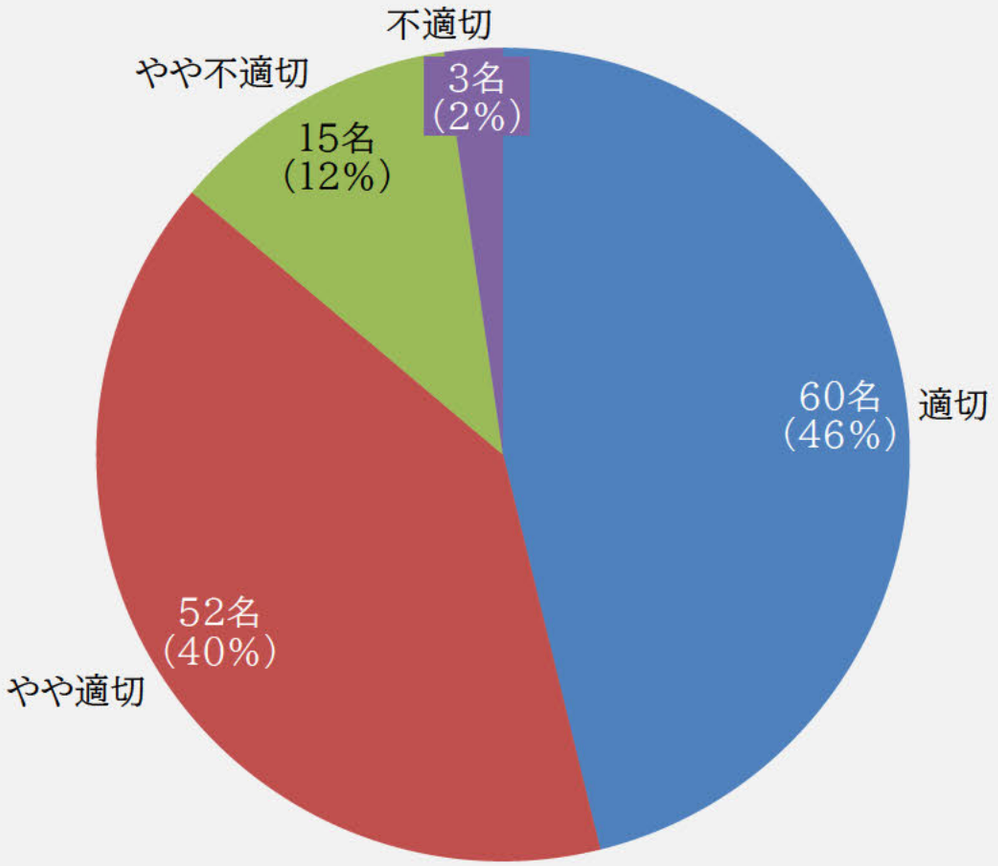
Q39.インターンシップはどのようにして知りましたか？（複数選択）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q40では、インターンシップの実施期間の適切性について調査した。「適切」・「やや適切」と回答したインターンは130名中112名おり、全体の86%を占めた。他方、15名が「やや不適切」、3名が「不適切」と回答した。

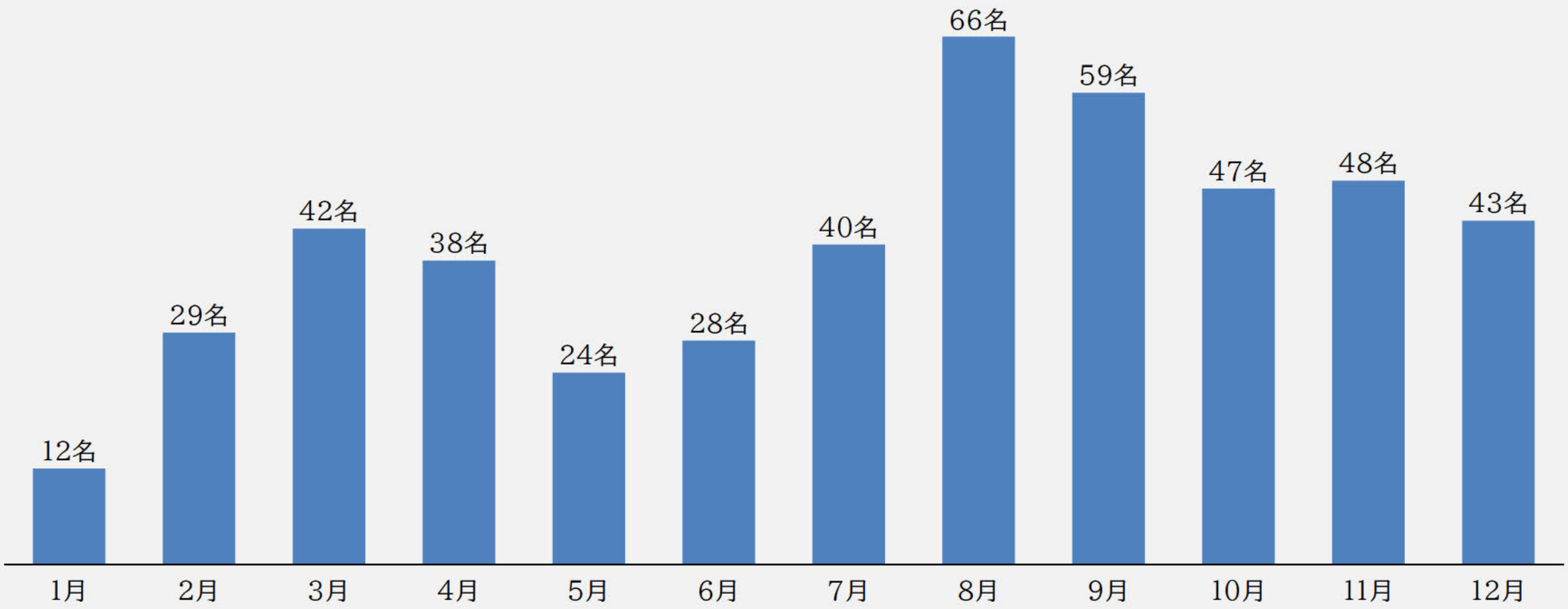
Q40. インターンシップの実施時期は適切でしたか ？



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q41では、インターンシップの実施時期について単数選択で回答を得た。130名のうち66名が8月を、59名が9月を希望しており、日本在住のインターンのみならず、海外在住のインターンも夏季におけるインターンシップを希望していた。1月と回答した12名のうち10名が海外在住で、居住地はインドネシア、ネパール、タイが多かった。

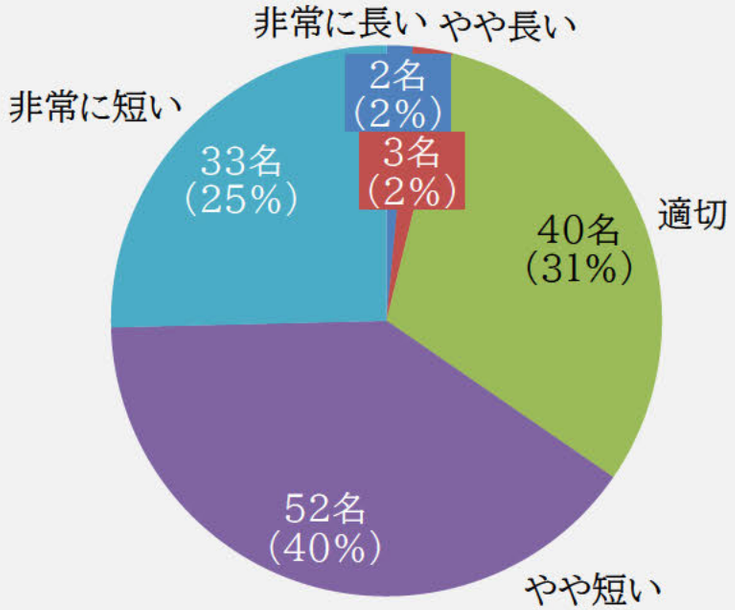
Q41.インターンシップの実施時期として望ましい月はいつですか？（複数選択）



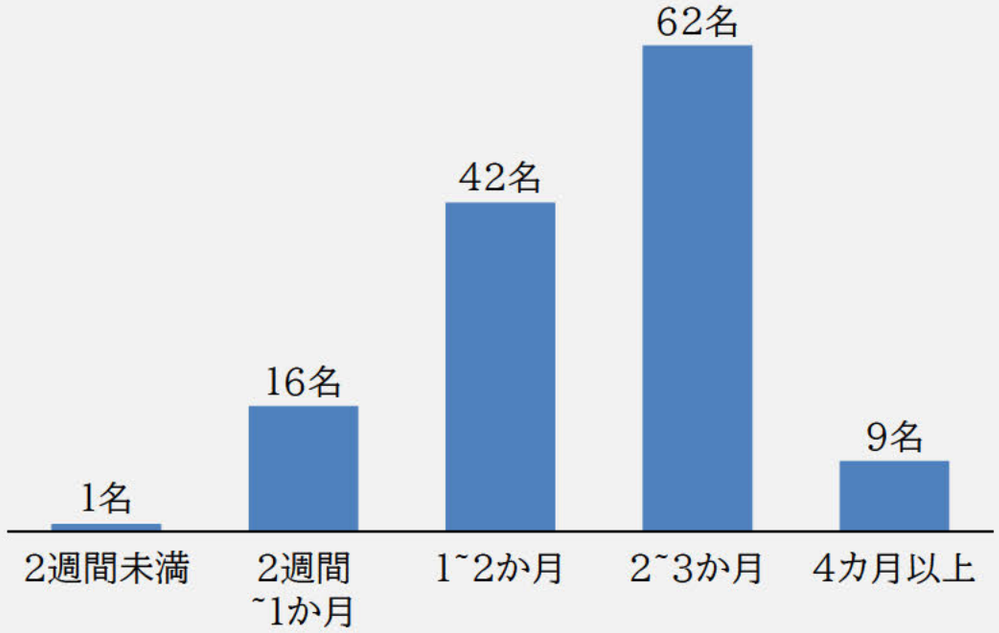
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q42と43では、インターンシップ実施期間の適切性と参加に望ましい期間について調査した。実施期間については、130名中40名が「適切」と回答し、52名が「やや短い」、33名が「非常に短い」、2名が「非常に長い」、3名が「やや長い」と回答した。「非常に短い」と回答した33名のうち23名、「やや短い」と回答した52名のうち34名が「2～3か月」が適切と回答した。

Q42.インターンシップの実施期間は適切でしたか？（単数選択）



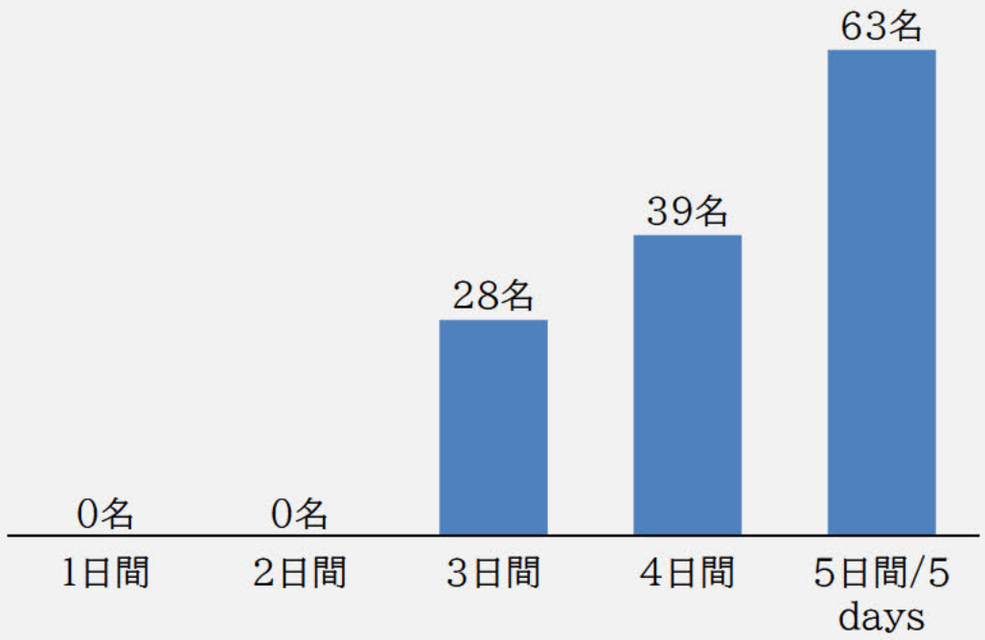
Q43.インターンシップの参加に望ましい期間はどれくらいの長さですか？（単数選択）



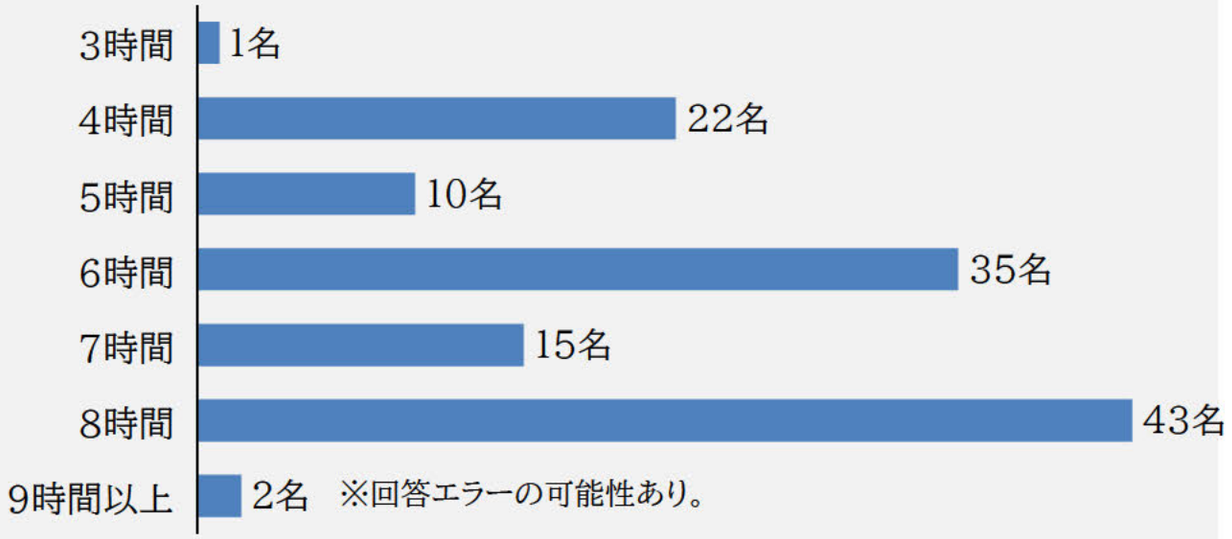
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q44では、1週間に実施するインターンシップの日数の希望を調査した。130名中63名が5日間と回答し、39名が4日間と回答した。
Q45と46では、インターンシップにおける実際の1日の活動時間と、適切だと考える活動時間を調査した。実際の活動時間について、8時間と回答した方が43名と最も多く、次いで35名が6時間と回答した。他方、適切な活動時間は、6時間と回答した方が46名と最も多く、次いで4時間と回答した方が31名であった。1日の活動時間は4～6時間が望ましいと考えるインターンが多い。

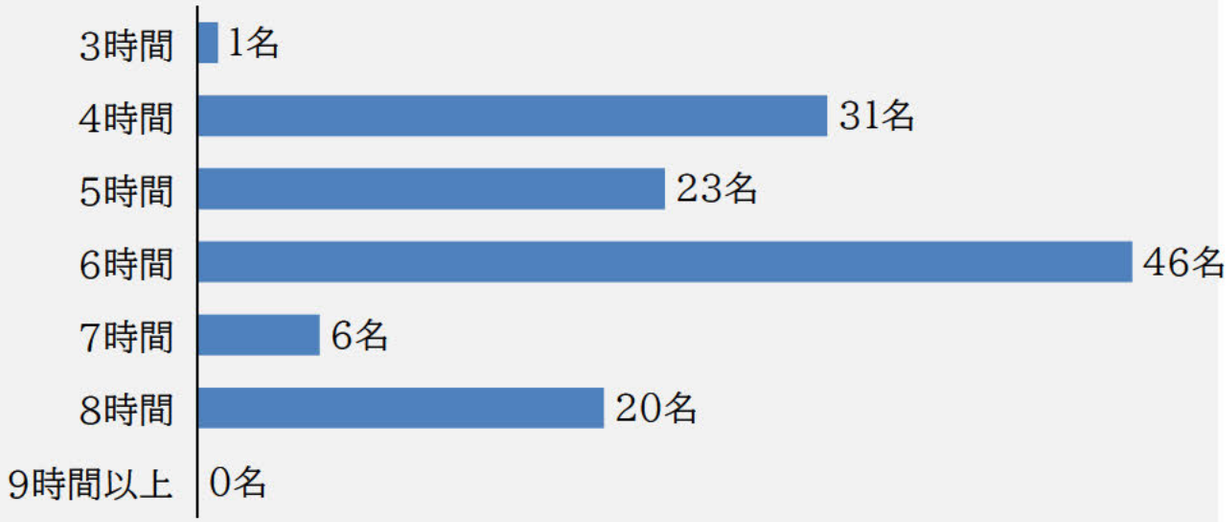
Q44.インターンシップの日数として望ましい日数は1週間あたり何日間ですか？（単数選択）



Q45. 1日の活動時間は何時間でしたか？（自由回答）



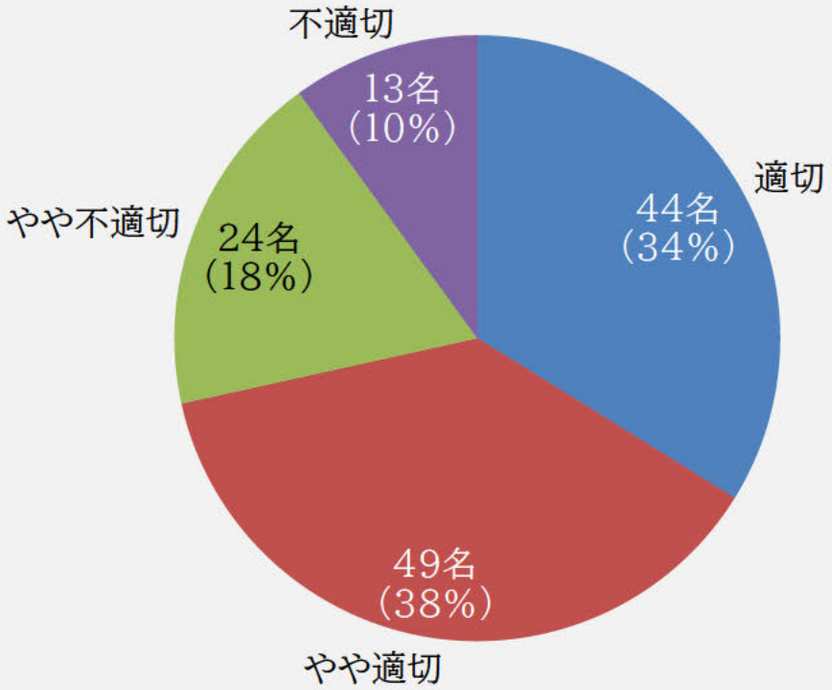
Q46. 1日の活動時間は何時間が適切だと考えますか？



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q47と48では、支給された滞在費の適切性と、不適切と回答した理由を調査した。130名中44名が「適切」、49名が「やや適切」、24名が「やや不適切」、13名が「不適切」と回答した。Q48における回答には、交通費や給与が出ないという理由を挙げているインターンが多かったことからQ47で「不適切」「やや不適切」と回答したインターンの多くが滞在費について理解できていない可能性があると考えられる。本事業の申込時に給与は出ないことを、事前研修で交通費は精算対象であることを伝えているが理解が得られなかった。誓約書に給与が出ないことを明記し、インターンシップ前日に交通費精算の方法・時期を再度伝えるなどの工夫が必要である。

Q47.支給された滞在費は適切でしたか？



Q48.支給された滞在費が不適切もしくはやや不適切と回答された理由を教えてください。

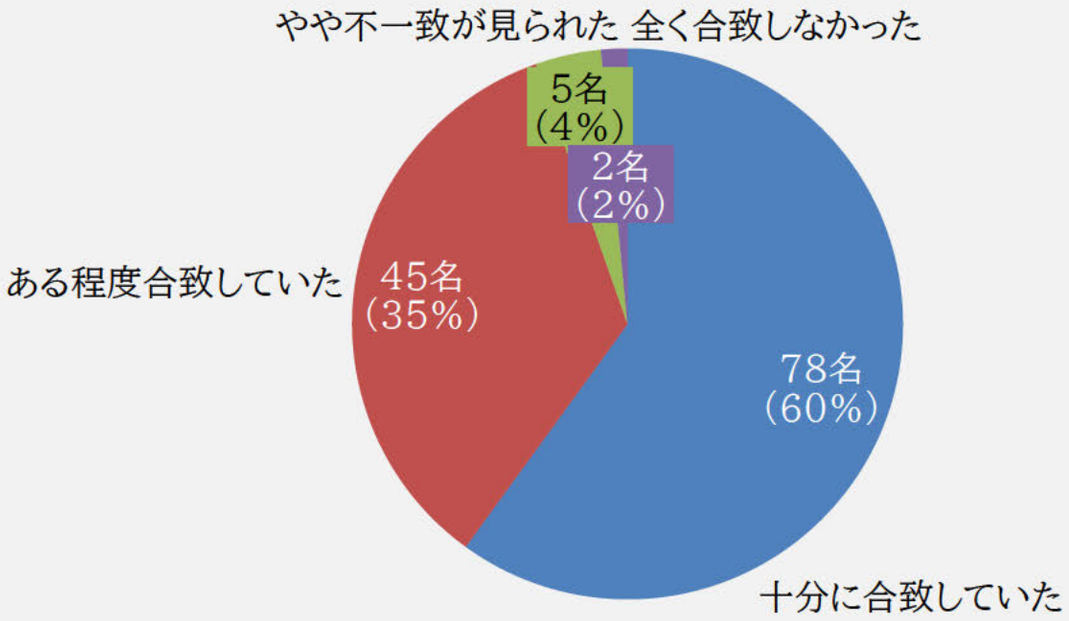
（回答抜粋）

- 滞在費の3千円／1日が大丈夫だと思っています。でも、通勤日だけ支給されたのは不適切です。全てのインターンシップの期間を支給されるべきです。
- 休日は滞在費が無いのが理解できなかったです。インターンシップでありますが、自分の能力使って会社に努めているのに評価されてない気がした。日本にはない、日本人ができないことをしているのでその能力として評価すべきと思います
- Osaka living expense is pretty high
- 1日当たり3千は全く足りないわけではありませんが、東京などの生活費が高い地域なら、少し足りないではないかと思います。働くところに合わせてにより滞在費を変更したらいいと思います。また、営業だけでなく週末の分も滞在費を提供した方がいいと思います。
- タイミングが悪く、日本の物価が高騰していた時期のため滞在費を物足りなく感じた。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q49では、事務局が推薦した企業が希望を満たしていたかどうかを調査した。130名中78名が「十分に合致していた」、45名が「ある程度合致していた」、5名が「やや不一致が見られた」と回答し、2名が「全く合致しなかった」と回答した。Q50で不一致の理由について調査したところ、「全く合致しなかった」「やや不一致」と回答した7名のうち4名が業種が不一致だったと回答した。また、企業の指導体制が期待外れだったことや、社内に同世代の社員がおらず日本人との交流があまりできなかった点を不一致の理由として挙げたインターンもいた。

Q49.事務局が推薦した企業は希望を満たしていましたか？（単数選択）



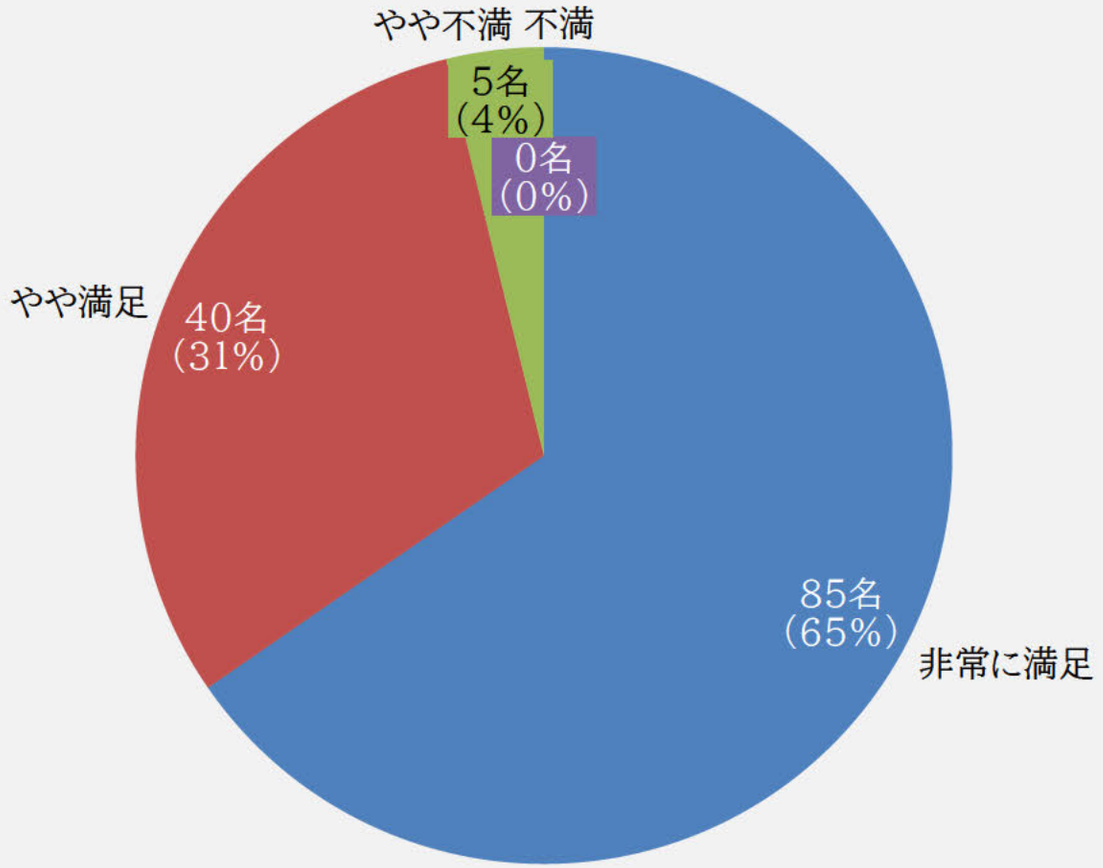
Q50.不一致に思われたのはどのようなところでしたか？

- 企業の所在地（1名）
- 業種（4名）
- 企業の対応
- Internship program
- the internship is totally different from what was scheduled
- スタッフさんも優しく、楽しい気持ちでインターンシップを終えることができた。ただ、アルバイトの人数が、足りないときが多く、体験、というより、普通のアルバイトのように、スタッフの一人として、後半は仕事をした。（ほとんど就労でした）
- The company is very small with only my employer and another co-worker and there weren't people of similar age that I can talk to thus I felt there isn't enough social interaction for me in Japan and wished I had been assigned to a bigger organisation.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q52では受入企業への満足度を調査した。130名中85名が「非常に満足」、40名が「満足」、5名が「やや不満」と回答し、「不満」と回答した方はいなかった。なお、Q52の全回答は次頁に示すが、非常に満足と回答したインターンの多くが、受入企業からのサポートの手厚さや社員の親切さ等を理由に挙げていた。「非常に満足」「やや満足」と回答したインターンは日本での就労経験や新たな知識・スキルを身に付けられたことを理由に挙げたが、一部のインターンはより高いレベルのゴールを達成したかったため不満が残ったようであった。「やや不満」と回答したインターンは、人間関係や業務内容を理由に挙げた。

Q51.インターンシップの結果、受入企業にはどのくらい満足していますか？



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q52.受入企業の満足度を上記のように回答した理由を教えてください。(1/2)

（回答抜粋）

【非常に満足】

（企業の対応）

- The atmosphere of the company is very nice, and the employee as well. They are very kind and guide me slowly throughout the internship.
- They allowed me to work in the field that I enjoy being in and gave me the support when I needed it
- they’re very understanding of my Japanese and just so very kind
- The company provided me with a clear schedule and conducted an orientation and on the job training for me during my first day, which provide me with a clear foundation regarding the company business and operation system.
- 企業は個人的なことも手伝ってくれる。質問があったらオンラインからいつでも聞くことができました。楽しかったです。
- Because they always listened to my opinion.
- Work environment and interaction with staff were awesome.
- The company so open-minded for foreigners and about Muslim needs (praying time and halal food)
- 社長は自分をいろいろ教えてくれたこと、特に未来に関して言ってたことは自分にとって宝物だった。仕事の内容だけじゃなく、将来の社会のことに関していろいろアドバイスをいただきました。
- Being that the company
- They gave me warm welcoming and everything I met difficult, they helped me with their best (as I felt it). I finished my work with fully energy and got good feedback for almost my work.
- 外国人への対応が慣れており、優しい環境を作ってくれたためです。
- I think my mentors were very supportive of everything which boosted my confidence. I learnt a lot from them for which I will be always very grateful.
- The company treats me very well, the coworkers are great, working environment is great. Many Indonesian employees also which help me a lot during the intern.
- 受入企業は私がいつも思い描いているIT企業の姿です。そんな会社で働くのが私の夢です。

（新しい知識・技術・スキルの習得）

- I was learnt new technologies during the internship, and tried the things that I wasn’t do before
- I learned a lot about Japan and cultural products of my host company
- I’m able to learn in new culture and I’m able to understand the new technologies.
- 働く文化と生活のことを色々教えていただきました。
- あらゆることを学びましたうえ、宝物のような人に出会いました。
- I was satisfied with my internship experience because of the learning experience I got , as well as the interaction with my coworkers was a fulfilling experience

（その他）

- Because it meet up to my expectation
- The company was not that big, I was able to be more involved in the company’s business activities, and so I learned a lot on how they proceed with work, and how each employee is treated and also the relationships between employees, surprisingly
- プログラムは面白かった。
- The company’s working field somewhat matched well with my university major, as well as the skillsets that I already had. I feel that I could contribute much during the internship period.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q52.受入企業の満足度を上記のように回答した理由を教えてください。(2/2)

（回答抜粋）

【やや満足】

（肯定的な回答）

- The supervisor was very kind and I learned a lot from her.
- I have known Japanese manners and working style.
- I can finally use my knowledge learned from university in japan for the actual working
- 働く内容については結局あまり関心を持つようになれなかったため
- 時間がかかるけど丁寧に分かるまで仕事の内容を説明してくれて、自分にも満足したからです
- Generally, my main goal to participate in internship was fulfilled. The company able to provide the information clearly (e.g. work culture, current issue, work process), and managed to give task appropriately by considering participant capabilities.
- The working environment was what I've expected
- I got to know a lot about my current status of career skill and things to work on myself.
- I learn about new things especially the company culture and how the philosophy of the business can be made
- 受入企業はインターナショナルスクールなので、日本企業の雰囲気や文化などをあまり感じてなかったですが、会社の皆様とグローバルコネクションをできて、色々勉強になりましたのでとても良かったです。それに、企業が自分のスキルと経験に似合う分野なので将来働きたいところとして参考になりました。
- I gained Japanese working experience, and have friends and network. I got valuable things
- 求められた内容を成し遂げたと思います。会社の業務内容にもっと関わりたかった

（否定的な回答）

- I was not able to reach my goals and didn't do anything helpful or gain confidence or skills
- Overall it was a good environment and mentors were helpful and friendly. Since I was in Japan it would have been better if I could conduct face to face
- やりたいことできなかった
- I am satisfied with the company. It is just the language barrier and if there are people who also can use English, it would make it a bit easier for me to make friends.
- It was a really nice company with very welcoming people. I am satisfied with every aspect of the internship except that I was not taught much.

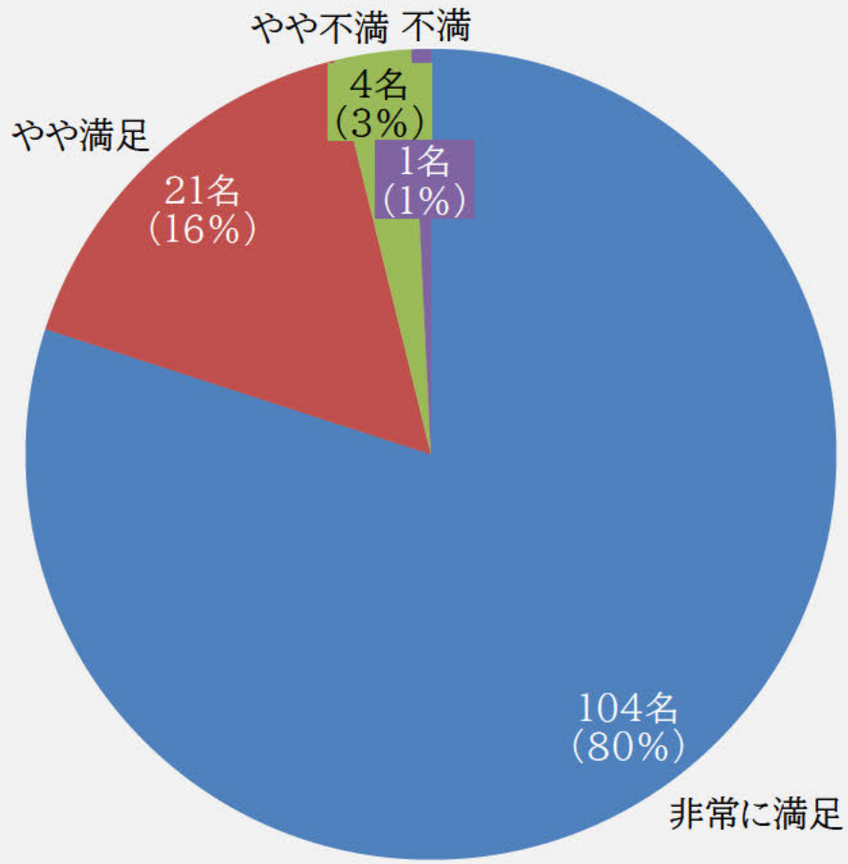
【やや不満】

- メインで行った内容以外は実際に作業することが少なく、見学することがほとんどでした。
- I have trouble with 人間関係
- Work tasks unrelated to my field of study.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q53と54では、受入企業がインターンに提供したサポートに対する満足度を調査した。全体の96％にあたる125名が「非常に満足」又は「やや満足」と回答した一方、5名は「やや不満」又は「不満」と回答した。Q54では各満足度を選択した理由を尋ねたところ、「やや満足」との回答者から肯定的な意見が得られた他方、業務内容の不明瞭さ、金銭的待遇がないことについて否定的な意見も得られた。また、「やや不満」と回答したインターンも、受入企業における担当者からの説明不足や、フィードバックの欠如を指摘している。なお、Q54の全回答は次頁に示す。

Q53.受入企業のサポートにはどのくらい満足していますか？



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q54.受入企業のサポートの満足度を上記のように回答した理由を教えてください。(1/2)

（回答抜粋）

【非常に満足】

- We were treated as part of the family rather than as intern employees.
- わからないことがあったら、いつでも気楽に相談できる。
- they supported me as best as online support can do
- 生活面に多くのサポートを受けました。
- assigned tasks are interesting
- My host was really nice to me, and taught me all details of work. And answered to all my questions which were asked.
- I was able to learn a lot of new technical things.
- They concern about my praying time So I did not meet any difficulties during internship
- the company doesn't force us to complete the project faster, and always listen to our suggestion for the better project
- "The company allows me to do various kinds of tasks that exert a positive impact on my career and cultivate hands-on skills such as interpretation, and market research,…The working environment is really friendly for foreigners like me. My boss and my co-workers always try to help me familiarize myself with the Japanese lifestyle and working style.By virtue of using Japanese to interpret and preparing documents, my level of Japanese has been improved."
- They provided with everything that needed for a smooth work process. They supported me in different ways during the internship.
- I think my mentors were very supportive of everything which boosted my confidence. I learnt a lot from them for which I will be always very grateful. They were very patient with me. They also spoke in Japanese with me which improved my japanese language skills.

【やや満足】

- The supervisor provided much information about their company and the work they do.
- The company treats us very well like their employees.
- Since they were working on a new technologies so they also were in the blind. I had to figure things out by myself sometimes
- They gave me the task which appropriate with my university major
- I appreciate company's support
- They provided in-depth specific knowledge for me, and even the company dorm.
- They are friendly and willing to support me whenever I need help, but sometimes I still faced some misunderstandings due to the language barriers.
- They supported me a lot during the internship and taught me thoroughly how to do all the tasks.
- The mentor was really supportive and care about me.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q54.受入企業のサポートの満足度を上記のように回答した理由を教えてください。(2/2)

（回答抜粋）

【やや不満】

- Sometimes information was poor or there weren't any instructions at all, but when something happens I was treated like I knew that my actions are impropriate or conscious. Also error I made were immediately reported to president Sugimoto behind my back, but not oftentimes explained me what I did wrong and how to avoid it next time
- The company did not propose the detailed project and their objectives as well as not did not give the interns clear instructions and explanation.
- ”毎日、7km歩いて本当に疲れました。自転車があると良かったと思います。インターン先は自転車を支援しませんでした。撮影のサポートは難しいと思います。なかなかできませんが、、、メンターは忙しいという、理解できますが、せっかく外国人インターン生ができますので、ちょっと惜しいと思います。コミュニケーションとして目標をしっかり共有したり問題を相談したりすると良いと思います。結果はもっと良くなるかもしれません。”
- The employer was a little demanding and feels like she is taking advantage of me by getting me to work as much as possible without having to pay a single cent.

【不満】

- My mentor did not give me tasks. She doesn't even know my start and end date.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q55では、インターンの印象に残った受入企業の取組について調査した。各企業がインターンを温かく受け入れ、重要な業務の打合せに参加させてくれたり、食事等の交流の場を設けてくれたことを喜ぶ声が特に多かった。その他、会社の雰囲気や制度について言及する回答も複数あった。

Q55.受入企業の取組で印象的なものがあれば教えてください。(1/2)

（回答抜粋）

【本事業後の採用・雇用】

- The host company gave me an opportunity to get a job with them after my graduation, which is also the main reason I partook in this internship.

【企業によるインターン受入対応】

- Foreigner friendly
- The host company organized a welcoming dinner for the new interns which included some of the company's current staff and management as well. This was a very nice gesture I think that made us, interns, feel welcomed.
- They took part in the activities for my cultural training and exploration of Japanese places and culture
- Company director searching about Islam then thought it to another employees so everyone could understand about Islam and they experiencing to visit mosque
- ハラールの食べ物、お祈りの時間、お祈りできる場所をすでに調べていただいたこと。
- they let the internship to keep their faith (wearing hijab, doing pray, and serve halal meal) while work and sincerity in services.
- イスラム教徒として昼に二回お祈りしなければなりませんので、受入企業にお祈り時間と場所をいただき、すごく感動しています。
- The initiative to introduce the Japanese culture , the initiative to involve me in any meetings of the company so that I could understand the work.
- They tried to communicate with me as much as they can. they did their best to help me to improve as a person.
- 詳細まで書かれていたスケジュールが印象的でしたが、自分の時間が管理しやすいや気になる課題について質問しやすいという効果がありました。
- I was impressed with their preparation and the efforts they took for me. They were really careful with everything and were very considerate about me. Inspite fo their busy schedule they took time for my studies, training, meetings etc.

【活動内容】

- プログラミングスクールの見学が滅多にないことだった。
- They asked about Indonesia quite a lot and also my opinion on some tech trends that they are going to work on
- Their English study program
- E-learningを社内でも使っていて、いろんなトレーニング行っていた

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q55.受入企業の取組で印象的なものがあれば教えてください。(2/2)

（回答抜粋）

【制度】

- They have a very creative promotion system as each 3 months, employee can choose to challenge for promotion or not. It equals to 4 times of promotion a year, so if you work hard, you can go very fast. However, it would be also very exhausting.
- 今回のインターン先が医療器具の製造販売者であるため、社内ルールがかなり厳しく、自分にとって少し息苦しいという印象を受けた。
- The company had a much higher percentage of foreigners and females compared to typical Japanese companies. They were curious about me and my culture. I found my mentors very easygoing and patient.

【雰囲気】

- Great company to work with. The system is family friendly. Also I want to mention a female president, which rare in Japan. Thanks for it the working atmosphere is so amazing
- いつも明るくて優しいです。
- Foreigner friendly
- They were calm and always will to help.
- Host company isn't big company, but it still has a system inside of company which makes attractive. And they are developing new products which is amazing.
- I can freely tell my ideas,
- Cleanliness of the host company. I am very impressed how clean the company was. Every morning, the staffs clean the office together. When working hour or break, even if someone saw just strand of hair on the floor, then that person must pick and throw away the hair on trash can.
- 文化の壁を感じずに意見交換ができ、サポートしてくれる会社だと思います。

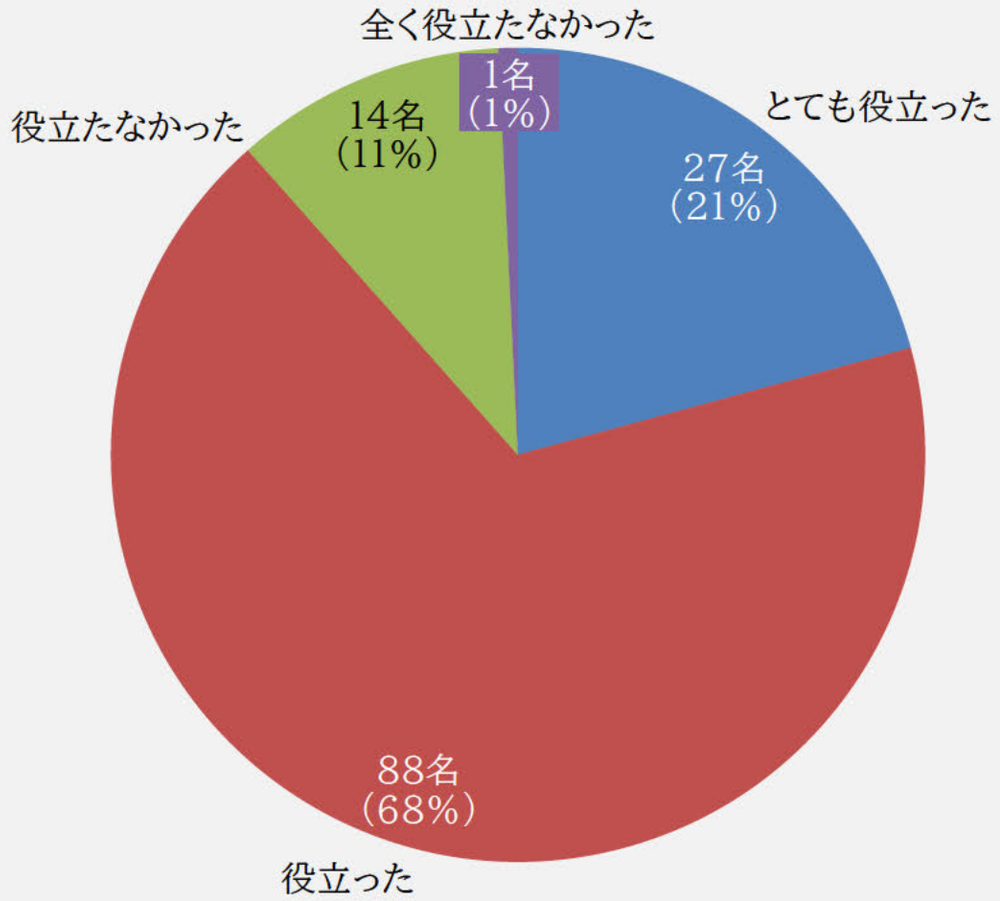
【業務に取り組む姿勢】

- Always searching for a new business opportunity
- They always try not only for their future, but also for Japanese tea industry. They want international customers to know how tea were made and how it comes. I think that's the best thing and I'm impressed about that. The purpose of the tea company is not only to sell tea products, but also to explain how it comes and how it were made. I really love the company motto and their working system.
- 指導が分かりやすく効率のよい仕事がテキパキにされたことです。
- 働き方はとってもプロです

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q56と57では、インターンシップ開始前に実施した事前研修がどの程度インターンの役に立ったのかを調査した。回答者130名中115名が「とても役立った」又は「役立った」と回答した一方、14名は「役立たなかった」、1名は「全く役に立たなかった」と回答した。Q57で役に立たなかった理由を質問したところ、「資料のみで十分だった」と述べている。また、Q57の回答から、対面研修の実施、各分野により特化した研修の実施、日本語話者対象・英語話者のそれぞれを対象にした研修の実施、資料と研修動画の早期共有等の改善点が挙げられた。

Q56.事前研修はインターンシップ活動に役立ちましたか？（単数選択）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Fourth Valley

Q57.事前研修の内容で良かった点、改善すべき点があれば教えてください。(1/2)

【良かった点】

- The positive thing is they clarify the requirement and procedure which necessary to be done before stating an internship
- I think the pre-training session is necessary since it could help interns manage in every emergent situation which they may have.
- It was useful since they updated us about all the processors and what to do and whom to contact during emergencies.
- Explained well about our expectation
- In fact, it prepared us to move swiftly into the whole program.
- The information provided in pre-training are clear and sufficient.
- Its good.
- It was good enough I guess.
- I got all information I need about this internship through pre-training so I think it's good.
- I was able to prepare myself for everything possible that may happen in Japan and I was aware enough of the things I should do in case of some radical situations that may happen. Because of the pre-training, I was knowledgeable enough of the rules and prohibitions.
- It allowed to have general ideas and instructions to the interns before starting their respective internship, pre-training is a suitable guidance
- I could know about preparation procedures before arriving Japan and could plan accordingly
- I am very grateful for the pre-internship training and the recording of the same.
- Very useful because we able to learn before about Japanese company culture in general so minimize the culture shock that would be happen
- The pre-training made it easier for me to proceed with the internship. It gave me a clearer image on what I should expect from the internship and my responsibilities. Thanks to the pre-training, I was able to do the internship successfully.
- The time management should be improved
- よかった点はインターンシップに参加するときの注意事項や成功させるポイントだったと思います。
- インターンシップにおける留意点などを伝えていただき、事前に把握したことでインターンシップがスムーズに行えました。
- 良かった点は、インターン先がどういうことを求めるか、さらには日本会社の規則についての説明があったため、日本の会社を理解する場として良かったかと思います。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q57.事前研修の内容で良かった点、改善すべき点があれば教えてください。(2/2)

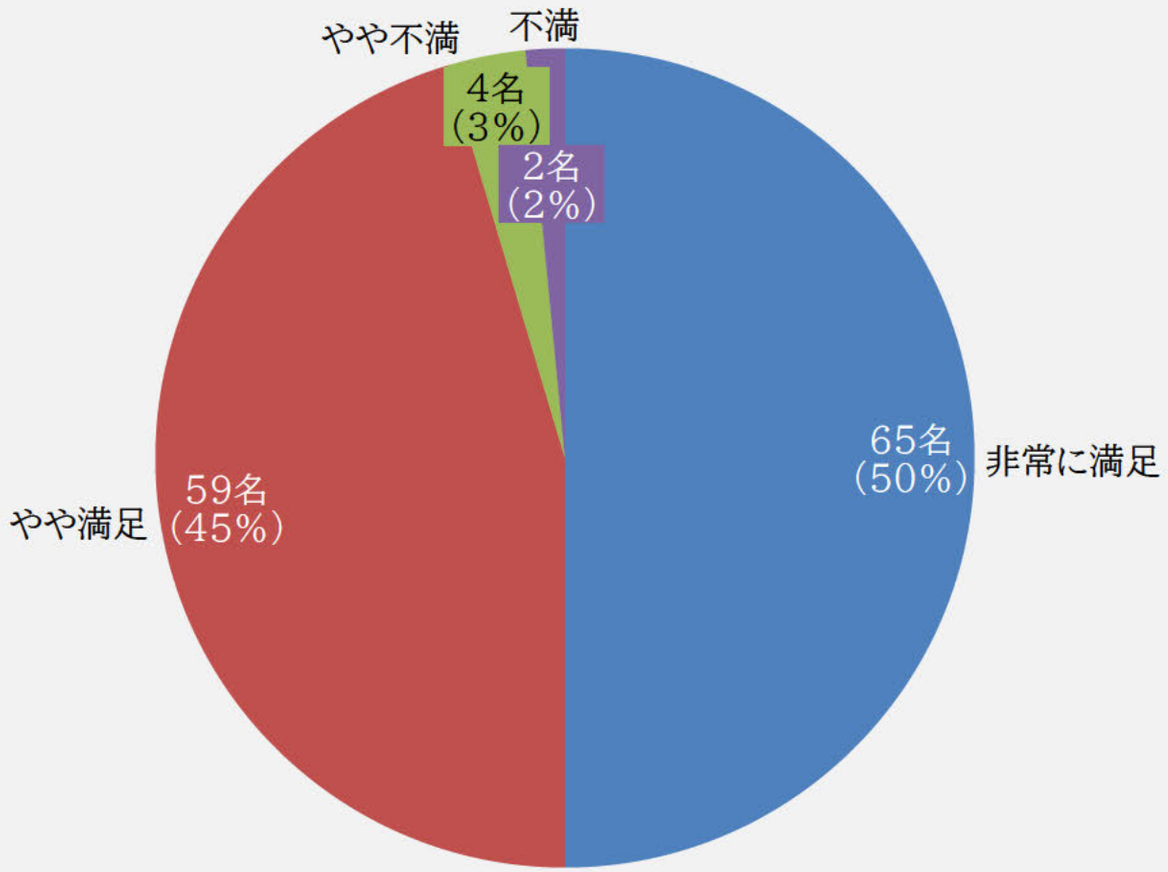
【改善すべき点】

- I think face to face pre training would be better.
- That's about final meeting presentation. Showing sample of presentation content would be nice during pre-training.
- More specified towards each field of work
- need to provide further information about Japanese business manner
- I think it would be useful if we could learn a little bit about the Japanese business culture (like how to send a messages, etc.)
- Waste of time. Just pptx would be more than enough for this
- The pre-training should have focused more on the problems we might face as foreigners. For instance, I had no idea how the train ticketing system worked and how to reach the destination on my first day of landing in Japan. I think a little help with that could have made it easier to navigate.
- 外国人の質問を答えてもう一度メールを送った方がいいと思います。
- in my opinion we could separate English part and Japanese part into two different sessions
- 教えてくれた情報の正確さに注意すべきだと思う
- Hope the pre-training materials would be sent sooner.
- The video of the pre-training was not sent us before we depart to Japan.
- All the content of the pre training just was read by the host.
- It needs more professionalism
- I think if its possible to have one to one session before departure for people overseas come to Japan to clarify all matters before going to Japan more specifically about the company too.
- 生活のサポートについてもっと教えてほしいです。
- 事前研修ではこのインターンシップに参加した人同士からの共有を聞きたいです。
- I feel the pace could be a little faster or consider posting it as a private video on youtube so we can increase the speed when we watch it.
- 交通補償についてもっと丁寧に説明してもらいたいです。
- Negative points : Daily Report part.at first, I didn't know where should I write daily report

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q58では、インターンシップ最終日の成果発表会における企業・自身の評価について質問した。回答者130名中124名が「非常に満足」又は「やや満足」と回答した一方、6名は「やや不満」又は「不満」と回答した。Q59で各評価を選んだ理由を尋ねたところ、成果発表会での発表のみならず、インターンシップ全体を踏まえた満足度を回答しているインターンも一定数いるものの、各インターンが企業のサポートを得ながら一定の成果を挙げた点や、分かりやすく発表ができた点を評価する声が多かった。なお、Q59への全回答は次頁に示す。

Q58.成果発表会の企業・自分の評価を選択してください。（単数選択）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q59.成果発表会の企業・自分の評価を上記のように回答した理由を教えてください。(1/3)

（回答抜粋）

【非常に満足】

- We took time and made presentation we were asked for. And we succeeded covering all points and answered question
- They would discuss the presentation with me and allow for communication between the intern and the company
- メンターは発表の準備を手伝ってくれました。分かりやすく発表しました。
- They were on point. What they want was well laid out for us to deliver the goods.
- 自分がインターンシップの間でできた成果を発表した。
- I couldn't wish for a better company
- I think both my host company and me were able to achieve our goals through this internship. Thus, I think the final presentation from both parties are satisfactory.
- It is done smoothly and efficiently
- Very great presentation in introducing the product
- I was able to finish three projects. I think I have been very productive.
- I think both my host company and me were able to achieve our goals through this internship. Thus, I think the final presentation from both parties are satisfactory.
- It is done smoothly and efficiently
- We have similar point of experience during internship and we can learn each other
- Because we discussed it very details and it showed all effort from myself and other intern's work. When they check the presentation, it works very well and we practiced a lots. Bring out the result of final presentation was over my expectation.
- The presentation wrapped up perfectly and honestly what we did throughout the internship, and since we worked together on the presentation rather than did two separate ones, the information provided was cohesive.
- We did well together.
- Because the presentation provided comprehensive details of the work, tasks, and achievements by the intern and the company
- I think efforts are made by both the sides. My host company never made us feel like we are not like a family. We worked as a team and tried out best to achieve the goals. We had a nice discussion about the final presentation which gave us a clear idea on how much we have progressed and what are the things we can improve on.
- We talked briefly but straight to the point about the whole experience.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q59.成果発表会の企業・自分の評価を上記のように回答した理由を教えてください。（2/3）

（回答抜粋）

【やや満足】

- contents
- The presentation can be better.
- The company CEO was very kind and provided much information. But I wish I was able to do more during the internship.
- Although I think we managed to deliver all the requirements, I think we would have been able to improve the content and the presentation of our final presentation if we had had allocated more time to prepare.
- We showed what we created and aimed for smoothly so I felt quite satisfied.
- We guess we could show our achievements very well but we could not go in detail.
- ”発表する時に、やはり日本語能力問題から伝いたいこともまだ残ったから、ちょっと悔しいです。もっといい発表をしたいからです。でも、会社側の発表はもう立派な発表と思いました。”
- Actually, I’m glad I took part in the final presentation as I saw my boss and my friend. I talked how our work taught me a lot and helped to understand business Japanese. Most of all, the experience I’ve got from this internship gave me a lot of memories and taught me about working system in Japan.
- The date and outline of presentation was announced long before the day hence I can prepare the presentation. The presentation from company also make me understand new insight from their side.
- Overall it went fine; I wish there had been more social interactions during the online presentation event.
- Because of office Environment, workaholic but supportive co workers.
- Because in my final presentation, I showed everyone what I have done and learnt from the internship.
- I chose the answer somewhat satisfied and the remain is to improve better.
- Content-wise we covered the points we had wanted to present. However, we got started on it quite late so I think we could have made it better by 1, practicing more since we had 2 interns; 2, making bilingual slides for the audience; 3, including actual photos for a more engaging presentation

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Fourth Valley

Q59.成果発表会の企業・自分の評価を上記のように回答した理由を教えてください。(3/3)

（回答抜粋）

【やや不満】

- 企業の課題への対策案をある程度提案することができたが、もっと時間があれば、より完成度の高い成果を達成したかった。
- ちょっと緊張して上手く行かなかったからです
- I was sick after the return to my country and i still have my work to be done, so I did not have much time to prepare and present
- もっと準備してればよかったと思います。仕事に忙しくて、あまり出来なかったことが悔しいです。

【不満】

- My boss doesn't even bother to come. FVC informed me the presentation day just 1 DAY before the presention. I was rushed to prepare.
- I don't think my employer spent time to prepare.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q60では、成果発表会で参考になった他の企業や情報があるかを尋ねた。具体的な企業名の他、他社の就労環境や、他のインターンがどのように環境に適応しコミュニケーションを図ったかを知ることができ良かったとの回答や、他業種や他社の仕事内容を知ることができたとの回答もあった。

Q60.成果発表会で参考になった企業や情報を具体的に教えてください。(1/3)

【参考になった企業】(1/2)

- インタナショナルスクールの発表
- 株式会社グリル
- 藤和那須リゾート株式会社
- There was a logistics company where the intern was able to have a very friendly community
- Apart from Tokyo-Handan-En, there were a few companies I was interested in. These were mainly Tech companies.
- 株式会社日本AIコンサルティングの発表は参考になりました。
- https://eftax.co.jp/. I like this companies AI products and how they have english speakers in the company. Would like to do internship in this company in the future
- Access Engineering
- Tokyo Handaen
- Wing company Because it is a company that extends more and more its activities in several sectors of activities I found it very impressive
- 企業の名前まで覚えないけど、皆外国人を大事にしてくれるのが見えました
- 家島コンシェルジュ
- 株式会社流通サービス.お茶の業界を詳しく説明していて、日本の文化をよく感じる。
- 日東電気グループ：Company learn about muslim customs and intern learn about company opinion of muslim activties.コーワテック：The Company wants to sell Robot in Indonesia but the intern must research about the law and estimated budget in order to make that happen.株式会社トライアーチ：in response to the globalization and different trend, we must strengthen with person who have specialized skill and improve human resources so we can moving forward.”

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q60.成果発表会で参考になった企業や情報を具体的に教えてください。(2/3)

【参考になった企業】(2/2)

- Karl English Conversation Co., Ltd.
- International Schoolの活動が気に入りました。
- 合同会社エンハーモニックグローバル コンサルティング
- 大洋産業株式会社
- Access Engineering Co. Ltd was one company that I found interesting at the final presentation sessions. I think their internship activities were interesting and helpful for the engineering major students.
- There was a real estate company in my presentation, their presentation was insightful in terms of talking about the keigo and business manner in Japan.
- Three hours school. I got to know how other interns spent their times as well and enjoyed their program with different field than teaching. It helped me to answer my friends' question in regards to the internship program.
- Daikin about qibla technology
- I think Osaka English House internship is Interesting for me. The interesting point is about result test of English-Japanese pocket gadget translation for English conversation. It is a lot of variations accent in English (not only American or British) but also Indian or Nigerian which can not caught by the gadget and also miss interpretation when the speaker say a long sentences. I interested too about concept that they making their circumstance feel like abroad so the learners can have cross cultural understanding besides try to be fluent in the language that they learn.
- I personally think that the presentation from 株式会社ニンニンドットコム was interesting in terms of communication between mentor and the intern who does not speak Japanese.
- SAKE Generation株式会社
- Nouvelle Medias
- All companies.
- 参考になった企業ですが、株式会社スリーアワーズだったと思います。自分は今までインターナショナルスクールについてあまり聞いた事がなかったので、興味深い発表になったかと思います。特に、インターン生の方は1か月のインターンシップでカリキュラムや教材まで作ったのは凄かったと思います。
- Lead In fashion

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q60.成果発表会で参考になった企業や情報を具体的に教えてください。(3/3)

【参考になった情報】

- Marketing のたくさんの情報。
- メンターの情報です。
- How they overcome language barrier with internship participants to achieve their goals
- information that helpful for my final presentation is, information about the company culture and information about the marketing knowledge
- I learned what kind of thoughts my host company had as I was interning and it did gave me an understanding of things I may need to focus on in order to be able to provide a much smoother working environment
- Other company do many activities related Japanese culture.
- 他のインターン生の体験
- their strategy to reach the goals
- The companies demonstrated about their projects in details, which gave me some good insights about their operations
- every companies have their own perfection
- I was able to see how other companies and interns proceed their internship and it gave me a new insight.
- 受入企業とインターン生の多様さ。
- There were a lot of Vietnamese trainees participating in this program and most of them spoke in Japanese, not English. - The main job of interns were IT and marketing so I think these are the 2 industries that Japan is lacking in human resources and this is a good opportunity for foreign workers who want to work in Japan.
- 様々な企業があったため多用多種で、それぞれに職種に合った業務内容で、自分が行ってきた業務内容とはまた異なっており、興味深かったです。
- The information regarding the internship process and the final result/achievement of both sides (I and my host company) was all accumulated in the presentation.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q61では、本プログラム全体に対しての改善点や要望について調査した。インターンシップがとても良い経験になったという旨の肯定的な意見が得られた他方、改善点としては具体的にインターンシップの期間・時期や手当についての意見や、より大きな規模の企業の参加を求める意見、マッチングプロセスと事務局のインターンシップ期間中の対応について改善を求める意見が得られた。Q61の全回答は本頁と次頁に示す。

Q61.インターンシッププログラムに関するご意見・悪かったこと、改善すべきこと、ご要望をご記入ください。(1/5)

【肯定的な意見】

- It was very useful and beneficial.
- Overall internship was well conducted
- I had a really good experience from this internship, from the time I applied until I finished it. I felt supported and encouraged even from the starting interview. It motivated me to perform well in the internship.
- I am really glad that you made such an opportunity possible for foreigners inside and outside Japan. ”While I have no comments, I am deeply grateful for the chance to participate in this Internship. I hope this endeavor keep becoming better. I would also love to help in any aspect regarding this internship programmed, should my help be required. Dōzo Yoroshiku Onegaishimasu!”
- Good internship program , thank you so much for opportunity, and we encourage to continue in this sense and way
- I think no because it was fruitful.
- for positive point would be that this program is such a amazing program that can meet our expectation and we experienced to work in Japanese company, speak Japanese etc, But the lack of this internship is that the time is short,
- I found the internship program by myself, but I think this program is really helpful for other students, so it would be nice if more people can know about these types of program.
- 今回の貴重な機会は本当にありがたいです。実施期間はもっと長ければ素晴らしいと思います。
- This program is really helpful to foreigner to build skill for who those want to continue their career in Japan
- 今年のインターンシッププログラムに参加できてとても感謝しています。私は多くのことを学び、大学卒業後は日本で働く決意を持っています。
- Positively speaking, a short internship program is ideal for a quick experience. Particularly for college students who will graduate in the upcoming years, the experience obtained from the brief internship program may boost future professions.
- I am so glad to participate in this internship program.
- The internship was mostly with small scale startups , hence the learning opportunities were great.
- すべてが良いと思います。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q61.インターンシッププログラムに関するご意見・悪かったこと、改善すべきこと、ご要望をご記入ください。(2/5)

（回答抜粋）
【改善点(1/4)】
（マッチングプロセスについて）

- I think you should set the interview companies count for the intern. For example, one intern can interview with 3 to 4 companies and choose desire one. The company also the same. METI handles the first round of intern selection, then arranging the interview for qualified intern with 3 to 4 desired companies. Before this intern, I hope I can go to the Japan to see the Hanabi during this autumn intern, but the thing always run into the opposite direction.
- In the matching interview between companies and students, every company should mention or give students the holistic view about their objectives of this internship as well as the projects/tasks which they would assign future interns.
- Regarding to the screening/matching process, maybe it will be good if the registrants notified by email about the progress of selection whether the registrant is matched / failed / postponed to winter internship. This to avoid registrant's confusion and uncertainty because they received minimum / no info whether they failed or not.
- インターン生はより多くのインターン先とマッチングできたらいいなと思います。
- ”企業とインターンのマッチングをもっと早い時期からはじめ、いろんな企業を勧めてほしいです”
- I think the selection/recruitment process and the matching process need to be improved. I don't think I experienced a second interview (as written in the internship website); I only did interview once during the selection process.

（時期・期間・日数について）

- 9月は祝日が多いですから、インターンシップを少し早く始まった方が時間調整をしやすいです。
- i wish that i could've chose which summer period i want for the internship instead of cutting it short because of my uni class
- The internship period is very appropriate, enough to learn Japanese working system.
- Firstly, the internship period should be extended to minimum of two months.
- 3週間が短かっただけです。
- for positive point would be that this program is such a amazing program that can meet our expectation and we experienced to work in Japanese company, speak Japanese etc, But the lack of this internship is that the time is short,
- インタンシップの応募する時に時間が短いから慌ててしまいました。
- It would have been better if internship was a month longer because of time differences it took some days to adjust myself there.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q61.インターンシッププログラムに関するご意見・悪かったこと、改善すべきこと、ご要望をご記入ください。(3/5)

（回答抜粋）
【改善点(2/4)】
（受入企業）
- Include bigger companies that can hire international students after graduation, even if the students did not major on courses related to IT, engineering, or business. Include those who studied humanities and social science.
- As for the first intern for Kline (they have had any interns before, neither Japanese nor foreigners), I wish the company could get more support to busy me doing things, not watching others performance
- I really grateful about the company that I got matched with and the place to live with, but I hope I can have choice to booked my own flight where I can choose my airline and the the flight routes.

（手当）
- The program should be paid internship and longer duration
- Just a little suggestion to be fair and also provide some monetary support for living expenses to those students who are studying in Japan; those students studying in Japan also need to cover their living cost similar to those oversea students who come to Japan for this internship.
- Extend the internship period to 2months and support the daily meal expenses.
- Please improve living allowance. Accommodation distance and transportation fee must be separated with living allowance
- overseas interns should be compensated to some extent for expenses regarding communication expenses
- In my opinion, the living expenses for the weekend should be covered as well, since the prices in Japan are quite high (food, transportation). Overall, I have learned a lot and I am happy with the internship

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q61.インターンシッププログラムに関するご意見・悪かったこと、改善すべきこと、ご要望をご記入ください。(4/5)

【改善点(3/4)】
（事務局の対応について）

- 事務局とのメールやり取りが遅く、情報が不十分などの点が残念でした。
- Prior instructions should always be given, and travel arrangements should be promptly decided upon.
- There was some late communications regarding our accommodation. It was difficult to manage that in short time. Because of that, we could not actively do our work that day.
- 緊急連絡番号に2回電話したが、繋がらなかったです。1回目は日曜日でしたが、緊急だからこそ電話するということもあるので、週末でも対応していただきたいと思います。1回目はその後折り返しのお電話があったため、解決できました。インターン生から同時に電話してくることもあると思うので、緊急連絡先をいくつかご用意いただいたほうがいいと思います。
- 宿泊先についてのご連絡は可能であれば開始日の1週間前が良いと思います。
- It might be better and efficient if person in charge from concierge should be fixed per intern because sometimes we, interns, rather confused with multiple emails from different person in charge.
- 事務局から連絡がなかった、状況とかを確認する人がいなかった。また、面接に一回だけするのはずるいと思いました
- The communication with the organization committee is slow, not responsive, the payment for the transportation is not even confirmed. The company doesn't care about the internship. I could not tell how disappointed I am with this internship.
- I had a lack of communication between ConnectJob during the start of my internship, which lead to me not knowing the schedule on when I was going to start my internship. I believe a smoother connection between the Company, ConnectJob, and the intern would make the process smoother.
- It would be great if the intern and the host company has communication earlier before the internship.
- 会社の連絡先ですが、マッチングと契約が完了した後、なぜビザを待たなければならないのですか？会社の　企業の服装、道具、準備、地域の情報は　会社が一番分かるから、すぐ会社に聞いたほうがいいと思います。もっと早く分かれば、もっと準備ができると思います。
- 事務局の人が早くメールとメッセージを返事すると嬉しいです。インターン生が困る時にサポートしてくれる人がいべきです。インターン生が日本に滞在する時にはシームカードを支援した方がいいと思います。毎週、事務局の人がインターン生に連絡してインターン生の感想を聞いてみたら良いと思います。インターンシップ間には、事務局の人がインターン先とインターン生をフォローしながら調整したら良いと思います。インターン生が来日したら迎えに行くべきです。支援費はしっかり教えてもらえるといいです。(インターン生が準備しやすくなります。)
- 今度のインターンシップで色々勉強になりました。日本企業の働き方や日本の生活をより理解できるように良かったと思います。ただ、改善すべきと思うこともありますから指摘させていただきます。・結果の通知のタイミングは遅いこと・ビザ手続きの書類の準備に時間がかかりすぎたこと・インターン期間が短いこと

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q61.インターンシッププログラムに関するご意見・悪かったこと、改善すべきこと、ご要望をご記入ください。(5/5)

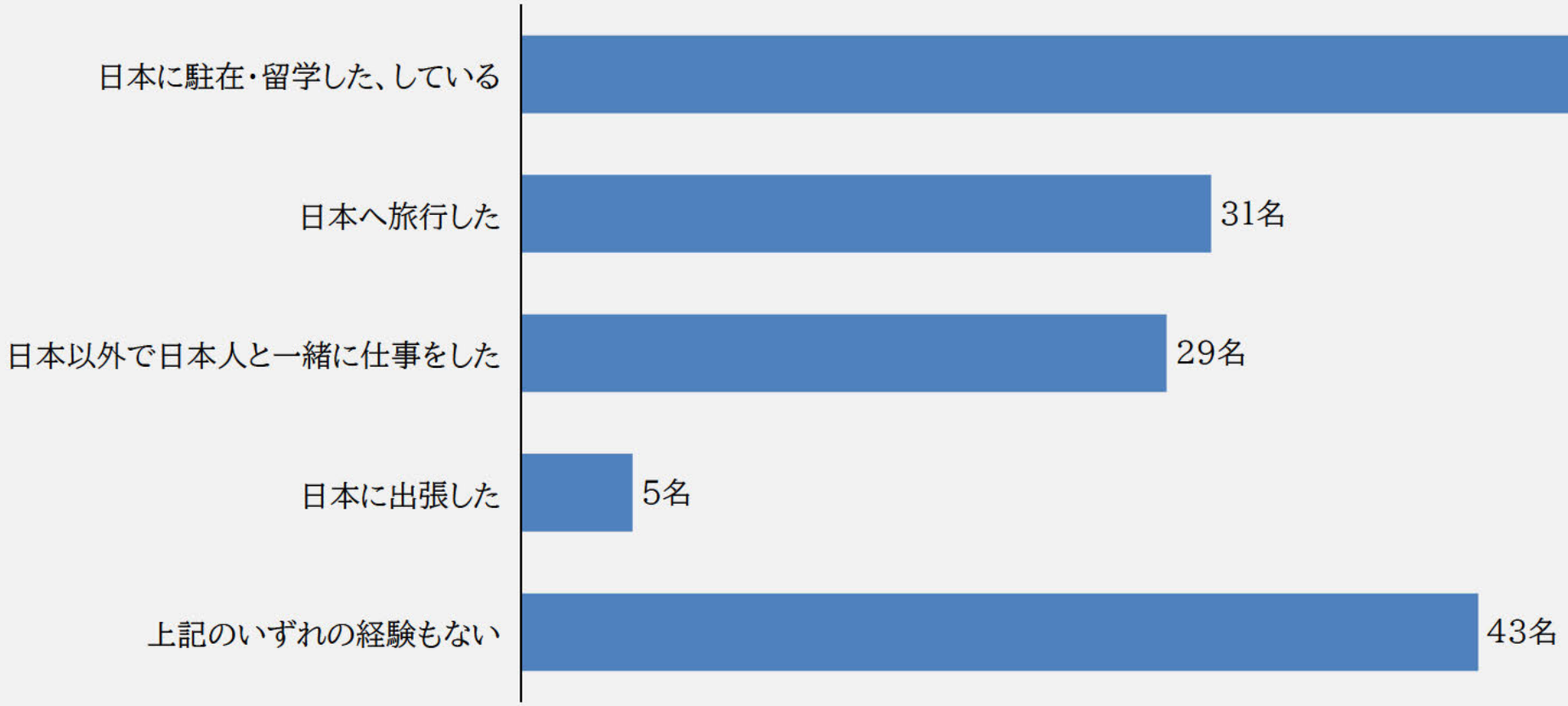
【改善点(4/4)】
(その他)

- The preparation of events throughout the internship should be focused more.
- I would also like to network with other companies and face to face events will be better in my opinion.
- 一日8時間働くより週2、3回で4時間くらいインターンシッププログラムができたら完璧です。
- I have to go to host company in the next of arriving Japan. It was so tired. I think that the day of arriving Japan and first day of intern should gap a day.
- There should be a few live Q&A sessions for interns 2 weeks before the start of the internship.
- I think it was an amazing opportunity. If foreign students from all the universities in Japan could get an email about it in English, many more would be interested I believe.
- It would be great if you add group activities and meetups for the interns during the internship and try to make sure that not each intern is in a different whole city. The work hours were not too long to fill the days. It would be better if there are any kind of gatherings organized by the company to make sure we're all out like a one team and we can share our experiences together.
- 滞在費のご支給額とWi-Fiがない環境だと課題をしづらかった点があったため改善すべきかと思いました。

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q62では、各インターンが本事業参加以前にどのような経験を有していたかを尋ねた。54名のインターンが既に日本に留学等で滞在した経験があったが、他方43名のインターンからは日本への出張や旅行、留学等の経験はないとの回答があった。

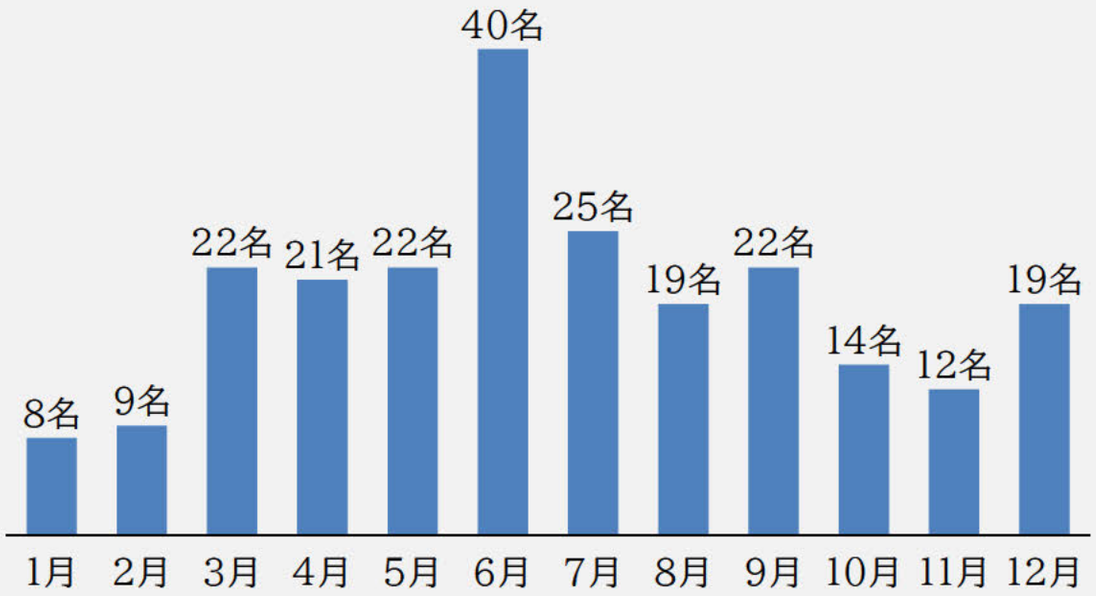
Q62. このインターンシップに参加する前に以下の経験はありましたか？（複数選択）



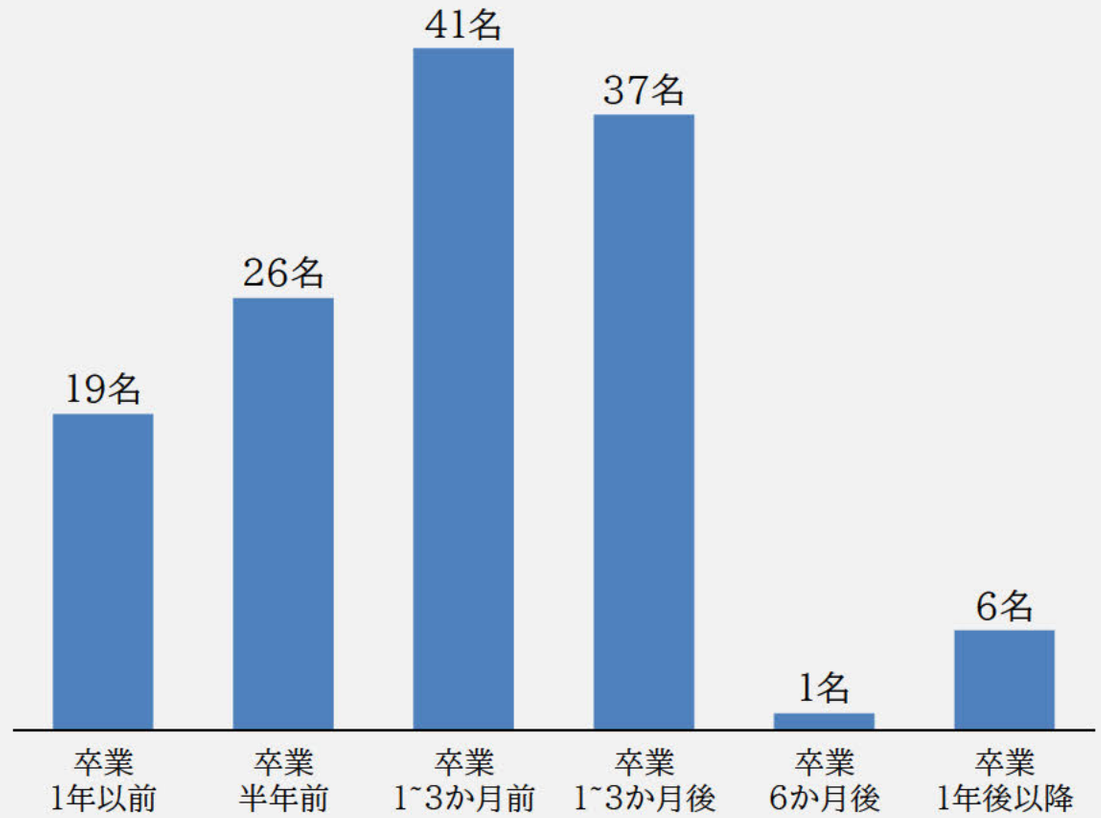
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q63では各インターンの出身国における大学卒業時期を、続くQ64では就職活動の開始時期を確認した。大学卒業時期については、6月が最も多いが、各インターンの時期はばらけており、参加した130名の中では大きな偏りは見られなかった。また、就職活動の開始時期は、卒業前後の1～3か月との回答が最も多かった。卒業する前の1～3か月で実施するとの回答が41名、卒業後の1～3か月で実施するとの回答は37名から得られた。

Q63.通常、出身国では何月に大学を卒業しますか？（複数選択）



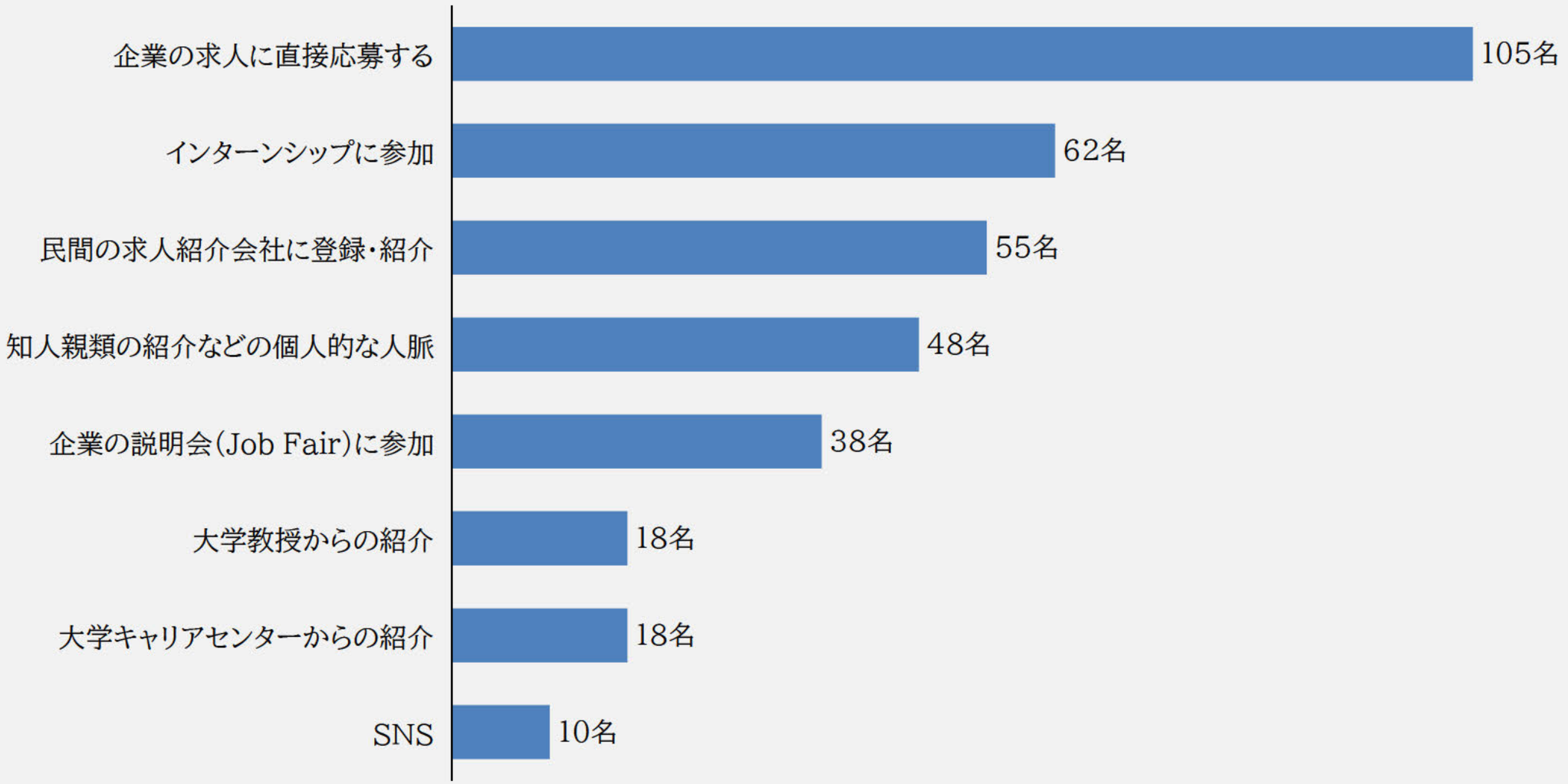
Q64.出身国では、通常いつ頃から就職活動を開始しますか？（単数選択）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q65では、各インターンにどのように就職先を探すのか、1人当たり3つまで選択肢を選択する形で回答を得た。105名のインターンが「企業の求人に直接応募する」と回答し、この選択肢が最も多かった。次いで、「インターンシップに参加」する方法も回答者の半数近くにあたる62名が選択した。インターンのうち約半数が本事業のようなインターンシップを通して就職先を探すことが明らかになった。

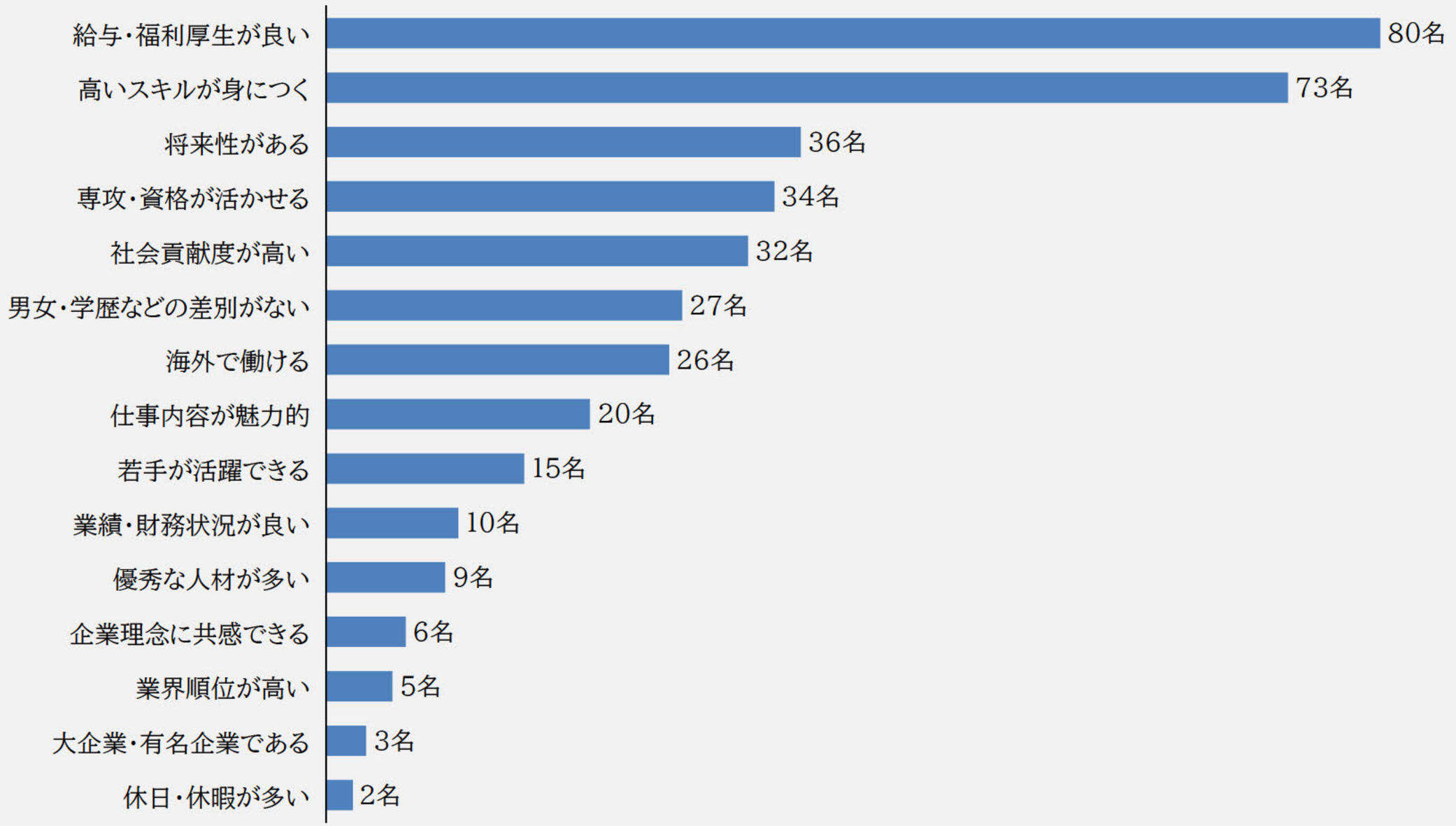
Q65.主にどのように就職先を探しますか？（3つまで選択可）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q66では、何を重視して就職先を決定するのか、インターン1人当たり3つまで選択する方法で回答を得た。130名中80名が「給与・福利厚生が良い」ことが重要であると回答しており、最も多かった。次いで「高いスキルが身につく」が73名、「将来性がある」が35名、「専攻・資格が活かせる」が34名、「社会貢献度が高い」が32名であった。他方、「業界内の順位が高い」こと、「大企業・有名企業である」こと、「休日・休暇が多い」ことについては高い関心がなかった。

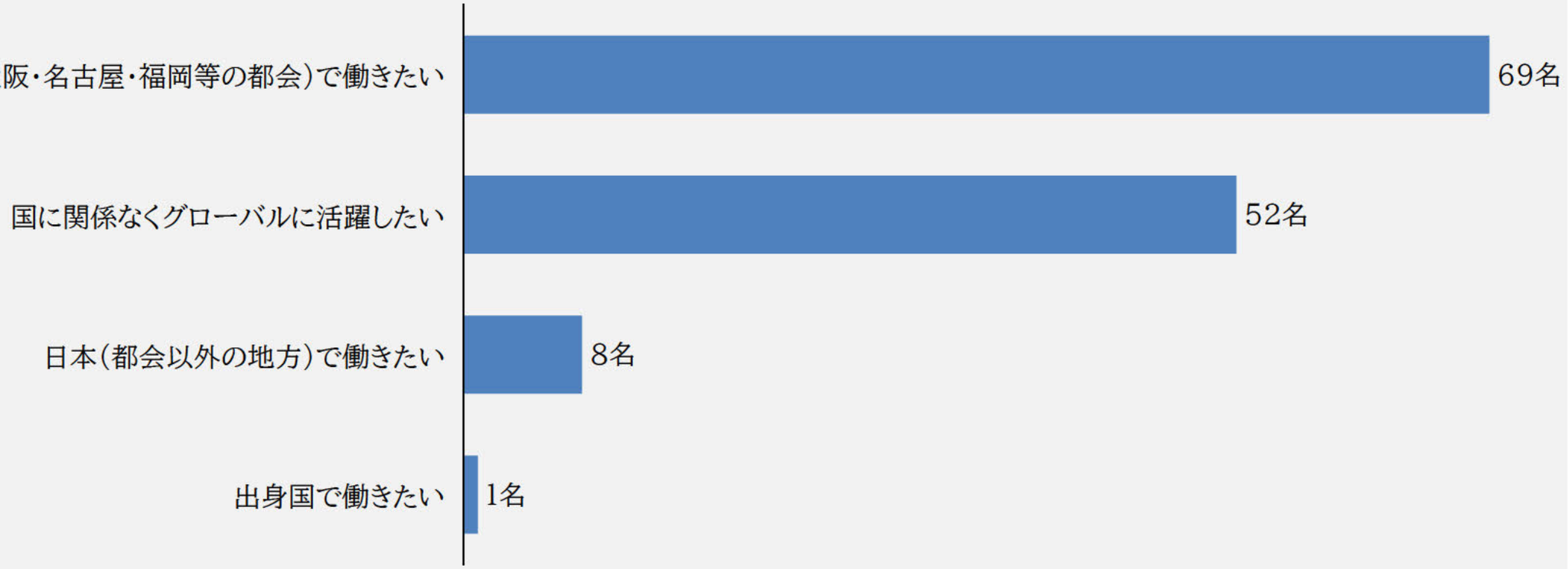
Q66.就職先を決定するにあたり重視することは何ですか？（3つまで選択可）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q67では、各インターンの希望就職国・場所について調査した。130名中69名が、「日本（東京・大阪・名古屋・福岡等の都会）で働きたい」と回答し、最も多かった。次いで、「国に関係なくグローバルに活躍したい」と回答したインターンが52名いた。「出身国で働きたい」と回答したインターンは1名であり、本事業に参加したインターンのほとんどがグローバルな視点で就職先を探していることが明確になった。

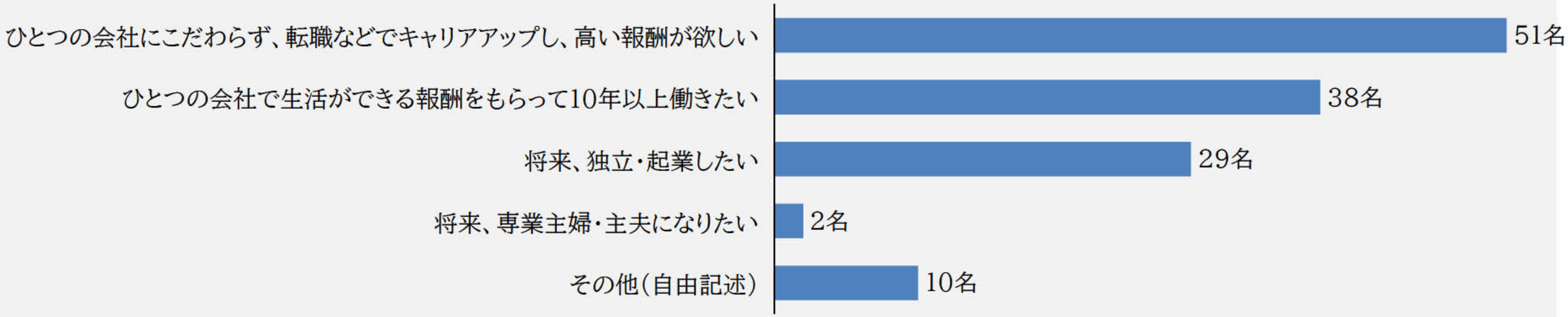
Q67.就職する国・場所の希望を教えてください。（単数選択）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q68では、各インターンのキャリア・仕事観について調査した。130名中51名が転職によるキャリアアップで高い報酬を求めるという回答が得られた他方、一つの会社で安定的な報酬を得て10年以上働くことを希望するという回答が38名から得られた。将来的に起業したいと回答したインターンは29名いた。

Q68.あなたのキャリア・仕事観について最も近い理想はどれですか？（単数選択）



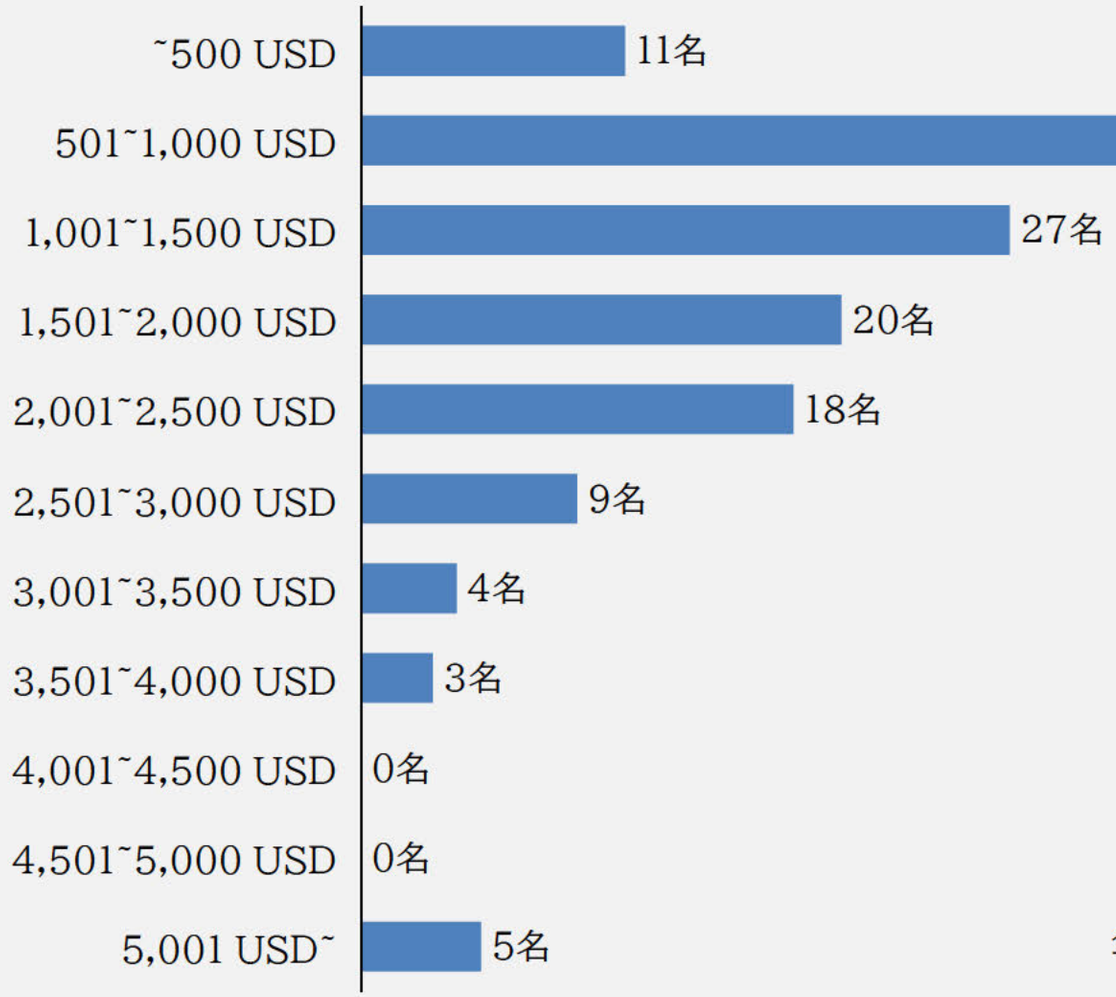
その他（自由回答）（10名）

- I want to work remotely on anything other than a 9 to 5 job in an office, a job that allows me to travel a lot. I do not mind about the salary cause I believe salary should not be one's only source of income (still of course it should be reasonable). I do not mind about how long I would work for that company.
- I would like to work in a company for sometime and see if It suits my working style. Along with that I want to work in a company where I can also give time for my research on different things as I am fond of learning.
- As long as I keep learning, I can stay in one company, but if I am not improving and my company doesn't have room for me to grow more, I will switch companies.
- I want to work and contribute to our society and the world. I prefer supportive, respectful and positive workplace. I will work for my ideal life and passion that match my core values.
- I want to work in a well paying company , where I can learn and grow long term.
- I don't mind working many years in the same company if they increase the salary properly. In context of my own country, that does not happen in the private sector, I'd like to know more in detail about Japan's situation.
- 高い報酬もいいですが、成長余地のある会社で働けるのは私にとって重要な事です。会社で何年か働いて、これ以上こちらで成長できないと判断したら、転職すると思います。
- I want to work in my field for 10-15 years and get to a higher position in the companies or else start my own business.
- optional

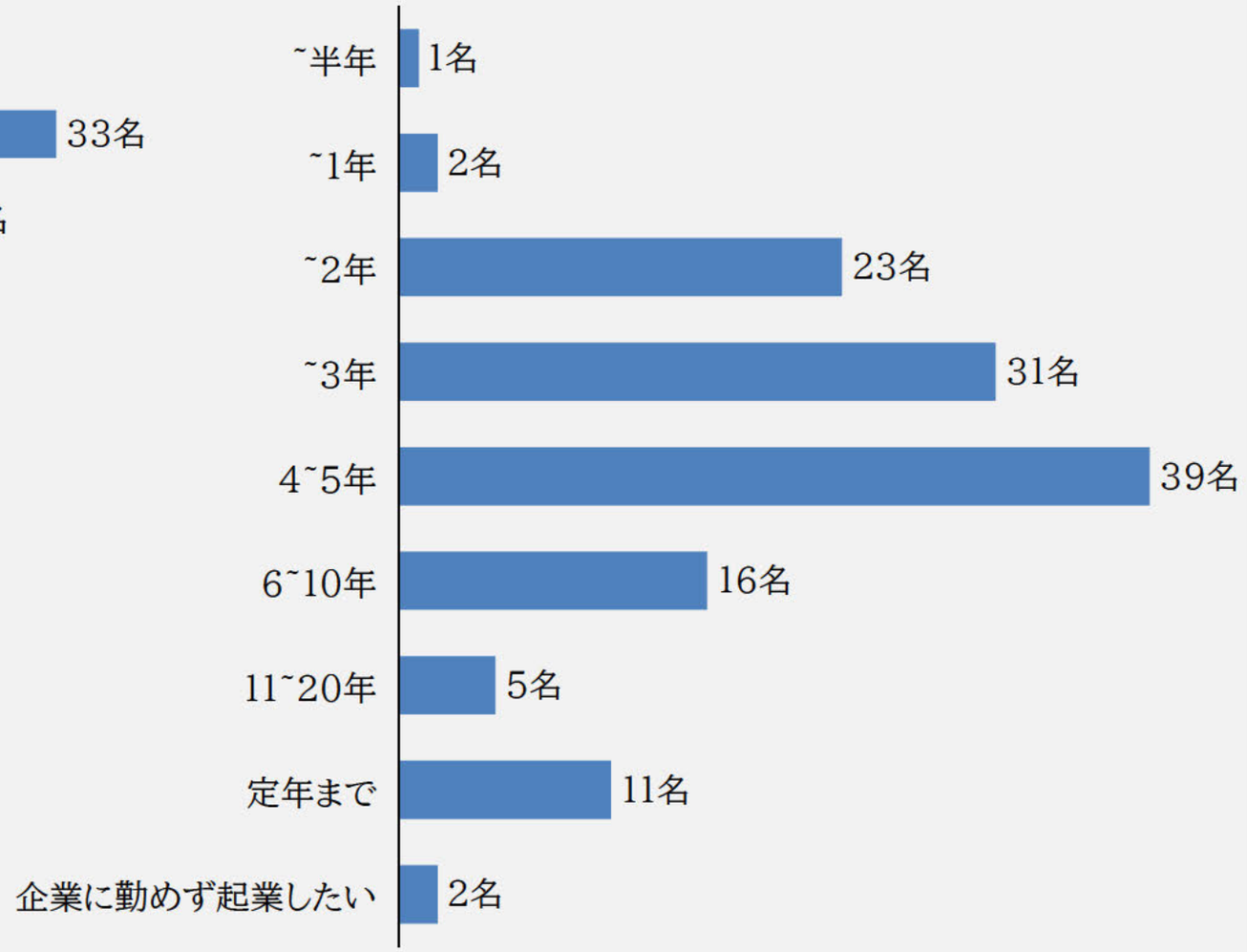
©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q69では、出身国で就労する場合に希望する給料（月収手取り額）を確認した。出身国が異なるインターンを母集団とする本アンケートで全体の傾向を見ることは難しいが、5,001USドル以上との回答が5名からあった一方で、501～1,000USドルとの回答が33名と最多であった。また、Q70で就職後に何年間一つの会社に継続して就労したいかを調査したところ、4～5年という回答が39名で最多であった。

Q69.出身国で就職する際に、どのくらい給与を希望しますか？（※月収の手取り金額でお考え下さい）（単数選択）



Q70.就職後、ひとつの会社に何年間勤め続けたいですか？（単数選択）



©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q71では、本インターンシップが終了した後の各インターンの進路を調査した。日本での就職を希望する声が多かったが、日本語だけでなく英語で就労できる企業を探したいとの回答や、日本にある多国籍企業での就職を目指したいという回答も得られた。また、今回インターンシップを行った受入企業での就職を望んでいるインターンもいた。

Q71.インターンシップ終了後のあなたの進路を教えてください。（1/2）

【学業の継続】（25名）

- I will dedicate to school in order to graduate on time, then I might go for higher educational level.
- Graduate and depending on whether I find a job I will continue to master's degree
- 大学で勉強する
- proceeding my master degree
- Graduation of Master degree
- I am going to study MBA in Japan

【日本での就職活動】（60名）

- I hope to get a job in my intern company.
- I would like to work and settle in Japan after I graduate in June 2023, even though the scholarship requires me to return to my country. The thought of challenging myself to live in a country like Japan is so overwhelming.
- to find a company in Japan that is okay with me just speaking in English and Japanese... I don't want to do just Japanese
- 日本で就職し、10～15年後国に帰る。その間、他の国にも出張したいと考える。
- Complete my masters and look for a job in Japan
- I would like to deepen my skills through participating in other internships and start applying for a full time job in Japanese companies
- As for the next step in my career plan, I will look for a full-time job as a data scientist in a multinational company in Japan.
- I think I will continue studying and doing job hunting in Japan until my graduation.
- I am planning to work in Japan
- I am recruited by the company I participated in. Currently searching work in Japan.
- 日本に就職して、キャリアアップし、貯金し、日本の大学院に進学し、自国に貢献したいと思っています。
- Actually, I want to work at my Internship host company, if possible.
- Actively Looking for a job in IT in Japan, Software Programming, IoT Developer, Full-stack Web Developer, Programmer

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.

Q71.インターンシップ終了後のあなたの進路を教えてください。（2/2）

（回答抜粋）

【出身国での就労】（11名）

- Work abroad and go back to the development and humanitarian sector or in a communications-related field.
- 短期間に出身国で働いた後で日本に就職する予定です。
- I want to work in my home country for half a year, and then look for a permanent job in Japan in the near future
- I already got a job in my country and I plan to work there of few years before going for master degree.
- できれば日本の会社と関係持ちながら出国で働きたい
- I will start working for recruitment company in Nepal.
- まず出身国で日系企業で応募します。そしてチャンスがあれば、来日して仕事する予定です。
- I will find a job or an internship in my country and try hard for the next couple years in that country. The length of working in the company bases in how it satisfies my expected salary, promotion path and working environment, if they are all ok I can work in that company for years..

【就職活動・就労（地域・国は不明）】（32名）

- Look for another internship or look for a job.
- 就職活動
- Financial specialist
- 化粧品について自営業を作りたいです。
- Work in the Information Technology industry
- I’m looking forward to make use of the experience I gained throughout the years and work on my own business.
- Being Company leader
- I want to become a senior software developer.
- I want to be a financial consultant.

【その他】（7名）

- スキルを最も向上したい
- Working on myself and improving my skills.
- Preparing for JLPT N1, coming back to Japan to work.
- I want to join more internship program in other countries to figure out ”me”
- After this internship, I spend time reflecting and matching my strengths, values to develop myself intentionally and find my right fit that support my long-term career.

©Fourth Valley Concierge Corporation. All rights reserved.